

中里見遺跡群

中里見中川遺跡
中里見根岸遺跡
中里見原遺跡
上里見井ノ下遺跡

北陸新幹線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

《本文編》

2000

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第271集

なか さと み い せき ぐん
中里見遺跡群

中里見中川遺跡
中里見根岸遺跡
中里見原遺跡
上里見井ノ下遺跡

北陸新幹線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

《本文編》

2000

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

序

上越新幹線と長野新幹線は東京駅～高崎駅間を供用し経由し、高崎市下小鳥町から分岐して長野駅まで行く「長野行き新幹線」は、平成9年10月1日に開業しました。同新幹線は、北陸新幹線建設工事の名称のもとに、群馬県では平成2年度から工事が着工されました。工事区域内には、23ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されたため、その発掘調査が当事業団に委託されました。

当事業団では平成3年2月より平成7年9月にかけて、新幹線通過市町村の高崎市、箕郷町、榛名町、安中市において埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施しました。榛名町で確認された中里見中川・根岸・原遺跡・上里見井ノ下遺跡は、平成4年度から平成6年度にかけて発掘調査が行われた、この4遺跡の整理作業が終了し報告書を上梓したく存じます。

本報告書には、縄文時代の埋甕、土坑、包含層、弥生時代の水田跡、古墳1基、奈良～平安時代の住居跡、出土品資料が掲載されています。榛名町の歴史を明らかにする上で大いに活用できる報告書と思います。

発掘調査から調査報告書刊行に至るまで日本鉄道建設公団、群馬県教育委員会、榛名町教育委員会、地元関係者等には、大変お世話になりました。関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

平成12年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は北陸新幹線建設工事に伴い、記録保存のために発掘調査が実施された中里見中川・根岸・原・上里見井ノ下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は以下の地籍のとおりである。

中里見中川遺跡	群馬郡榛名町中里見字中川	935-2・936・938・968・974・1000・1108
	同	根岸320-1・320-2/321・361・364・365
中里見根岸遺跡	同	根岸358-1～3・358-2・358-7～11・368-1・419-3・426-2
中里見原遺跡	同	根岸430・431-4・426-1・442
	同	原 506・508・509-1・509-2・510・513・526-1・526-3～6 527・528・529-1・529-2・531・531-1・535・536・ 537-1～5・538-1・538-3・538-5・539・540・541-1・ 541-2・549-1～3
上里見井ノ下遺跡	同中里見字井ノ下	1173-2・1173-2・1178-1～5・1179-1・1180-1・ 1181-1～4・1185-1～3・1197・1197・1198-1・1198-2 同上里見字猪ノ下
		1149-2・1149-5・1151-1・1151-2・1171-7・1749-6 同上里見字猪ノ毛山
		2222-1・2222-2

尚、中里見根岸遺跡は発掘調査段階での事業名称が中里見専福寺古墳群遺跡であった。しかし、当該遺跡が周知の専福寺古墳群遺跡の範囲（立地上）含まれないため、遺跡名称を改めた。

3. 事業主体 日本鉄道建設公団
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 中里見中川遺跡 平成4年4月1日～平成4年11月30日（1次）
平成5年3月5日～平成5年3月31日（2次）
中里見根岸遺跡 平成6年4月21日～平成6年7月21日
中里見原遺跡 平成4年4月1日～平成5年9月14日（1次）
平成5年4月1日～平成6年3月31日（2次）
平成6年2月7日～平成6年3月31日（3次）
上里見井ノ下遺跡 平成5年2月1日～平成5年3月31日（1次）
平成5年6月4日～平成5年6月15日（2次）
平成6年4月1日～平成6年10月21日（3次）

6. 調査組織 事務担当

平成4年度	常務理事	邊見長雄	事務局長	近藤 功	
	管理部長	佐藤 勉	調査研究部長	神保侑史	
	調査研究第1課長	真下高幸	庶務課長	斉藤俊一	
	主任	國定 均	笠原秀樹	須田朋子	
	主事	吉田有光	柳岡良宏	船津 茂	高橋定義
	非常勤嘱託	松下 登	土橋まり子		

事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 角田みづほ
松井美智代 塩浦ひろみ 松下次男 富沢音二 浅見宜記 山本正司

調査担当

中里見中川遺跡（1次）

主任調査研究員 関根慎二 松田 猛 小林裕二

中里見中川遺跡（2次）

主任調査研究員 松井龍彦 木津博明 麻生敏隆

調査研究員 橋本 淳

中里見原遺跡（1次） 主任調査研究員 松井龍彦 木津博明 麻生敏隆

調査研究員 橋本 淳

上里見井ノ下遺跡（1次）

専門員 飯塚卓二

主任調査研究員 松井龍彦 木津博明 麻生敏隆

調査研究員 橋本 淳

平成5年度 常務理事 中村栄一 事務局長 近藤 功
管理部長 佐藤 勉 調査研究部長 神保侑史
調査研究第1課長 真下高幸 庶務課長 斉藤俊一
係長代理 國定 均 笠原秀樹
主 任 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 主 事 船津 茂 高橋定義
非常勤嘱託 松下 登 土橋まり子
事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 角田みづほ
松井美智代 塩浦ひろみ 角田正子 内山佳子 松下次男 浅見宜記
山本正司

調査担当

中里見原遺跡（2次）

主任調査研究員 木津博明 調査研究員 飯森康広 橋本 淳

上里見井ノ下遺跡（2次）

主任調査研究員 木津博明 調査研究員 飯森康広 橋本 淳

平成6年度 常務理事 中村栄一 事務局長 近藤 功
管理部長 佐藤 勉 調査研究部長 神保侑史
調査研究第1課長 真下高幸 庶務課長 斉藤俊一
係長代理 國定 均 笠原秀樹
主 任 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏
主 事 高橋定義
非常勤嘱託 土橋まり子 大沢友治
事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 角田みづほ
松井美智代 杉山ひろみ（旧姓：塩浦） 角田正子 内山佳子 星野美智子
羽鳥京子 菅原淑子 松下次男 浅見宜記 山本正司

調査担当

中里見根岸遺跡

専門員 木津博明 調査研究員 飯森康広 追川佳子

中里見原遺跡（3次）

専門員 木津博明 調査研究員 飯森康広 追川佳子

上里見井ノ下遺跡（3次）

専門員 木津博明 調査研究員 飯森康広 追川佳子

発掘調査作業員（平成4～6年度）

前橋市 大塚みつゑ 川端キヨ子 岩田四郎 小畑清七 河西三明 小林延寿

近藤俊男 田村友一郎 藤田光夫 小野里イワ

群馬町 駒形邦子 齊藤八重子

榛名町 大前希世子 滝沢喜代造 中里見友江 山口登志江 中島宗一 白井精一

鈴木春美

高崎市 小野木年江 桜井敬一 桜井貞子 角田トリ 中澤貞子 畑村正一 茂木典子

安田越子 関 京子 竹内雅子 戸田千鶴子 鬼形敏美 牧野マサ江 新井菊江

柄沢マサ子 柄沢春江 岡村ワク

安中市 岡田早百合 須藤利夫 須藤はるの 多胡梅子 多胡かつ子 多胡末子

多胡光子 多胡好江 横塚せう 戸塚里子 曾我 功 曾我みつ子 湯本志づ子

多胡わぐり

吉井町 青木いせ 新井幸子 飯塚 房 今井 好 浦野千代子 江原まさ子

大木みさ子 工藤きみよ 小林愛子 小林きよ子 志賀シゲ子 島田八千代

高橋春代 田中みき子 櫛島静子 野口節郎 三ヶ島二郎 森 基司 湯浅 登

湯浅安代 若林さく子 若林トヨ子 岩佐つる江 宇田川珠美

富岡市 神宮永次朗 神宮百代 宮下 勇 宮下浜子 小井土幸太郎 大岡弥生

吉田美津子 高橋仁太郎 黒沢富久子 中條好子 金田キヨ子 黒沢高三郎

甘楽町 浅香春造 飯塚静枝 山田タケ 飯間 操 飯塚君子 中野初次郎 田村カメ

桜井康弘 黒沢利次 大野かつ子

下仁田 桜井ふみ子 桜井昭太郎 田村仁平

7. 整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

8. 整理期間 平成9年4月1日～平成12年3月31日

9. 整理組織 事務担当

平成9年度	常務理事	菅野 清	事務局長	原田恒弘
	調査研究第1部長	赤山容造	調査研究第2部長	神保佑史
	管理部長	渡辺 健	調査研究第1課長	平野進一
	総務課長	小淵 淳	総務係長	笠原秀樹
	経理係長	井上 剛	係長代理	須田朋子
	主任	吉田有光 柳岡良宏	主 事	宮崎忠司
	嘱託員	大澤友治 土橋まり子		

事務補助員 吉田恵子 並木綾子 今井とも子 吉田笑子 内山佳子 星野美智子
羽鳥京子 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 安藤友美 狩野真子
松下次男 浅見宜記 吉田 茂 若田 誠

整理担当 調査研究員 追川佳子

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理補助員 萩原鈴代 金子加代 猪野熊洋子 小沼恵子 内山由紀子 加藤和子

整理嘱託員 長沼久美子

整理補助員 高橋真樹子 岩淵節子 南雲富子 光安文子 富沢スミ江 小菅優子
小材浩一 茂木範子 萩原妙子 田中富子 田中のぶ子 長岡和恵
木暮紀子 安藤三枝子 島村玲子 若海美奈子 南雲繁子 高橋美穂子
小保方香里

平成10年度 常務理事・事務局長・調査研究第1部長 赤山容造

調査研究第2部長 神保侑史 管理部長 渡辺 健

調査研究第1課長 平野進一 総務課長 坂本敏夫

総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山建夫

係長代理 須田朋子 主 任 吉田有光 柳岡良宏

主 任 宮崎忠司 嘱 託 員 大澤友治 土橋まり子

事務補助員 吉田恵子 並木綾子 今井もと子 吉田笑子 内山佳子 佐藤美佐子
本間久美子 北原かおり 本地友美 狩野真子 松下次男 浅見宜記
吉田 茂 若田 誠

整理担当 調査研究員 追川佳子

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理嘱託員 浅井良子

整理補助員 岩淵節子 萩原鈴代 小久保トシ子 猪野熊洋子 木原幸子 小沼恵子
佐藤美代子 光安文子 千代谷和子 富沢スミ江 小菅優子 小材浩一
高橋真樹子 田中のぶ子 高橋初美 田中富子 長岡和恵 安藤三枝子
丸橋富美子 南雲繁子 高橋美穂子 鶴岡真希子 柳沢有里子

平成11年度 常務理事・事務局長 赤山容造 調査研究第1部長 神保侑史

調査研究第2部長 水田 稔 管理部長 住谷 進

調査研究第3課長 小山友孝 総務課長 坂本敏夫

総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山建夫

係長代理 須田朋子 吉田有光 主 任 柳岡良宏

主 事 片岡徳雄 嘱 託 員 大澤友治 土橋まり子

事務補助員 吉田恵子 並木綾子 今井とも子 吉田笑子 内山佳子 佐藤美佐子
本間久美子 北原かおり 狩野真子 松下次男 浅見宜記 吉田 茂
若田 誠

整理担当 専門員 木津博明

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理補助員 岩淵節子 小久保トシ子 猪野熊洋子 木原幸子 酒井史恵
佐藤美代子 光安文子 富沢スミ江 小菅優子 小材浩一
高橋真樹子 田中信子 高橋初美 田中富子 長岡和恵 安藤三枝子
丸橋富美子 南雲繁子 高橋美穂子 鶴岡真希子 柳沢有里子
阿部由美子 長岡和恵 中橋民子 串渕すみ江 高橋順子

10. 記録保存図発掘調査に伴う遺構等の記録図は1/20の縮尺を基本として作図したが、遺構種により一部1/10・1/40・1/60・1/100の縮尺で作図した。

記録保存原図の作図の一部は有限会社コスモ・技研設計測量株式会社に委託し、株式会社スカイサーペー社の協力を得た。

11. 記録写真発掘調査中に伴う写真撮影は発掘調査担当者が撮影したが、空中写真撮影は有限会社青高館・技研設計測量株式会社に委託し、株式会社スカイサーペー社の協力を得た。

12. 分析・委託

石材同定 飯島静男（群馬地質研究会）

地質調査・テフラ同定・植物珪酸体分析・花粉分析 株式会社 古環境研究所

樹種固定 株式会社 パレオ・ラボ

遺構・遺物トレース 技研設計測量株式会社

13. 発掘調査及び本書を作成するにあたり、及び以下の方々に御指導・御鞭撻を戴いた。記して感謝の意を表したい。（敬称略）

大川 清・吉岡康暢・須田 勉・池上 悟・酒井清治・本澤慎輔・似内啓介・大金宜亮・橋本澄朗

中山 晋・上野修一・田熊清彦・芹澤清八・大橋泰夫・田代 隆・津野 仁・市橋一郎・大澤伸啓

足立加代・河野一也・新保昌弘・上野川 勝・高橋一夫・村田健二・井上尚明・伴野和信・昼間 孝

赤熊浩一・木戸春夫・粟島義明・渡辺 一・佐々木幹雄・荒川正夫・阿久津 久・瀬谷昌良・鈴木素行

服部敬史・有吉重蔵・雪田 孝・上敷領 久・荒井健治・塚原二郎・石田広美・糸原 清・山路直充

駒田利治・服部久美子・田崎通雅・遠藤政孝・松尾宜方・斎木秀雄・小林康幸・増田 修・中島直樹

前原 豊・宮田 毅・大塚昌彦・瀧野 巧・

14. 本書の執筆は以下のとおりである。

中川遺跡を追川佳子、他を木津博明があたった。

15. 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵調査センターに保管してある。

凡 例

1. 本書で使用した地形図は、国土地理院発行1：25,000「三ノ倉」「高崎」。榛名町発行白図1：2,500を編集した。
2. 遺物観察表中「度目」「度目・量目」は、度が長さを示し、量は重量を示している。又、() は推定値・復元値を示す。
3. 遺物観察表中の「色調」は、『標準土色帳』農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色表監修 1976を使用して記載した。
4. 古代の土器種に就いて、原則として轆轤使用の製品を須恵器、非轆轤使用の製品を土師器等として扱った
5. 古代土器の器種で、高台の付く物を壙、高台の付かないものを坏、口径に比較して器高の低いものを皿とした。この他、通有慣用的に使用している名称を用いた。
6. 各図版中に用いた表現方法等に付いては、第2分冊の巻頭に「凡例」として載せた。
7. 本遺跡の出土遺物の注記は、「ゴム印」に依り行い、ゴム印が押捺出来ない遺物に就いては、アクリル系塗料等を用いて行った。注記は「 」以下に各遺構名称等、必要記載事項を簡略させた状態で記した。

総目次

章 節	項 目	頁 数	章 節	項 目	頁 数
1	経過		5	中里見根岸遺跡	
1	1 調査に至る経緯	1	1	1 調査の概要	
	1 1 調査に至る経緯	1		1 1 試掘調査	37
	1 2 本調査	2		2 本調査	37
2	2 発掘調査事業と整理事業		2	2 発見された遺構・遺物	
	1 1 試掘調査	1		1 1 発見された遺構・遺物の概要	38
	2 2 本調査	2		2 住居跡	38～39
	3 3 整理事業	3		3 鍛冶炉	39
				4 縄文時代晩期包含層	39
				5 根岸・中川遺跡出土の須恵器類	39～40
2	2 遺跡位置		6	6 中里見原遺跡	
1	1 遺跡立地		1	1 発掘調査	
	1 1 自然環境	3～4		1 1 調査の経過	53
	2 歴史的環境			2 試掘調査	53～54
	1 1 歴史的環境	5～6		3 本調査の概要	54
	2 2 周辺遺跡	6～10	2	2 発見された遺構・遺物	
3	3 調査方法と整理方法			1 1 発見された遺構に就いて	54～61
1	1 発掘調査			2 出土遺物に就いて	61
	1 1 調査杭とグリッド	11	7	7 上里見井ノ下遺跡	
	2 2 基本土層	11	1	1 発掘調査	
	3 3 遺構図化	12		1 1 遺跡名称に就いて	139
	4 4 遺構写真記録	12		2 試掘調査の概要	139
				3 本調査の概要	139～140
	2 2 整理方法		2	2 発見された遺構・遺物	
	1 1 遺物台帳	12		1 1 1区で発見された遺構・遺物の概要	
	2 2 遺物実測	12		2 2区で発見された遺構・遺物の概要	
				3 3区で発見された遺構・遺物の概要	
4	4 中里見中川遺跡		8	8 まとめ	
1	1 発掘調査		1	1 出土遺物について	
	1 1 試掘調査	15		1 1 出土瓦に就いて	159～160
	2 2 本調査	15		2 墨書土器	160
				3 「秋間型甕」に就いて	163～167
2	2 各区の概要		2	2 中里見遺跡群に就いて	
	1 1 1区の概要	15		1 1 里見廃寺と中里見遺跡群	169
	2 2 2区の概要	15	9	9 理科学分析	
	3 3 3区の概要	15～16	1	1 理科学分析にあたって	
	4 4 4区の概要	16		1 1 理科学分析と発掘調査事業	169
	5 5 5区の概要	16		2 理科学分析と整理事業	169
	6 6 6区の概要	16	2	2 動物遺存体	
	7 7 7区の概要	16		1 1 中里見原遺跡出土の獣歯・獣骨観察について	170～220
3	3 発見された遺構・遺物に就いて			2 2 中里見原遺跡出土の人骨について	221～21
	1 1 1区の近世・近代遺構・遺物	16～17		3 3 上里見井ノ下遺跡出土の人骨について	231～234
	2 2 2区の概要中近世の遺構・遺物	17	3	3 植物遺存体	
	3 3 2区の前古墳時代の遺構・遺物	17		1 1 中里見中川遺跡出土の種実同定	235～237
	4 4 2区の前古墳時代の遺構・遺物	17～18		2 2 中里見中川遺跡出土木材の樹種同定	238～251
	5 5 3区の奈良・平安時代の遺構・遺物	18～19		3 3 中里見遺跡群における植物珪酸体（プラント・オパール）分析	252～262
	6 6 4区の概要中近世の遺構・遺物	19		4 4 中里見遺跡群における花粉分析	263～269
	7 7 4区の奈良・平安時代の遺構・遺物	20	4	4 地質・テフラ・木炭の分析	
	8 8 4区の縄文時代以前の遺構・遺物	20		1 1 中里見遺跡群の地質とテフラ	270～280
	9 9 5区の中近世の遺構・遺物	20～22		3 3 中里見中川遺跡の放射性炭素年代測定	280～281
	10 10 5区の奈良・平安時代の遺構・遺物	22～23		4 4 木炭の発熱量分析	281
	11 11 4区の前古墳時代以前の遺構・遺物	23	5	5 鉄分析	
	12 12 6区の奈良・平安時代の遺構・遺物	23		1 1 遺物の形状とその組成からみた中里見遺跡群における鉄関連生産活動について	282～318
	13 13 6区の前古墳時代以前の遺構・遺物	23		2 2 中里見遺跡群鉄生産関連遺構出土の岩石学的検討	318～323
	14 14 7区の前古墳時代以前の遺構・遺物	23			
	15 15 7区の前古墳時代の遺構・遺物	23			
5	5 中里見根岸遺跡				
1	1 調査の概要				
	1 1 試掘調査	37			
	2 2 本調査	37			
2	2 発見された遺構・遺物				
	1 1 発見された遺構・遺物の概要	38			
	2 2 住居跡	38～39			
	3 3 鍛冶炉	39			
	4 4 縄文時代晩期包含層	39			
	5 5 根岸・中川遺跡出土の須恵器類	39～40			

中里見中川遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編	写 真 図 版 編	
	関連記載	諸 元	遺構図版	遺物図版	遺物観察表	遺構写真	遺物写真
1 区							
1 区畠跡	16		4	11	25		
2 区							
2 区集石土坑	17		4・7	11	25・26	9～11	160
2 区第1・2号不明遺構	17		4・6	11	26	11	
第1面下・2～3面礫群	17・18		12		26	11・12	
第3面水田跡	18		9			11・12	
第4面	18		14				
2区西第2面	18		15				
2区2面下(西3面)	18		16	18～20	26		
2区2面下最下層(西4面)	18		17				
2区西1面(拡張区)	18		18				
2区西第2面礫群(拡張区)	18		18			13	
As-B 下水田跡	18	24	23			13	
積石遺構	19	25	24・25	25	27	13・14	23
3 区							
第1号溝状遺構	19		26				
第1号土坑	19	25	26				
4 区							
第1号溝状遺構	19		29～32	30～32	27・28	14	23・28・29
As-B 下の溝状遺構	19		27～29	33	28	14	
第2号溝状遺構	19		27～29	34	28		23
第3号溝状遺構	20		27～29	34	28	15	23・29・30
第4号溝状遺構	20		27～29	35	28	15	23・29・30
第5号溝状遺構	20		27～29			15	23・30
第6号溝状遺構	20		27～29				
西テラス	20		27～29				30
立木痕	20		35・36				
土坑群	20	24・25		36	28		
5 区							
土坑群	20		45				
As-B 下水田跡	20		37・38				
第4号住居跡	20・21	24	46	46～48	29・30	16	23～25・30
第5号住居跡	20・21	24	49	50	30	16・17	25・31
第6号住居跡	20・21	24	51	51	30	17	31・32
第7号住居跡	20・21	24	52	52	30	17	32
第8号住居跡	20・21	24	52	52～57	30～32	17	32
製鉄遺構(精錬小鍛冶・小鍛冶)	20・21					17	32～34
第1・2号炉跡	21・22		60	59・61～64	32	18・19	
第5号炉跡	21・22	24	59				34～42
第6号炉跡	21・22		59				
第7号炉跡	21・22		59				
As-C 下水田跡	21・22					20	
As-C 下黒色土下の遺構	21・22	24				20	
第1号溝状遺構	20		39	40～45	29		
第2号溝状遺構	21・22		36・39				
第3号溝状遺構	21・22						
第4号溝状遺構	22						
倒木痕	23						
落ち込み	23						
6 区							
第1号溝状遺構号溝状遺構	23		65				
第1号住居跡	23	24	66	66・67	32	21	42
第2号住居跡	23	24	68	68・69		21	42
第3号住居跡	23	24	72	72・73	33		
土坑群	23	25	65			21	
第2・3号溝状遺構	23		70				
第3面植物遺存体	23		71				
第4面植物遺存体	23		71				
7 区	23						
第1号溝状遺構	23		74			22	
縄文時代の遺物	23		74	75	33	22	

中里見根岸遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編	写 真 図 版 編	
	関連記載	諸 元	遺構図版	遺物図版	遺物観察表	遺構写真	遺物写真
As-B 下水田跡		41	82			43	
第1号溝状遺構		41	81・83	83	42	43	
第2号溝状遺構		41	81			43	
第3号溝状遺構		41	81			44	
第1号住居跡	38	41	83・84	83~85	42	44・45	48
第2号住居跡	38	41	87	87	42	45	49
第3号住居跡	38	41	88	88・90	42~43	45・46	49・50
土坑		41	91~93	94	43・44	46	
第1号炉跡 (小鍛冶遺構)	39	41	93	95	45	46	50・51
縄文時代晩期の包含層	39	41	96	97~107	45~49	47	51~56

中里見原遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編	写 真 図 版 編	
	関連記載	諸 元	遺構図版	遺物図版	遺物観察表	遺構写真	遺物写真
第1号住居跡	56	62	111	111~113	72	62	100
第2号住居跡	56	62	114	115・117	72・73	62	100・101
第3号住居跡	56	62	114	118	73	62	101・160
第4号住居跡		62	119	118~120	73・74	63	101・102
第5号住居跡	56	62	121	121・122	74	63	102
第6号住居跡		62	123	123~127	74・75	63・64	103・104
第7号住居跡		62	128	127	75	64	
第8号住居跡	55	62	128・129	129・130	75	64	104・105
第9号住居跡	55	63	131	130・132	75~76	65	105
第10号住居跡	55・56	63	133・134	134~137	76	65	105・106
第11号住居跡	55・56	63	140~143	140~141 44~156	77~80	65・66	107~112
第12号住居跡	55・56	63	157	158~161	81・82	66・97	113・114
第13号住居跡	55	63	133・134	137~139	76・77	65	106・107
第14号住居跡	55	63	162	162~164	82	67	114・115
第15号住居跡		64	165	165~166	82	67	115
第16号住居跡	55・56	64	167~170	166・170・ 171	83・84	68	115~117
第17号住居跡	55・56	64	177	177~183	84・85	69	117~119
第18号住居跡	55・56	64	184	184~187	85・86	69	119・120
第19号住居跡	55・56	64	188	188~190	86	69	120・121
第20号住居跡	56	65	191	191~192	86・87	70	121
第21号住居跡	56	65	192	192	87	70	121
第22号住居跡	56	65	193~195	193~197	87・88	70・71	121・122
第23号住居跡	55	65	198	198~201	88	71	122・123
第24号住居跡	55	65	202	203	89	71	123・124
第25号住居跡	55・56	65	204	204・205	89	72	124
第26号住居跡		65	205・207	205・206	89・90	72	124
第27号住居跡	56	66	208・210	208・209	90	72・73	124・125
第28号住居跡		66	208・210			72・73	
第29号住居跡		66	210	210	90	73	125
第30号住居跡		66	211	211	90・91	73	125
第31号住居跡	56	66	212	211~214	91	73・74	125・126
第32号住居跡	56	66	215	215~218	91・92	74	126~128
第33号住居跡	56	66	219	218・219	92	75	127・128
第34号住居跡		66・67	220			75	
第35号住居跡		67	220			76	
第36号住居跡	56	67	220	220~222	92・93	76	128・129
第37号住居跡	56	67	223	222・223	93	77	129
第38号住居跡		67	224	224・225	93・94	77	129
第39号住居跡	56	67	226	226	94	77・78	129・130
第40号住居跡		66	208・210210	209	90	72・78	125
第41号住居跡			207	221・222			
第42号住居跡		67	220			76	
第43号住居跡		67	220	222	93	76	
第44号住居跡	56	67	227	227	94	78	130
第45号住居跡	56	67	228	228・229	94・95	79	130・131
第46号住居跡		66	208・510			78	
第47号住居跡		67・68	229	229	95	79	131
第48号住居跡	56	68	231	231	95	79・80	131

第49号住居跡	56	68	232	232~236	95・96	80	131~134
第50号住居跡	56	68	236・237	236~240	96	80・81	133~136
第51号住居跡		68	241	241~243	96・97	81	136
第52号住居跡		68	243・244	243	97	81	136
第53号住居跡		68	245	244~248	97・98	82	137~139
第54号住居跡	56	68	248・249	248~250	98	82	139
第55号住居跡	56		251	250~253	98・99	82・83	139・140
第56号住居跡		69	251	253・254	99	82・83	140・141
第57号住居跡		69	248・249	250	98	82	
第1号竪穴状遺構	56・57	69	附図6	附図6		84・88	
第2号竪穴状遺構	56・57	69	255・256	255・256	99・100	84	142
第3号竪穴状遺構	56・57	69	257	256~261	100・101	84	142・143
第4号竪穴状遺構		69	262	262	101	85	142・143
第1号掘立柱建物跡	57	69	263	263	101	86	144
第2号掘立柱建物跡	57	69	264	264	101	86・88	144
第3号掘立柱建物跡	57	69	256	265	101	86	142
第4号掘立柱建物跡	57	69	266	266	101	86	144
第5号掘立柱建物跡	57	69・70	268・269	266	101	86	144
第6号掘立柱建物跡	57	70	267		101	86	
第7号掘立柱建物跡	57	70	270・271	271	101	86	144
第1号基壇建物跡	57・58	70	272・273	273~275	102・103	87	142 144~146
柵列跡	58	70	附図6・276	277	103	88	145・146
第1号道跡	58	70	附図7	277	103・104	89	145
第2号道跡	58	70	附図8・278			90	
第3号道跡	58・59	70	278~280			91	
第4号道跡		70				91	
第1号土墳墓	59	70	281	281	104	92・93	146・160
第2号土墳墓		70	282	282		92	
第3号土墳墓		70	282	282	104	92	146
第4号土墳墓		70	282	282	104	92	146
第5号土墳墓		70	283	282	104	92	145
第1号古墳	59・60	70	附図5 285・286	287・290	105	94・95	147・148
東斜面石組み遺構	60	70	291	292	105	93	
土坑		70	附図3	304・311	109~117		
第145号土坑	60	70	292	292	105		149
第166号土坑	60	70	293	293	106	96	149
第198号土坑	60	70	293	293・294	106	96	149
第205号土坑	60	70	294	294・295	106	96	149
第213号土坑	60	70	295	295	106		149
第318号土坑	60	70	296	295・296	106	97	149
第737号土坑	60	70	296	296・297	107	97	150
第747号土坑	60	70	297	297	107		150
第748号土坑	60	70	297	297・298	107	97	150
第765号土坑	60	70	298		107		
第955号土坑	60	71	298	298	107		150
第795号土坑	60	71	298	298	107		
第819号土坑	60	71	300	300	108		150
第824号土坑	60	71	301	301	108		150
第872号土坑	60	71	301	301	108		150
第874号土坑	60	71	301	301	108	98	151
第875号土坑	60	71	301		108		
第985号土坑	60	71	303		108		
第986号土坑	60	71	303		108		
第987号土坑	60	71	303		108		
第988号土坑	60	71	303		108		
第991号土坑	60	71	303	303	108		
第992号土坑	60	71	303		108		
第993号土坑	60	71	303	303	108	98	
第994号土坑	60	71	303	303	108		
第995号土坑	60	71	303	303	108		
第996号土坑	60	71	303	303	109		
第982号土坑	60	71	304				
第983号土坑	60	71	304				
As-B被覆土坑	60	71	312				
北東斜面土坑群	60	71	313	314	117	85	

竪穴状落ち込み	61	71	315				
井戸状遺構	61	71	316	316	118	99	
風倒木跡			316			99	
遺物集中出土部			317				

上里見井ノ下遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編	写 真 図 版 編	
	関連記載	諸 元	遺構図版	遺物図版	遺物観察表	遺構写真	遺物写真
溝状遺構			附図4・359				
第1号溝状遺構		144	360			162	
第2号溝状遺構		144				165	
第3号溝状遺構		144	360			165	
第4号溝状遺構		144					
第5号溝状遺構		144					
第6号溝状遺構		144					
屋敷跡	140		附図9・361	362~364	146	163・164	160・175
2区第1号溝状遺構			365				
2区第2号溝状遺構			366		146		
2区第3号溝状遺構			366			172	
第3号溝状遺構	142		367				
第1号墓		144	383			169	
第2号墓		144	383			170	
第3号墓		144	383	387	152・153	170	160
第4号墓		144	383	384	148・149	170	160
第5号墓		144	383	384	149	170	160
第6号墓		144	383	385	149・150	170	160
第7号墓		144	383	385	150	170	160
第8号墓		144	383	385	150	170	160
第9号墓		144	383	386	150・151	170	160
第10号墓		144	383	386	151		160
第11号墓		144	383	386	151		
第12号墓		144	367	386	151	172	160
第13号墓		144	367	386	151	172	160
第14号墓		144	367		152	172	160
第1号住居跡	141		368	368	146	166	175
第2号住居跡	141		368	368	147	166	
第3号住居跡	142		369	369~373	147	173	175・176
第1号掘立柱建物跡	141	144					
第1号炭窯	141	144	374			166	
第2号炭窯	141	144	376・377	375・378	147・148	167・168	177
第3号炭窯	141	144	378			168	
第4号炭窯	141	144	379			168	
第6号炭窯	141	144	380			169	
第7号炭窯	141	144	380			169	
第8号炭窯	141・142	144	381	382	148	173	177
土器溜まり	142		389	390~392	153	174	
3区2面土坑群	142		393			169	
第1号土坑		144	394				
第2号土坑							
第3号土坑							
第4号土坑		145	395				
第5号土坑							
第6号土坑		145	395				
第7号土坑		145	395				
第8号土坑		145	395				
第9号土坑		145					
第10号土坑		145	395				
第11号土坑		145	395				
第12号土坑		145	395	395	153		177
第13号土坑		145	397				
第14号土坑		145	397			174	
第15号土坑		145	397			174	
第16号土坑		145	396			174	
第17号土坑		145	396			174	
第18号土坑		145	396			174	
第19号土坑		145	396			174	
第20号土坑		145	396				

第21号土坑		145	396				
第22号土坑		145	396				
第23号土坑		145	396				
第24号土坑		145	396				
第25号土坑		145	394				
第26号土坑		145	394				
第27号土坑		145	397				
第28号土坑		145	397			174	
第29号土坑		145	394				
第30号土坑		145	394				
第31号土坑		145	394				
第32号土坑		145	397			174	
第1号埋藏		145	397	397	153	165	177
1区低地出土遺物	141			398・399	153	165	

附図目次	
附図1	中里見遺跡群全体図 (1:1,000)
附図2	中里見中川・中里見根岸遺跡全体図 (1:500)
附図3	中里見原遺跡全体図 (1:400)
附図4	上里見井ノ下遺跡全体図 (1:400)
附図5	中里見原遺跡第1号古墳実測図 (1:100)
附図6	中里見原遺跡柵列跡実測図 (1:80)
附図7	中里見原遺跡第1号道跡実測図 (1:250)
附図8	中里見原遺跡第2号道跡実測図 (1:100)
附図9	上里見井ノ下遺跡屋敷跡実測図 (1:170)

発掘調査報告書抄録

ふりがな	なかさとみいせきぐん なかさとみなかがわ・なかさとみねぎし・なかさとみはら・かみさとみいのげ						
書名	中里見遺跡群 中里見中川遺跡・中里見根岸遺跡・中里見原遺跡・上里見井ノ下遺跡						
副書	北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第15集						
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書						
シリーズ番号	第271集						
編集者	追川佳子・木津博明						
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地2号 電話027(52)2511						
発行年月日	平成12年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
なかさとみいせきぐん 中里見遺跡群 なかさとみ ながわ いせき 中里見中川遺跡 なかさとみ ねぎし い ・中里見根岸遺 せき なかさとみ はらい 跡・中里見原遺 せき かみさとみ いの 跡・上里見井ノ げ いせき 下遺跡	ぐん まけんぐん まけんはる 群馬県群馬郡榛 なまちおおざかみさとみ 名町大字上里見 いのげ おおざなか 井ノ下・大字中 さとみ いのげ はら 里見井ノ下・原 ねぎし ながわ ・根岸・中川			36°21'57" } 36°22'14" 138°54' } 138°54'36"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	生産	縄文時代	晩期終末他包 含層	深鉢片・石器 等	中里見中川遺跡では、As-B 下水田跡、10 世紀の製鉄遺構を伴う集落跡、弥生時代 の水田跡等が発見されている。 中里見根岸遺跡では、As-B 下水田跡、同 下層に10世紀の住居跡・溝状遺構・土坑 が発見されている。更に下層からは縄文 時代晩期終末の包含層が確認され、多量 の土器類が発見された。中里見原遺跡で は、里見廃寺の北端部分が発見された。 遺構は基壇・掘立柱建物群・道跡が主要 な構成遺構で、このほか8世紀～10世紀 の住居跡・鍛冶遺構が発見されている。 この他、古式土師器を伴う方墳が発見し ている。弥生時代中期の土器片のやや多 く出土している。 上里見井ノ下遺跡では、8世紀～9世紀 の炭窯跡が6基発見されている。秋間丘 陵麓では縄文時代の土坑が発見されてい る。		
		弥生時代	再葬墓・包含 層	壺			
		古墳時代	古墳	古式土師器			
		奈良時代	寺院跡・住居 跡・土坑・道 跡	瓦・須恵器・ 土師器			
		平安時代	寺院跡・住居 跡・土坑・道 跡	須恵器・土師 器・鉄器			
		江戸時代	道跡・溝状遺 構・土墳墓	陶磁器・軟質 陶器・鉄器			

第1章 経 過

第1節 調査に至る経緯

第1項 調査に至る経緯

昭和44年(1969)5月30日「全国新幹線鉄網道構想」が閣議決定された。北陸新幹線は、昭和61年(1986)8月29日工事実施計画追加認可申請がされ、平成元年(1989)1月17日に着手等決定、同年8月2日に起工式が挙行され、平成9年(1997)に開業された。

この間、平成元年4月、第18回冬季オリンピック大会の開催場所が長野にIOCで決定された。平成10年(1998)開催される第18回冬季オリンピック長野大会は、昭和47年(1972)第11回冬季オリンピック札幌大会開催以来、我が国3回目のオリンピック開催決定に国内中が沸き立った。この長野オリンピックの開催は、内陸部への交通アクセスが大きな課題の一つに惹起し、予てより成案となっていた北陸新幹線の工事実施計画の竣工自体が急務になった。

ここ群馬県は、北陸新幹線の経由地であるため、北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査も、開業以前の試験走行期間以前に工事竣工という、工事期間自体も極めて短期間であること等から、更なる急務となった。

そして、北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査が、平成3年2月4日から開始されてより3年次目迎えた平成4年4月1日、群馬郡榛名町上里見・中里見地区(以下「里見地区」)でも発掘調査が開始された。当該の里見地区は、高崎起点距離13.260km～14.220kmの0.980km区間の調査対象面積20,905㎡を測り調査体制は2班が投入された。

しかし調査は、平成3年3月31日付けで里見交渉区の地権者会との団体調印がされてから、用地取得という経過と、発掘調査開始までの時間も短期間であったため、なかなか順調に運ばず、部分的に後行する箇所も生じ、困難な調査体制も強いられたが、平成6年3月31日で調査は終了した。

第2節 発掘調査事業と整理事業

第1項 試掘調査

里見地区の発掘調査は、本調査と並行し試掘調査も実施し、試掘調査は中里見中川・根岸・原遺跡、上里見井ノ下遺跡(以下、「中・上里見」は省略)の全遺跡で実施した。

中川遺跡では、本調査に並行する試掘調査と、本調査に先行する双方の試掘調査が実施された。先行試掘調査では、低位段丘面から中位段丘面の試掘調査が平成4年1月8日から同24日まで実施された。この試掘調査では中位段丘面遺構の存在が確認されたが、低位段丘面での遺構の確認は出来なかった。また、本調査時の試掘調査は、同年5月11日から5日間をもちかけて実施し、以降の埋没する所見が得られたので本調査を実施した(1区)。

根岸遺跡では、平成5年6月13日、用地の解決次第に試掘調査を実施した。根岸遺跡の場合は、国道406号線の通過する傍らでの調査のため、層厚が相当見込まれる客土層の層厚確認の目的もあり試掘調査を実施したが、安全対策を講じないと試掘調査も実施が限界な状態の客土層が確認された。

原遺跡では、起点距離14.700～14.765km区間が当初予定の調査対象区から除外されていたため、平成5年5月8日に試掘調査を実施し、遺構が確認されたため対象部全面の表土層を除去し、本調査に移行した。

井ノ下遺跡では、解決をしている用地部分で、調査対象外部分の地形が遺跡の存在を推定させるに足りる地形であったため、調整の結果、平成5年1月25日から5日間で試掘調査を実施した。

里見地区の発掘調査は、前述したように、用地解決と調査着手までの時間が短時間であったこと等、全体に準備不十分な状態が続いている間に調査を終了させた。

第1章 経過

第2項 本調査

平成4年4月1日より、中川・原両遺跡が2班の調査体制が生まれ、中里見地区の発掘調査が着手になった(調査地点の経過は図-1を参照された)。

中川遺跡では、2区より調査が開始された。東西と北側が道路に阻まれての調査であった。この調査の間に1区の試掘調査を実施している。各調査区は、諸般の事情により順次実施できず、用地解決を待って実施になったが、その間の手戻り等も必然的に生じていたが、平成5年3月31日に発掘調査は終了した。

根岸遺跡は、平成6年4月1日から発掘調査を着手した。比較的調査対象範囲が狭いが、宅地造成のための客土層が3mを越えていたのと、国道406号線が調査区を跨ぐ様に通過してため、調査は危険な状態であった。

調査は、古代面(As-B 下水田面と集落面)2面、縄文面及び遺物包含層の発掘調査であった。古代面は5月9日から着手し、縄文面は6月15日より着手した。7月21日に埋め戻しを完了した。

原遺跡は、平成4年4月1日より調査可能な箇所から表土掘削を開始した。しかし、用地は虫食い状態に近い状態であったため、諸事にリスクは大きかった。また、調査着手が叶わない場合は、中川・根岸・井ノ遺跡、下芝五反田Ⅲ・Ⅳ遺跡、高浜広神・民部遺跡、神戸岩下遺跡をはじめ、諸々の遺跡の試掘調査を実施する状態であった。最終的には、平成6年2月16日から東側斜面部の調査に着手し同年3月31日に調査を終了させ、原遺跡の発掘調査は完了した。

井ノ下遺跡は、前述の試掘調査後速やかに本調査に移行した。調査着手は平成5年1月29日より1区から調査を開始し、同年3月31日に同区を終了させた。ほぼ1年後の平成6年3月15日、3区に着手し次年度に継続し4月20日に終了させた。そして、同年10月3日から2区に着手し、同月20日埋戻しを終了させ完了した。

中里見地区の調査は転戦の明け暮れであったが、足掛け2年半に亘る調査を終了させた。

各調査箇所の実進状況・着手順位は図1(右図)を参照して戴きたい。

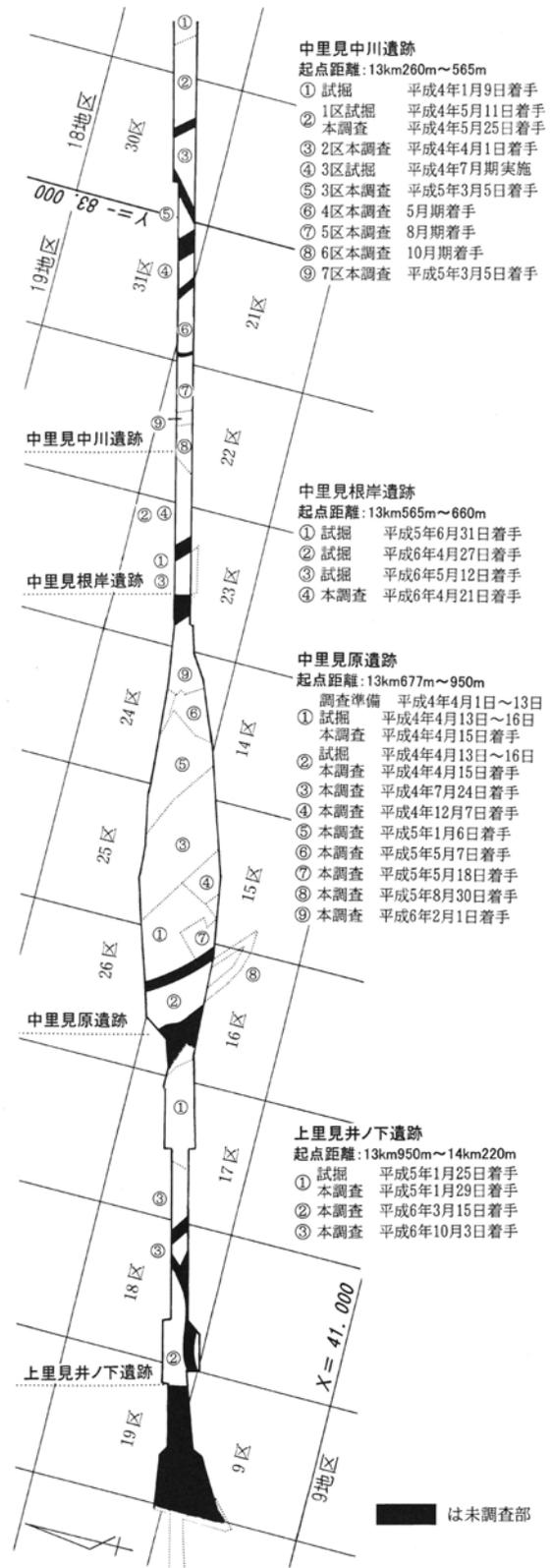


図1 調査経過図(1:5,000)

第3項 整理事業

北陸新幹線に伴う整理事業は、平成6年度から平成11年度までの6年間に亘る事業である。

当該の中里見地区の整理事業は平成9年度から3ヵ年計画で着手した。対象とする遺跡は、前述してきた中里見中川・根岸（泉福寺古墳群）・原・上里見井ノ下遺跡の4遺跡である。

整理は中里見中川遺跡から着手した。中川遺跡は、発掘調査の延べ面積に比較すると遺物量は少なかった。これは、発掘調査で出土した遺構が水田跡が多かったことに依る。しかし、根岸遺跡寄りの調査区からは、製鉄関係の遺構の出土があり、鉄滓・炉体等の遺物が多く、特に炉体部品は炉体復元可能な量と質があったため、予想を上回る時間を費やす結果であった。また、土器類では内黒製品の多さも予想外な状況であった。

一方、遺構図面は、遺物類に並行させて集成・編集・修正を行い平成9年度を費やした。

根岸・原・井ノ下遺跡の遺物は平成9年度の後半期より接合・復元を着手した。原遺跡は平安時代の竪穴住居跡が多く出土していることと、秋間古窯跡群に至近という位置関係、里見廃寺の寺院地に推定されることから出土遺物種類・量共に非常に多かった。これらの土器類の復元終了後写真撮影を実施し、撮影終了後実測に着手した。実測は平成10年度に継続し、この間に、写真図版の作成を開始している。平成10年度は実測と写真図版の継続、文字原稿の入力、実測図の修正等諸々の作業にあたった。

この平成9・10年度は、4遺跡の出土遺物の実測等の作業が目まぐるしく入れ替わる状態であった。

平成11年度は原・根岸・井ノ下遺跡の図面修正と遺物実測図の修正を中心に、4遺跡のレイアウト・トレース・遺物観察・本文等の執筆、版下作成等、入札に向けての作業が主体となった。

なお、北陸新幹線建設工事にかかわる発掘調査遺跡の「記念展」は平成10年度に実施した。この「記念展」に係る作業も該当年度に実施している。

第2章 遺跡位置

第1節 遺跡立地

第1項 自然環境

中里見地区は行政上群馬郡榛名町大字中里見になる。この榛名町は、烏川により南北に分断され、北側は榛名山からの町域が裾野に向かい扇状に開き、南側は秋間丘陵の稜線に界された東西に細長く烏川に沿って広がっている。この烏川の南側に広がる部分が里見地区である。明治22年4村合併により新制された旧里見村の町域が該当する。

当該地域は、新第三紀の地層が形成する秋間丘陵、烏川対岸の第四紀の火山活動によりほぼ形成された榛名山、烏川河川営力により形成された沖積地・河岸段丘等が長年の侵食を受けたことにより地形が形成されている。北陸新幹線の経路にあたり発掘調査された当該遺跡群は、正にこれらにより形成された地質の上を横断する状態である。

烏川が形成した河岸段丘は図2・3に示した様に、低・中・高位の3面に大きく分かれる。これは、烏川の流路変化に原因するであろうが、どのような変遷を辿ったかは定かではない。図2には推定される流露の流走痕跡を辿って示してある。

図-2は地形区分を示した。烏川対岸に榛名山の南西麓端。里見地区では、低位面・中位面（侵食の度合いにより島状に認められる）・高位面・秋間丘陵である。この間を烏川・春日松原堰用水路・向井川・里見川が平行する状態で流下している。そして、これらの河川は上述の地形を明瞭に区別する状態でもある。

図-2は等高線から観た旧流路の痕跡を示した。この現況地形は、山間部から平野部に向かい開析する中間的な地形状態である。そして、この地点で榛名山中から発した滑川が烏川に合流する。このため、山間部の水量が一度に押し寄せる地点でもあり、当該地域の烏川両岸の崖線は切り立った状況である。

勾配率では、中室田室田第1水源宮谷戸ポンプ場

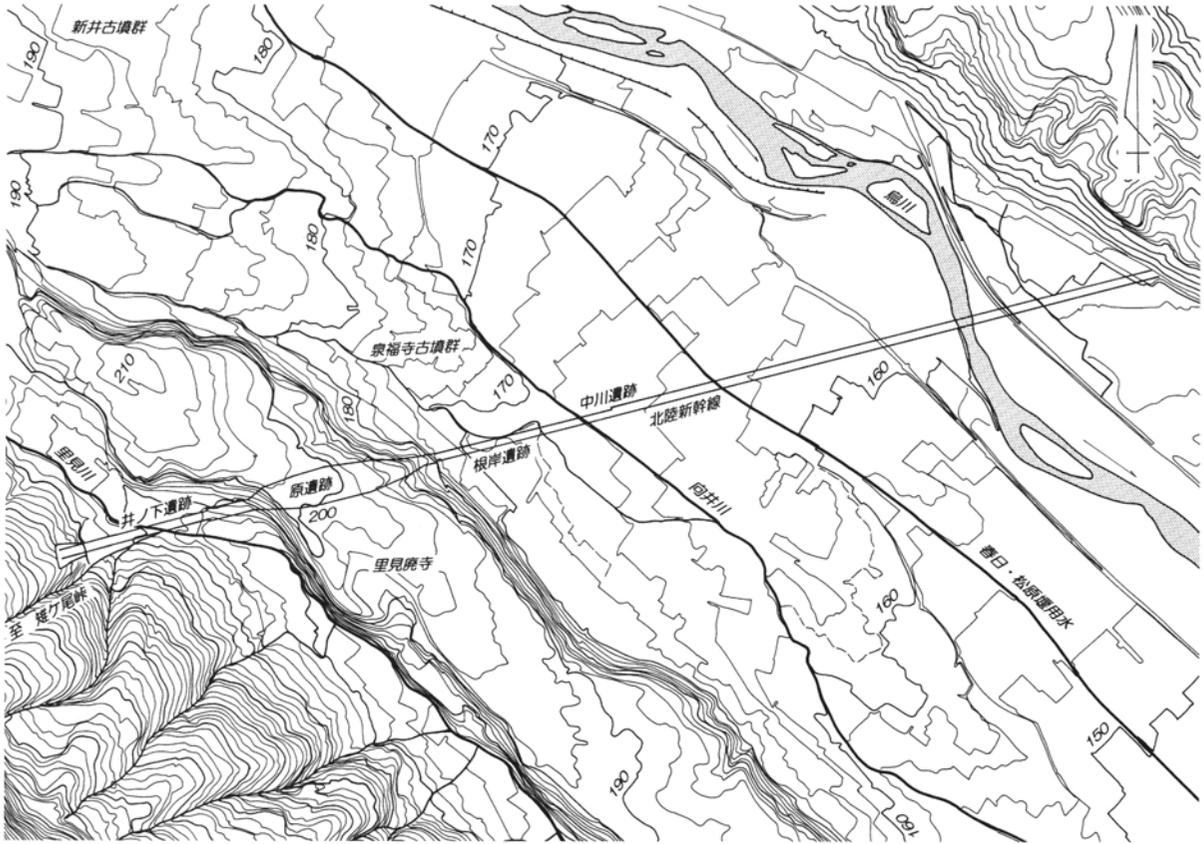


図2 遺跡地周辺地形図（榛名町役場発行白図の等高線）（1：10,000）

と立志橋間1.4km比高差16mで1.142%。立志橋と中河原橋間3.35km比高差45mで1.34%。中河原橋と長野堰頭首口間2.7km比高差27mで1%で僅かながら、上里見から下里見間の高倍率が強い。立志橋周辺で合流する滑川は、江戸村橋と立志橋間1.5km比高差50mで3.3%と非常に急流であることが窺える。

里見地区、とりわけ中里見から下里見にかけては低位の河岸段丘が発達している。この河岸段丘の生成過程にはこれら河川営力によるところが大きい。

中里見地区の烏川上流域の中位段丘面は、烏川本流の侵食と離水後の小河川の開析により形成されたことが窺える。だが、この烏川の侵食を引き起こす要因として、前述の滑川の合流という要素が強く感じられる。これは、中里見地区の上流域中位段丘面は、滑川の合流地点の対岸に当り、流路延長部分に中里見地区の北西部分の顕著に侵食された中位段丘面が位置する関係が観られるからである。

原遺跡が立地する高位段丘面は、秋間丘陵に平行する状態で北西から南東方向に大凡3.2kmに亘り延

びている。この段丘面は北側を烏川に、南側を里見川に侵食された状態であるが、里見川が全ての侵食を行ったとも思われず、烏川の一時的な変流乃至分岐した流路に因る所産とも思われる。この地形の生成原因が後者の場合は、当該の地形分類は段丘ではなく地塁帯としての分類になる。しかし現状では、当該の上位河岸段丘を地塁帯としては認識されていない。

秋間丘陵の北面側には井ノ下遺跡が立地する。この秋間丘陵の北面側は、多数の支谷が認められ、自然侵食により斜面の下半と上半では勾配に違いが認められ、下半部が約度程に対して上半部は約度程で急激に立ち上がる2面構成になっている。秋間丘陵は新第三紀の地質からなっている。この新第三紀層は県内平野部と山地の間の丘陵地帯に広く馬蹄形状に分布し、各地に粘土層を賦存させている。この粘土層は、秋間丘陵・観音山丘陵に分布する亜炭層(上部板鼻層)の上下に賦存している。秋間古窯跡群・乗附古窯跡群の開窯の最大の背景になっている。

第2節 歴史的環境

第1項 歴史的背景

この里見地区は、明治22年(1889)3月4日に「群馬県令第十九号郡町村区域名称改定」により新制した里見村の村域である。里見村は、新制直前の上里見村・中里見村・下里見村・上大島村の合併による新制である。しかし、昭和30年1月31日、旧里見村と旧室田町と合併により新制された「榛名町」により里見村は廃村となっている。

近世の当該地区は上記の上里見村・塚崎村・中里見村・下里見村であったが、明治5年(1872)に塚崎村と中里見村は合併し中里見村になり、明治22年の合併までの間、中里見村として行政の末端を担っていた。

一方、里見地区は新田荘を立荘させた新田義重の嫡男里見義俊(図3参照)の本貫地であり、新田義貞の生誕地として地元の広報活動も盛んである。

新田義重は新田荘を立荘後、東山道経路の要地「山名」の掌握を目的に、「山名」の有力氏族との婚姻関係により二男義範に「山名氏」を名乗らせている。そして、「里見氏」の場合も同様に、東山道の裏側にあたる当該地を掌握のために「里見」の有力氏族との婚姻関係を結び、嫡男義俊に「里見氏」を名乗らせている。平清盛政権を相当意識しての結果の反映と考えられる。また、義重四男世良田(得川)義季は利根流域に、五男額戸経義はやはり東山道の山田郡境に対菌田氏(藤姓)に備えている。だが、額戸氏は相続が無く氏経(経義二男)は「長岡氏」を称しており、所領が額戸郷から長岡郷(石塩郷)に移ったことが窺える。この「額戸氏」の本貫地は太田市強戸地区と考えられ、周辺の太田市鳥山地区・大嶋地区には里見義成(二代)嫡男義基(三代)の庶流義継(義成二男)は「大嶋氏」を時成(義成三男)は「鳥山氏」それぞれ配置している。

この様に、里見氏は新田一族のなかでも新田荘発展の一翼を担った氏族であって、本貫地がこの里見地区であることは歴史的意義は大きい。

翻って戦国時代から近世初期には、前述の上・中・下里見(三里見)は、長野・里見氏の支配下にあったことが『上野国郡村誌』(以下『郡村誌』)に記され、上里見村は天正18年(1590)～文禄3年(1594)には「既ニシテ里見讃岐采地ナリ」と記し、中里見村では「天正十八年徳川氏里見右衛門佐ニ里見村賜フト云ウ(後略)」と記し、下里見村では、「文和三年(1354)ヨリ群馬郡箕輪城主長野氏及里見兵庫頭、同兵尉等此地ヲ領スト云ウ、(中略)同十八年(天正)里見右衛門佐領地トナル(後略)」と記されている。この中の「長野氏」は鎌倉時代は御家人の家柄で、室町時代になると上州一揆の筆頭に挙げられている。

戦国期の里見氏は、天文24年(1555)、仁田山里見宗義(河内)・義宗兄弟が長野業政を頼り里見郷に戻り、義宗が里見で帰農すことにより今日までの命脈になっている。永禄元年(1558)『上野国群馬郡箕輪城主長野信濃守在原業政家臣録』には「里見兵左衛門・里見久右衛門」の名前が見られる。上杉輝虎は永禄8年(1565)6月・11月に「里見太郎」「里見入道」宛に文書を発給している。この両者は義堯(安房里見氏)と考えられている。

また、中里見の光明寺は治安三年(1023)に明慶により開基(「光明寺世代」による)(『光明寺縁起』では「治安年中」とされている。また、『光明寺縁起』では、開山は延暦年間に最澄により「広済院広楽院」がおかれたとしている。開山・開基は縁起の記述のため確実性に乏しいが、里見義俊(二代)に就いて、「(前略)嘉応二年(1169)十一月五日逝、三十四才、中里見村阿弥陀院光明寺に葬る(後略)」とも記している。里見氏の菩提寺としての寺格である。

この光明寺の創建時期は未だ不分明としても、里見廃寺・中里見原遺跡の寺院遺跡の存在から類推すれば、里見廃寺遺跡と『光明寺縁起』の記述との間に何らかの因果関係又は反映とすることも出来る。

元より、里見氏は平安時代後半頃には富豪層としての存在乃至は有力氏族であったことが確実視出来るなら、前代に氏寺の建立も想像に易い。

第2章 遺跡位置

第2項 周辺遺跡

本項では、周辺遺跡からの当該遺跡群の位置づけを行ってみたい。しかし、榛名山町は詳細な遺跡分布調査がされていないため、具体的な状況はまだ不分明としか言い得ないのが、ここでは図3に示した遺跡を中心に進めてみたい。

当該遺跡群は、烏川低位面の中川遺跡、同中位面の根岸遺跡、同高位面の原遺跡。里見川挟む井ノ下遺跡に分かれている。榛名町での烏川低位面での発掘調査は今回の調査が初見である。今回の調査を契機に、民間開発に原因する低位面での調査が町教育委員会により実施され、As-B下水田跡が広域に発見されている(根岸II遺跡)。旧烏川流路の低地部を割る向井川流域広がることが予想される。当該中里見根岸遺跡で発見されているAs-B下水田跡は、最も谷頭側に当る部分であろう。

中里見中川・根岸遺跡の北西側には、烏川と向井川の浸食により形成された、泉福寺を擁する舌状の低台地がある。この台地には泉福寺古墳群・塚崎の砦跡がある。現在では、2基の古墳が残るが、他は消滅している。古墳出土遺物の一部(金環5・勾玉5・丸玉4)は文献1で紹介されている(上毛古墳総覧里見村56号の出土遺物か)。

塚崎の砦跡は、痕跡も認められない位の状況で宅地化している。中里見中川・根岸遺跡で出土している中世遺物は、この砦跡に係ることが推定される。

中里見原遺跡を擁する台地は、字名「原」で全面が覆われる。この台地上を可能な限り表面採集を実施した。採集できた範囲は台地上全面に及び、奈良・平安時代が主体を成すのと少量ではあったが、縄文・弥生式時が採集されている。また、古墳時代の土師器類も採集されているが、詳細な時期判断し得る資料は無かった。このことから、原遺跡の範囲は、図3に図示した赤色網点部分、台地全面としておきたい。台地上では、特に隣地当る、里見廃寺遺跡では、多量の瓦が採集されている。この瓦の採集できる範囲は、里見廃寺遺跡の周知部分から、100m南東まで位であった。

この「原遺跡」(台地全面を指す)は、当遺跡により大体の概要は把握できるものの、実際の面積は約255,000㎡(1700m×150m)に及んでいる。調査は極一部にしか過ぎず、まだまだ実態解明に至れない。この原地区では従前より地元の土地所有者等により、土器等が採集されており、一部が文献1で紹介されている。台地端部の郷見神社(No.40)の裏には、郷見神社裏古墳(上毛古墳総覧里見村41号)(No.40)1基が台地上では残存している(前方後円墳)が、上毛古墳総覧には台地上には14基が掲載されている。

この郷見神社裏古墳を過る様に「原往還」は台地上を縦走していたと考えられる。現在では旧状も見つかる影も無いが、アスファルトで舗装された町道「神山 岩下線」となっている。この「原往還」は地元では「草津道」としても呼称されている。上流側は上里見神山地区に至り、下流側は、中原の道標(側面には「元禄六」の年号が彫られている)(図版6-5・7-1)(元禄年間には建てられたと推定されている)を経由して八幡霊園を通過(現在は霊園の整備により消滅している。)し若田方面に向かっているが、この先は判然としないが、和田宿(高崎)から発していたと考えられる。

これとは別に台地下、現国道406号線に平行する草津道が知られている。国道406号線は、その前身中野県道が明治28年(1895)に開通している。この開通以前は向井川流域沿いから光明寺(図版8-2)・泉福寺・東光寺(図版8-3)の夫々の門前を経て現上里見十字路の、旧里見宿に至る道筋である。旧里見村役場は、この草津道の傍らで、泉福寺の前面に置かれていた。

この上里見の十字路から、原地区に上る路傍には、やはり道標(No.7)が建てられている。この部分は、秋間(安中市)地区(雉ヶ尾峠越え)と下室田に向かう「辻」に当る部分である。

この双方の草津道は、河川沿いの平坦ルート、増水時の丘陵上のコースに分かれるが、孰れにしろ、双方には個別の意義があったことは確実であるが、現在では、新古・表裏(控え)の区別は付け難い。

表1 遺跡名称一覧表(1)

	遺跡名称	出典	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	摘要
1	中里見原遺跡	本書		●	●	●	●	●				第3図赤色網版の範囲
2	中里見原遺跡						●	●				昭和58年度町教委緊急調査
3	里見塚跡	文献1						●				『考古学年報』1954
4	中里見原遺跡	文献1		●	●	●	●	●	●	●		
5	里見庵寺	(川原嘉久治2)					●	●				
6	原往還(草津道)	文献1								●?	●	
7	上里見の道標	文献1									●	
8	中里見井ノ下遺跡						●?	●				群馬県教育委員会
9	堂尾根A遺跡							●				榛名町教育委員会
10	中原の道標										●	「元禄六」在銘
11	下芝五反田遺跡	(北陸新幹線)				●	●	●				既刊団報告書第230・250集
12	下芝天神遺跡	〃				●		●	●			〃 第231集
13	下芝上田屋遺跡	〃					●	●		●		〃 第231集
14	和田山天神前遺跡	〃	●	●		●		●	●	●	●	〃 第254集
15	白川傘松遺跡	〃	●	●							●	〃 第204集
16	白川笹塚遺跡	〃		●		●			●	●	●	〃 第266集
17	白岩浦久保遺跡	〃		●		●	●	●				〃 第266集
18	白岩民部遺跡	〃	●	●				●			●	〃 第266集
19	高浜広神遺跡	〃		●				●	●	●	●	〃 第252集
20	高浜向原遺跡	〃		●		●		●				〃 第262集
21	三ツ子沢中遺跡	〃	●	●		●		●				〃 第260集
22	神戸宮山遺跡	〃						●				〃 第262集
23	神戸岩下遺跡	〃				●		●			●	〃 第262集
24	中里見中川遺跡	〃		●				●		●	●	〃 第271集
25	中里見根岸遺跡	〃		●		●		●				〃 第271集
26	中里見原遺跡	〃		●	●	●	●	●			●	〃 第271集
27	上里見井ノ下遺跡	〃		●			●	●				〃 第271集
28	中秋間甲木ノ谷津I遺跡	〃									●	〃 第195集
29	中秋間中島遺跡	〃						●				〃 第195集
30	東上秋間稲貝戸遺跡	〃									●	〃 第195集
31	東上秋間笹田遺跡	〃									●	〃 第195集
32	東上秋間神水遺跡	〃						●				〃 第195集
33	本光寺	(川原嘉久治1)									●	
34	泉福寺・泉福寺古墳群	文献1		●		●	●	●		●	●	
	塚崎の砦跡									●		
35	光明寺	文献1						●?	●	●	●	
36	飽間神社	(川原嘉久治1)					●?	●?	●?	●?	●	
37	多胡神社	〃									●	
38	長年寺	〃								●	●	
39	榛名神社	〃								●?	●	
40	郷見神社	〃						●?	●?	●?	●	
41	里見城跡	〃								●	●	
42	満行山信長寺	〃									●	
43	榛名神社	〃								●?	●	
44	榛名木戸神社	〃								●?	●	
45	榛名若御子神社	〃								●?	●	
46	満行山景忠寺・	〃								●	●	
47	榛名神社	〃								●?	●	
48	拔鋒神社	〃								●?	●	
49	榛名神社	〃								●?	●	
50	拔鋒神社	〃								●?	●	
51	白岩観音長谷寺	〃								●?	●	
52	戸榛名神社	〃								●?	●	
552	長否遺跡	群馬県遺跡台帳				●						以下『群馬県遺跡台帳』番号
577	屋敷前遺跡	〃				●						
578	屋敷前遺跡	〃		●								
580	六反田遺跡	〃				●	●					
581	前河遺跡	〃				●						
582	屋敷前遺跡	〃				●						
583	住吉遺跡	〃				●						
584	神屋敷前遺跡	〃				●						
585	上野前遺跡	〃				●						
586	◆原遺跡	〃				●						

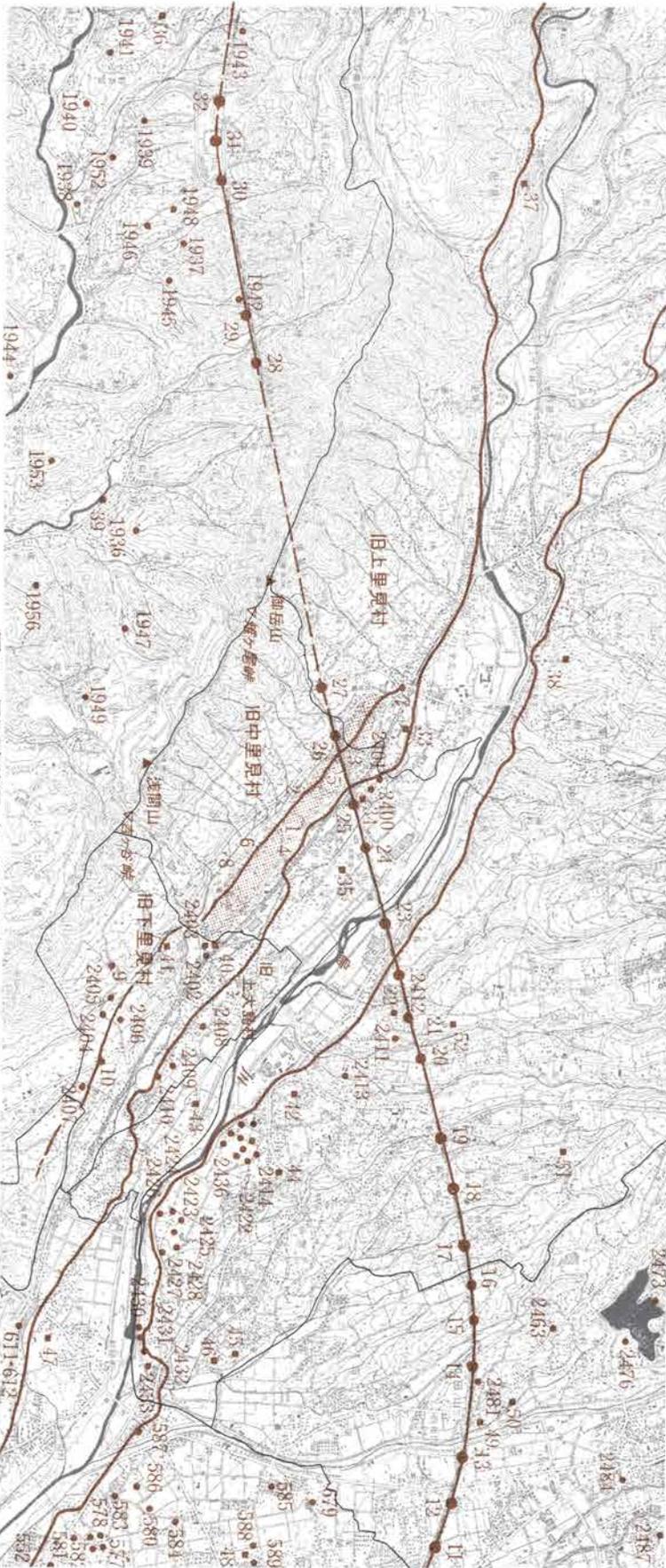


図3 周辺遺跡図 (1 : 50,000)

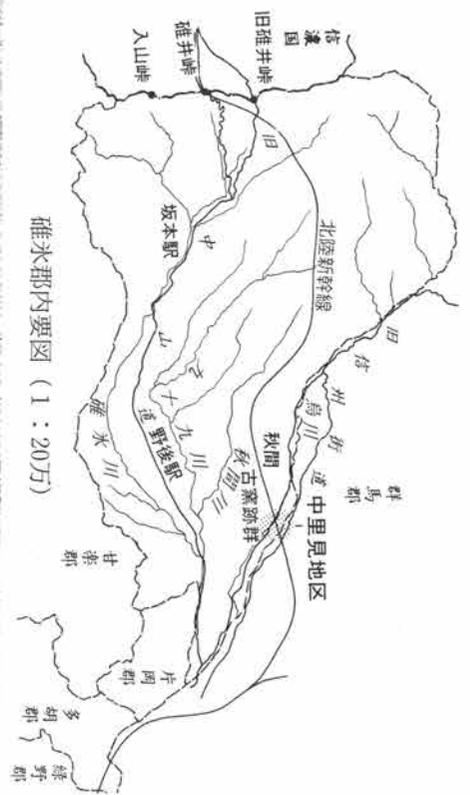


表2 遺跡名称一覧表(2)

	遺跡名称	出典	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	摘要
587	屋敷前遺跡	群馬県遺跡台帳				●						以下『群馬県遺跡台帳』番号
588	上野前遺跡	〃				●						
589	大明神遺跡	〃				●						
611	剣崎遺跡	〃			●							
612	西長瀬古墳	〃				●						
679	井野屋敷遺跡	〃								●		
1936	万福原古墳	〃				●						
1938	旧秋間村15号墳	〃				●						
1939	旧秋間村5号墳	〃				●						
1940	磯貝塚古墳	〃				●						
1941	二軒茶屋古墳	〃				●						
1942	旧秋間村7号墳	〃				●						
1943	(滝の入遺跡)	〃				●						
1944	(中秋間遺跡)	〃				●						
1945	苜蓿遺跡	〃						●				
1946	馬舟さま	〃								●?	●?	
1947	八重巻窯跡	〃					●	●				
1948	(古墳)	〃				●						
1949	(墳墓)	〃								●?	●?	
1952	内出城跡	〃								●		
1653	礼応寺城跡	〃								●		
1956	辻城跡	〃								●		
2400・1	専福寺古墳・塚崎古墳	〃				●						
2402	諏訪山古墳	〃				●						
2403	古城	〃				●						
2404	南原古墳1号	〃				●						
2405	南原古墳2号	〃				●						
2406	南原古墳3号	〃				●						
2407	下原古墳	〃				●						
2408	(北村遺跡)	〃				●						
2409	天神道上古墳	〃				●						
2410	天満宮古墳	〃				●						
2411	御嶽塚古墳1号	〃				●						
2412	御嶽塚古墳2号	〃				●						
2413	伊勢殿山古墳	〃				●						
2414	塚中古墳1号	〃				●						
2415	塚中古墳2号	〃				●						
2416	塚中古墳3号	〃				●						
2417	塚中古墳4号	〃				●						
2418	塚中古墳5号	〃				●						
2419	塚中古墳6号	〃				●						
2420	塚中古墳7号	〃				●						
2421	塚中古墳8号	〃				●						
2422	塚中古墳53号	〃				●						
2423	的場古墳	〃				●						
2424	七曲古墳1号	〃				●						
2425	七曲古墳2号	〃				●						
2426	七曲古墳3号	〃				●						
2427	七曲古墳4号	〃				●						
2428	大塚古墳	〃				●						
2429	しどめ塚古墳	〃				●						
2430	天皇塚古墳	〃				●						
2431	稲荷森古墳1号	〃				●						
2432	稲荷森古墳2号	〃				●						
2433	稲荷森古墳3号	〃				●						
2436	塚中古墳9号	〃				●						
2463	(竹之内遺跡)	〃		●								
2473	(中善地遺跡)	〃		●								
2476	(十二沢遺跡)	〃			●							
2481	(後和田遺跡)	〃				●						
2484	四ッ谷古墳	〃				●						
2487	行人塚古墳	〃				●						

※川原嘉久治1 延喜式内社上野国榛名神社遺跡をめぐって 一 巖殿寺の故地を求めて」『研究紀要8』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 平成2年
 ※川原嘉久治2 「西上野における古瓦散布地の様相」『研究紀要10』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 平成4年

第2章 遺跡位置

里見廃寺遺跡はこの原往還の傍ら、当遺跡の東南200mに周知の瓦散布地が位置する。これまでに、多数の珠点中房単弁四葉文鏡瓦(秋間産)他・墨書「佛」等が川原喜久治により採集され紹介されている(文献6)。そして、瓦の濃密な散布部分には、径60cm程の礎石と考えられる扁平な礫が出土しており、瓦葺建物の存在は確実視される。鏡瓦と共に採集されている女瓦は、中里見原遺跡で出土している女瓦と同種の瓦で、一枚作りの(凹面模骨痕が認められる)「T字状縄叩き」(縄は単軸絡条体)である。鏡瓦の類似意匠と共に、榛名山麓に広域に分布が認められる。その中核となる寺院が放光寺跡(山王廃寺)である。所謂「山王一秋間系寺院」に属すると考えられる寺院跡である。詳細に就いては未だ明らかではない。

原地区では、かつて須恵器窯の発見が『考古学年報』(1954)で山崎義男氏により発表されている。「里見古窯跡群」の設定(文献7)の根拠になった出典資料である。

川原喜久治氏は文献6の中で山崎氏の報文から大凡の地点を割り出されている。この地点が中里見原遺跡の調査区内に該当しているが、地番からの割り出しからのためか、調査では未確認であった。しかし、地番からは、隣接地であることは確実であるが、須恵器窯の存在を思わせる状況はなく、『里見村誌』に紹介されている写真等からは、住居跡の竈であろうことが判断される。

秋間丘陵を越える峠は、吉ヶ谷峠・雉が尾峠の・風戸峠の3箇所である。このうち雉が尾峠の里見側の麓に当る上里見井ノ下遺跡周辺では、製鉄関連の中里見井ノ遺跡(No.8)・堂尾根遺跡(No.9)等が知られている。上里見井ノ下遺跡^{註1}では7基炭窯は発見されているものの、調査区内では、製鉄遺構の発見が無かったことから、周辺部での鉄生産に向けての生産であったことが推定される。

一方、井ノ下地区では、縄文時代の遺物の出土も知られている。文献1には、早期後半の石鏃をはじめ小形の石器が紹介されている。秋間丘陵の豊かな食資源を求めての結果と考えられる。

秋間丘陵を越えると、東国最大級の秋間古窯跡が位置している。古代碓氷郡鮑馬郷に比定される地域である。

他方、烏川対岸には、本郷的場遺跡・同古墳群がやや下流域ながらも、盤居の痕跡を留め、県内では最も古式な単弁四葉文の鏡瓦が出土している。また、同一尾根上の高浜広神遺跡では、多数の号掘立柱建物跡を伴う平安時代の住居跡群(集落)が発見されている。両遺跡には時間差があるが、地域の拠点としての意義付けは可能であろう。烏川を隔てているが、里見地区との係りが重要視される。

碓氷郡内でも秋間丘陵により隔絶されるが如く突出した位置に当る当該地域は、南東側で片岡郡、烏川を隔て群馬郡と接する地勢関係にあり、これらの3郡を結ぶ要衝の地としての意義が前述した、里見氏と新田氏との姻戚関係に象徴されたのではないかと考えられる。今後の諸調査により、次第に古代里見地区の姿が浮かび上がることを切望したい。

註及び引用参考文献

註1. 出土した木炭の内、無作為に7点を摘出し、熱量検査を実施した(検査は、株式会社環境技研に委託し、「JIS M 8814・石炭類の発熱量測定法」により測定されている)。検査結果は、A: 4760・B: 4260・C: 4350・D: 4320・E: 4230・F: 4990・G: 4110(cal/g乾量)であった。

1. 『里見村誌』里見村誌編纂委員会 昭和35年(1960)
2. 『上野国郡村誌10 碓氷郡』群馬県文化事業振興会 昭和59年(1984)
3. 『碓氷郡誌』群馬県碓氷郡役所 大正12年(1937)
4. 『群馬県安中市北部の新第三系』秋間団体研究グループ『地球科学』25巻5号 昭和46年(1971)
5. 『新田氏支流 里見氏 一榛名山町里見氏の系譜と旧跡』里見義成 平成元年(1988)
6. 川原喜久治 「西上野における古瓦散布地の様相」『研究紀要10』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 平成4年(1992)
7. 相京建史「II 群馬県内の古窯跡群の概観」『天台瓦窯跡遺跡』中之条町教育委員会 昭和57年(1982)

第3章 調査方法と整理方法

第1節 発掘調査

第1項 調査杭とグリッド

グリッド

今回の調査で使用したグリッドは、下記の法則に従い用いた。

平成2年、北陸新幹線建設工事が具体化し、当団による発掘調査が本格的に開始されるに至った。この北陸新幹線の走行路線域には2市2町にまたがり、埋蔵文化財の発掘調査が実施された。しかし北陸新幹線は、高崎駅を起点に北走後西走する経路を採っている。また、台地稜線を縦走する行政界等の存在により、統一した仕様によるグリッドの設定が急務となった。さらに、長距離間・2市2町にまたがるという状況から、これらの悪条件を踏破するグリッド仕様が要求された。そして、仕様の完成により具体的な形として、一事業を団として初めて、統一されたグリッドにより調査が実施された。

10kmグリッド・特大グリッド・「地域」

国土座標第IX系の原点を起点にして、10km単位の方眼により県下を網羅し、(県内は92の「地域」の設定が出来る)特大なグリッドを設定されている。

この10kmグリッドの構想は、北陸新幹線の大区画(1kmグリッド)の設定の背景として作成されたが、これ自体今迄公表されていなかった。10kmグリッドの設定に当っては国土地理院発行1:20万・1:2.5万群馬県該当部を編集し、地上距離と地図上の距離を補正して図上で設定してある。

1kmグリッド・「地区」・大グリッド・大区画

上述した10km方眼の「地域」中を、1km単位の方眼で1~100の「地区」を設定し、大区画=大グリッドの設定を行った。この大グリッドの原点は、10kmグリッドを更に十等分してあるので、座標値はkm単位の完数同士の交点に当たる。

100mグリッド・「区」・中グリッド・中区画

上述1kmグリッドを更に十等分したグリッドが当

該である。則ち、100m単位の方眼で1~100の「区」を設定し、中区画=中グリッドの設定を行った。

この中グリッドの原点は、大グリッド同様に座標値では〇〇〇m・△〇〇mの交点に当たる。

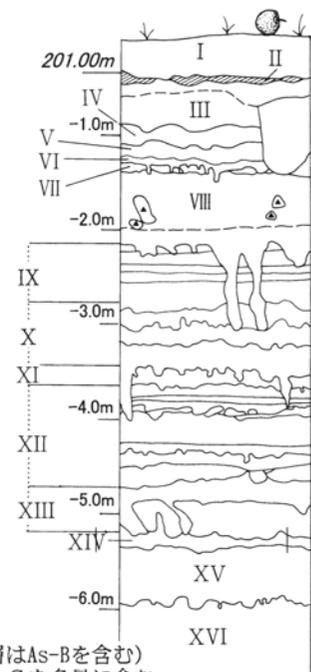
5mグリッド・小区画

100mグリッドを更に20等分したのが最小単位のグリッドである。則ち、5mグリッドで1から200のグリッドの設定を行った。名称は交点からY軸に20単位、X軸に20単位とし、原点から西に向かいA~T、北側に1~20の名称を付し、「某区-A-1から某区-T-20」で表した。

第2項 基本土層

中里見根岸・原遺跡・上里見井ノ下遺跡の基本土層の層状は下図の

通りであるが、遺跡により層厚は異なるものの、基本的な層序には地山以外に認められなかった。また中川遺跡は、各地区での土層が異なるため、中川遺跡第1図に示した。



- I層：表土層
- II層：As-B層
- III層：黒褐色土層(上層はAs-Bを含む)
粗粒~微粒As-Cを多量に含む。
本層の上面~層中が第1次遺構確認面
- IV層：黒色土層(通称=「C黒」)
粗粒~微粒As-Cを多量に含む。
- V層：暗褐色土層
細粒状軽石(As-C)少量含む。
- VI層：茶褐色土層
微粒の軽石を若干含む。
- VII層：褐色土層=ソフトローム層
- VIII層：黄褐色土層=ハードローム層
本層の上面が第2次遺構確認面
- IX層群：As-YP層群
- X層：As-OK2層群
- XI層：As-SP含有層
- XII層：As-BP層群
- XIII層：As-MP層
- XIV層：AT含有層
- XV層：暗色帯
- XVI層：白川火砕流

図4 基本土層図

第3章 調査方法と整理方法

第3項 遺構図化

発見された遺構は、1:40・1:20を基本として、1:10・1:50・1:60・1:100のそれぞれ縮尺により、使用目的に応じて遺構の図化を行った。

1:40・1:20の平面作図は当該調査での基幹である。1:40の作図は、当団仕様のA2版作図化用紙の有効図化範囲に、200㎡=8ヶグリッド分を1単位として割り付けた。

又、1:20の作図も、当団仕様のA2版作図化用紙の有効図化範囲に、50㎡=2ヶグリッド分を1単位として割り付けた。

但し、これら割付平面図には大形の個別遺構（住居跡・掘立柱建物跡等）は輪郭のみを記録し、それぞれの遺構平面図により記録を計った。

第4項 遺構写真記録

遺構写真記録は、調査班の編成により使用機材が異なった。

中川遺跡は、ブrouニー判6×7サイズでiso400白黒ネガを撮影し、35ミリ判フィルムで白黒ネガ・カラーポジを撮影した。

根岸・原・井ノ下の3遺跡は、ブrouニー判6×9のフィルムで、白黒ネガ・カラーポジの2種、35ミリ判フィルムで白黒ネガ・カラーポジ・カラーネガの3種を用いたが、専らにブrouニー判の2種を用い、35ミリ判はサブとして撮影した。又、必要に応じてブrouニー判6×9のフィルムのカラーネガでの撮影も実施した。このほか、委託業務にした、航空写真撮影は、4×5・ブrouニー判6×6フィルムにより、白黒ネガ・カラーポジを使用している。フィルムの粒子はiso100以下の粒子状態のフィルムを使用した。

また、35mmカラーネガは調査の進行状況・遺構の調査状況等、メモ的に用いた。

第2節 整理方法

第1項 遺物台帳

発掘調査現場に於ける遺物の収納に際する標高値は各図中に記録した。この際に土器類・瓦類・石器

類・礫類等は、種別毎での番号付けは行わず、通し番号を夫々に付した。これらの遺物の註記は、番号収納した遺物とメモ写真と図面との照合を行い、この三者で確認が得られた遺物のみを註記を行った。

この番号収納した遺物は、収納時の番号・標高値・遺存状態・接合関係等を記録した「遺物元台帳」を作成した。また、この台帳には、実測対象になった遺物（1個体扱い）に限り「整理通番」を付した。

そして、遺物整理事業用に「遺物通番台帳」を作成し、整理事業に供じた。また、この「遺物通番」は青色のエナメル塗料で各個体に註記した。

掲載になった遺物に就いては、整理事業終了に向け、当団の「資料管理システム」に応じた台帳を作成した。この「遺物管理台帳」の登録番号を今回の当該報告では資料番号として各遺物に付した（凡例2参照）。

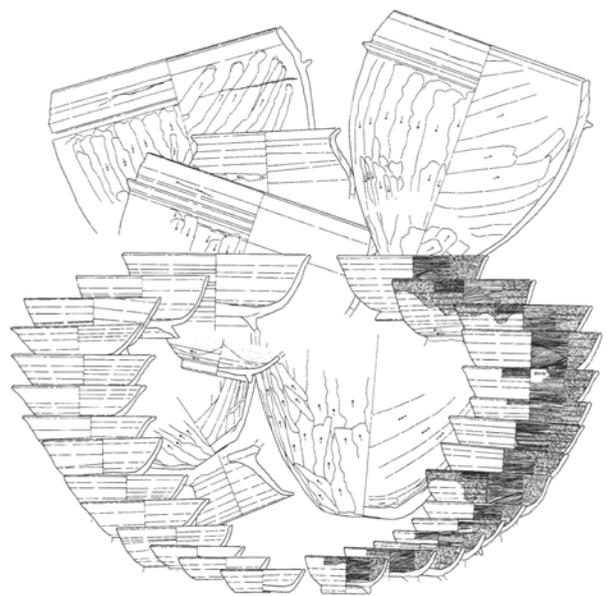
第2項 遺物実測

当該報告で掲載した遺物はそれぞれ実測図を作成した。実測に当っては、細部に亘る観察と、表現仕様により実施し、図化の統一を図った。

図化当っては凡例にも掲げたが、中心線には三者を使い分けた（土器類）。直接実測可能な個体は「実線」を用い、回転させて器形を復元させた個体には「一点鎖線」を用い、破片を合成させ図上で復元し図化した場合には「破線」を用いた。

この実測対象に供じた選定基準は、出土状況が遺構に伴うと判断された状況（床面直上・床面直上層等）又は遺物の残存状態に主眼を置き、また、当該地区は秋間古窯跡群に至近の位置関係であることから、報告例の少ない類例・特徴的な個体を選定した。併せて、胎土観察で生産地が推定された個体に就いては、観察表中に表記した。

第4章 中里見中川遺跡



中里見中川第8号住居跡出土

第4章 中里見中川遺跡

第1節 調査の概要

第1項 試掘調査

中里見中川遺跡の試掘調査は、本調査に先立ち平成4年1月6日より着手され、1週間にわたり実施された。この試掘調査の目的は、遺跡の内容確認と範囲の確定に主眼が置かれ、遺跡・遺構の状況を確認する目的で実施されたものである。

試掘調査は、烏川寄りの東端側から、本調査段階で呼称される1区までの路線区間で実施された。

試掘調査は、人力と重機を併用したトレンチ調査であった。トレンチは、路線に沿い東西方向に平行する3本設定された。この試掘調査の結果、本調査時に呼称される1区より東側では、遺構の存在が認められず、遺跡認定には至らなかった。そして、本調査時の2区では、ほぼ全面に畦畔を含む古墳時代の水田跡（As-C 下水田跡）等を確認した。

第2項 本調査

本遺跡の調査区は、道路や河川などにより便宜上、烏川よりから1・2・3・4・5・7・6区と呼称している。主として字中川地区が中心であるが、付図1・2に示したとおり小字界は、4区と5区の間であり、5区以西は次章で述べる中里見根岸遺跡と同様小字根岸である。本来の遺跡名称の在り方からすれば、中里見根岸遺跡の一部分とすべきである。

しかし、整理段階での必要以上の遺跡名称の変更は、余計な混乱を招くことが考えられたため、本報文では、調査段階の遺跡名称を優先し、5区以西についても中里見中川遺跡として扱う決定がされた。

当該遺跡の本調査は、平成4年4月1日から1カ年にわたり実施した。調査は、工事工程・用地等の事情から、2区→4区→1区→6区→5区→3区→7区の順に着手し、調査終了箇所から順次埋め戻しを行った。

調査担当は、1・2・4・5・6区を松田・関根・小林が担当し、3・7区を松井・木津・麻生・橋本

が担当した。（例言参照）

第2節 各区の概要

第1項 1区の概要

本遺跡の東端、最も烏川寄りの調査区である。調査面は、近世以降と考えられる畠跡一面である。畠の耕作土より下位の土層については、調査記録が無く、不明である。

第2項 2区の概要

2区の調査面は、「C下溝」と呼称する溝状遺構を境に東側と西側に分かれ、さらに西側は拡張調査部分（以下西側拡張区と呼称）とに分かれている。調査時の調査面は、東側が4面、西側が3面、西側拡張区2面である。

整理所見では、遺構面として確認できた調査面は東側で4面まで、西側では3面である。また、東側と西側および西側拡張区の土層断面の表記がまちまちで対応関係を復元することができなかった。このため、それぞれ別の面として扱い、記述も分けて後述する。

東側調査面では、中世と考えられる土坑群を中心とする遺構面、古墳時代水田跡1面、弥生時代以前の礫群の遺構面、時期不明の水田跡1面など4面が調査された。

また、西側調査面では、古墳時代以前と考えられる遺構面を3面調査しているが、これらの遺構面がどのような根拠の元に調査されたか不明である。

さらに西側拡張区では、古墳時代の水田跡1面、弥生時代以前の礫群等が調査されている。

特筆すべき遺物としては、西側調査面で出土した鍬の柄と判断される木製品が上げられる。この鍬の柄は湧水対策の作業中に出土している。

第3項 3区の概要

3区では、As-Bの純粋な堆積が見られ、この直下から水田跡が確認されている。同様にAs-B下の水田跡が確認されている5区と異なり、水田跡の下層から集落は確認されていない。しかし、平安時代の瓦片を含む積石遺構が完掘は出来ないまでも調査さ

第4章 中里見中川遺跡

れている。烏川低位段丘にあたる部分での出土であることから、集落とは別次元の遺構と考えられる。

第4項 4区の概要

4区は、中近世とみられる溝状遺構、As-B下の自然流路と考えられる溝群、縄文時代の土坑群、その下位面で倒木痕の発見された4面の調査である。

遺跡内におけるAs-Bの堆積は、本調査区が最も厚く、また堆積時に自然流路とみられる溝群が存在していたことなどを合わせ見て、谷地形になっていたと推定される。この溝群からは、加工痕が認められる丸太材、木皿が発見されていることから、当時の生活に関わった小河川と考えられる。

第5項 5区の概要

5区では、平安時代以降の調査面、平安時代の水田跡(As-B下)面、平安時代の溝状遺構、製鉄遺構、住居跡などから成る調査面、As-C下水田跡面、As-C下水田以前の調査面の計5面が発見されている。

As-B下水田の耕作土下では、住居跡5軒、製鉄炉跡2基等が調査されている。

なお、この住居跡の遺構番号であるが、先行調査した6区と通番であるため、当区では、第4号住居跡からの報告となっている。

特筆すべきは、中里見遺跡群全体で組織的な生産が成されていたと考えられる製鉄関連の遺構が発見されたことである。

第6項 6区の概要

当区では、As-Bの純層は確認されなかった。奈良平安時代の遺構は、As-Bを多量に含む・III層上面で確認されている。

なお、当区内の遺構番号であるが、住居跡については、5区と通番を付されており、当区第1・2号住居跡が奈良平安時代のもの、当区第3号住居跡が縄文時代のもの、以下5区第6～8号住居跡となっている。土坑および溝状遺構については、当区独自のものである。

また、縄文時代晩期の遺物包含層等が調査されている。包含層の遺物は、ほとんどが同一個体とみられる細片化した土器片で、隣接する根岸遺跡出土の

遺物とも接合している。また、6区では縄文時代以前と見られる立木の跡が確認されている。

第7項 7区の概要

7区では、平安時代以降と考えられる溝状遺構、土坑、縄文時代晩期の遺物包含層が調査されている。縄文時代晩期の包含層については、中里見根岸遺跡でも調査されており、双方は同一の土層からの出土と判断される。

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

第1項 1区の近世近代の遺構・遺物

畠跡(第2・7図)

発見された「サク」は、25条で約400m²である。調査区内の西側に集中して発見されていることから、東側については後世の攪乱等で失われている可能性もある。調査日誌等の資料から1区内には、「昭和時代のゴミ層」が存在していたようでこれによる攪乱かもしれない。

サクの走行方向は、ほぼ北-15度-西を示す。長さは一定ではないが、ほとんどのサクが調査区外の南北方向に延びていくことから、10m以上のものと推定される。このサクより新しいとみられる掘り込み(第5・6号溝)が条直行する走行方向で見られる。また、調査区の西側では、サクに平行するかたちの溝状遺構(1・2号溝)が2条発見された。この溝状遺構は畠を区画しているとも考えられる。調査区東端の落ち込みは、前述のとおり、昭和時代のゴミ捨て場の可能性が高い。

サクの年代についてであるが、断面図からは、このサクが、洪水層により埋没し、以後復旧されていないこと。昭和時代のゴミ捨て場の層が、この洪水層より新しいことが読みとれる。しかし、断面図の位置が不明瞭である点、ゴミ捨て場を昭和と判断した根拠が記録として残されていないことなどから、特定することは難しい。

ゴミ層が昭和と判断できるのであれば、この畠跡は、昭和時代以降のものと考えられる。なお、1区

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

の出土遺物は、19世紀末～20世紀所産の泥面子戎（10-00001）・大黒（10-00002）が出土しているが、出土地点がはっきりせず、遺構に伴う時期のものは、不明である。

第2項 2区の中近世の遺構・遺物

集石土坑群（第5・9・10図）

当区の当該時期の土坑は、45基である。

石を多数含む土坑が主体を占めているためか、プランの確認が充分行われず調査された。また、重複して遺構番号が付されているなどの混乱もおきている。このため、本報告書では、止むを得ず整理番号を付すこととした。整理番号は、原則として調査時の番号を優先したが、重複している遺構については、新番号を与えてある。対応関係については、遺構一覧表（中川2区土坑一覧表）を参照されたい。なお、遺物については、混乱を避けるため旧番号で掲載した。

前述のとおり、この土坑群は表面を直径20cm程度の礫に覆われており、プランの確認ができないまま、調査されている。整理時に可能な限り復元を試み、第5図のように破線で形状を示した。しかし、集石土坑相互の新旧関係や正確なプランは復元できなかった。このため、集石土坑の性格については不明な点も多い。以下、整理時に得られた所見を元に土坑の性格について整理してみたい。まず、土坑を覆っていた礫についてであるが、土坑状に掘りくぼめられた場所に集中して発見されている。

しかし、第3号集石土坑のように明らかに人為的に石が並べられた痕跡を留めるものもある。第3号集石土坑は、底面に平らな面を持つ石6枚によって構築され、上部をやや小さめな礫によって覆われている。内部が空洞になっていたと推定されることから、何かを埋納するための施設とも考えられる。また、第1号集石土坑から寛永通寶（40-0004）、第3号集石土坑から政和通寶（40-0003）と聖宋元寶（40-0003）が出土しており、中世から近世頃の所産と推定され、墓坑としての性格と考えられる。

第1・2号不明遺構（第4・11・12図）

2区東端に位置する遺構である。土坑状の掘り込みを持つ遺構である。南端部に木杭が5本ならび小礫が出土している。規模は大きいものの形状もさることながら時期・性格もはっきりしない遺構である。

東溝（第5・8図）

東溝は、集石土坑群・不明遺構と重複する状態で調査区内の北側から弧線を描く状態で発見されている。集石土坑群に重複する部分では、暗渠状態の作り（溝状の石組み）になっている（写真図版）。図面は第5図内に示した以外は無く、調査区壁面には薬研堀の大きな落ち込みが認められたが詳細は不明である。出土遺物からは近世以降の時期が考えられるが、出土位置に就いても明らかではない。

第3項 2区の前古墳時代の遺構・遺物

As-C 下水田跡（第6・21図）

当水田跡は、As-C 下で発見された水田跡である。調査された水田跡は10面あるが、中央の3面を除いては一面の全体像を窺知し得ない。

畦は概ね8cm程で比較的しっかりしている。水口は認められないことから、掛け流しの水田であったことが考えられる。

調査区中央部を南北走する溝状遺構（名称未設定）を境に東側は、純層のAs-C 下水田、西側は二次堆積のAs-C 下水田とされるが、調査区北壁土層断面には、二次堆積層と純層の違いが記載されておらず、詳細は不明である。しかし、溝状遺構を境に畦畔の走行が変化していることは事実であり、この溝状遺構が当水田跡の重要な区画であることは確実性が高いであろう。

当水田跡は、榛名町地区では初めてのAs-C 下水田の発見であり、その意義は大きい。

第4項 2区の前弥生時代の遺構・遺物

As-C 1～3面礫群（第13・22図）

As-C 下水田跡の耕作土及び3層下から発見された礫群である。発掘調査時は、2面礫群および3面礫群と呼称し、2層にわけて調査を進めた。しかし、土層断面を検討した結果、分層は層位の変化による

第4章 中里見中川遺跡

ものではなく、任意に礫を除去した状況を示すものであるとの結論を得、1面として作図した。ただし、遺物については、混乱を避けるため発掘調査時の取り上げ名称で掲載した。遺構面の名称についても1～3面礫群として報告した。

本礫群は、土層断面に均一に礫が混入することから、人為的に積み上げられた礫群ではなく、旧河道等の洪水により形成された層と思われる。しかし、当遺構面では、石器および土器が多数出土していることから、何らかの人の活動があったことは間違いない。また、石器は、石材が同じものが多い。また、欠損後、刃を付けなおして再利用したものも見つかり、当時の何らかの活動を示している。

出土している土器様相は、地文縄文に5本1単位の平行櫛描文間に山形状の波状文を施文する10-0013、細く乱れ気味の条痕文を施文する10-0014～0016は弥生中期前半に比定される。また、同時期の土器が原遺跡第1号墳直下及び周辺に集中して出土しており、再葬墓と考えられる第999号土坑からは3個体の壺形土器と小形の鉢形土器1個体が出土している。

3面水田跡 (第14・23図)

3面は、水田跡と考えられる面です。人と見られる足跡が多数発見された。上記礫群の下層より発見されている。出土遺物は上位面で遺物が殆ど出土しなかった部分から出土している。

4面 (第15・28図)

4面は、流木とみられる木片が出土している面である。断面を検討したが、この面を文化層としている根拠は乏しく、どのような面として捉え、調査されたかは不明である。

2区西2面 (第16図)

As-C下水田面の直下と見られる面である。形状のはっきりとしない浅い溝状遺構が3条、調査区の中央部分で発見されている。

溝状遺構は、中央・東溝がほぼ平行しているが、中央溝と西溝は直行する状態である。この状態からは人為か自然かは言及しきれない。調査段階の遺構

認定が判然としないが、調査所見に応じた。

2区2面下 (西3面) (第17・24・25図)

調査区の中央部分に浅いが大規模な溝状遺構が発見された。この溝状遺構から発見された遺物は、東2～3面礫群出土の石器に類似するものが多い。

2区2面下最下層 (西4面) (第18・26図)

西3面下層の溝状遺構2条が発見された。西2面下(4面の意味かは不明)第1号溝状遺構からは、遺物が数点まとまって出土している。

2区西1面 (拡張区) (第19図)

調査区西端の部分で前述のように、西側の調査区と対応できない。すなわち、西側調査区には西1面と呼称する調査面が存在しないのである。あるいは、As-C下水田を指すとも考えられるが、As-C下水田には、このような足跡はなく、畦畔の方向も一致しない。むしろ東側調査区の3面に相当するのかもしれない。更に、当該遺構面は標高測量がされていないため、面同士の整合性を物理的にも確認できなかった。また、出土遺物は無かった。

2区西第2面礫群 (拡張区) (第20図)

2区西1面同様、調査区西端の拡張調査部分である。出土状況や遺物から東側調査区の2～3面礫群に相当すると見られる。出土遺物は無かった。

第5項 3区の奈良平安時代の遺構・遺物

As-B下水田跡 (第30図)

As-Bにより覆われた水田跡が発見されている。火山灰および軽石が動かされず堆積していることから、As-B降下後は復旧されなかったようである。3区は、調査面積が約200㎡と非常に狭いため、畔のほんの一部が発見できたに過ぎない。As-B埋没水田は、一般に大きな区画を持つ。しかし、3区の水田の畦畔は、南から西へ大きくカーブし、そこからでている畦畔も直行していない。

これは、地形に沿って構築されたためであろう。

地形は南に向かって緩やかに傾斜しており、中央部分で発見された水口を通して南側の水田へと導水されたものと推定される。後述する5区のAs-B下水田とほぼ同規模の水田と推定される。

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

畔に沿って人と見られる足跡が3つ確認されている。

積石遺構 (第31～33図)

As-B 下水田の耕作土下層から、積石遺構が発見された。調査区西よりの北壁に沿って発見されたものでなお調査区外に続くものと見られる。プランは、ほぼ円形になるのではないかと推定される。As-B 下水田の耕作土下から発見されたこと、遺物に平安時代の瓦(里見廃寺所用か)を含むことなどから、平安時代の所産と考えられる。

発掘調査の結果、積石遺構は人頭大の河原石を用い、円形の囲みを3段に渡って築き、内部を空洞にした上でさらに石を積み上げていることがわかった。発見時にはこの上に載せていた石が崩れ落ちた状況で確認されたが、内部は、構築当初から空洞ではなく、築造時には有機質の容器を納めるための塚であった可能性もある。

第1号溝状遺構 (第34・35図)

調査区西端で発見された溝状遺構である。幅2.8～3.4m、長さは調査区内で6m、深さ30cmを測り、ほぼ南北に流れている。調査区南および北方向に続いており、規模は明らかでない。

立ち上がりが断面でもはっきりしないこと、覆土が均一な粘質土で構成されていることなどから自然の流水痕、若しくは堆積状況に異常な状況を想定せざるを得ない。出土遺物は、発見されていないため明確な年代を示す資料はない。

第1号土坑 (第34図)

本土坑は、3区唯一の土坑で、第1号溝状遺構と同じ文化面で発見された遺構である。長径75cm、短径65cmをはかる。主軸は、北-95度-西である。第1号溝状遺構を壊して構築されていることから、両者の新旧関係は、本土坑が新しいと考えられる。出土遺物は無かった。

第6項 4区の中近世の遺構・遺物

第1号溝状遺構 (第37図上段・第38～40図)

当溝状遺構は、調査区の西端に位置し、南側北側ともに調査区外にかかり全容は不明である。発掘調

査時は、As-B 下第1号溝状遺構と呼称されているが、後述のようにAs-Bを切って構築されており、後述の第2～6号溝状遺構の確認面とは、違うと考えられる。

北より東壁に5本から成る杭列を有する。杭列は調査区外へと続く可能性もある。残存長9.5m、最大幅1.9m、深度50cmを測る。走行方向は、北-30度-西である。

覆土は、As-Bを主体とするIII層土で、IV層土ではない。さらに北壁の断面図を検討すると、As-Bを切って溝が構築されている。従って、後述する2・3・4・5・6号溝状遺構より新しい時期のものと考えられる。

出土遺物は、第38～40図であるが、「1・2号溝出土」と注記のあるものについては、いずれの遺構に属すか不明である。このため、第2号溝状遺構より新しい当遺構に属するものとして扱った。

第7項 4区の奈良平安時代の遺構・遺物

As-B下の溝状遺構 (第36図)

以下に述べる第2～6号溝状遺構は、As-B降下面より発見された遺構である。特に第3～6号溝状遺構については、一連のものと考えられるが、調査区内ではその全容を明らかにできず、直接のつながりを得られなかったため、それぞれ個別の遺構番号を付すことで対応した。よって、関連が明らかでない第2号溝状遺構と第3～6号溝状遺構に分けて所見を述べることとする。

第2号溝状遺構 (第36・41図)

当溝状遺構は、調査区の西端に位置する。前述、第1号溝状遺構と重複するため、構築時の形状は不明である。特に調査区北側では、ほとんどを第1号溝状遺構に削りとられ、不明な状態であったとみられる。第1号溝状遺構との新旧関係は、第1号溝状遺構が当溝状遺構より新しい。出土遺物では、青磁鎚手蓮弁文碗と10世紀後半の土器類が出土しており、前者の年代からは14世紀代が想定される。

遺構実測図が詳細不明なため、残存長、最大幅、深度、走行方向ともに詳細は不明である。

第3～第6号溝状遺構 (第37・42～44図)

当溝状遺構群は、As-B直下から発見された。当溝状遺構群は、調査区北東方向に向かって傾斜する谷状の自然地形と思われるが、木製品・須恵器などの遺物が多く発見されている。このため、自然地形を何らかの目的で利用していた遺構ではないかと考えられる。

特に第3号溝状遺構から発見された木皿や加工して見られる丸太材など木製品が、多いことが注目される。また、当遺構からは、調査時にもかなりの湧水がでていた。このようなことから加工するまでの木材を貯蔵していた施設という可能性もある。

当遺構群のAs-Bの堆積は厚く、降下後は復旧されていないと見られる。

当遺構群の出土遺物では、木製品が注目される。時期の判明する遺物からは10世紀後半頃の年代が当該遺構に与えられる。

第8項 4区の縄文時代以前の遺構・遺物

西テラス (第45図)

西テラスと通称される遺構面は、調査区西端に位置する立木跡と土坑3基から成る。

立木痕 (第45図)

1本の立木が根を張るようなかたちで発見されている。樹種同定の結果、トネリコ属であることがわかっている(分析編樹種同定参照)。また、小礫を多く含む層から発見されており、烏川あるいはその支流による洪水で埋まった立木の可能性もある。

土坑群 (第46図)

立木痕と同じ面から発見されている3基の土坑である。覆土は、第1・2号とも同様に第2号土坑からは、縄文時代晩期頃と思われる深鉢の底部片(10-00043)が出土している。また、これら2基の土坑から出土した土を洗滌したところ、オニグルミなどの種子が多数発見された(第9章第3節第1項参照)。

第9項 5区の中近世の遺構・遺物

土坑群 (第56図)

調査区東端の4基の土坑群である。何らかの状況変更により、区全体とは別に拡張された部分で、5区全体は、統一された遺構面で調査されてはいない。

この4基の土坑群のうち、第1号土坑では、牛の歯が出土しており、祭祀との関連も注意される。遺構の覆土は、いずれもAs-Bを多く含む粘質土であることから、As-B降下以降の所産は確実である。

第10項 5区の奈良平安時代の遺構・遺物

As-B下水田跡 (第48図)

As-Bで埋没した水田跡である。3区で発見された水田跡と同時期と考えられる。As-Bは、純層と見られ地形に沿っての降下だったためか、調査区西側ほど堆積が厚い。

また、区画も地形に制約されたためか、正方形状の小区画であったり、小区画が4枚分ほどの区画であったりと不特定である。畔も必ずしも直線に延びていくわけではないようで、この点でも3区と一致している。区画を整理することよりも、米の生産性を重視したためであろうか。

第1号溝状遺構 (第49～55図)

当溝状遺構は、調査区西端に位置し、北側、南側ともに路線外に延び、全容は不明である。北端及び中央部分でやや細い支流溝状遺構が合流している。走行方位は約北-140度-南、残存長12m上幅2～3m下幅0.7～1.2m残存深度0.5mである。

出土遺物は、土器類、炭化物、木片等の植物依存体、黒色の鉄滓、製鉄炉跡の壁材とみられる粘土塊など多種多様である。後述する第1・2号炉跡で出土した遺物と接合関係がみられることや同種の鉄滓が多く出土することから、炉から排出された鉄滓や壁材等の廃棄場所とも考えられる。

第4号住居跡 (第57～59図)

当住居跡は、調査区東よりに位置する。第6号住居跡に極めて近い位置にあるが、重複はしていない。遺構確認は、②層上面であり、第1号溝状遺構、他の住居跡および後述の第1・2号炉跡も同様である。

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

焚口では、一面に灰面を発見した。支脚は礫が残存し、掘り方では、円形の据え方を発見している。

遺物は、住居跡西辺及びカマド付近に集中して出土している。出土遺物には、内黒塊及び内黒坏と同一の須恵器坏、鉢・甕・羽釜が出土している。この傾向は、当遺跡から出土した住居跡の出土遺物に共通する。時期的には10世紀末頃と考えられる。

第5号住居跡（第60～62図）

当住居跡は、調査区中央南側に位置する。煙道の一部が調査区外に続いたため、カマドの一部が未発見である。焚口の掘り方で一面に炭化物を発見した。遺物は、カマド付近に集中して発見されているが、その他は散在している状況である。

出土遺物は、前述の4号住居跡と同様である。

第6号住居跡（第63図）

当住居跡は、調査区東側の南端に位置する。残存状況が悪く、僅かな掘り込みのみしか確認できなかった。住居跡内を調査用の排水路があり、水路より南側では、平面形態も定かではない。カマドは未発見であるが、東端で一面の炭化物層を発見しており、このあたりと想定できる。出土遺物全体量が少ないが、前述の4・5号住居跡と同様である。

第7号住居跡（第64図）

当住居跡は、調査区北西角に位置する。西壁及び北壁が調査区外に延びているため、平面形態は、推定である。また、残存状態が非常に悪く、床面は発見できなかった。遺物は、非常に少ない。支脚は発見されていないが、竈掘り方で円形の支脚据え方を発見した。焚口前面には炭化物が広がっていた。出土遺物で提示できた資料は1点である。やはり内黒塊である。

第8号住居跡（第65～70図）

当住居跡は、調査区北東角に位置する。調査時は、明確な立ち上がりを確認できなかったため、整理段階で写真等をもとに復元した。部分的に炭化物が層的広がりを見せている。

当住居跡は、遺物量が非常に多く、そのほとんどが完形に近い遺存状況である。また、杯・碗類が大

半を占めているが、内黒坏・塊と須恵器坏・塊はほぼ同数で揃っている。そして、黒色を呈する鉄滓塊が出土しており、精錬炉跡との関係も窺わせる。この鉄滓はこの住居跡群の中では当住居跡でしか出土していない。

また、西壁寄りに土坑が重複する。隅丸長方形状を呈し二重になった状態で確認されている。外郭側に炭化物が広がり、土坑の壁に沿って橙黄色の粘土を張り巡らせている。出土遺物が無いため判然としない状態である。性格としては土墳墓が推定されるが言及は出来ない。

製鉄遺構（精錬炉跡・小鍛冶）（第72～79図）

炉跡について、5基報告する。炉跡5基の確認面はいずれも住居跡群と同じ②層上面である。

なお、遺構番号については、調査時に炉跡でないことが明らかとなり、第3号炉跡および第4号炉跡が欠番とした。第3号炉跡については、範囲を示したと見られる図面が所在したが、グリットの記載もなく、写真等の資料も見あたらないため、欠番とした。遺物等の混乱を避けるため、遺構番号は調査時のものをそのまま使用することとした。

第1・2号炉跡（第73～79図）

本遺跡最大の炉跡である。第1・2号炉跡合わせ3回の操業が推定される。図は写真から多くを復元した。

第1・2号炉跡は、発見時一体のものとして調査されたが、調査の結果2基が重なり合い、相次いで使用された痕跡であることが判明した。操業は少なくとも、第2号炉跡は2回以上、第1号炉跡が1回以上の計3回以上にわたる、操業の痕跡が確認された。

操業の新しい順にみていくと、第1号炉跡が最終操業時の使用と見られる。この第1号炉跡は、発見面よりさらに数cm上面まで地業されていたと見られ、現存の部分は、炉底に近い部分のみと考えられる。第1号炉跡で発見された炭化物層は、炉跡の下部構造と見られる。

次の操業が、第2号炉跡の炉跡壁の痕跡を僅かに

第4章 中里見中川遺跡

残す部分である。(復元図 第74図)底面の羽口や壁材は、ほぼ現位置を留めていたと考えられ、炉跡体の大きさも推定できる。炉跡体の形状は、隅丸方形と推定できる。また、羽口(第75図10-00137)に残る被熱変化・鍍着した壁の一部の状態から、奥壁の左壁寄りから俯角状態を保ち、送風が左壁に当り、炉内部を時計回りの逆回転方向の渦巻き状に対流させる意図で炉内部に向い挿入していたことが判断される。このような対流を起こさせることにより、熱効率向上を考慮しての結果であろう。

さらに前の操業時として、第2号炉跡の第1号炉跡よりの部分を含む、部分が考えられる。この炉跡は、大きくしっかりと掘り方をもち、粘質土を貼ったり鉄滓などを敷き詰めたりすることにより下部構造を構築している。連結部と呼ばれる2つの炉跡を結ぶ部分は、この操業時に第1号炉跡に向かう出銃口と考えられる。

発見された炉跡材や鉄滓は、相当数にあるが、3回の操業分として捉えるには少な過ぎることから、最終時の一部と考えることに妥当性も見出せよう。

第5号炉跡(第72図)

第1・2号炉跡に近接して位置する。平面形態は、楕円形を二つ重ねた瓢箪形を呈する。瓢箪形の頭に当たる部分に鉄滓と見られるものがある。本炉跡については、この図以外に遺物も含め、発掘調査資料が所在しないため、詳細は不明である。

第6号炉跡(第72図)

本炉跡は、第1・2号炉跡に近接して位置する。平面形状は、長楕円形を2つ重ねたような形状である。第5号炉跡同様、小さい方の土坑で鉄滓が出土している。長楕円形の土坑は、馬蹄形状に粘土が張られている。これが、炉跡体と考えられる。炉跡体周辺にも、炭化物および焼土層が広がる。炉跡体は、ほとんどが失われ僅かに痕跡を残すのみであった。

第7号炉跡(第72図)

第6号炉跡同様の平面形態を有する。確認面で、焼土層が確認された。ほとんどが失われ痕跡を残すのみである。

第11項 5区 的古墳時代以前の遺構・遺物

As-C 下水田跡(第71図上段)

当水田跡は、As-C 下から確認された水田である。As-C の堆積は、調査区東側ほど堆積が厚い。西側では、調査時に純層の堆積と考えているが、二次堆積の可能性も考慮される。

発見された水田面は、畦畔が重なり合う状況で1時期を示したものとは思われない。また、水田面の間隔も一定ではなく、畔同士が直交あるいは平行する部分が少ない。

これは、発見された水田が As-C の堆積が一定でないことにより、攪乱を受けやすかったためか、地形に制約された水田あるためかは不明である。

As-C 下黒色土下の遺構(第71図下段)

As-C 下水田跡の耕作土下・④層上面で確認された溝状遺構を中心とする遺構面である。

なお、当区の遺構番号は面ごとに付されており、当遺構面でも新たに第1号溝状遺構から付されている。

第1号溝状遺構(第71図下段)

調査区西南端に位置する。調査区中央部の南壁で第2号溝状遺構に切られその後は不明である。残存長14m、最大幅0.35m、深度0.3mを測る。走行方向は約北-92度-南である。

第2号溝状遺構(第71図下段)

第1号溝状遺構を調査区中央部の南壁で切り、U字状に湾曲して、再び南壁方向へ進む溝状遺構である。第1号溝状遺構との新旧関係は、当溝状遺構が第1号溝状遺構より新しい。

第3号溝状遺構(第71図下段)

調査区中央部をほぼ南北走る溝状遺構である。残存長4.7m、最大幅0.55m、深度0.27mを測る。走行方向は約北-50度-西である。

第4号溝状遺構

当溝状遺構は、調査区東端に位置する。南側で東へ向かう落ち込みに合流するため、その後の形状は不明である。

倒木跡 (第71図下段)

調査区南東角に位置する。調査時は、「土塁」と呼称されているが、土層断面から倒木跡と推定される。しかし、確認面は明らかでないため、時期は不明である。

落ち込み (第71図下段)

東壁に向かって、地形の落ち込みが見られる。落ち込みには、多数の流木と見られる木片が出土した。自然流路の可能性もある。

第12項 6区の奈良平安の遺構・遺物

第1号溝状遺構 (第80図)

調査区中央部に位置する。浅いくぼみ状に落ち込んでいる。発掘調査時の記録には「As-Bの二次堆積とみられる層が堆積していた。」とあるが詳細な記録がないので不明である。

第1号住居跡 (第82・83図)

当住居跡は、調査区中央部やや西よりに位置する。床面には、ところどころ炭化物が層状に残存していた。掘り方は、あまり顕著でない。

出土遺物は小ぶりの坏、羽釜等であり、当遺跡の住居跡出土遺物の傾向を一にしている。時期も10世紀末頃に推定される。

第2号住居跡 (第84・85図)

当住居跡は、調査区東端に位置する。残存状態が悪く、平面形態を確認できたのみである。北壁は、立ち上がりも確認できなかった。

出土遺物は少ないが、様相は当遺跡傾向を示している。時期は10世紀末頃に推定される。

土坑群 (第81図)

確認面は、住居跡同様、②層上面である。いずれの土坑も遺物は出土していないが、②層を主体とする覆土のため、住居跡に近い年代が推定される。

第13項 6区の前古墳時代以前の遺構・遺物

第2・3号溝状遺構 (第86・87図)

③層上面で確認された溝状遺構である。第2号溝状遺構については、図面が掲載部分しかなく、全体の形状は不明である。

また、第3号溝状遺構は、調査区東端に位置しているが、この遺構も掲載部分の図のみである。

第3号住居跡 (第90図)

第3号溝状遺構下部から発見された遺構である。明確な平面プランは確認されていない。縄文時代晩期の土器片および石器を出土した。土器片は250点以上が集中して出土し、このうちの多くが同一個体とみられ、後述する7区にも同一と見られる遺物が多数出土した。

当遺構は、住居跡の可能性も無いとは言えないが、このような遺物の出土状態から再葬墓の可能性も考慮される。また、当遺構に伴うとされる調査区東端の溝状遺構との明確な関係は不明である。

3面植物遺存体 (第88図)

当面は、④層上面、総社砂層を主体とする泥流層(③層)下から発見された。調査区全面に流木を出土する面である。すべて自然木と見られる。いくつかの流木をサンプリングして樹種鑑定しているが、トネリコが一番多く、カエデ、コナラ、ノリウツギなどであることがわかっている(分析編樹種同定)。

4面植物遺存体 (第89図)

当遺構面は、④層下位層である。流木片と思われる木片を数点出土しているが、人為的とみられる遺構は存在しない。

第14項 7区の縄文時代以降の遺構・遺物

第1号溝状遺構

当遺構は、調査区中央部分北側に位置する。西壁のみ確認で、段差状にしか確認できなかった。従って、溝状遺構であるかは不明である。確認面は、第1号土坑と同一面である。

第1号土坑群 (第93図)

④層上面で確認されている。出土遺物はない。

第15項 7区の縄文時代の遺構・遺物 (第92図)

6区第3号住居跡で前述したとおり、7区でも縄文時代晩期とみられる土器片および石器が180点ほど出土している。土器片は、ほとんどが同一個体で6区第3号住居跡出土のものと同じと見られる。

遺構と見られる平面プランは確認できなかった。

なお、中里見根岸遺跡でも同時期の縄文晩期とみられる土器および石器が多数出土している。

第4章 中里見中川遺跡

中里見中川遺跡遺構諸元一覧（規模・土層説明等）

3区

B水田水口セクションA-A'

1. 赤灰 軽石を僅かに混入。 2. 黒褐 B-B'の24層土（黒色粘性土）のブロックを含み、砂質味も帯びる。

壁面土層断面B-B'・C-C'

1. 明黄褐 近現代の水田土壌（鉄分に因る発色）。 2. 鈍褐 汚れた粒子（As-A?）少量。 3. 濁暗褐 2のブロックを含む。 4. 粕川テフラ層。 5. As-B灰（追分火砕流）。 6. As-B（軽石） 7. 赤灰 全体に黒色味を帯びる。As-B軽石を含む。 8. 赤褐灰 7層土が褐色味を帯びた状態。 9. 赤灰 砂のブロックを多く含む。 10. 赤灰 9層土と基本的には同じだが、砂のブロックは含まない。 11. 暗赤灰 シルト質。 12. 鈍橙 砂層。 13. 赤灰 7近質、粘質がある。 14. 赤灰 7近質。 15. 鈍橙 砂層。 16. 明赤灰 8層土に灰色シルトが混入。 17. 赤灰 7近質、7より黒色味が強い。 18. 赤灰 7近質。 19. 16層近質。 20. 16近質。 21. 16近質。 22. 鈍橙 砂層（鉄分が多いか）。 23. 20近質。 24. 黒色粘質土。 25. 暗茶褐色粘性土 炭化物・植物遺体を含む。 26. 暗灰色砂層 細粒の砂、植物遺体を多く含む。 27. 礫層。

4区

第1号土坑

層序（基準線標高値164.60m） 1. 暗黒灰色粘質土 礫・軽石・植物遺体含。 2. 黒色粘質土 植物遺体含。 3. 黒色粘質土 地山粒・植物遺体含。

第2号土坑

層序（基準線標高値164.60m） 1. 暗黒灰色粘質土 礫・軽石・植物遺体含。 2. 黒灰色粘質土 地山粒・植物遺体含。 3. 黒灰色粘質土 地山粒多・植物遺体含。 4. 黒色粘質土 植物遺体含。

第3号土坑

層序（基準線標高値166.20m） 1. 明褐 やや粘質・粒状C軽石少。 2. 暗褐色粘質土 塊状黒色土混・粒状C軽石多。 3. 暗褐色粘質土 塊状黒色土多・粒状C軽石多。

5区

粒状C軽石下黒色土下面土壁

1. 黒 総社軽石やや多。 2. 黒 総社軽石多。 3. 灰白色粘質土 黒色土少し混入。 4. 黒 総社軽石多（1・2の中間量）。 5. 黒色土・灰白色土・総社軽石の混土。 6. 黒 灰白色土と総社軽石少し混じる。 7. 黒褐 灰白色土と植物やや多い。 8. 黒 下部に総社軽石僅かに含む。

住居跡

6区第1号住居跡

位置：19地区22区m-16グリッド。 規模：4.00m×3.7m。 主軸方位：北-83度-東。

層序（基準線標高値168.40m） 1. 明茶褐 粒状粒状C軽石含。 2. 茶褐 粒状粒状C軽石・炭化物混。 3. 暗褐 炭化物・焼土含。 4. 3同質。 5. 黒褐 炭化物・焼土含・粒状粘土含。 6. 暗褐 塊状焼土含。 7. 褐 炭化物・焼土含・粒状粘土含。 8. 黒褐 炭化物・焼土・粘土含。 9. 黒 焼土・灰含。 10. 茶褐 炭化物少。 11. 茶褐 灰・焼土・炭化物含。 12. 褐 粒状C軽石少量・炭化物含。 13. 黒褐 炭化物・灰・焼土含。 14. 黒褐 焼土・灰・炭化物多。

6区第2号住居跡

位置：19地区22区K-17グリッド。 詳細不詳。

6区第3号住居跡

位置：19地区22区K-41グリッド。 規模：5.35+ α m×2.58+ α m。 主軸方位：不詳。

層序（基準線標高値167.40m） 1. 暗褐 軽石・砂粒状軽石混。 2. 黒褐 軽石若干。 3. 褐 砂粒含。 3'。 黒。 4. 黒色・褐色の互層。 5. 茶褐 粘性強。 6. 暗褐 粘性有り。 7. 茶褐 泥流塊・軽石多。 8. 黄茶褐 泥流堆積物。 9. 黄白 泥流に茶褐色土が若干混入。 10. 黒褐 粒状C軽石含・粘性有。 11. 明茶褐 泥流堆積物。 12. 黄白 泥流に黒色土混入。 13. 暗褐。 14. 黄茶褐 泥流と茶褐色土が混入。

5区第4号住居跡

位置：19地区22区A-18・19・B-19グリッド。 規模：3.04m×3.46m。 主軸方位：北-95度-東。 竈規模：軸長1.82m・燃焼部幅0.62m・前面幅1.30m。

層序（基準線標高値166.30m） 1. 黒褐 粒状C軽石・炭化物多。 2. 黒褐 粒状C軽石・炭化物混。 3. 黒褐 1近質。 4. 黒褐 2近質。 5. 黒褐 粒状C軽石・炭化物含。 6. 明褐 白色粘土少。 7. 明褐 粒状C軽石・粘土少。 8. 暗褐色 粒状C軽石多・粒状焼土少。 9. 暗褐 粒状焼土多。 10. 暗褐 9近質。 11. 灰白 粘土主体・褐色土含有。 12. 黒褐 炭化物主体・粒状焼土少。 13. 黒褐 粒状C軽石含有無・炭化物少。 14. 黒褐 5近質。 15. 暗褐 焼土焼土・炭化物少。 16. 黒褐 細粒粒状C軽石多。

5区第5号住居跡

位置：19地区22区C・D-17グリッド。 規模：2.89m×2.80m。 主軸方位：北-99度-東。 竈規模：軸長0.93+ α m・燃焼部幅0.4m・前面幅0.70m。

層序（基準線標高値166.50m） 1. 暗褐 炭化物多・粒状C軽石含。 2. 暗褐 1近質。 3. 黒褐 炭化物多・粒状焼土少。 4. 赤褐 塊状焼土。 5. 暗褐 炭化物・粒状焼土多。

1. 炭化物層。 7. 黒褐 炭化物多・粒状C軽石少。 8. 黒褐 粒状C軽石微。 9. 暗褐 炭化物・粒状焼土多。 10. 暗褐 粒状C軽石・炭化物少。

5区第6号住居跡

位置：19地区22区A-18グリッド。 規模：2.90m×3.08+ α m。 主軸方位：北-88度30分-東。

層序（基準線標高値166.40m） 1. 暗褐 粒状C軽石混・塊状粘質黒色土多。 2. 明褐 粒状C軽石多・やや砂質。

5区第7号住居跡

位置：19地区22区H-18グリッド。 規模：2.38m×2.90m。 主軸方位：北-72度-東。

層序（基準線標高値166.70m） 1. 鈍赤褐 As-B極多。 2. 灰白色粘土。 3. 黒褐 粒状C軽石多。

5区第8号住居跡 位置：19地区12区T-19・22区A-19グリッド。詳細不詳。

5区第1号炉跡

位置：19地区22区E-18グリッド。 規模：軸長3.6m×推定炉体部掘方幅1.08m×前庭部長2.13×前庭部幅1.22m。 主軸方位：北-1度-東。

5区第2号炉跡

規模：軸長2.22m×炉体部掘方長1.17×炉体掘方幅1.05m。

層序（基準線標高値166.60m） 1. 青灰色粘質土 焼土・炭化物含。 4. 暗灰色 炭化物・焼土含。 9. 炭化物・粘土の混土。 10. 灰・礫混。 12. 焼土。上記以外2・3・5～8、11・13に該当する土層は、調査段階での注記未記入。

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

2区土坑一覧表

新土坑番号	旧土坑番号	位置	平面形状	主軸方位	規模(m)			新土坑番号	旧土坑番号	位置	平面形状	主軸方位	規模(m)		
					長	短	深度						長	短	深度
1	1号集石	40-J-6	長方形	北-85度-西	1.95	1.60	—	28	7号集石	40-L-8	方形	北-50度-東	0.60+α	0.80	—
2	2号集石	40-J-6	不整形	北-60度-西	2.20+α	1.65+α	—	29	無	40-L-7	長方形?	北-49度-東	0.70+α	0.35+α	—
3	3号集石	40-J-7	正方形	北-36度-西	1.25	1.15	0.44	30	無	40-L-7	不整形	北-42度-東	0.70+α	0.45+α	—
4	4号集石	40-K-8	不整形	北-87度-東	1.70	0.70	0.35	31	無	40-L-7	不明	北-49度-東	0.50+α	0.30+α	—
5	5号集石	40-K-8	円形	北-15度-東	0.95	0.85	0.45	32	9号集石	40-L-7	方形	北-63度-東	1.50	(1.25)	—
6	6号集石	40-K-8	(楕円形)	北-51度-東	0.65	0.60+α	—	33	9号集石	40-L-7	半月形	北-65度-東	1.00	0.50+α	—
7	7号集石	40-K-8	方形	北-92度-東	0.85	0.80+α	—	34	9号集石	40-L-7	不整形?	北-68度-東	0.75+α	(0.75)	—
8	8号集石	40-L-7	不整形	北-2度-西	1.10	0.60+α	—	35	9号集石	40-L-7	方形?	北-24度-西	0.75+α	0.55	—
9	9号集石	40-L-7	長方形	北-19度-西	1.10	0.80	—	36	無	40-L-7	正方形	北-25度-西	0.35	0.30	—
10	10号集石	40-L-7	楕円形	北-32度-西	1025	0.75	—	37	無	40-K-7	円形	北-3度-西	0.75	0.70	—
11	11号集石	40-L-7	長方形	北-50度-西	1.10	0.90	0.30	38	無	40-L-7	楕円形	北-67度-西	1.00	0.45	—
12	12号集石	40-K-7	不整形	北-38度-東	0.70	—	0.38	39	無	40-K-7	(不整形)	北-17度-東	(4.60)	(3.50)	—
13	13号集石	40-K-7	〃	北-59度-西	0.70	0.60	0.47	40	無	40-K-8	正方形	北-79度-東	0.95	0.80	—
14	14号集石	40-K-7	〃	北-2度-西	1.30+α	0.90	0.39	41	無	40-K-8	(長方形)	北-10度-西	(1.50)	(1.20)	—
15	15号集石	40-K-7	〃	北-85度-西	1.80	0.70	0.39	42	無	40-J-8	長方形	北-40度-西	1.45	1.15	—
16	1号集石	40-I-6	(不整形)	北-17度-東	0.80+α	—	—	43	無	40-K-8	長方形?	北-60度-西	1.80	1.00+α	—
17	無	40-I-6	楕円形	北-73度-西	0.35	0.10	—	44	無	40-J-8	半月形	北-25度-東	1.35	0.45	—
18	1号集石	40-I-6	(楕円形)	北-76度-東	0.70+α	—	—	45	無	40-J-8	方形?	北-48度-西	0.50+α	—	—
19	2号集石	40-I-6	(楕円形)	北-34度-西	(1.10)	0.55	—								
20	無	40-J-7	(長方形)	北-41度-東	(1.60)	(1.45)	—								
21	無	40-J-7	(楕円形)	北-16度-東	(2.00)	(1.25)	—								
22	無	40-J-7	不整形	北-44度-西	(6.35)	3.00	—								
23	無	40-J-7	(長方形)	北-48度-西	(1.80)	(1.30)	—								
24	無	40-J-7	(長方形)	北-44度-西	5.45	(1.90)	—								
25	5号集石	40-K-8	円形	北-15度-西	1.25	1.15	—								
26	無	40-K-8	(方形)	北-15度-西	(1.40)	1.10+α	—								
27	7号集石	40-K-8	方形?	北-80度-東	(0.80)	0.55+α	—								

3区土坑一覧

番号	位置	平面形状	主軸方位	長	短	深度
1	21-Q-20	円	北-47度-西	1.1	0.9	0.65
2	21-Q-20	円	北-5度-東	1.00	1.00	1.20
3	21-S-20	長方形	北-9度-西	1.60	1.00	0.60

4区土坑一覧

番号	位置	平面形状	主軸方位	長	短	深度
1	21-T-19	楕円	北-23度-西	0.95	0.80	0.10
2	21-T-19	楕円	北-54度-西	0.80	0.65	0.20
3	21-T-18	楕円	北-54度-西	0.90	0.45	0.20
4	21-T-18	楕円	北-9度-西	0.65	0.40	0.10
5	22-A-1	楕円	北18度-西	1.95	1.10	0.40
6	21-T-19	楕円	北-28度-東	1.20	0.50	—
7	21-T-18	楕円	北-54度-東	0.95	0.60	0.20
8	22-D-18	楕円	北-59度-東	1.00	0.50	0.10

6区土坑一覧

番号	位置	平面形状	主軸方位	長	短	深度
1	22-N-15	正方形	北-51度-西	1.30	0.95	0.20
2	22-N-15	円	北-73度-西	1.05	1.00	0.20
3	22-N-15	円	北-3度-西	1.10	0.80	0.30
4	22-M-15	楕円	北-51度-西	1.05	0.80	0.25
5	22-M-16	楕円	北-2度-西	1.00	0.95	0.15
6	22-N-15	半円	北-79度-西	1.75	0.85+α	0.20
7	22-L-16	楕円	北-47度-東	2.25	1.30	—

中里見中川遺跡出土遺物観察表

1区出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00001 23	土製品 戎	完形	高3.7・幅2.6・奥1.8	酸・並・黄橙・軟質・シルト質・細粒雲母	前面と背面毎に型作り成形後の貼り合わせ。立像右手に釣り竿、左脇に魚(鯛)を抱える。	藤岡産
10-00002 23	土製品 大黒	完形	高4.3・幅3.2・奥2.7	酸・並・黄橙・軟質・シルト質・細粒雲母	前面と背面毎に型作り成形後の貼り合わせ。俵上の立像。右手に小槌、左に大黒袋を背負う。	藤岡産

2区東溝出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00003	縄紋土器 深鉢	2区東溝 覆土細片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・軟質・細砂粒	口唇部は肥厚するキャリパー状を呈する深鉢。口唇直下に沈線を横走させる。器面は間摩滅。	不詳
10-00004	須恵器 広口壺	2区東溝 覆土破片	頸12.0・肩19.0・厚0.6	還・締・オリープ黒・夾雑物視られず。餅状の焼締。	紐作り後轆轤整形(右回転)。比重も重く、東海以西からの搬入品と思われる。	
10-00005	施釉陶器 灯明皿	2区東溝 覆土破片	口(10.2)・高(2.0)・底(5.8)	還・締・灰白・密・緻密	轆轤右回転成整形、底部は回転篋撫で整形。鼠志野釉を施釉する。	不詳
10-00006	施釉陶器 皿	2区東溝 覆土破片	口(10.2)・高(2.0)・底(5.8)	還・締・灰白・密・緻密	轆轤右回転成整形、底部は回転篋撫で整形。鼠志野釉を施釉する。	美濃産
40-00001	喫煙具 吸口	2区東溝 覆土破片	径0.84・重4.4	真鍮製か	背面側に合わせ目が明瞭に認められる。	

2区1号集石土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
40-00002 160	銅銭	覆土内 完形	径3.5・重3.0		寛永通寶。背面は無紋	

第4章 中里見中川遺跡

2区3号集石土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
40-00003 160	銅銭	覆土内 完形	径3.5・重2.0		政和通寶。背面は無紋。	
40-00004 160	銅銭	覆土内 破片	径(3.0)・重1.0		聖宋元寶。背面は無紋。	

2区第1号不明遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00007	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・黒色鈹物粒子	紐作り後轆轤整形(左回転)。口唇部内側若干摩滅。	藤岡産か
10-00008	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	厚1.2	酸・締・鈍赤褐・密・白色鈹物粒子	紐作り後叩き整形。叩き具及び宛具は不詳。全体に摩滅している。	常滑産

2区第2号不明遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00009	施釉陶器 灰釉花瓶	覆土内 破片	厚0.6	還・並・白灰・並・白色粒子・黒色粒子	轆轤左回転成整形。釉調はオリープ灰、透明感がある。	瀬戸産

2区As-C下溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00010 ・012-23	土師器 壺	覆土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍橙・並・白色微粒子・赤褐色粒子・黒色鈹物粒子	複合口縁。紐作り成形。最終整形は複合部以下を刷毛撫でを施す。	3点の接合
10-00011 23	土師器 壺	覆土内 破片	口(13.6)	酸・並・鈍橙・粗・石英粒・黒色鈹物粒子・細砂粒	口縁部は強く短く外反する。器内外面は横位の研磨を施す。	

2区2・3面出土遺物出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00013	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・石英・パミス・細砂粒	頸部周辺の破片。地文にLR原体を横転させ、5本一単位の櫛目山形・平行を交互施文する。	2点の接合
10-00014	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	胴下半部片。6本一単位以上の条痕文を施文する。条痕は粗く浅く断面は四角い。	5点の接合
10-00015	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	10-00014・15と同一個体。裏面にも条痕文の施文が認められる。	3点の接合
10-00016	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.75	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	10-00014・15と同一個体。	5点の接合
20-00001	石器 打製石鎌	2区3面 完形	長14.2・幅8.8・厚2.6 ・重411	粗粒輝石安山岩	礫面を残す。20-00006をタイプとする石鎌の補修品か。長さに比べて、幅が広い。	
10-00017	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	ラップ状に外反した口縁部。RL原体を縦転施文する。	
10-00018	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.6	酸・並・黒灰・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	斜位に条痕文を施文後、幅広で断面四角形状の横線3条を頸部に施す。	
10-00019	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	10-00018・20・21と同一個体	
10-00020	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	10-00018・19・21と同一個体	
10-00021	弥生土器 壺	2区3面 破片	厚0.4	酸・並・黒灰・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	10-00018・19・20と同一個体	
20-00002	石器 打製石鎌	2区3面 破片	幅6.3・厚2.7・重143	粗粒輝石安山岩	礫面を残す。20-00006をタイプとする石鎌の補修品か。長さに比べて、幅が広い。	
20-00003	石器 打製石鎌	2区3面 完形	幅8.6・厚3.9・重540	粗粒輝石安山岩	礫面を残す。20-00006をタイプとする石鎌の補修品か。長さに比べて、幅が広い。	
20-00004	石器 打製石鎌	2区3面 完形	長18.4・幅9.7・厚2.0 ・重906	粗粒輝石安山岩	石鎌の補修品。切断後の補修が顕著。下半部側の刃部調整が顕著。	

2区2面下大溝出土遺物出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00022	弥生土器 壺	覆土内 破片	底7.0	酸・並・鈍黄・並・細砂粒	条痕文か条痕文状の擦痕が胴中位より上半に認められる。	2点の接合
10-00023	弥生土器 壺	覆土内 破片	厚0.7	酸・並・黄灰・軟・細砂粒多	風化が顕著。頸部に9本一単位の刷毛撫での痕跡が認められる。	
20-00005	石器 打製石鎌	覆土内 部分欠損	長14.0・幅9.0・厚2.2 ・重312	粗粒輝石安山岩	撥状呈する加工。礫面を残し基部は鈍角な成形。刃部側は摩滅が認められる。	
20-00006	石器 打製石鎌	覆土内 完形	長25.8・幅10.4・厚 3.5・重906	粗粒輝石安山岩	礫面を残す。着柄部分の加工が細まる。使用痕等は肉眼では認められなかった。	

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

2区2面下第1号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00024	弥生土器 壺	覆土内? 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄・並・細砂粒	肩部に横線を施文し、上位に山形文、下位に5一単位のスリット文を挟み波状文を施す。	
20-00007	石器 打製石鎌	覆土下層 部分欠損	長14.4・幅9.6・厚 2.6・重436	粗粒輝石安山岩	礫面を残す。20-00006をタイプとする石鎌の補修品か。長さに比べて、幅が広い。	
20-00008	石器 打製石鎌	覆土下層 破片	厚3.6・重419	粗粒輝石安山岩	礫面を残す。周辺の加工が20-00006の着柄部分に類似する。	
20-00009	石器 打製石鎌	覆土下層 破片	厚2.6・重380	粗粒輝石安山岩	礫面を残す。剥片剥離段階のリングからは、大型製品とは思われない。	

2区内出土木製品

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
30-00001 26	木製品 杭	6集石坑 完形	長49.3・径8.1	樹種・スギ	上半部は自然風化による瘦身。先端は6面による構成。先端は鋭角。	
30-00002 26	木製品 杭	6集石坑 完形	長40.5・径11.2	樹種不詳	上半部は自然風化による瘦身。先端側は片面加工。先端を欠損する。	
30-00003 26	木製品 杭	6集石坑 完形	長29.1・径5.5	樹種・クスギ	上下不詳。片面加工側は3面削りが認められる。図上位側は6面加工だが、鈍角である。	
30-00004 26	木製品 杭	6集石坑 完形	長25.0・径5.0	樹種・ヒノキ属	両端を加工。図中下位側は鋭く加工し、上位側は、加工が鈍角である。	
30-00005 26	木製品 杭	6集石坑 完形	遺存長19.3・遺存径 8.4	樹種・クスギか	先端側だけの遺存。6面の加工が認められる。比較的太い杭。	
30-00006 26	木製品 杭	遺構不詳	長41.3・径9.2	樹種・ヒノキ	上半部は自然風化による瘦身。全体には鋭角な加工だが、端部は鈍角に加工されている。	
30-00007 26	木製品 杭	遺構不詳	遺存長37.4・径6.4	樹種・スギ	上半部は自然風化による瘦身。先端側は1面構成の片面加工。	
30-00008 26	木製品 杭	遺構不詳	遺存長43.6・径5.6	樹種・モモ	上半部は欠損している。先端加工は5面。調査後の乾燥により、中位はひび割れ状態。	
30-00009 26	木製品 杭	遺構不詳	長59.3・径3.5(7.4)	樹種不詳	上半部の様子は不分明。下半部の節周辺に樹皮が遺存する。先端は鈍角。	
30-00010 26	木製品 杭	遺構不詳	遺存長16.3・径3.3	樹種・クリ	上位は欠損する。片面加工の先端は鋭角か。	
30-00011 26	木製品 杭	遺構不詳	遺存長42.3・節部径 3.5	樹種・タケ	竹杭。先端は片面加工。上位側には、煤けている。	
30-00012 26	木製品 杭	遺構不詳	長28.9・幅5.3	樹種・クリ	杭の一部か。加工面は痕跡程度にしか残存しない。半裁状態の加工か。不詳不分明。	

2区5面下出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
30-00013 27	木製品 鎌柄	遺構不詳 部分欠損	長92.3・幅3.0・厚3.0	モミ属		

3区積石遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00025 23	瓦 男瓦	積石中 破片	厚1.6	還・並・黒灰(断・黄橙)・並・白色 粒子	半裁作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕。凸面は縦位の撫でを施す。側部面取り3回。	秋間産 瓦-001
10-00026 23	瓦 女瓦	積石中 破片	厚1.5	還・硬・灰・粗・黒色粒子・シルト 粒子	一枚作り。素文。凸面は撫で整形。布目はやや粗い。側部面取り1回。	秋間産 瓦-002
10-00027 23	瓦 女瓦	積石中 破片	硬1.9	還・並・灰(断・橙)・並・白色粒子	一枚作り。両面に粘土板剥ぎ取り痕。凹面は布目の圧痕が少ない。凸面は粗い不整格子叩き。	秋間産 瓦-003

4区第1号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00028 23	須恵器 埴	覆土内 上半欠損	底6.8	還・硬・灰白・密・白色微粒子	底径は広く、断面三角形の高台を備える。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00029 23	須恵器 皿	覆土内 1/3残	口(13.7)・高2.9・底 (9.4)	酸・並・鈍橙・並・白色粒子・赤褐色 粒子・白色鈹物粒子	底径の広い足高台。皿部は非常に浅い。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00030 23	須恵器 内黒埴	覆土内 破片	底(8.8)	酸・硬・鈍橙・並・黒色鈹物粒子・ 白色粒子・赤褐色粒子	轆轤右回転成整形、付高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	不詳
10-00031 23	土製品 土錘	覆土内 部分欠損	長4.0・径1.8・孔径 0.65	酸・軟・明黄褐・密・微細砂粒・赤 褐色粒子	図中端部面取りを欠損する。直線的な紡錘形を呈する。	不詳
30-00014 28	木製品 杭	打設 完形	長92.6・幅7.7	樹種・クリ	建築部材の利用か。断面三角形を基調。先端側の加工は鋭く細い。	
30-00015 28	木製品 杭	打設 完形	長70.8・幅5.9	樹種・クリ	建築部材の利用か。断面三角形を基調。先端を欠損する。	
30-00016 28	木製品 杭か	打設 完形	長63.5・幅8.8	樹種・クリ	建築部材の利用か。先端側は二重の加工になっている。	
30-00017 28	木製品 不詳	打設 完形	長25.3・幅7.6	樹種・クリ	建築部材の利用か。両端は尖端加工が施されていない。	
30-00018 28	木製品 杭	打設 完形	長44.8・幅6.5	樹種・クリ	建築部材の利用か。14~16に比較して極度に短い。先端側は二重の加工になっている。	

第4章 中里見中川遺跡

30-00019 28	木製品 杭	打設 完形	長44.5・幅4.7	樹種・クリ	建築部材の利用か。先端側の加工は鋭く細い。上半は風化による瘦身か。	
30-00020 28	木製品 杭	打設 完形	長134.9・幅6.5	樹種・クリ	幹材の半載素材。先端側は二重の加工になっている。	
30-00021 29	木製品 杭	打設 完形	長87.9・幅7.1	樹種・クリ	建築部材の利用か。屈曲している。先端側には切り込みが認められる。	
30-00022 29	木製品 杭	打設 完形	長93.6・幅7.9	樹種・モモ	若年の自然木を利用している。先端はやや鈍角。上半部全体に樹皮が残る。	

4区第2号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00032	磁器 青磁碗	覆土内か 破片	口(16.0)	還元・締・灰・灰オリブ・密	鎗手蓮弁文碗。口縁部は比較的直線的に立ち上がる。蓮弁は細かい。	
10-00033	磁器 青磁碗	覆土内か 破片	口(16.0)	還元・締・灰・灰オリブ・密	鎗手蓮弁文碗。口縁部は膨らみを帯び、口唇部は尖る。蓮弁は大きく、間弁を配する。	
10-00034 23	須恵器 環	覆土内 破片	口(9.8)・高(2.9)・ 底(6.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子	小振りの環。立ち上がりはやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00035 23	須恵器 環	覆土内 破片	口(10.0)・高3.1・底 (5.0)	酸・硬・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子・赤褐色粒子	小振りの環。立ち上がりはやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00036 23	須恵器 環	覆土内 1/2残	口(10.8)・高3.2・底 6.0	還元・並・灰・並・黒色鉱物粒子・白 色微粒子	小振りの環。立ち上がりはやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間・乗 附
10-00037 23	須恵器 内黒塊	覆土内 1/2残	口(14.8)・高5.8・底 (7.2)		口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、付高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	
10-00038 23	須恵器 鉢	覆土内 破片	口(29.1)	還元・硬・灰・密・微粒黒色粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産

4区第3号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00039 23	須恵器 塊	覆土内 破片	底(7.6)	還元・硬・灰・密黒色粒子・白色微粒 子	轆轤右回転成整形、口縁部・体部欠損、付高台。高台は高い。	秋間産
10-00040 23	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.0)	還元・並・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	底部内外面に墨書しているが判読不能。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。墨書-1	秋間西部 乗附
10-00041 23	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(21.2)	還元・硬・灰・密黒色粒子・白色微粒 子	口径は大きい。轆轤右回転成整形、天井部は回転篋削り。	秋間産
30-00023 29	木製品か 不詳	覆土内 破片	残存長23.6・径2.0	樹種・クリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00024 29	木製品か 不詳	覆土内 破片	残存長11.2・幅1.3	樹種・クリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00025 29	木製品か 不詳	覆土内 破片	残存長10.6・幅1.2	樹種・クリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00026 29	木製品か 不詳	覆土内 破片	残存長35.2・幅3.5	樹種・クリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00027 29	木製品か 不詳	覆土内 破片	残存長18.1・径2.3	樹種・クリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00028 29	木製品か 不詳	覆土内 破片	残存長21.8・径2.7	樹種・ケヤキ	先端側に削りが認められる。	
30-00029 29	木製品 建築部材	覆土下層 完形	長101.3・幅6.6	樹種・クリ	角材加工。図中下端側に臍穴を削り込む。建物の部材と推定される。	
30-00030 29	木製品 杭	覆土下層 完形	長103.3・幅4.1	樹種・クリ	均一な太さを有している。図中上端は枝分かれの部分を利用する状態。建築部材か。	
30-00031 30	木製品 杭	覆土下層 完形	残存長90.5・径3.3	樹種・ヤマグワ	均一な太さを有している。先端部分に加工が認められる。建築部材か。	
30-00032 30	木製品 皿	覆土下層 4/5残存	口18.2・高1.6・底 28.2	樹種・ケヤキ	柁目材を使用している。器高は浅く口径は大きい。	

4区第5号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00042 23	須恵器 塊	覆土下層 2/3残	口(15.0)・坏高4.3・ 坏底7.6	還元・並・灰・並・粗黒色粒子粒・黒 色粒子・白色微粒子	器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産
30-00033 30	木製品 不詳	覆土下層 部分欠損	残存長51.3・幅7.0	樹種・カラマツ属	片刃箭様の作り。先端は丸く関は長く柄側に向かい窄まる。織機部材か。	

4区第2号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00043 23	縄文土器 深鉢か	覆土 破片	底(9.0)	酸・並・灰黄褐・並・粗粒砂	底面の立ち上がり部は重みが認められる。深鉢か壺は判然としない。	

4区西テラス出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
30-00034 30	木製品か 不詳	直上面 部分欠損	残存長78.0・幅4.2		「Y」字状の枝部分。樹皮は失っている。	

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

5区第1号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00044 23	須恵器 坏	溝底直層 破片	口(9.0)・高(2.6)・ 底(4.0)	酸・並・鈍赤褐・並・白色微粒子・ 赤褐色粒子	腰部は著しく低い。東毛地区の作りに類似する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00045 23	須恵器 坏	溝底直層 1/2残	口(10.4)・高(2.7)・ 底4.8	酸・硬・灰褐・並・黒色鈹物粒子(チ タンカ)	底面は摩滅。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00046 23	須恵器 坏	溝底直層 口唇一欠	口11.5・高3.8・底5.4	還・硬・灰白・密黒色鈹物粒子・黒 色粒子	体部・口縁部は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右 回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00047	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(11.0)	酸・並・黄灰・並・黒色鈹物粒子・ 赤褐色粒子	体部は丸く、口縁部は直立気味。轆轤右回転成整 形。底部は欠損。	産不詳
10-00048	須恵器 塊	覆土内 高台欠損	口11.7・高坏4.2	酸・並・鈍橙・並・石英雲母片岩・ 白色鈹物粒・黒色鈹物粒	口縁部は短く直立し、口唇部は外反する。轆轤右 回転成整形、高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡産
10-00049 24	須恵器 塊	覆土内 高台欠損	口(14.0)・坏高4.5・ 底5.1	酸・硬・灰黄・密・黒色鈹物粒子・ 赤褐色粒子	底径は小さく腰部が張る。口縁部は外反気味。轆 轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	産不詳
10-00050 24	須恵器 皿	覆土内 高台欠損	口14.4・皿高2.3	酸・並・鈍橙・並・白色微粒子・黒 色鈹物粒子・軽石	作りは厚く曲線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、高台欠損(付高台)。	産不詳
10-00051 24	須恵器 内黒境	覆土内 一部欠損	口(10.8)・高3.9・底 6.4	中・並・灰黄・並・黒色鈹物粒子	器厚は薄く丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付 高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	産不詳
10-00052 24	須恵器 内黒境	覆土内 破片	口(11.2)・高4.8・底 (5.0)	中・並・灰～赤橙・並・黒色鈹物粒 子・赤褐色粒子	体部丸く口唇部は短く外反。轆轤右回転成整形、 付高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	産不詳
10-00053 24	須恵器 内黒境	覆土内 一部欠損	口14.5・高6.0・底7.6	酸・並・浅黄橙・並・黒色鈹物粒子・ 軽石粒	器厚は薄く体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に 立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳
10-00054 24	須恵器 内黒境	覆土内 一部欠損	口15.8・高6.7・底8.3	中・並・灰黄・並・黒色鈹物粒子・ 白色粒子・白色微粒子	直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。 器内面に磨きを施し黒色に燻す。	秋間産か
10-00055 24	須恵器 内黒境	覆土内 部分欠損	口15.0・高6.4・底7.8	還・並・灰黄・並・黒色鈹物粒子	丸味を帯び口唇一欠部は短く外反する。轆轤右回 転成整形、付高台。内面を磨き黒色に燻す。	秋間産か
10-00056 24	須恵器 内黒境	覆土内 部分欠損	口15.0・高5.8・底7.8	中・硬・灰黄・密・黒色鈹物粒子・ 透明鈹物粒子	やや直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付 高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	秋間産か
10-00057 24	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口(17.9)	中・並・灰黄・軽石粒・α石英・岩 片	口縁部の下半部やや開き、上端は屈曲する。轆轤 右回転成整形、天井部は回転篋削り。	産不詳
10-00058 24	土師器 壺	覆土内 破片	口(26.0)	酸・並・浅黄橙・粗・黒色鈹物粒子・ 軽石粒・透明鈹物粒子	紐作り。紐の本一単位はやや細い。器外面は縦位 の篋無で、内面は横位篋撫で整形。	産不詳
10-00059 24	須恵器 羽釜	覆土内 1/2残	口(24.1)・高24.9・ 底(8.6)	中・並・灰黄・並・黒色鈹物粒子・ 赤褐色粒子	鈹直下に最大が計測される。紐作り後轆轤整形(右 回転)。鈹は貼付け。	秋間産か
10-00060 24	土製品 土錘	覆土内 完形	長4.2・幅1.6	酸・並・灰黄・並・白色微粒子・黒 色粒子	やや紡錘形状を呈する。口径0.4。顕著な整形痕は は認められない。	
10-00061 24	土製品 羽口	覆土内 破片	厚1.2～1.8	中・並・灰・粗・シルト質(含むスサ)	鞆側の羽口片。装着部は複合口縁状にしてある。	産不詳
40-00005 24	鉄滓	覆土内 破片	残存長4.9・厚2.4・ 重81.5		図上半には、ガラス質の溶解物が融着している。	
40-00006 24	鉄滓	覆土内 破片	長5.8・幅7.8・厚4.8 ・重820		黒鉄色の滓。比重は通常の碗形鉄滓よりやや軽い。 磁力はない。断面では空気孔も多い。	
40-00007 25	鉄滓	覆土内 完形	長14.5・幅12.7・厚 6.8・重1850		熔出面と炉底面(か)が認められる。炉の出鉄時に 留まった不純物を多く含む滓か。	2点の接 合
40-00008 25	鉄滓	覆土内 完形	長17.9・幅11.6・厚 9.8・重1920		40-00008・00009は破砕された状態で出土してい る。人為による破砕で接合率は非常に高い。	24点の接 合
40-00009 25	鉄滓	覆土内 完形	長15.5・幅8.6・厚6.6 ・重1000			4点の接 合
20-00010	礫	覆土内 完存	長13.0・幅5.4・厚4.2 ・重462	粗粒輝石安山岩	自然礫。加工痕・使用痕はは認められないが、表 裏面に煤けが認められる。	
20-00011	石器 摺り石	覆土内 1/2残	残存長10.9幅15.2厚 7.0・重1524	粗粒輝石安山岩	礫の扁平面に摩滅が認められ、片面には煤けが認 められる。	
20-00012 25	石器 摺り石	覆土内 完形	長28・幅17.9・厚 11.6・重8500	粗粒輝石安山岩	礫の扁平面に摩滅が認められ、片面には剝離が認 められる。	
20-00013 25	石器 凹石	覆土内 部分欠損	長32.2・幅21.6・厚 7.8・重11200	粗粒輝石安山岩	円礫の片面窪みをを施し磨き仕上げ状態。裏面 には複数時による敲打痕が認められる。	
30-00035 30	木製品 曲物	覆土下層 破片	長67.6・幅4.5・厚0.5	モミ属	前物の側板。桜皮の繋ぎが遺存する。底板は認め られない。	

5区第4号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00062 25	須恵器 坏	床面直上 1/2残	口(9.1)・高(2.7)・ 底(5.1)	中・軟・灰黄褐・並・黒色鈹物粒子・ 赤褐色粒子	丸味を帯びた立ち上がり。轆轤右回転成整形、底 部は回転糸切り。	
10-00063 25	須恵器 坏	床直層 破片	口10.2・高3.5・底4.0	酸・並・鈍橙・並・黒色鈹物粒子・ 細粒雲母	丸味を帯びた立ち上がるが。轆轤右回転成整形、 底部は回転糸切り。	産不詳
10-00064 25	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(9.6)・高2.9・底 (5.0)	中・軟・浅黄橙・並・赤褐色粒子・ 細砂粒	口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、 底部は回転糸切り。	
10-00065 31	須恵器 内黒境	覆土内 破片	口(16.0)・高6.9・底 (8.4)	酸・並・灰黄褐・並・白色微粒子・ 黒色鈹物粒子	腰部は丸味が強い。口縁部は直線的で、口唇部は 短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00066 31	須恵器 内黒境	床直層 1/2残	口(16.4)	中・並・褐灰・並・細粒雲母・黒色 鈹物粒子	腰部から口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右 回転成整形、高台欠損。	
10-00067	施釉陶器 灰釉塊	覆土内 破片	口(5.2)	還・締・灰白・密	腰部は丸味が強い。口縁部は直線的。轆轤右回転 成整形。	
10-00068 31	施釉陶器 灰釉段皿	床面直上 1/2残	口(12.4)・高2.7・底 (7.4)	還・締・灰白・密	口縁部は直線的に開く。轆轤右回転成整形。高台 (付高台)は腰部の端部に付ける。	

第4章 中里見中川遺跡

10-00069 31	須恵器 小形甕	床面直上 1/3残	口(12.0)・高(9.9)	酸・軟・灰黄・並・黒色鈹物粒子・赤褐色粒子	球状を呈し、胴部上半に最大径を有する。口縁部は短く外反。紐作り後轆轤整形(右回転)。
10-00070 31	土師器 甕	床面直上 1/3残	口(19.5)・胴(21.6)	酸・並・灰黄褐・並・白色微粒子・黒色鈹物粒子	口縁部は球形胴から外傾して立ち上がる。胴部下半は縦位、肩部は横位の寛撫を施す。
10-00071 31	土師器 甕	床面直上 1/3残	口(25.2)・胴(27.2)	酸・軟・浅黄橙・透明鈹物粒子・石英・粗粒砂	口縁部は球形胴から短く立ち上がる。胴部下半は縦位、肩部は横位の寛撫を施す。
10-00072 31	須恵器 羽釜	床面直上 破片	口24.4	酸・硬・灰黄・並・黒色鈹物粒子・白色鈹物粒子	内★気味の口縁部の最大径部分に鈹を貼る。紐作り後轆轤整形(右回転)。
10-00073 31	須恵器 羽釜	覆土内 破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・密・透明鈹物粒子・黒色鈹物粒子	外傾する口縁部に断面山形状の鈹を貼る。詳細な作りは不詳。
10-00074 31	須恵器 甕	覆土内 破片	底(7.4)	酸・並・灰黄褐・並・白色微粒子・黒色鈹物粒子	紐作り。外面は縦位の寛削り、内面は轆轤整形の(撫で)が認められる。
10-00075 31	土師器 甕	覆土内 床直層	底(8.6)	酸・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・白色粒子・黒色鈹物粒子	紐作り。外面は縦位の寛削り、内面は横位の寛・指撫でが認められる。
20-00014 31	礫	竈内 完存	長29.1・幅11.9・厚10.2	粗粒輝石安山岩・重4580	顕著な加工痕・使用痕は認められない。比熱によるひび割れが認められる。

5区第5号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00076 31	須恵器 坏	床直層 2/3残	口10.5・高3.0・底5.5	酸・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・砂粒	器厚は厚手。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は手持ち寛削り。	不詳
10-00077 31	須恵器 坏	床直層 完形	口10.8・高3.3・底6.0	酸・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・砂粒	器厚は厚手。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は手持ち寛削り。10-00076同。	不詳
10-00078 31	須恵器 塊	竈内 2/3残	口(12.3)・高4.8・底(7.0)	酸・並・灰黄褐・白色粒子・黒色鈹物粒子	腰部は張り口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	不詳
10-00079 31	須恵器 内黒塊	床直層 高台欠損	口12.3・环高(4.8)・底6.9	酸・並・灰黄・並・白色粒子・黒色鈹物粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、付高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	
10-00080 31	須恵器 内黒塊	竈内 部分欠損	口14.2・环高5.5・环底5.4	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子	腰部は枯れ口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、付高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	不詳
10-00081	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口(12.3)	還・締・灰白・密 釉調はオリブグリーン	直線的に強く開く口縁部の口唇部が強く外反する。轆轤左回転成整形。釉は浸掛け。	中世瀬戸産か
10-00082 31	土師器 甕	竈内 破片	口(25.2)	酸・厚・鈍橙・細粒片岩・白色鈹物粒子・黒色鈹物粒子	比重は重い。口縁部は緩やかに外反する。紐作り後撫で整形。	吉井産か
10-00083	土師器 甕	竈内 破片	胴最大径(22.0)	酸・並・鈍橙・粗・黒色鈹物粒子・軽石粒	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り(非轆轤)。外面は縦位の寛削り。内面は横位の寛撫で。	
10-00084 31	土師器 甕	竈内・覆 土・破片	胴最大径(26.6)	酸・並・鈍黄橙・並・石英雲母片岩粒・黒色鈹物粒子	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り(非轆轤)。外面は縦位の寛削り。内面は寛撫で。	
10-00085 31	土師器甕 転用円盤	覆土内 破片	長径5.7・短径5.1	酸・並・浅黄・並・黒色鈹物粒子・白色微粒子	秋間産土師器甕片の転用。紐作り後轆轤整形(右回転)後、縦位の寛削りを施す。	
10-00086	須恵器 塊	床直層 トリベカ	厚0.7	中・並・灰白・並・白色微粒子粗粒砂	器内面が著しく発泡する。須恵器★の転用。高台は付け高台。	
10-00087 32	土師器 羽釜	竈内・床 直・破片	口(25.6)・鈹(29.8)	酸・並・鈍橙・並・石英・黒色鈹物粒子・赤褐色粒子	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り(非轆轤)。外面は縦位の寛削り。内面は寛撫で。	
10-00088 32	土師器 羽釜か	床直層 1/3残	底(9.0)	酸・軟・灰黄褐・並・黒色鈹物粒子・赤褐色粒子	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り。外面は縦位の寛削り。内面は寛撫で。	秋間産か

5区第6号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00089 32	須恵器 坏	床直層 部分欠損	口9.6・高2.9・底5.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・赤褐色粒子・軽石粒	器厚は厚い。口唇部が短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	不詳
10-00090 32	須恵器 塊	覆土内 1/4残	口(13.2)・高(4.2)・底(6.3)	酸・並・黄橙・並・黒色鈹物粒子・白色微粒子・赤褐色粒子	体部は丸味を帯び口唇部が外反する。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	不詳
10-00091 32	須恵器 内黒塊	床直層 1/2残	口9.4・高3.3・底(2.2)	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鈹物粒子・赤褐色粒子・軽石粒	体部から口唇部まで丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、器内面に磨きを施し黒色に燻す。	不詳
10-00092 32	須恵器 内黒塊	床直層 1/3残	口(10.5)・高4.8・底(4.1)	酸・並・浅黄橙・並・黒色鈹物粒子・白色微粒子・赤褐色粒子	腰部は丸く立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、器内面に磨きを施し黒色に燻す。	不詳
10-00093 32	施釉陶器 灰釉碗	床直層 1/4残	口(14.0)・高6.9・底(9.5)	還・締・灰白・密 釉調は透明から白濁。	器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。釉は刷毛塗り。	東濃産か
10-00094 32	土製品 耳栓か	覆土内 完形	長2.6・径1.4・最径2.0	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・白色微粒子・赤褐色粒子	俵型の粗製耳栓か。丁寧な撫で仕上げになっている。	不詳
20-00015 32	石製品 不詳	覆土内 部分欠損	長10.7・幅8.4・厚3.7・重148	角閃石安山岩	全体に磨かれた状態。片面中央に凹が認められる。工具の刃傷(か)痕も認められる。	

5区第7号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00095 32	須恵器 内黒塊	覆土内 2/3残	口13.0・环高4.3・环底7.0	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鈹物粒子・赤褐色粒子・軽石粒	高台欠損後坏に転用。轆轤右回転成整形、付高台。器内面に磨きを施し黒色に燻す。	不詳

5区第8号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00096 32	須恵器 皿	床直層 2/3残	口9.1・高2.4・底5.9	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鈹物粒子	立ち上がりは器厚が薄く直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

10-00097 32	須恵器 皿	床直層 完形	□9.9・高2.4・底6.4	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 透明鋳物粒子	立ち上がりは器厚が厚く曲線的。轆轤右回転成 整形、底部は回転余切り。	不詳
10-00098 32	須恵器 皿	床直層 部分欠損	□10.1・高2.5・底5.9	酸・軟・灰黄・並・黒色鋳物粒・高 温石英	立ち上がりは丸味を帯び、口縁部は開く。轆轤右 回転成整形、底部は回転余切り。	不詳
10-00099 32	須恵器 碗	床直層 部分欠損	□12.4・坏高4.3・坏 底7.2	酸・並・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、 高台欠損(付高台)。	秋間産か
10-00100 32	須恵器 碗	床直層 2/3残	□13.0・坏高4.5・坏 底7.2	酸・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、 高台欠損(付高台)。	秋間産か
10-00101 32	須恵器 碗	床直層 1/2残	□(13.4)・坏高4.0・ 坏底(7.4)	中・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子・白色微粒子	口縁部の器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右 回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産か
10-00102 32	須恵器 碗	床直層 1/2残	□(13.8)・坏高4.0・ 坏底7.4	中・並・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 高温石英	口縁部は外傾して立ち上がる。轆轤右回転成整形、 高台欠損(付高台)。	不詳
10-00103 32	須恵器 碗	床直層 1/2残	□(14.2)・坏高4.2・ 坏底8.4	酸・並・鈍黄橙・黒色鋳物粒子・シル ト粒	口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、高台欠損 (付高台)。	不詳
10-00104 32	須恵器 碗	床直層 部分欠損	□(14.2)・高(5.7)・ 底(7.4)	酸・並・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ シルト粒子	強く外傾して立ち上り、口唇部は外反する。轆轤 右回転成整形、付高台。	不詳
10-00105 32	須恵器 碗	床直層 高台欠損	□14.4・坏高4.1・坏 底(7.2)	酸・硬・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 透明鋳物粒子	腰部は丸味を帯び、体部は外傾し口縁部は外反す る。轆轤右回転成整形、高台欠損。	秋間産か
10-00106 32	須恵器 碗	床直層 1/3残	□(14.4)・高(6.6)・ 底(7.4)	中・並・灰黄・並・黒色鋳物粒子・ 赤褐色粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は器厚は薄 く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	不詳
10-00107 33	須恵器 碗	床直層 部分欠損	□14.8・高6.1・底8.0	酸・硬・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 透明鋳物粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は器厚は薄 く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋間産か
10-00108 33	須恵器 碗	覆土内か 1/3残	□(15.6)・坏高 (4.5)・底(7.6)	酸・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色微粒子	強く外傾して立ち上り、口唇部は外反する。轆轤 右回転成整形、付高台。	不詳
10-00109 33	須恵器 碗	覆土内か 1/3残	□(20.4)・坏高(6.7) ・底(9.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部は丸味が強い。口縁部は器厚は薄く直線的に 立ち上がる。轆轤右回転成整形。	不詳
10-00110 33	須恵器 碗	覆土内か 脚部完存	底11.0	酸・並・鈍橙・並・白色微粒子・細 砂粒	「ハ」の字に開脚する足高高台。轆轤右回転成整 形。	不詳
10-00111 33	須恵器 碗	床直層 破片	底7.0	酸・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	断面三角形状を呈する高台片。	不詳
10-00112 33	須恵器 碗	床直層 全周	底7.1	中・硬・灰白・並・白色微粒子	断面三角形状を呈する高台片。	秋間産か
10-00113 33	須恵器 内黒境	床直層か 1/3残	□(8.8)・高(3.9)・ 底(5.3)	並・還・黒褐・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00114 33	須恵器 内黒境	床直層か 口唇一欠	□9.9・坏高3.0・坏 底5.8	酸・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色微粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00115 33	須恵器 内黒境	床直層か 1/2残	□(9.9)・坏高2.3・ 坏底6.2	酸・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色微粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00116 33	須恵器 内黒境	床直層 口唇一欠	□8.9・坏高3.3・坏 底6.2	酸・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子・凝灰岩片	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00117 33	須恵器 内黒境	床直層か 1/2残	□10.0・高3.7・底5.2	中・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 透明鋳物粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00118 33	須恵器 内黒境	床直層 高台欠損	□(11.1)・坏高3.6・ 坏底5.8	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回 転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00119 33	須恵器 内黒境	床直層 2/3残	□(13.0)・高5.4・底 7.1	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部は枯れ、口縁部は直線的に立ち上がる。器厚 は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00120 33	須恵器 内黒境	床直層 部分欠損	□13.4・坏高4.7・坏 底6.3	酸・並・黄灰・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部は枯れ、口縁部は直線的に立ち上がる。器厚 は薄い。轆轤右回転成整形、高台欠損。	
10-00121 33	須恵器 内黒境	床直層か 1/3残	□(14.4)・高(6.3)・ 底(7.8)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	立ち上がりは丸味を帯び、口縁部は弱く外反する。 轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00122 33	須恵器 内黒境	床直層 2/3残	□13.6・高5.6・底7.0	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子・シルト粒	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00123 33	須恵器 内黒境	床直層 2/3残	□(14.4)・坏高4.8・ 坏底(7.6)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤目は強い。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00124 33	須恵器 内黒境	床直層か 2/3残	□(14.8)・坏高5.7・ 坏底(6.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00125 33	須恵器 内黒境	床直層 1/3残	□(14.8)・坏高5.4・ 坏底7.0	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00126 33	須恵器 内黒境	床直層 2/3残	□(15.4)・坏高(6.1) 底(7.5)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子	体部は丸味が強い。口縁部は器厚は薄く直線的に 立ち上がる。轆轤右回転成整形。	
10-00127 33	須恵器 内黒境	床直層か 1/4残	□(16.3)・高(6.9)・ 底(8.9)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子・赤褐色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00128 33	須恵器 甕	床直層 破片	□(16.0) 胴最大(18.8)	中・軟・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色微粒子	器厚は厚い。口縁部は球胴状から短く強く外反す る。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00129 34	須恵器 羽釜	床直層 1/2残	□(22.3)・鏝(26.0)	酸・並・鈍橙・並・黒色鋳物粒子・ 白色粒子・赤褐色粒子	丸味を強く帯びた器形。縦位の篋削りが特徴。紐 作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00130 34	須恵器 羽釜	床直層 破片	□(26.4)・鏝(29.0)	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 高温石英	丸味を強く帯びた器形。縦位の篋削りが特徴。紐 作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00131 34	須恵器 羽釜	床直層 破片	□(25.6)・鏝(30.1)	酸・並・鈍黄橙・軟・黒色鋳物粒子・ 赤褐色粒子	丸味を強く帯びた器形。縦位の篋削りが特徴。紐 作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00132 34	須恵器 甕か	床直層 1/3残	底7.5	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鋳物粒子・ 透明鋳物粒子・赤褐色粒	底部は丸味を帯び立ち上がり、胴上半部にたっす る。紐作り後轆轤整形か。	
10-00133 34	須恵器 甕か	床直層 1/4残	底5.8	酸・並・鈍黄橙・黒色鋳物粒子・赤 褐色粒子・白色粒子	底部はやや直線的に開いた状態で立ち上がる。紐 作り後轆轤整形か。	
10-00134 34	施釉陶器 灰釉碗	床直層 破片	底(7.8)	還・締・灰白・密・釉調は透明～白 濁	轆轤右回転成整形、付高台。施釉は浸掛け。	
20-00016	礫片 不詳	床直層か 破片	長7.7・幅9.0・厚3.1 ・重202	安山岩	礫面が被熱に融変する。	

第4章 中里見中川遺跡

40-00010 34	鉄滓	床直層か 破片	長9.6・幅5.4・厚5.4 ・重900		黒鉄色を呈する鉄滓。不純物の含有が多いのか、 比重はやや軽い。	
----------------	----	------------	-------------------------	--	------------------------------------	--

5区第2号炉跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00135 34	土製品 羽口	埋土内 完形	残存長14.2・径6.4・ 孔径3.4		生地はシルト質か。	挿入口が残存する。珪酸の付着範囲が挿入口近く まで達している。使用の限界か。
10-00136 34	土製品 羽口	埋土内 上端欠損	残存長14.2・径6.2・ 孔径3.2		生地はシルト質か。	珪酸の付着範囲の外側に還元～酸化範囲が認めら れるが、135に遺存長が近く使用の限界か。
10-00137 34	土製品 羽口	埋土内 上端欠損	残存長19.2・径5.6・ 孔径3.0		生地はシルト質か。	珪酸・還元～酸化範囲の幅が前二者より幅広くあ る。使用部分が異なるのか。
40-00011 35	鉄滓	炉内	重69.8		黒鉄色に部分的に赤・赤褐色に変色 した部分が認められる。	出鉄時の鉄滓か。流動滓と考えられる。
40-00012 35	鉄滓	破片	重19.6			
10-00138 5 10-00154	炉壁					幅3cm前後、長さ20～30cm程の紐状に延ばした、スサを多く含ませたシルト質の粘土を積み上げた炉体の破片。炉内面側は、炉本 体の部位により異なるが、珪酸分を多く含む面、鉄の融着した様な面の概ね二者がある。 又、破片部材には、粘土紐の積み上げ方向に、直線的な面を持つものと緩やかに曲面を持つ二者がある。これは、二者は、炉対の 平面形状を示していることが分かるが、全体が細分化された状態のため、復元までには至れない。
10-00138～10-00141— 第35図版			10-00142—第40図版	10-00143～10-00146— 第36図版		
10-00148— 第36図版			10-00151—第38図版	10-00152～10-00154— 第37図版		

6区第1号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00155 41	須恵器 坏	床直層 部分欠損	□9.1・高2.6・底4.9	酸・硬・鈍橙・並・赤褐色粒子・黒 色鉍物粒・白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。口縁部は外反する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	不詳
10-00156 41	須恵器 坏	床直層 部分欠損	□9.4・高2.2・底5.7	酸・並・鈍黄橙・粗・白色微粒・白 色鉍物粒・黒色鉍物粒	体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、 底部は回転糸切り。	不詳
10-00157	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	底(8.6)	還・締・白灰・密	高台は太い三日月状を呈する。	不詳
10-00158 41	須恵器 甕	床直層 破片	□(21.0)・頸(20.4)	酸・並・明赤褐・並・黒色鉍物粒子・ 赤褐色粒子・白色微粒子	器厚は厚く短い口縁部が外反する。紐作り後轆轤 整形か。	吉井産か
10-00159 41	須恵器 羽釜	甕内 1/3残	□(19.7)・鏝(25.4)	酸・軟・浅黄橙・黒色鉍物粒子・白 色微粒子・高温石英	器厚は比較的薄い。紐作り後轆轤整形(右回転)。 鏝は貼付け。	吉井産か
10-00160 41	須恵器 羽釜	床直層 破片	□(19.0)・鏝(23.3)	酸・軟・明赤褐・並・黒色鉍物粒子・ 白色微粒子・高温石英	鏝の直下に最大径を有する。紐作り後轆轤整形(右 回転)。鏝は貼付け。	
10-00161 41	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(21.2)・鏝(26.0)	酸・軟・明赤褐・並・黒色鉍物粒子・ 白色微粒子・高温石英	鏝の直下に最大径を有する。紐作り後轆轤整形(右 回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00162 41	須恵器 羽釜	床直層 破片	□(23.0)・鏝(25.0)	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・白 色鉍物粒子・黒色鉍物粒	胴は直線的に立ち上がる。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00163 41	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(22.3)・鏝(26.0)	酸・並・鈍黄橙・白色微粒子・黒色 鉍物粒子・軽石粒	鏝の直下に最大径を有する。紐作り後轆轤整形(右 回転)。鏝は貼付け。	吉井産か
10-00164 41	須恵器 羽釜	床直層 破片	□(23.0)・鏝(27.1)	酸・軟・橙・並・白色鉍物粒子。黒 色鉍物粒子・赤褐色粒子	胴は丸味を帯び、口縁部は直線的に外傾する。紐 作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	吉井産
10-00165 41	土製品 土鏝	掘り方内 部分欠損	残存長3.6・径1.92・ 口径0.38	酸・並・鈍黄橙・白色微粒子・赤褐 色粒子	紡錘状の上端側を欠損する。	不詳
20-00017 41	石製品 砥石	床直層 部分欠損	残存長11.7・幅5.1・ 厚3.3・重269		置砥。砥面は右側が研ぎ減る状態から、右利きで の使用。	不詳

6区第2号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00166 41	須恵器 坏	覆土内 破片	□(10.4)・高(2.4)・ 底(5.0)	酸・並・橙・並・粗白色鉍物粒子・ 赤褐色粒子	腰が強く張り、丸味を帯びて立ち上がる。口唇部 は外反する。轆轤右回転成整形。	不詳
10-00167 41	須恵器 塊か	床直層 破片	□(11.0)	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉍物粒子・ 赤褐色粒子	直線的な体部と口縁部の口唇部が短く外反する。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	不詳
10-00168 41	須恵器 坏	床直層 1/3残	底4.8	酸・並・鈍橙・黒色鉍物粒子・軽石 粒・高温石英	直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は 回転糸切り。	不詳
10-00169	施釉陶器 灰釉段皿	覆土内 破片	□(11.8)	還・締・灰白・密	器内面に浅い段を有する・轆轤右回転成整形。底 部は欠損。	不詳
10-00170 41	須恵器広 口短頸壺	床直層 破片	□(19.4) 胴最(24.5)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒・黒色 鉍物粒子	形はなせ肩で丸味が強い。口縁部は玉縁状に肥厚。 紐作り後轆轤整形か。	吉井・藤 岡産
10-00171 41	須恵器 甕	覆土内 破片	□(22.8)・頸(21.6)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉍物粒子・ 赤褐色粒子	10-00170に類似か。口縁部は軽く外反さみ。紐作 り後轆轤整形か。	不詳
10-00172 42	須恵器 甕	覆土内 破片	□(24.2)・頸(23.3)	酸・並・明赤褐・並・黒色鉍物粒子・ 透明鉍物粒子	口縁部は短く外傾する。斜位の寛撫でが顕著。紐 作り後轆轤整形か。	不詳
10-00173 42	須恵器 甕	床直層 破片	□(28.0)・頸(27.8)	酸・並・鈍黄橙・並・高温石英・黒 色鉍物粒子	口縁部は短く直立し口唇部は肥厚する。紐作り後 轆轤整形か。	吉井産
10-00174 42	須恵器 甕	覆土内 破片	底5.6	酸・並・鈍橙・並・高温石英・黒色 鉍物粒子・細砂粒	立ち上がりは強い。縦位の寛削りも深く強い。紐 作り後轆轤整形か。	不詳

第3節 発見された遺構・遺物に就いて

6区第3号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00175	縄紋土器 深鉢	不詳 1/3残	底(8.0)	酸・並・黄橙・並・白色粒子・細砂粒	無筋rの単軸絡状帯の縦位充填。底面は網代、2段越え1本潜り1本送り。	
20-00018	石器 打製石斧	不詳 上端欠損	残存長12.6・刃部幅9.7・重378	粗粒輝石安山岩	上端を欠損。撥形基調か。刃部先端の断面は鈍角で摩滅は認められない。	
10-00176	縄紋土器 深鉢	不詳 1/2残	口(39.0)・高(42.3)	酸・並・黄橙・鈍橙・並・白色粒子・細砂粒	無筋rの単軸絡状帯の斜位充填。底面は網代、2段越え2本潜り1本送りか。	
20-00019	石器 敲石	不詳 完形	長11.7・幅9.5・厚5.2・重732	粗粒輝石安山岩	2側縁にやや纏まった打痕が認められる。下面に摩滅面、上面に集中打痕が認められる。	

7区出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
20-00020	石器 打製石斧	包含層 完形	長16.9・刃部幅9.7・厚3.4・重512	粗粒輝石安山岩	基部で欠損品の接合。刃部先端の刃先角は鈍角。刃部の摩滅は認められない。	
20-00021	石器 打製石斧	包含層 破片	残存長10.0・上端幅7.2・重186	粗粒輝石安山岩	上端側の破片。基部での欠損。作りはシャープ。部分的に二次加工が認められる。	
20-00022	石器 打製石斧	包含層 完形	長18.0・刃部幅10.0・厚2.6・重530	粗粒輝石安山岩	基部で欠損品の接合。刃部先端の刃先角は鈍角。刃部の摩滅が認められる。	
20-00023	石器 打製石斧	包含層 上端欠損	残存長11.0・刃部幅11.9・重219	粗粒輝石安山岩	先端側の破片。薄い作りのためか刃部の調整は小単位に行っている。刃先角は鈍角。	

遺構外

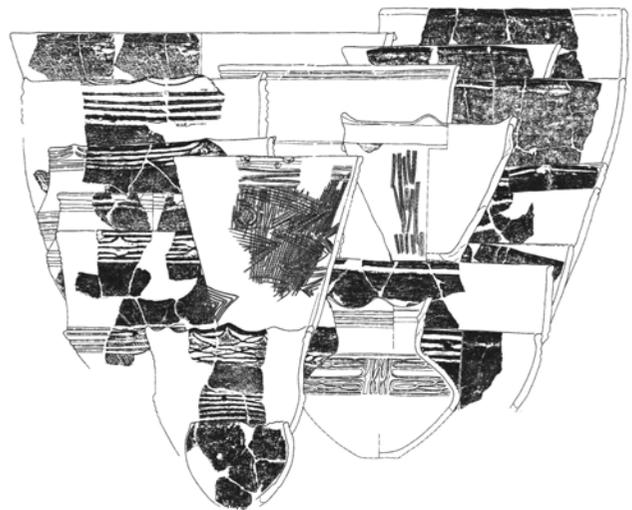
遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00177 42	瓦 棧瓦か	5区内 破片	厚1.5	還・硬・灰・並・白色粒子	端部に刻印「林木」か。棧瓦か本瓦(女瓦)かは判断としない。	
40-00013	喫煙具 雁首	7区内 破片	残存長5.4・重14.4		火皿は小さく低い。真鍮製。	
10-00178	軟質陶器 内耳鍋	5区試掘 破片	厚0.9	還・並(燻焼成)・黒褐・白色微粒子・細砂粒	内耳鍋の耳部。耳は粘土紐を挿入装着後整形。口縁部と体部の境が明瞭な器形。	安中産
10-00179	軟質陶器 搦鉢	5区内 破片	厚0.9	還・並(燻焼成)・黒褐・白色微粒子・黒色粒子・粗粒砂	口唇部の摩滅は顕著。紐作り後轆轤整形か。	乗附産か
10-00180	軟質陶器 搦鉢	5区内 破片	厚0.9	還・硬(燻焼成)・オリーブ黒・並・白色微粒・赤褐色粒子	口唇部の摩滅は顕著。紐作り後轆轤整形か。	
10-00181	軟質陶器 搦鉢	4区内 破片	厚1.1	酸・並・鈍黄橙・並・石英雲母片岩粒・細砂粒	18本一単位の卸目を交差施文。紐作り後轆轤整形。	吉井産
10-00182	施釉陶器 灰釉花瓶	5区内 破片	胴(6.6)	還・締・浅黄・密・釉調はオリーブ灰	頸部に櫛目の回転施文。仏華瓶か。	
20-00024 42	石造品 五輪塔		長24.0・風径15.2・空径13.6・重3970	安山岩	直線的な作りの空風輪。それぞれに、梵字「ア」・「バ」を刻書する。	
30-00036 30	漆器 椀		径(8.8)		黒漆を直接塗布。高台の内側に金漆で亀(?)を描く。口縁部はほぼ直立か。	
10-00183	土師器 壺	6区As-B 下破片	底(4.8)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・白色粒子	立ち上がりから上位を欠損する。底部は厚い作り。	
10-00184 42	施釉陶器 灰釉碗	5区内 破片	口(15.2)	還・締・灰白・密・釉調はオリーブ灰	施釉は刷毛塗り。轆轤右回転成整形。底部は欠損。	
10-00185	須恵器 坏	5区内 破片	口(9.6)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微粒子	器厚は厚い。口縁部は直立し外傾する。轆轤右回転成整形、底部は手持ち寛削り。	秋間産
10-00186	土器 埴場か	5区内 破片	厚0.85	灰・白色粒子	二次的高温被熱に依り器面はカセ荒れている。埴場か取り瓶。	秋間産
10-00187	須恵器 坏か	5区内 破片	厚0.55	黄灰・白色粒子	二次的高温被熱に依り器面はカセ荒れている。埴場か取り瓶。	秋間産
10-00188	須恵器 坏か	5区内 破片	厚0.6	灰・白色粒子・細砂粒	二次的高温被熱に依り器面は発泡しカセ荒れている。埴場か取り瓶。	秋間産
10-00189	須恵器 坏	5区内 破片	厚1.1	灰白・白色微粒子・黒色粒子	二次的高温被熱に依り器面は発泡しカセ荒れている。埴場か取り瓶。	秋間産
40-00014	鉄器 不詳	6区内 破片	残存長5.6・幅0.45・重7.0		錆化が顕著。鍛造鉄器。断面類正方形を呈する。器種は不分明。	
40-00015	鉄器 不詳	7区内 破片	残存長4.6・幅0.4・重7.0		錆化が顕著。鍛造鉄器。断面変形を呈する。器種は不分明。	
40-00016	鉄器 不詳	7区内 破片	残存長5.6・幅0.65・重11.0		錆化が顕著。鍛造鉄器。断面長方形を呈する。器種は不分明。	
40-00017	鉄器 不詳	7区内 破片	残存長5.9・幅0.5・重4.0		錆化が顕著。鍛造鉄器。断面長方形を呈する。器種は不分明。	
40-00018 42	鉄塊	5区内 完形	長2.55・幅2.1・厚1.28		錆化が顕著。銃鉄塊か。	
20-00025 42	石製品 不詳	調査区内 部分欠損	長24.8・幅22.8・高13.1・重4200	角閃石安山岩	中央を四角く彫り込み、縁の一部に刻り込みをを施す。	
10-00190 42	土師器 台付甕	5区C黒 下破片	口15.3	酸・並・鈍橙・細砂粒・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	口縁部中位から刷毛撫でをを施す。口縁部は寛による回転成整形。	
10-00191 42	土師器 台付甕	2住覆土 破片	基部5.1	酸・並・鈍橙・細砂粒・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	基部の付加粘土は明瞭ではない。体部は直線的に立ち上がる。10-00190と同一個体か。	
10-00192	土師器 壺	4区2溝 内破片	口16.8	酸・並・浅黄橙・並・白色粒子・黒色鉱物粒子	複合口縁。外面は風化が顕著。磨き整形の痕跡が認められる。	

第4章 中里見中川遺跡

10-00193	弥生土器壺	6区1溝内破片	厚0.58	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒・白色粒子	横線区画の上位に単節LR原体を横転施文し、下位に列点文を施文する。
10-00194	弥生土器壺	4区内破片	厚0.6	酸・並・黄橙・並・細砂粒・白色粒子・黒色鉱物粒子	コンパス文か。細片のため詳細不分明。
10-00195	弥生土器壺か	5区内破片	厚0.75	酸・並・浅黄橙・並・細砂粒・白色粒子・黒色鉱物粒子	篋状の工具の横撫でが認められる。細片のため詳細不分明。
10-00196	弥生土器壺	4区2溝内破片	厚0.5	酸・並・鈍橙・並・細砂粒・白色粒子	頸部に5本+α一単位の廉状文を施文する。
10-00197	弥生土器壺	4区2溝内破片	厚0.85	酸・並・鈍橙・並・細砂粒・白色粒子	8本一単位の波状文をランダムに施文する。
10-00198	弥生土器壺	4区2溝内破片	厚0.6	酸・並・黄橙・並・細砂粒・白色粒子・黒色鉱物粒子	3本一単位の波状文を施文する。
10-00199 42	弥生土器壺	4区1溝内破片	底9.0	酸・並・軟・浅黄橙・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	外面は斜位の篋磨きをを施す。器内面は摩滅により整形痕は認められない。
10-00200	縄紋土器深鉢	5区1溝内破片	厚0.84	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒・白色粒子	直線的口縁部に3条の平行沈線を横走させる。
10-00201	縄紋土器深鉢	7区内破片	厚0.75	酸・並・鈍橙・並・粗粒砂・白色粒子	直線的口縁部に5条の平行沈線を横走させる。
10-00202	縄紋土器深鉢	7区内破片	厚0.7	酸・並・浅黄橙・並・粗粒砂・赤褐色粒子・白色粒子	地文に単節RL原体を横転施文し刻みを入れた浮線文を横位に3条を施す。
10-00203	縄紋土器深鉢	7区内破片	厚0.7	酸・並・浅黄橙・並・粗粒砂・赤褐色粒子・白色粒子	10-00202と同じ。同一個体個体。
10-00204	縄紋土器深鉢	6区黒色破片	厚0.7	酸・並・黄橙・並・粗粒砂・赤褐色粒子・白色粒子	9本一単位の櫛目文をを施す。
10-00205	縄紋土器深鉢	6区2溝内破片	底(9.9)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・白色粒子	底部は平底の底面から鈍角に立ち上がる。文様は認められない。
10-00206 213	縄紋土器深鉢	5区C黒下破片	厚0.7	酸・並・黒褐・並・細砂粒・赤褐色粒子・白色粒子	底径広く底部の立ち上がりはきつい。縦位の研磨が胴部下半部を充滿させている。胴部上位で内湾気味に窄み口縁部が立ち上がる。口縁部は10-00206から平縁か、4単位の櫛状の取手が付くと思われる。文様は胴上位、口縁部の境に沈線表出の連弧文。弧線文間には、刻みを入れた瘤文を配している。上位に横線を全周させ、その上位に列点刺突文を伴う弧線入り組み文を配する。
20-00026	石器剥片石器	2住覆土完形	長3.9・幅1.3・厚0.8・重3	チャート	縦長剥片の一部に刃部加工と思われる小単位の剝離が認められる。
20-00027	石器石鏃	1住覆土部分欠損	残存長2.8・幅1.6・重1.0	黒曜石	平根三角形腹袂式。先端と片側の腹袂を欠損する。腹袂は長く鋭い。
20-00028	石器打製石鏃	5区As-C下水田	長14.4・幅刃部10.4・厚3.5・重533	粗粒輝石安山岩	基部より上位は欠損か。

第5章

中里見根岸遺跡



中里見根岸V層出土

第5章 中里見根岸遺跡

第1節 調査の概要

第1項 試掘調査

中里見根岸遺跡の試掘調査は、用地取得直後に(国道406号線西側・原遺跡側)、遺構面深度確認のために実施した試掘調査と、本調査直前に同様に遺構面内容確認のために実施した試掘調査の都合二回にわたり実施した。前者は前述したが、平成5年6月13日に実施した。後者は、平成6年4月21日から同26日まで客土層の除去を行い、同27日を使い試掘調査を実施した。調査はトレンチ調査とし、前者は3本、後者は1本のトレンチを設定して実施した。

この結果、第1トレンチでは台地崖面からAs-B降下面が確認出来、第2トレンチでは-2.5mでAs-B降下面が確認出来、第3トレンチでは同面まで-2.6mであった。この国道西側では遺構面までの深度が-2.6mあることが確認出来、調査時期の問題もあろうが、湧水も比較的多かった。遺構面は、As-B降下面であることが判断できた。だが、国道に面する調査区が深度-2.6mで、なおかつ湧水があることにより、表土掘削可能か否かという問題も一方では惹起した。

本調査直前の試掘調査では、客土層の撤去に時間を費やす結果であったが、旧地表面(客土段階)下-50cmにIII層土、-60cmでIV層土、-80cmでV層土が確認出来、中川遺跡の調査所見から、当該遺跡も3面の調査面が見込まれた。

第2項 本調査

本調査は、上述後段の試掘調査の終了同時に着手した。国道を挟み東の烏川側を1区とし、西側を2区として着手した。1区ではIII層土面の露呈を旨に開始したが、表土層の掘削はIV層土面の露呈に勤めた。これは、III層土の層厚は5cmから8cmと薄かったため、確実な確認面として同面を露呈させた。また、表土層掘削中にAs-Bが部分的に確認出来た。同部ではAs-B下水田跡が発見されている。表土掘

削と並行して遺構確認を実施した。この結果、溝状遺構3条・住居跡3基・土坑35基・鍛冶炉等を確認した。

第1調査面はAs-B下水田跡の調査であり、限定された範囲であったため短期間で調査は終了し、同部分を第2遺構面のIV層上面まで掘削し、調査区内をIV層上面に統一して第2調査面の遺構調査に着手した。

第2遺構面では、平安時代10世紀後半頃の遺構群の発掘調査を実施し、平成6年6月7日に第2調査面終了した。この第2遺構面で発見された住居跡等は、中川遺跡で発見された住居跡と同時期の住居跡であった。このことは、短時期に集落構成を成し、鉄生産と鉄製品生産を行い、短期で移動又は廃絶し、後に水田化されていることが判明した。

第3調査面は、IV層土下のV層土は縄文晩期の包含層(千網式)であった。調査はグリッドにセクションベルトを設定し、各グリッド毎に掘り下げた。そして、IV層土内からの出土遺物は取り上げ収納し、V層土内出土遺物については必要な記録を作成し個別に収納した。遺物収納後、第3遺構調査面を平面精査を行ったが、遺構・落ち込み等は確認出来なかった。

第3遺構調査面の調査終了後、重機で青灰白色から黄橙色の地山シルト層を露呈させ平面精査を行ったが、やはり遺構・落ち込み等は確認出来なかった。そして、この平面確認終了後埋め戻しを実施し、平成6年7月21日当該遺跡の調査を終了させた。

2区は、1区の表土掘削終了後着手した。調査区が狭い調査範囲でもあったことから、前年度のトレンチを設定した間隙を調査する形で、やや広いトレンチ調査区を設定し、1区で確認されたAs-B水田跡が2区に広がる想定で調査を開始した。しかし、As-B層まで掘削し、As-B層を除去したが遺構は確認出来なかった。このため平成6年5月12日当区の調査を終了させ、埋め戻しを行った。

第2節 発見された遺構・遺物に就いて

第1項 発見された遺構・遺物の概要

中里見根岸遺跡は、2区東端で中川遺跡6区と接続する。このため、遺跡内容は中川遺跡6区と同じであり、前章でも述べられたように同一の遺跡である。

根岸遺跡で発見された遺構は、As-B 下水田跡・住居跡3基・溝状遺構3条・土坑35基、鍛冶炉1基と、縄文時代晩期（千網式）包含層が発見されている。この内容が中川遺跡6区と重複している。差違は遺構の頻度と遺物量の違いである。

上述の遺構の構築経過は、溝状遺構→土坑→住居→水田か、溝状遺構→土坑・住居→水田の順位で構築されている（土坑と溝状遺構の新旧関係は直接確認できた場合に依る）。遺跡内の変遷は上記二者のどちらかであろうが、土坑の意義を生活の痕跡として捉えることと、土坑と住居跡の切り合い関係が直接的確認出来たのは2号住と24号土坑だけで（24号土坑は近世以降）あることは、双方が共存状態であったことが窺える。このことから、変遷は後者の在り方であったことが類推される。

住居跡は形状及び竈の位置により2分類出来た。第2号住居跡は竈を東壁中央に据える横長方形の住居跡で、中川遺跡遺跡で発見されている第4号住居跡（以下、第X号住居跡は「X号住」と略記）に代表される形態である。もう一方は1・3号住で、縦長方形の南東隅部に竈を据えている。この双方の所謂「コーナー竈」には軸方向により異なりが見出せ、1号住は竈の軸方向がまだ東方向よりに向いているが、3号住の竈は住居の対角線方向に構築している。従前に置ける筆者の所見によれば、後者の3住居の方が新しい傾向にあると考えられる。しかし、出土遺物は明快な出土状況ではなく、敢えて中川遺跡を含めても齟齬のない状況であろう。この中、1号住出土の10-00003・00004、2号住出土の10-00013は底径が大きく須恵器内黒埴段階よりやや下がった10世

紀末頃から11世紀初頭頃の年代観が与えられよう。

1号溝は土層断面の状態から、住居が構築される段階には機能を停止していたと判断されるものの、上限は明らかではない。また、遺構外出土遺物でも10世紀後半を明らかに遡る資料は見出せなかった。

そして、As-B 下水田跡はAs-Bの推定降下年代天仁元年（1008）を年代の根拠とすれば、当遺跡の存続期間は60年間位という推定が導き出せる。

第2項 住居跡（第102～109図）

住居跡は3基が発見されている。住居形状等の特徴は既述のとおりであり、ここでは、出土遺物に就いて特に瓦に就いて若干触れておきたい。

瓦は1号住（10-00012）・2号住（10-0017）・3号住（10-00023～00027）の掲載資料と未掲載の少破片が数点ある。10-00012・00017が女瓦、00023～00027が男瓦である。男瓦は、秋間古窯跡で生産された半截作りで凸面には単軸絡条体rのローラーで締められて整形されている。女瓦も秋間古窯跡産で、一枚作り、凸面は男瓦同様に単軸絡条体lのローラーで整形されている。この整形の特徴は、8世紀末から9世紀前半に比定される組瓦であり、汎山王秋間系の寺院と国分寺に供給されている。ここ里見地区は、秋間古窯跡に至近の位置としても、150年以上遡った時期に、完形個体が纏まって出土することは、秋間古窯跡から直接持ち込まれたのは考え難く、近隣の瓦使用の施設、又は放置物の収集と考えざるを得ない。ここ里見地区には、当遺跡の至近の位置に里見廃寺遺跡が在り、同廃寺でも同種の瓦葺建物が発見されたことが確実である。これらの根岸遺跡出土の瓦は、この里見廃寺から直接的に持ち込まれた可能性が濃厚である。このことは、この時期まで、完形状態を維持した瓦が里見廃寺乃至至近の位置に在ったことを示唆しており、完形瓦を屋根から下ろしての持ち出しは考え難いことから、里見廃寺が機能を停止していたか、既に建物大きな変質が生じていたことが窺える。即ち、里見廃寺の瓦葺建物の存続期の下限を第3号住の構築時期としての10世紀末葉を設定しておきたい。

この意味では、当該瓦の別な一面での存在意義は大きいものがある。

第3項 鍛冶炉 (第114図)

鍛冶炉は、調査段階から傍らで発見された6号土坑と共存関係が想定され、調査もその旨で進めた。

鍛冶炉の確認面での状況は、同心円状に被熱の範囲が色調を違えて確認出来た。中心部分はⅢ層土を主体とする覆土で、外側に向かい酸化焰焼成の熱反応によるⅢ層土(地山土)の色調変化が認められ、橙・黄橙・浅黄橙に変化していた。しかし、掘り下げた結果、-13cm程で底面に達してしまい、発見部位が、底面周辺であったことが判明した。

6号土坑は、1号炉の北東0.75mの至近に位置する。長楕円形の形状は0.6m×0.32mの小規模な土坑である。この小規模な土坑の上層からは、被熱し破砕された礫が多く出土し、更に、この礫の下からは、錆化した無数微細剝離鉄片が層状態で塊状になって出土している。沈殿現象に因る堆積と推定出来、炉での加熱と、鍛打、この土坑での水打と解釈出来き、小鍛冶の工房であることが判断出来る。また、水打土坑の形状・規模からすれば、比較的小形器種の鍛造を行っていたことが推定できる。原遺跡32号住出土の鉄器(鎌・鋤)の様相から、ここでも鎌・鋤などの農耕具が主体であったと類推出来る。

この施設は光を遮断しない限り有効的な生産活動が成し得ない。この遮光施設は、竪穴等の施設が認められなかったことから、掘立柱建物等の施設を想定しなければならない。しかし、発掘調査段階では、周辺の平面精査を十分に行ったが、柱穴等の施設痕跡は認められなかった。推定される生活面は、確認面の上位20~30cmであることから、建物は軽易な「小屋」的な造りであったことが想起され、継続使用に因る痕跡も希薄なことから、この様子が裏付けられる。

時期は、周囲の遺構(中川遺跡から発見されている遺構を含める)から10世紀後半頃と推定され、集落に併設されて事も推測させる。

第4項 縄文晩期包含層 (第117~128図)

縄文晩期包含層は、Ⅴ層土が相当する。当該Ⅴ層

土は、暗褐色土層細粒状の軽石粒少量混入している。この層状は概ね4遺跡で共通する。当遺跡では、軽石同様の白粒子を僅かに混入している。鏡下での観察は行っていないため明確ではないが、晩期前半の包含層に特徴的な焼骨粒とは異なる夾雑物である。

第117図には遺物の平面分布を掲載した。また、同図中には遺物収納後の、ほぼⅤ層とⅥ層との層界面での標高を等高線で微地形を図化してある。主曲線間は10cmである。この微地形は凹地に形成しており、縄文晩期の特徴的な占地が窺知できる。

出土遺物は、この面の直上位から上位約20cmの間で出土し、第118~125図の土器類と、第126~128図の石器類である。土器類は、浮線工字文・網状文に代表される千網(I)式の土器群である。

出土した土器類は、精製土器・粗製土器があり、精製土器には皿形・浅鉢形・鉢・深鉢形・甕・壺形等がある。また、精製土器には、有文研磨黒色燻しと無文磨施黒色燻し・無燻しの三者がある。

工字文は沈線・浮線文の二者がある。器種による施文部位の違いもある。破片個体であるため詳述は避けるが、前者には小型の鉢類に多く、沈線部分の小瘤を配し工字文を表出し(10-00092・93)、三条の沈線の上下を繋ぎ表出する個体がある(10-00084)。後者は中規模以上の鉢・深鉢・甕等に認められる。類例は多く10-0062・81~83・119が代表例である。また、肩部の張る器形の肩部の沈線に小瘤乃至小角状の施文で工字文を表出個体がやや多い。

浮線網状文では、10-00116・117・176が代表する。117は大小の5単位波状口縁。176は縦位区画に施文する珍しい類例である。

菱形文は10-00175がある。胴部は撚糸縦位充填後6条の沈線による雷門と間隙に同心円文を施している。

当遺跡の特徴要素として、甕類の出土が多いことが挙げられる。器種組成・文様構成からは、千網I式に同定出来る。

第5項 根岸・中川遺跡出土に須恵器類

当該の根岸遺跡は10世紀末から11世紀前半の住居

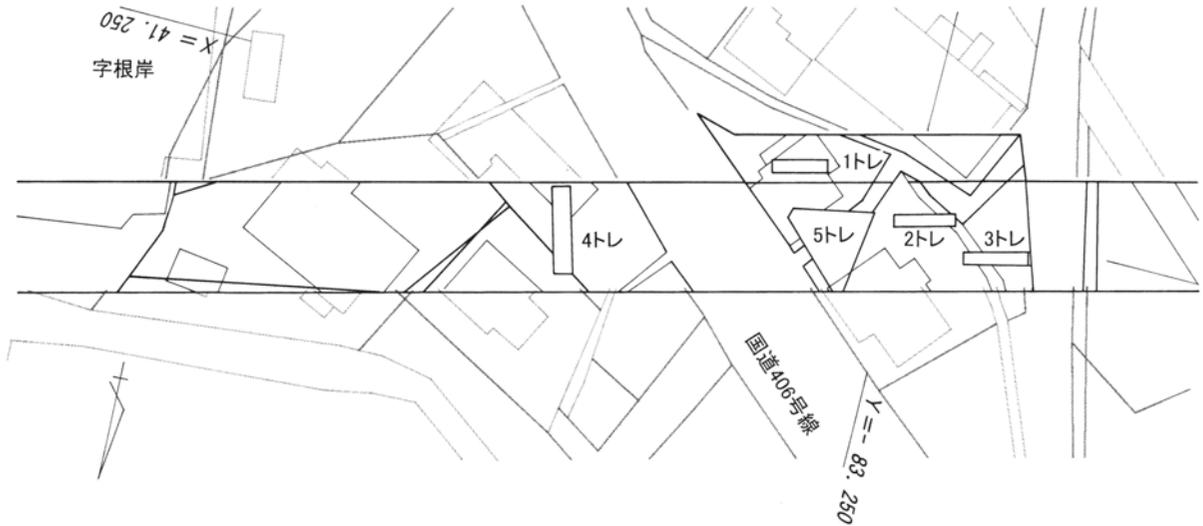


図5 試掘トレンチ設定図（1：800）

跡3基が発見されており、隣接する、中川遺跡でも同時期の住居跡が7基発見されている。この中川遺跡としている部分は、字名称が根岸であり、正しくは根岸遺跡に含まれる。恐らく地形の変換部分で字名を変えたものと思われ、自ずと、古代住居占地要件に合う部分が台地寄り側の字根岸であり、烏川寄りが字中川である。今回はこの同一遺跡を事業名称で分断はしているが、元来は同一遺跡である。

この住居跡の発見されている部分（以下、根岸遺跡とする）は向井川の支流にあたり、塚崎（泉福寺古墳群を擁する舌状台地）と根岸を分断する小河川である。根岸遺跡はこの右岸側に当る。

ここで発見されている住居跡からは、台地上の原遺跡とは異なり、内黒土器を主体とする出土遺物多数発見されており、製鉄・鍛冶関係の遺構も多いことが特徴に挙げられる。ここでは、原遺跡で住居が廃絶されてから住居が構築されている。

出土した土器類の内黒土器と酸化焰焼成の須恵器坏埴類は、内面研磨と内面黒色燻を除けば、器形・胎土はほぼ同一である。器形の特徴は、直線的に立ち上がる器厚の薄い作りで、轆轤も緩やかに丁寧に挽いている。轆轤の回転は右回りである。この直線的・器厚が薄いことは、秋間古窯跡群の焼造品の特徴でもあり、外反の吉井古窯跡群、腰部の張る乗附古窯跡群と利根川西部地区の各古窯跡群の特徴から

しても、当該の土器群は秋間古窯跡群の特徴を備えている。しかし、胎土が秋間古窯跡の陶土ベースとは異なり、比較的緻密な粘土ベースであり、秋間古窯跡群の胎土特徴とは異なっている。

この直前の10世紀代は、県中央部（国府周辺を中心とする群馬郡域）でも秋間古窯跡群の製品は一切供給が閉ざされたかの状況で、既に閉窯したかのかと推定せざるをえない実態である。しかし、後述する原遺跡では、器形・胎土等の特徴から、秋間古窯跡群の製品であろうと考えられる須恵器坏・埴類を多く観察出来た。このことは、外部への供給が極度に低下し秋間古窯跡群周辺乃至碓氷郡内に限定した供給に成り果てたものと考えられ、10世紀末には、秋間古窯跡群は閉窯期に達したと推定される。

この閉窯期をもたらした原因・要因は現段階では未だ究明出来得ないが、今回の根岸遺跡で出土した内黒土器・須恵器類は、ただ単に器形の類似・技法の類似ということが特徴的なことだけではなく、秋間古窯跡群の閉窯期の原因・要因を含めた背景を探る上では重要な意味がある。

更に10世紀以降秋間古窯跡群に替わり県中央部にも主体的に供給を開始する吉井古窯跡群の存在を含め、窯業生産体制の変容を探る上でも重要な意義をも含んでいることを推測させる。

中里見根岸遺跡遺構諸元一覧（規模・土層説明等）

溝状遺構

第2・3号溝状遺構 位置：19地区23区B・C-13・14グリッド。 規模：2溝発見長4.2m・幅0.8～1.8m。3溝発見長3.45m・幅0.48～1.48m。

層序（基準線標高値168.50m）1. 黒灰色粘質土 粒状C軽石少。 2. 灰色粘質土 小塊状地山白色粘質土含。 3. 灰色粘質土 塊状地山白色粘質土多。

第1号溝状遺構 位置：19地区22・23区Q～T-16・17グリッド・23区A～C・13～15グリッド。 規模：発見長37m・最大幅1.15m。

層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色砂質土 白色軽石（0.5～1.0mm）含。 2. 暗褐色砂質土 砂質主体。 3. 灰褐色砂 砂主体。 4. 暗褐色粘質土 砂を少量含む。 5. 灰褐色砂 ラミナーの間層に黒褐色粘質土を含有。 6. 灰褐色砂 ラミナー。 7. 5近質。 8. 6同質。

住居跡

第1号住居跡 位置：19地区22区m・N-19グリッド。 形状：縦長方形。 規模：3.7m×2.85m。 基準構築辺：西壁。 主軸方位：北-89度分一東。

竈規模：長1.22m×前面幅1.14m×燃焼部幅0.55m。

層序（基準線標高値168.70m）1. 暗褐色 粒状C軽石少・塊状黄褐色土少・炭化物少。 2. 暗褐色 粗粒粒状C軽石少・塊状黄褐色土少。 3. 暗褐色 粒状C軽石・塊状黄褐色土混。 4. 暗褐色 黄褐色軽石少。 5. 暗褐色 粒状C軽石少・黄褐色軽石多。 6. 暗褐色 粒状C軽石・黄褐色軽石多・粒状焼土含。 7. 暗褐色 粒状C軽石含・粒状焼土少。 8. 暗褐色 粒状C軽石含・塊状灰褐色土少。 9. 暗褐色 粒状C軽石含・小塊状V層土少。 10. 塊状灰褐色土少。 11. 暗褐色 粒状C軽石含・塊状灰褐色土少・粒状焼土含。 12. 暗褐色 粒状C軽石若・塊状灰褐色土多・小塊状焼土含。 13. 暗褐色 塊状灰褐色土多・塊状焼土少。 14. 暗褐色 粒状C軽石微・塊状灰褐色土含・粒状焼土少。 15. 暗褐色 黄褐色軽石多・炭化物・粒状焼土少。 16. 15近質（礫を多量み包有）。

第2号住居跡 位置：19地区22区S・T-15グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.89m×2.98m。 構築基準辺：西壁。 主軸方位：北-94度一東。

竈：詳細不分明。

層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 粒状C軽石多・小塊状VII層土混。 2. 暗褐色 粒状C軽石含・粗粒状VII層土少。 3. 暗褐色 粒状C軽石少。 4. 暗褐色 粗粒粒状C軽石混・塊状IV・V層土・地山砂質土乃至第1溝状遺構覆土の混土。 5. 暗褐色 粒状C軽石含。 6. 暗褐色 粒状C軽石含。 7. 暗褐色 粒状C軽石多。 8. 暗褐色 細粒粒状C軽石若。 9. 地山 VII層土（塊状淡黄褐色シルト）。 10. 8同質。 11. 袖。 12. 暗褐色 塊状焼土含。

第3号住居跡 位置：19地区23区C-12・13グリッド。 形状：縦長方形。 規模：3.70m×3.0m。 構築基準辺：不詳。 主軸方位：北-46度一東。 竈：詳細不分明。

層序（基準線標高値168.80m）1. 黒灰色粘質土 小塊状灰色粘質土多。 2. 黒灰色粘質土 塊状灰色粘質土多。 3. 黒灰色粘質土 小塊状白色粘質土含。 4. 灰褐色砂質土 粒状C軽石若・砂礫多。 5. 灰褐色砂質土 砂礫若。 6. 灰褐色砂質土 砂礫主体（ラミナー含）。

竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構 位置：19地区22区T-14・15・23区A-14グリッド。 形状：不整形。 規模：長2.9m×2.1m。 主軸方位：北-131度一南。

層序（基準線標高値168.20m）1. 黒色粘質土 塊状灰色粘質土多。 2. 黒色粘質土 塊状褐色砂質土・塊状灰色粘質土多含。

土坑

第1号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 暗褐色 粒状C軽石含。

第2号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 人為層 IV・V層の混土。 2. 暗褐色 IV層土ベース・粒状C軽石少。

第3号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 茶褐色（鉄分の混入の影響と思われる、発色が茶褐色傾向に傾く）粒状C軽石混。

第4号土坑 覆土は2号土坑の1層に同質。

第5号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石混。 2. 暗褐色 IV層土ベース粒状C軽石含。 3. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石少。

第6号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 濁暗灰褐色土 粒状C軽石混・微細鉄片極多。

第7号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石混。 2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石少。

第8号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石含。 2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石少・粗粒粒状C軽石含。

第9号土坑 層序（基準線標高値168.70m）1. 暗褐色 粒状C軽石多。 2. 暗褐色 粒状C軽石多・小塊状IV層土含。 3. 暗褐色 V層土主体・粒状C軽石含。

第10号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV層土ベース粒状C軽石少。

第11号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石多。

第12号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石多。 2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石少・礫多。

第13号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石含。 2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石少。

第15号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 茶褐色 粒状C軽石多・小塊状IV層土含。

第16号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 粒状C軽石多・小塊状IV層土含。 2. 灰暗褐色 V層主体・塊状暗褐色粘質土多・粒状C軽石少。 3. 灰暗褐色 V層主体・塊状暗褐色粘質土多・塊状黄褐色土少。 4. 灰黒褐色 V層主体・塊状暗褐色粘質土多・塊状黄褐色土少。

第18号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 粒状C軽石少・小塊状IV層土含。 2. V層土主体・粒状C軽石若。

第19号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石細粒少。

第20A号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石細粒少。 2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石微。

第20B号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 V層主体・粒状C軽石少。

第21号土坑 層序（基準線標高値168.80m）暗褐色 IV層の混土・粒状C軽石細粒微。

第22号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 IV層主体・粒状C軽石少。

第23号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 V層主体・粒状C軽石少。

第24号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 粒状C軽石多・小塊状VII層土混。 2. 暗褐色 粒状C軽石含・粗粒状VII層土少。 3. 暗褐色 粒状C軽石少。

第25号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 V層主体・粒状C軽石混。

第26号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状VII層土多・粒状C軽石若・塊状炭化物少。

第27号土坑 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状VII層土多・粒状C軽石若。

第28号土坑 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状VII層土多・粒状C軽石若。

第29号土坑 層序（基準線標高値168.30m）1. 灰暗褐色粘質土 V層主体・粒状C軽石若。

第30号土坑 層序（基準線標高値168.10m）1. 黒褐色粘質土 VII層土主体・粒状黄色土含。 2. 黄褐色粘質土 細礫含・粗大塊状暗褐色土含。

第31号土坑 層序（基準線標高値168.40m）1. 黒褐色粘質土 VII層土主体・粒状黄褐色土含。

第32号土坑 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状VII層土多・粒状C軽石若。

第33号土坑 第1号溝状遺構の調査時に溝状遺構の一部として調査したため、詳細不分明。平安時代の所産が推定される。

第35号土坑 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C軽石細粒少。

中里見根岸遺跡出土遺物観察表

第1号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00001	須恵器 内黒埴	覆土内 細片	厚0.38	酸・並・鈍黄橙・並・細粒雲母・シルト粒子・赤褐色粒子	口縁部の細片。摩滅が及んでいる。器内面は研磨後燻す。	産不詳
10-00002	須恵器 羽釜	覆土内 細片	厚0.7	還・並・灰・並・白色粒子・黒色鈹物粒子	口唇部は平坦。鐏の直下に最大径を有する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐏は貼付け。	秋間産か

第1号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00003 49	須恵器 坏	甕内 完形	口9.4・高2.5・底4.3	酸・並・黄橙・並・シルト粗粒子・赤褐色粒子	器厚は厚め。腰部は丸味を帯び直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00004 49	須恵器 埴	覆土内 2/3残	口(12.6)・高5.8・底7.8	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・黒色鈹物粒子	腰部は丸く口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	甘楽地域か
10-00005 49	須恵器 埴	甕内 2/3残	坏底6.75 底(9.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色粒子・黒色鈹物粒子	足高高台埴。口縁部側を欠損する。高台は薄く「ハ」の字に開く。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か
10-00006 49	須恵器 甕	甕内 破片	口(25.4) 胴最(25.6)	酸・並・鈍橙・密・白色微粒子軽石粒	口縁部は緩やかに外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部は縦位の篋削り	秋間産
10-00007	須恵器 甕	甕内 破片	口(24.8) 頸24.3	酸・並・鈍黄橙・粗・粗粒砂・黒色鈹物粒子・白色鈹物粒子	頸部は厚く口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形か。縦位の篋削りが顕著。	産不詳
10-00008 49	須恵器 羽釜	甕内 1/3残	口(23.4) 鐏(26.7)	酸・並・鈍黄橙・粗・粗粒砂・黒色鈹物粒子・白色鈹物粒子	弾頭形の器形。鐏は広く断面三角形。縦位の篋削りが顕著。紐作り後轆轤整形か。	産不詳
10-00009 49	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(24.4) 鐏(28.8)	酸・硬・明赤褐・並・白色微粒子・赤褐色粒子	鐏は広く断面三角形。轆轤整形痕を顕著に起こす。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐏は貼付け。	産不詳
10-00010 49	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(26.0) 鐏(30.9)	酸・並・鈍黄・並・シルト粒子・夾雑物少	弾頭形の器形。鐏は広く断面三角形。縦位の篋削りが顕著。紐作り後轆轤整形か。	秋間産か
10-00011 49	須恵器 羽釜か	甕内 1/2残	底7.8	酸・軟・鈍黄橙・並・粗粒砂・小円礫	弾頭形羽釜の胴下半部か。篋削りは斜位。内面は掻き上げ状態の篋撫でを施す。	産不詳
10-00012 49	瓦 女瓦	甕内 破片	厚1.6	還・軟・灰・並・白色粒子・黒色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体1の回転施文。凹面に模骨痕の一部が認められる。	秋間産
20-00001 49	石器 擦石	覆土内 完形	長14.1・幅8.8・厚3.9 ・重832	粗粒輝石安山岩	扁平面の一辺が摩滅する。小口から側部にかけて吸炭が認められる。	

第2号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00013 50	須恵器 坏	甕内 完形	口10.5・高3.7・底6.0	酸・並・浅黄橙・シルト粒子・赤褐色粒子・細砂粒	器厚は薄い。直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は静止糸切り。	秋間産か
10-00014 50	須恵器 坏	甕内 破片	口(12.2)・高3.5・底(5.4)	酸・並・鈍橙・並・白色微粒子・シルト粒子・微砂	体部は丸味を帯び口縁部は外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00015	須恵器 羽釜	床直層 破片	口(24.0) 鐏(27.6)	酸・並・明赤褐・並・白色微粒子・黒色鈹物粒子	口唇部は平坦。鐏は小さく断面は三角形を呈する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐏は貼付け。	産不詳
10-00016 50	瓦 転用円盤	床直層 完形	長2.6・幅2.0・厚1.1	還・軟・灰・並・黒色粒子・白色粒子	女瓦片の転用円盤。作りは一枚作りか。	秋間産
10-00017 50	瓦 女瓦	床直層 破片	厚1.9	還・軟・灰白・並・黒色粒子・白色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体1の回転施文。側部は縦位の撫でを施し、側部喚出段を消している。	秋間産
20-00002	石製品 砥石	床直層 両端欠損	残身長10.0・幅5.6・厚3.8・重199g		四面に使用が認められるが、安定している面は一面のみであることから、置砥使用と考えられる。	
20-00003	石器 敲石か	甕内 完形	長4.5・幅4.2・厚2.6 ・重77g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕は認められない。	

第3号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00018	須恵器 埴	覆土内 破片	厚1.0	還・並・灰白・並・シルト粒子・白色粒子	大形の埴の見込みに有機質が付着する。	秋間産
10-00019 50	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(19.4) 鐏(24.2)	酸・並・鈍黄橙・並・高温石英・黒色鈹物粒子・白色微粒子	口縁部が内傾する。鐏は断面三角形で大きい。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐏は貼付け。	吉井産
10-00020 50	須恵器 羽釜	覆土内 1/4残	口(21.2) 鐏(26.0)	酸・並・鈍橙・並・高温石英・細粒雲母	器高の低い羽釜。3足の可能性も考慮される。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐏は貼付け。	吉井産か
10-00021 50	須恵器 瓶	床面直上 破片	厚0.7	還・硬・灰・密・白色微粒子	瓶の破片。表裏面に有機質の付着が認められる。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00022 50	須恵器 羽釜か	覆土内 破片	厚・0.8	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・赤褐色粒子・白色微粒子	紐作り。器外面は底部周辺は斜・横位の篋削り、胴部は縦位の篋削り。器内面は横位の篋撫で。	産不詳
20-00021 50	礫	床直層 完形	長10.7・幅11.4・厚4.3・重924g	粗粒輝石安山岩	礫面の扁平面から小口にかけて鉄分が付着する。	
10-00023 50	瓦 男瓦	甕内 破片	厚1.9	還・硬・灰・密・白色粒子・黒色粒子	半載作りか。凸面轆轤痕。凹面に粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回。	秋間産
10-00024 50	瓦 男瓦	甕 完形	長35.5・広21.0・狭12.5	還・硬・灰・密・白色粒子・黒色粒子	半載作り。凸面は轆轤痕。凹面は模骨痕。端面取りは1回、側面取り3回。	秋間産
10-00025 50	瓦 男瓦	甕 破片	厚1.2	還・硬・灰・密・白色粒子・黒色粒子	半載作り。凸面は縄叩き(密)後轆轤整形。凹面は模骨痕粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物に就いて

10-00026 51	瓦 男瓦	竈 完形	長36.3・広24.0・狭 11.5	選・締・灰・密・白色粒子・黒色粒 子	半截作り。凸面は轆轤痕。凹面は模骨痕。端部面 取りは1回、側部面取り3回。	秋間産
10-00027 51	瓦 男瓦	竈 部分欠損	長35.5・広19.3・狭 13.3	選・硬・灰・密・白色粒子・黒色粒 子	半截作り。凸面は縄叩き(密)後轆轤整形。凹面は 模骨痕粘土板剥ぎ取り痕、布合わせ目。	秋間産

第1号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00028	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.4	選・並・灰・並・シルト粒子・黒色 粒子	口縁部の細片。詳細は不分明。	秋間産

第2号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00029	須恵器 羽釜	覆土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄・並・石英・黒色鉱物 粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	産不詳

第3号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00030	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	選・軟・灰白・並・シルト粒子・黒 色鉱物粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	秋間産か

第5号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00031	須恵器 羽釜	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・明赤褐・並・軽石粒・赤褐 色粒子・白色微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	産不詳

第8号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00032	須恵器 内黒塊	覆土内 破片	厚0.35	酸・並・鈍黄橙・並・軽石粒・白色 微粒子・	轆轤右回転か。細片のため詳細は不分明。	産不詳

第9号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00033	須恵器 坏	覆土内 破片	底5.7	中・並・浅黄・並・シルト粒子・白 色微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	秋間産

第10号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00034	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.35	中・並・浅黄・並・シルト粒子・白 色微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	秋間産

第11号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00035	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.45	酸・並・黄橙・並・黄橙・赤褐色粒 子・シルト粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	産不詳

第12号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00036	須恵器 小型甕	覆土内 破片	厚0.8	酸・軟・灰・並・黒色鉱物粒子・白 色微粒子・赤褐色粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	秋間産

第13号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00037	須恵器 坏	覆土内 破片	底(5.1)	酸・並・橙・赤褐色粒子・白色微粒 子	轆轤右回転。内黒の胎土と同じ。	
10-00038	須恵器 小形甕	覆土内 破片	底(6.2)	酸・並・黄橙・並・白色微粒子・赤 褐色粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不分明。	産不詳
10-00039	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.5	酸・並・橙・赤褐色粒子・白色微粒 子	轆轤右回転。内黒の胎土と同じ。細片のため詳細 は不分明。	

第14号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00040 52	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(13.4)・高3.3・底 (7.4)	選・並・灰白・やや粗・黒色粒子・ 白色微粒子・シルト粒子	口縁部は直線的に開く。轆轤右回転成整形、底部 は回転糸切り。	秋間産

第5章 中里見根岸遺跡

第16号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00041	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・黄灰並・白色微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	秋間産か

第17号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00042	須恵器 甕か	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・赤褐・並・デイスait・透 明鉱物粒子・白色微粒子	紐作り。細片のため詳細は不明。	吉井産か

第18号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00043	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・白色 微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	産不詳

第19号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00044	須恵器 塊	覆土内 破片	口(10.0)	酸・並・鈍黄橙・並・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子	体部は丸く口縁部は短く外反する。轆轤右回転成 整形、高台欠損(付高台)。	産不詳
10-00045	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.2	還・硬・灰・密・白色微粒子	紐作り後叩き整形。平行叩きに宛具は青海波文。	秋間産

第20号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00046	須恵器 坏	覆土内 破片	硬0.5	酸・並・鈍橙・並・白色微粒子・黒 色鉱物粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	秋間産か

第21号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00047	須恵器 塊	覆土内 破片	底(10.0)	酸・並・橙・並・黒色鉱物粒子・白 色微粒子	轆轤右回転成整形、口縁部欠損、付高台。	秋間産か

第22号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00048	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・黄褐・並・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子	轆轤右回転か。細片のため詳細は不明。	秋間産か

第23号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00049	須恵器 内黒塊	覆土内 破片	厚0.35	酸・軟・オリーブ黒・並・黒色鉱物 粒子・白色微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	産不詳

第24号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00050	須恵器 甕	覆土内 破片	口(18.2)	酸・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子・ 細砂粒	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産

第26号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00051	須恵器 羽釜	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・褐・並・黒色鉱物粒子デイ サイト・赤褐色粒子	紐作り後轆轤整形か。細片のため詳細は不明。	産不詳
10-00052	須恵器 羽釜か甕	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・褐・並・黒色鉱物粒子デイ サイト・赤褐色粒子	紐作り後轆轤整形か。縦位の篋削りが顕著。	産不詳

第27号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00053 52	須恵器 坏	覆土内 完形	口10.8・高2.7・底5.4	中・並・灰黄・並・赤褐色粒子・石 英	腰部は張る。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤 右回転成整形、底部は回転糸切り。	藤岡産
10-00054	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・赤 褐色粒子	轆轤右回転。内黒の胎土。細片のため詳細は不明。	産不詳

第6号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00055	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.55	還元・軟・灰黄・透明鉱物粒子・白色 微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	秋間蛇喰 産か
10-00056	縄紋土器 深鉢	覆土内 破片	底(4.2)	酸・並・鈍橙・並・白色粒子・黒色 鉱物粒子・粗粒砂	紋様は認められない。	
10-00057 51	土製品 羽口	覆土内 部分欠損	長11.0・幅7.4・厚2.8	シルト質の胎土。	気道孔径2.6。短く使い減った羽口。珪酸の付着は 目立って多くない。	
40-00001 51	鉄器 釘	覆土内 完形	長3.7・幅0.9・重3.0 g		頭部は叩き伸し折り曲げている。	
40-00002 52	鉄滓	覆土内 破片	重232.0 g		礫片に鉄滓が融着している。	
20-00005 51	鉄滓	覆土内 完形	重1,273.0 g		礫片に鉄滓が融着している。	

第1号炉出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00058	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.7	還元・並・灰・並・透明鉱物粒子・白 色微粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	秋間産
40-00003 52	鉄滓	覆土内 完形	重77.9 g		板状の鉄滓。周囲は割れている。	

縄紋晩期遺物包含層

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00059 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.5	酸・軟・黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子・白色鉱物粒子	沈線区画内に列点刺突文。口縁部には浮線連続楕 円文を施し口唇部には大小の把手を配する。	
10-00060 53	縄紋土器 鉢	VII層土内 破片	厚0.35	酸・並・鈍橙・粗粒砂多	菱形文の交差部に刺突貼付文を施す。	
10-00061 53	縄紋土器 鉢	VII層土内 破片	厚0.45	酸・並・鈍橙・粗粒砂多	口唇部直下に LR 原体の横転施文。直下に沈線帯。	
10-00062 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.55	酸・並・鈍橙・並・細砂粒	波状口縁の把手部直下の破片。表裏施文。	
10-00063 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.55	酸・並・鈍橙・並・細砂粒	波状口縁の把手部直下の破片。表裏施文。	
10-00064 53						
10-00065 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・白 色粒子・白色鉱物粒子	山形状の把手を施す。	
10-00066 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子・白色鉱物粒子	「工」字状文の間隙部分。	
10-00067 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.4	酸・並・暗灰・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	4条の沈線帯を施す。	
10-00068 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	3条の沈線帯が認められる。	
10-00069 53						
10-00070 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.35	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00071 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 白色鉱物粒子	2条の沈線帯が認められる。	
10-00072 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍橙・並・白色鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	2条の沈線帯が認められる。	
10-00073 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・細砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00074 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.55	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00075 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 白色粒子	2条の沈線帯が認められる。	
10-00076 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.45	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・	2条の沈線帯が認められる。	
10-00077 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・細砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00078 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	2条の沈線帯が認められる。	
10-00079 53	縄紋土器 浅鉢	VII層土内 破片	厚0.65	酸・並・暗灰・並・白色粒子・透明 鉱物粒子・夾雑物今日	外面に2条の沈線帯、器内面には、横線一条が認 められる。口縁部直下には補修孔が認められる。	
10-00080 53	縄紋土器 鉢	VII層土内 破片	厚0.45	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	外面に2条の沈線帯、器内面には、横線一条が認 められる。	
10-00081 53	縄紋土器 鉢	VII層土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	浮線「工」字状文を施す。	
10-00082 53						
10-00083 53	縄紋土器 鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・細粒雲母・石 英雲母片岩粒	浮線「工」字状文を施す。	

第5章 中里見根岸遺跡

10-00084 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・暗灰・並・白色微粒子・黒色鈹物粒子・夾雑物少	浮線「工」字状文を施す。
10-00085 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.45	酸・並・暗灰・並・白色微粒子・黒色鈹物粒子・夾雑物少	先端の平らな筥による沈線表出の「工」字状文を施文する。
10-00086 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・透明鈹物粒子・夾雑物少	先端の平らな筥による沈線表出の「工」字状文を施文する。
10-00087 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・透明鈹物粒子・夾雑物少	先端の平らな筥による沈線表出の「工」字状文を施文する。
10-00088 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・暗灰・並・透明鈹物粒子・夾雑物少	口唇部を欠損する。
10-00089 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・暗灰・並・透明鈹物粒子・夾雑物少	口唇部を欠損する。
10-00090 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・透明鈹物粒子・夾雑物少	口唇部を欠損する。
10-00091 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・透明鈹物粒子・夾雑物少	口唇部を欠損する。
10-00092 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(17.4)	酸・並・黒灰・並・細砂粒	先端の平らな筥による沈線表出の「工」字状文を施文する。
10-00935 53					
10-00094 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・黒灰・並・チャート粒・夾雑物少	先端の平らな筥による深い沈線を施文する。
10-00095 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・並・透明鈹物粒子・白色粒子	先端の平らな筥による深い沈線を施文する。
10-00096 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・暗灰・並・細砂粒	先端の平らな筥による深い沈線を施文する。
10-00097 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.55	酸・並・鈍黄橙・白色鈹物粒子・黒色鈹物粒子	先端の平らな筥による深い沈線を施文する。
10-00098 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・白色鈹物粒子・黒色鈹物粒子	先端の平らな筥による深い沈線を施文する。
10-00099 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・礫片	先端の平らな筥による深い沈線を施文する。表裏施文する。
10-00100 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・アイサイト・夾雑物少	平行沈線は半截竹管により表出。内面にも一条の横線を施文する。
10-00101 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.85	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・白色粒子・夾雑物少	平行沈線は半截竹管により表出。内面にも一条の横線を施文する。
10-00102 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(23.0)・高14.7・底(8.4)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・夾雑物少	口唇部直下に横線一条を施文する。体部は縦位の寛撫で整形。
10-00103 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(28.5)	酸・並・黄橙・並・白色粒子・黒色鈹物粒子	口唇部直下に横線一条を施文する。体部は斜位の寛撫で整形。
10-00104 52	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(18.9)・高16.5・底(8.4)	酸・並・黄橙・並・粗粒砂・夾雑物少	紋様の施文は認められない。外面は斜位の寛撫で施す。底面には木葉圧痕が認められる。
10-00105 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(20.7)	酸・並・黒灰・並・粗粒砂	紋様の施文は認められなかった。口唇部は平坦。
10-00106 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.9	酸・並・黒灰・並・黒色鈹物粒子・夾雑物少	口唇部は丸い。紋様の施文は認められない。
10-00107 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・軟・白色粒子・夾雑物少・シルト質	器厚は薄い。口縁部は内湾気味。紋様の施文は認められない。
10-00108 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・白色微粒子	口唇部は丸い。口縁部は直線的立ち上がる。紋様の施文は認められない。
10-00109 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.5	酸・並・暗灰・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	口縁部は直線的立ち上がる。紋様の施文は認められない。
10-00110 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.5	酸・並・暗灰・並・黒色鈹物粒子・細砂粒	口唇部は尖っている。紋様の施文は認められない。
10-00111 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・白色粒子・黒色鈹物粒子・夾雑物少	口唇部は尖っている。紋様の施文は認められない。
10-00112 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.85	酸・並・鈍橙・並・白色鈹物粒子	口縁部は直線的に立ち上がる。波状口縁部は4単位にもつモン
10-00113 53	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(20.5)・高(15.6)・底7.5	酸・並・鈍黄橙・並・石英雲母片岩粒	外傾して立ち上がった胴部から、口縁部は短く立ち上がる。波状口縁。胴部に条痕文を施文する。
10-00114 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	口(20.5) 胴最(23.1)	酸・並・鈍黄橙・透明鈹物粒子・白色微粒子・黒色鈹物粒子	胴部から「く」の字に強く内傾して口縁部が立ち上がる。口唇直下・肩部に紋様を施文する。
10-00115 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	口(24.5) 胴最(27.5)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	胴部から「く」の字に強く内傾して口縁部が立ち上がる。口唇直下・肩部に紋様を施文する。
10-00116 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	口(18.0) 胴最(16.5)	酸・並・鈍黄橙・軟・粗粒砂	口縁部は直立し外傾する。口縁部は波状口縁部。口縁部に浮線網状文を施文する。
10-00117 54					
10-00118 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・石英粒・細砂粒	外傾して立ち上がった胴部から、口縁部は短く立ち上がる。胴部上半に紋様を施文する。
10-00119 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(31.2) 胴最(29.4)	酸・並・黒灰・軟・粗粒砂多	胴部は強く開く器形。口縁部は外傾気味に立ち上がる。口唇直下に「工」字状文を3段に施文する。
10-00120 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・白色粒子	外傾して立ち上がった胴部から、口縁部は直立して立ち上がる。胴部上半に紋様を施文する。
10-00121 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.45	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00122 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・白色微粒子・白色鈹物粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。

第2節 発見された遺構・遺物に就いて

10-00123 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.45	酸・並・黒灰・並・白色微粒子・白色鉾物粒子	「工」字状文の一部。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00124 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	「工」字状文の一部。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00125 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	「工」字状文の一部、地文に条痕文を施文する。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00126 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00127 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.55	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00128 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00129 57	縄紋土器鉢	VII層土内破片	胴最(11.7)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・白色粒子	球形胴部状。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00130 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(28.4) 胴最(27.8)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒	胴部は強く開く器形。口縁部は直立する。口唇直下・立ち上がり部に横線を施文する。
10-00131 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	厚0.8	酸・並・黒灰・並・細砂粒	外反する口縁部。表裏面に横線一条を施文する。補修孔が認められる。
10-00132 54	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(23.6) 胴最(20.6)	酸・並・黒灰・並・細砂粒	緩やかに外反する口縁部。紋様は認められなかった。
10-00133 57	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	胴最(20.6)	酸・並・明赤褐・並・細砂粒	内湾気味の胴部から、口縁部は緩やかに立ち上がる。器外面は寛撫で整形。
10-00134 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉾物粒子・黒色鉾物粒子・細砂粒	緩やかに外反する口縁部。表裏面に横線一条を施文する。
10-00135 52	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	口(26.0) 胴最(25.0)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒	作りは薄い。直線的に立ち上がる胴部から、口縁部は緩やかに外反し立ち上がる。
10-00136 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍橙・軟・白色微粒子・粗粒砂少	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。
10-00137 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・黒色鉾物粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。00136・00135と同様な器形と考えられる。
10-00138 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鉾物粒子・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。00136・00136と同様な器形と考えられる。
10-00139 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鉾物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。00136・00137と同様な器形と考えられる。
10-00140 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。00136・00138と同様な器形と考えられる。
10-00141 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。00136・00139と同様な器形と考えられる。
10-00142 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.4	酸・並・暗灰・並・還・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。00136・00140と同様な器形と考えられる。
10-00143 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・暗灰・軟・粗粒砂・チャート角粒	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不明。00136・00141と同様な器形と考えられる。
10-00144 54	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色微粒子・赤褐色粒子・粗粒砂	短く外反する口縁部の直下に刻みを施す隆帯び(太い紐線文)を巡らす。
10-00145 52	縄紋土器壺	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・軟・粗粒砂多	大形土器。器厚は薄い。外面は寛撫でによる粗い整形を施している。
10-00146 55	縄紋土器鉢	VII層土内破片	口(41.5)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	内湾気味に開く。口唇部は平で付紋を付す。口唇直下は条痕文の縦位施文。
10-00147 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	口(27.0)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	胴部は丸味を帯び、口縁部は波状で直立する。口唇直下は横線四条。胴部に条痕文を施す。
10-00148 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	単軸絡条体1の施文。
10-00149 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.65	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	条痕文の施文。
10-00150 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・暗灰・並・白色粒子・黒色鉾物粒子	単軸絡条体1の施文。
10-00151 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉾物粒子・黒色鉾物粒子・白色粒子	条痕文の縦位施文。
10-00152 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉾物粒子・黒色鉾物粒子・白色粒子	条痕文の縦位施文。
10-00153 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・白色粒子	単軸絡条体1の施文。
10-00154 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂少	単軸絡条体1の施文。
10-00155 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂少	条痕文の縦位施文。
10-00156 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍橙・並・細砂粒少	単軸絡条体1の施文。
10-00157 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍橙・並・白色鉾物粒子・細砂粒	単軸絡条体1の施文。
10-00158 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.8	酸・並・鈍橙・軟・白色粒子・細砂粒	単軸絡条体1の施文。
10-00159 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.8	酸・並・鈍橙・並・白色粒子・細砂粒	単軸絡条体1の施文。
10-00160 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子・白色微粒子・白色粒子	単軸絡条体1の施文。
10-00161 55	縄紋土器深鉢	VII層土内破片	厚0.8	酸・並・黄橙・並・白色粒子・透明鉾物粒子	単軸絡条体1の施文。

第5章 中里見根岸遺跡

10-00162 55	縄紋土器 壺	VII層土内 破片	厚0.8	酸・並・暗灰・並・細砂粒	単軸絡条体1の施文。	
10-00163 55	縄紋土器 壺	VII層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白 色粒子・粗粒砂少	肩部周辺の大形破片。肩部は横位から斜位に、肩 部を挟む上下位は縦位に条痕文を施文する。	
10-00164 55	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白 色粒子・粗粒砂少	肩部周辺の大形破片。肩部は横位から斜位に、肩 部を挟む上下位は縦位に条痕文を施文する。	
10-00165 55	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・暗灰・並・細砂粒	肩部周辺の大形破片。肩部は横位から斜位に、肩 部を挟む上下位は縦位に条痕文を施文する。	
10-00166 55	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.55	酸・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・ 白色粒子・黒色鉱物粒子	条痕文の縦位施文。	
10-00167 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白 色粒子・粗粒砂少	条痕文の斜位施文。	
10-00168 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白 色粒子・粗粒砂少	条痕文の斜位施文。	
10-00169 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白 色粒子・粗粒砂少	条痕文の縦位施文。	
10-00170 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白 色粒子・粗粒砂少	条痕文の斜位施文。	
10-00171 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・暗灰・並・細砂粒	肩部施文。横位と縦位の条痕文施文。	
10-00172 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・暗灰・並・細砂粒	肩部施文。羽状施文の条痕文。	
10-00173 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・粗 粒砂少	条痕文の縦位施文。	
10-00174 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・黒色 鉱物粒子	条痕文の斜位施文。	
10-00175 52	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	口(20.4)・高(22.5) ・底7.2	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒・粗粒 砂少	直線的に立ち上がる深鉢。地文に単軸絡条体1を 施文。口唇直下に菱形紋、下位に雷紋を施文。	
10-00176 56	縄紋土器 壺	VII層土内 破片	口(11.4) 高(17.4)	酸・並・浅黄橙・軟・黒色鉱物粒子・ 細砂粒	肩から頸部に施文する。縦位に二単位の浮線網状 文を施文し、横位二段に浮線網状文を施文する。	
10-00177 56	縄紋土器 壺	VII層土内 破片	厚0.3	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子	口唇直下の施文。口唇部は肥厚している。	
10-00178 56	縄紋土器 壺	VII層土内 破片	厚0.3	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子	口唇直下の施文。口唇部は肥厚している。	
10-00179 56	縄紋土器 壺か	VII層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	肩部片。横線区画内の列点状の施文。	
10-00180 56	縄紋土器 壺か	VII層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	肩部片。横線区画内の列点状の施文。	
10-00181 56	縄紋土器 壺か	VII層土内 破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鉱物粒子・ 粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。	
10-00182 56	縄紋土器 壺か	VII層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・高温石英・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。	
10-00183 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	口(27.0)	酸・並・明赤褐・並・礫片・赤褐色 粒子・黒色鉱物粒子	直立する口縁部片。紋様は認められない。器外面 は篋無で整形。	
10-00184 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	口(27.0)	酸・並・浅黄橙・並・礫片・白色粒 子・黒色鉱物粒子	外傾する口縁部片、口唇部は尖り気味。紋様は認 められない。器外面は篋無で整形。	
10-00185	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(4.2)	酸・並・鈍橙・軟・粗粒砂	器厚は均一。小形壺の底部か。器外面は風化が顕 著。研磨の痕跡が認められる。	
10-00186	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底4.5	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒・黒色 鉱物粒子	鉢形土器の底部か。紋様は認められない。	
10-00187	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(6.2)	酸・並・鈍黄橙・軟・粗粒砂	鉢形土器の底部か。紋様は認められない。	00117に 同
10-00188	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底6.9	酸・並・鈍黄橙・白色鉱物粒子・細 砂粒	鉢形土器の底部か。紋様は認められない。	
10-00189	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(6.2)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	鉢形土器の底部か。底面に網代。網代は1段越え 1本送り2本潜り。	
10-00190 57	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(7.5)	酸・並・明赤褐・並・粗粒砂少	鉢形土器の底部。外面は縦位の篋無で、内面は横 ひねりの篋無で施す。	
10-00191	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(8.3)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒	外面は縦位の篋無で整形。内面は摩滅により判然 としない。底面の木葉痕。	
10-00192	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(8.4)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒少	外面は縦位の篋無で整形。内面は摩滅により判然 としない。底面の木葉痕。	
10-00193 57	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(9.6)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	外面は縦位の篋無で、内面は横ひねりの篋無で。 底面の網代は、2段越え1本送り2本潜り。	
10-00194 56	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(10.2)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	丸味を帯びた底部から胴部片。外面は縦位の篋無 で、内面は横位の篋無で施す。	
10-00195	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(9.0)	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・黒 色鉱物粒子・粗粒砂少	外面は斜位の条痕文を施文する。底面は網代。網 代は網代は1段越え1本送り2本潜りか。	
10-00196 57	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底12.6	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・粗 粒砂	外面は縦位の篋削り。底面に網代。網代は1段越 え1本送り1本潜り。	
20-00006 57	打製石器 石鏃	VII層土内 部分欠損	長1.7・幅1.2・厚0.3 ・重1g	黒曜石	飛燕形の根。片側の腹袂を欠損する。	
20-00007 57	打製石器 石鏃	VII層土内 部分欠損	長1.7・幅1.3・厚0.4 ・重1g	黒曜石	無茎平根三角形腹袂式。腹袂は丸味を帯びる。	
20-00008	打製石器 石鏃か	VII層土内 部分欠損	長1.9・幅1.5・厚0.18 ・重1g	黒曜石	無茎平根三角形腹袂式。	
20-00009	打製石器 石鏃	VII層土内 完形	長1.3・幅1.1・厚0.2 ・重1g	黒曜石	石鏃か判然としない。	

第2節 発見された遺構・遺物に就いて

20-00010 57	打製石器 石鏃	VII層土内 部分欠損	長1.8・幅1.5・厚0.4 ・重1g	珪質頁岩	有茎平根三角形形式。加工痕から再製品とも思われる。
20-00011 57	打製石器 石鏃	VII層土内 完形	長3.0・幅1.2・厚0.3 ・重1g	黒色頁岩	有茎平根三角形形式。
20-00012 57	打製石器 石鏃	VII層土内 部分欠損	長3.7・幅1.4・厚0.6 ・重2g	珪質頁岩	有茎平根三角形形式。茎を欠損する。
20-00013	打製石器 石鏃	VII層土内 部分欠損	長2.5・幅2.0・厚0.6 ・重2g	黒色安山岩	無茎平根三角形形式か。基部側は再調整か工程半ばとも思われる。
20-00014	打製石器 搔器	VII層土内 完形	長3.5・幅2.3・厚0.5 ・重2g	黒色頁岩	二辺側縁全体の剥片加工を施し、先端は刃部加工を施す。
20-00015	打製石器 削器	VII層土内 完形	長2.0・幅1.8・厚0.4 ・重1g	黒色頁岩	片面の剥片加工と、裏面側は刃部加工が観られる。
20-00016 57	打製石器 削器	VII層土内 完形	長2.7・幅1.5・厚0.3 ・重4.3g	粗粒輝石安山岩	長辺2側縁に刃部加工を施す。
20-00017 57	打製石器 削器	VII層土内 完形	長3.5・幅4.2・厚0.4 ・重29g	珪質頁岩	剥片端部側を加工している。刃部は一部に見られる。
20-00018 57	打製石器 剥片石器	VII層土内 完形	長1.3・幅1.6・厚0.5 ・重17g	頁岩	剥片の側部側に加工を施している。
20-00019 57	石製品 砥石	VII層土内 完形	長9.8・幅4.8・厚1.5 ・重63g	砂岩	堆積の粒子の異なる部分を利用している。粗・並・細の粒子の差を使い分けているか。
20-00020	打製石器 搔器か	VII層土内 完形	長7.1・幅5.2・厚0.8 ・重42g	黒色頁岩	小形石器素材の石器。新旧二者の剝離加工が認められ、採集品の転用の可能性もある。
20-00021	打製石器 石斧	VII層土内 完形	長21.8・幅8.8・厚4.6 ・重734g	粗粒輝石安山	刃部側の1側縁の再調整か。全体に摩滅が及んでいる。
20-00022	磨製石器 石剣	VII層土内 部分欠損	長17.0・幅3.9・厚2.0 ・重240g	片岩	下端側は欠損後の調整が認められる。上端側は欠損の状態。
20-00023	石器 擦石	VII層土内 完形	長8.2・幅7.3・厚2.1 ・重179g	粗粒輝石安山岩	扁平面の両面に摩滅が認められ、被熱による亀裂が認められる。
20-00024	石器 擦石	VII層土内 完形	長7.4・幅6.6・厚5.0 ・重355g	粗粒輝石安山岩	扁平面の両面に摩滅が認められる。
20-00025	石器 擦石	VII層土内 完形	長9.6・幅6.6・厚4.4 ・重430g	粗粒輝石安山岩	扁平面の片面に摩滅が認められる。
20-00026	石器 擦石	VII層土内 完形	長11.0・幅7.8・厚3.9 ・重467g	粗粒輝石安山岩	扁平面の片面に摩滅が認められ、片面には集中敲打痕が認められる。
20-00027	石器 凹石	VII層土内 破片	残長10.1残幅6.5・厚 3.8・重400g	粗粒輝石安山岩	上端側を欠損する。両面に凹が認められる。
20-00028	石器 擦石	VII層土内 完形	長12.0・幅10.0・厚 7.3・重1216g	粗粒輝石安山岩	扁平面の片面に摩滅が認められ、片面には集中敲打痕が認められる。
20-00029	石器 擦石	VII層土内 破片	長6.0・幅9.3・厚5.6 ・重447g	粗粒輝石安山岩	半断面に摩滅が認められる。
20-00030	石器 擦石	VII層土内 破片	長7.7・幅9.7・厚4.4 ・重355g	粗粒輝石安山岩	半断面が摩滅し、扁平面の一部に摩滅が認められる。鉄分の付着は土壌の作用と考えられる。
20-00031	石器 擦石	VII層土内 完形	長10.9・幅9.7・厚2.7 ・重563g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕は認められない。
20-00032	石器 擦石	VII層土内 破片	長16.6・幅24.4・厚 7.9・重4119g	粗粒輝石安山岩	大形の礫の両扁平面が摩滅する。石皿としての使用か。

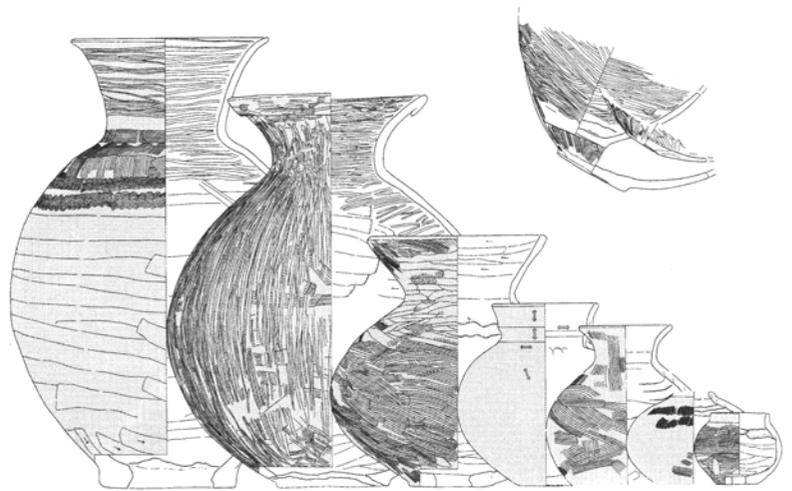
遺構外出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
50-00001	装飾品 コウガイ	表土層 部分欠損	残存長7.8・幅0.6	匭甲製	先端側は紋様か。	
10-00197	軟質陶器 内耳鍋	表土層 破片	厚1.2	還元・並・暗灰黄・黒色鉱物粒子・白色微粒子	紐作り後轆轤整形(左回転)。	
10-00198	須恵器 埴	III層土内 破片	底(7.4)	還元・締・灰白・密	轆轤右回転成整形、付高台。施釉は浸掛け。	
10-00199	土師器 器台	VI層土内 破片	基部径3.4	酸・並・浅黄橙・並・細砂粒	基部周辺は匭撫でを施し、下位は刷毛撫でを施す。基部内面は匭撫でを施す。	
10-00200	弥生土器 壺	I坑覆土 破片	径2.3・厚0.6	酸・並・浅黄橙・並・細砂粒多	釘貼付文。櫛状工具を4段以上に施す。	
10-00201	弥生土器 壺	VI層土内 1/3残	口20.0・高32.4・底 6.5	酸・並・浅黄橙・並・細砂粒・粗粒砂	胴部は球形を呈する。頸部は直立して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	
10-00202	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・細砂粒多	弱く外傾する口縁部に外面には、口唇直下に半截竹管による横線と綾杉文を施す。	
10-00203	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・細砂粒多	00202と同一個体。	
10-00204	縄紋土器 深鉢	VI層土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍橙・軟・細砂粒・粗粒砂	器面の風化が顕著。沈線表出による「工」字状文と考えられる。	
10-00205	縄紋土器 鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・細砂粒多	粗い条痕文を施す。	
10-00206	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・細砂粒多	粗い綾杉文を施す。	
10-00207	縄紋土器 深鉢	中川6区 破片	厚0.7	酸・並・暗灰・並・細砂粒	口縁部に菱形浮線文を施す。	
10-00208	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.3	酸・並・黒灰・並・粗粒砂	器面全体に研磨を施し、帯縄文の上位に斜位の帯縄文を施文。	

第5章 中里見根岸遺跡

10-00209	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚0.3	酸・並・黒灰・並・粗粒砂	00208と同一個体。
10-00210	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	底(7.6)	酸・並・黒灰・並・粗粒砂	00208と同一個体。底面は網代。網代は1段越え1本送り1本潜り。
10-00211	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚1.0	酸・並・黒灰・並・細砂粒・粗粒砂	LR 原体を縦位充填し、懸垂文を垂下させる。
10-00212	縄紋土器 深鉢	中川6区 破片	厚0.7	酸・並・黒灰・並・細砂粒・粗粒砂	半截竹管の縦位区画内に、斜位に竹管条痕文を施文する。
20-00033	打製石器 石鏃	表土層 完形	長2.5・幅1.6・厚0.6 ・重2g	玉髓	有茎平根三角形式。
20-00034	打製石器 石鏃	5坑覆土 完形	長2.6・幅1.6・厚0.4 ・重1g	黒色頁岩	有茎平根三角形式。
20-00035	石器 叩石	5坑覆土 完形	長4.0・幅4.2・厚2.5 ・重42g	粗粒輝石安山岩	敲打に伴う剥離が認められる。
20-00036	石器 擦石	調査区内 完形	長10.6・幅7.3・厚5.7 ・重583g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕は認められない。

第6章 中里見原遺跡



中里見原 第1号古墳出土

第6章 中里見原遺跡

第1節 発掘調査

第1項 調査の経過

中里見原遺跡の調査経過に就いては第1章で略述したが、ここで、本節を述べるに当り、調査着手の経過に就いて改めて触れておきたい。

中里見原遺跡の調査面積は、12,924㎡である。この調査面積を7回に分けて表土掘削を実施した。この状況が示す如く、北陸新幹線の発掘調査が如何に慌しい状況下で実施されたかを物語っている。

そして、調査対象区の用地が調査着手段階までに収容出来ていたのは、実態的には20%台であった(図-1を参照)。このため、公道から離れた東側の調査区は重機の搬入路もままならない状態で、孤立するかの如くの状態であった。かかる状況下、中里見原遺跡の調査は着手された。

平成4年度は、4・7・12・1月に各地点(原①・②・③・④・⑤)の用地解決直後に表土掘削を行った。この中で原④・⑤地点は、残土の搬出路の幅員が狭く、残土搬出には効率が悪かった。また、原④地区は、調査区内に搬入・出路を設けて表土層掘削を行い、終了後は再び撤去して、発掘調査をせざるを得なかった。

平成5年度は、5・8・2月に各地点(原⑥・⑦・⑧・⑨)の用地解決後に表土掘削を実施し、発掘調査を実施した。

この様に、用地取得の状況に応じた調査を実施せざるを得なかったのが、中里見原遺跡の調査であった。そして、この間2年間の間に、14遺跡以上の試掘調査・7遺跡の本調査を手掛けている。中里見原遺跡はこの間に実施したとも換言出来る状況であった。

第2項 試掘調査

中里見原遺跡の試掘調査は、遺跡内容の把握・遺跡範囲の確認・旧石器時代調査認定の要否の3種類を実施した。

前者は、調査着手段階で、遺構面露呈(表土層掘削)のため、事前での文化層把握と遺構面把握を目的にして実施した。

試掘調査は、平成4年4月13日から同16日まで実施した。試掘坑の設定は、北側路線幅杭から0.5m隔て、用地界に平行する状態で一辺2mのテストピットを5m毎に10箇所を設定した(西側から第1~10トレンチまで名称を付与した)。調査は人力でハードローム層まで掘り下げた。

この結果、図-4の基本土層に示した層序が確認出来た。そして、台地の中央部に相当する部分のトレンチ断面(第10トレンチ)を基本土層の基準とした。中者は、調査着手段階までに認定されていた遺跡範囲の確認のために実施した。

調査区西端部は上里見井ノ下遺跡に接続するが、斜面部はどこまでが遺跡範囲に該当するのか、この問題を解決するために、同斜面部に3本のトレンチで確認調査を実施した。この結果、斜面部はトレンチの東端程から急激に斜面下方向に落ち込んでおり、遺構は確認出来なかった。この所見から、遺跡範囲をトレンチ東端までとした。

また、調査区東端の暖・急斜面部(図-1原⑥・⑨)は、当初は調査対象ではなかったが、図-1原⑤部分での遺構発見状況から、遺跡は更に東側へ延びる可能性が濃厚になったため、原⑥に東西方向のトレンチを設定して遺跡の範囲確認調査を実施した。調査は平成5年5月7日に実施した。この結果、住居跡と思われる落ち込みを数箇所に確認出来たことにより、当該部分が調査区に組み込まれることになった。

同様に原⑨は、平成6年2月1日から表土層掘削を開始した。

後者は、旧石器時代の確認調査であった。調査区内の東側を中心に、2m×2mの試掘坑を設定した(原③・④)。また、2箇所に大規模な試掘坑を設定し調査したが、孰れの試掘坑からも遺物の出土は無かった。この旧石器の試掘調査は平成4年12月14日から開始し、平成5年4月23日まで実施したが、後述する、上里見井ノ下遺跡の調査もこの間に実施し

そのため、実態は、断続的な調査であった。

第3項 本調査の概要

原遺跡の本調査は前述した如く、用地解決の次第により調査区の拡張を繰り返した調査であった。このため、拡張状態は筆界毎になった。各部位の呼称は、記号名称は用いず夫々の固有名詞を用いて呼称した。

本調査は前述の試掘調査直後、試掘調査の所見により、重機により表土層の除去を行い、下位層の土層を可能な限り傷めない様に考慮した。これは、当遺跡が里見廃寺遺跡に至近の位置関係上、寺域等を示す痕跡を逸しない様に配慮してのことである。

このことにより、遺構確認面は、As-B降下面・IV層土面・V層土、VI～VIII層土を露呈させた。また、一部では、遺構内に陥没する状態でAs-Bの堆積が確認されている(12・14号住)。

遺構確認は、上述の土層で各地点で行ったが、特に、As-B降下面、III層土面を確認面とした地点では、遺構確認も困難な状況でもあり、5mグリッド方眼ごとに人力により掘り下げ、確認面をIV層土・V層土面に求めた。この方法を用いたのは、①・③・④地点で行った。

調査区内の地目は畑・果樹園・宅地・墓地であった。果樹園及び数筆分が東西方向の地割りで、筆界は50cm～80cmの段差が認められ、東端部分では、果樹園と宅地の筆界は2mほどの段差が造成されていた。墓地は、東側斜面に2筆分在った。これらの地目により、遺構確認面は攪乱状態が異なり、どの筆界部分も現地形状どおりに段差が生じ、これにより、調査区内の地形図の等高線に不整合状態が生じている。また、墓地部分では、地山が著しく攪乱する状況であった。原因には、墓地移転に伴う改葬(小型掘削機)もあるが、墓坑の掘削による攪乱も顕著に影響していたと考えられ、過去に多くの土墳墓が造られた可能性も考慮される。

発見された遺構は、住居跡57基・竪穴状遺構4基・掘立柱建物跡7基・道跡3条・柵列跡1条・土墳墓4基・土坑1001基・古墳(方墳)1基等である。

第2節 発見された遺構・遺物

第1項 発見された遺構に就いて

当遺跡は、里見地区では最も広域な調査対象区を有していたことから、4遺跡の中でも比較的遺跡の様子が分明になった。発見された遺構及び数量は概ね前述の通りである。以下、遺構種ごとに概略を記す。

住居跡(第130～297図)

住居跡は57基が発見されている。これらの住居跡は、住居跡の時期と分布状況に傾向が窺われ、3時期5群で構成される住居跡群と判断した。

調査区内の台地中央を縦走する3号道跡(後述)を境に、西斜面側・東斜面側の大きく2群に分布する状況がある。この前者、西側の一群は、概ね8世紀末～9世紀前半～中頃を中心遺構の盛期があり、稀有な大形住居跡と同規模の掘立(16住居跡・5・7号掘立)を至近の位置に構築している状況が認められる。更に、西端台地縁辺には10世紀代の住居跡の分布がある。また、斜面際には柵列により上里見井ノ下遺跡側と隔絶されている。

この西側の住居跡群には、均整の取れた横長方形の形状に、竈を北東壁に構築する8世紀末～9世紀前半頃の住居跡(8・9・11・13・14・18・24・52号住)(第1群)と、竈を南東壁に構築する9世紀中頃～9世紀後半頃の住居跡(11・12・16・17・18・19・23号住)(第2群)で、第1群は横長方形の平面形状で、第2群は正方形基調の平面形状を呈する二者の在り方が認められ、更に、調査区西端に10世紀台の住居跡の分布域がある。

この第1・2群の時期には基壇建物跡・掘立柱建物跡が並存していたことが推定され、基壇建物跡と7号掘立との新旧関係から、第1群と基壇建物跡、第2群と掘立柱建物跡の相互関係が推定される。

第3号道跡の東側では、南北方向寄りに長軸を採り、北壁に竈を備える9世紀中頃～9世紀末の住居跡(21・22・27・34号住)(第3群)と、住居構築に指向方向に統一の看取されない10世紀代の住居跡

(20・31～33・36・37・39・44・45・48・49・50・54・55号住) (第4群) に分類される。また、調査区西端側の10世紀の住居跡(1～3・5号住)を第5群としておく。

以下に各群別に概況を記しておく。

第1群の住居跡

第1群の住居跡は、3号道跡西側で、均整の取れた横長方形の形状に、竈を北東壁に構築する(23号住は南東壁に竈を構築するが、24号住と軸方位がほぼ直行する状態で構築されている) 8世紀末～9世紀前半頃の住居跡(8・9・13・14・23・24号住) 6基が該当する。この他、第2群の25号住に切られる26・41号住が含まれる可能性も考慮される。

出土遺物では、「く」の字口縁の土師器甕、回転篋起こしの須恵器坏、底径の広い須恵器坏、返りの弱い須恵器蓋が特徴的な共伴遺物である。

この段階の土師器は吉井・藤岡産が100%に近い供給量があるが出土量は極めて少ない。一方、須恵器坏は出土量が極めて多く、土師器坏と対照的である。須恵器は完全なまでに秋間産が供給されている。

第2群の住居跡

第2群の住居跡は、南東壁に竈を構築している。正方形乃至矩形を基調とする住居跡であるが、11号住は竈の据換えもあり、縦長方形→横長方形に変更している。9世紀中頃～9世紀後半頃の住居跡(10・11・12・16・17・18・19・25号住) 9基が該当する。分布は、凹地の浅い谷地に沿っている。

また、当遺跡で発見された住居跡中最大規模を誇る16号住は、6.60m×7.70mの規模で当該期の住居跡でも傑出している。竈も磔を多用する構造で、全長4.62mを計るが、廃棄段階の使用長は2.82mと萎縮した状態になっている。何らかの熱利用をするための施設とも思われる。この他、支柱穴P₆は床面上で磔を根巻きしている。特殊な住居跡と位置付けられる。

出土遺物では、「コ」の字状口縁の土師器甕、体部に型膚を顕著に残す薄手の土師器坏、底径の縮小化が見られる須恵器坏、碗の出現、須恵器皿の多出が

特徴である。また、17号住からは、紐作りで轆轤整形後に更に縦位に篋削りを施す酸化焰焼成甕(秋間型甕)の出現が認められる。

土師器は第1群の段階同様に出土量は少なく、土

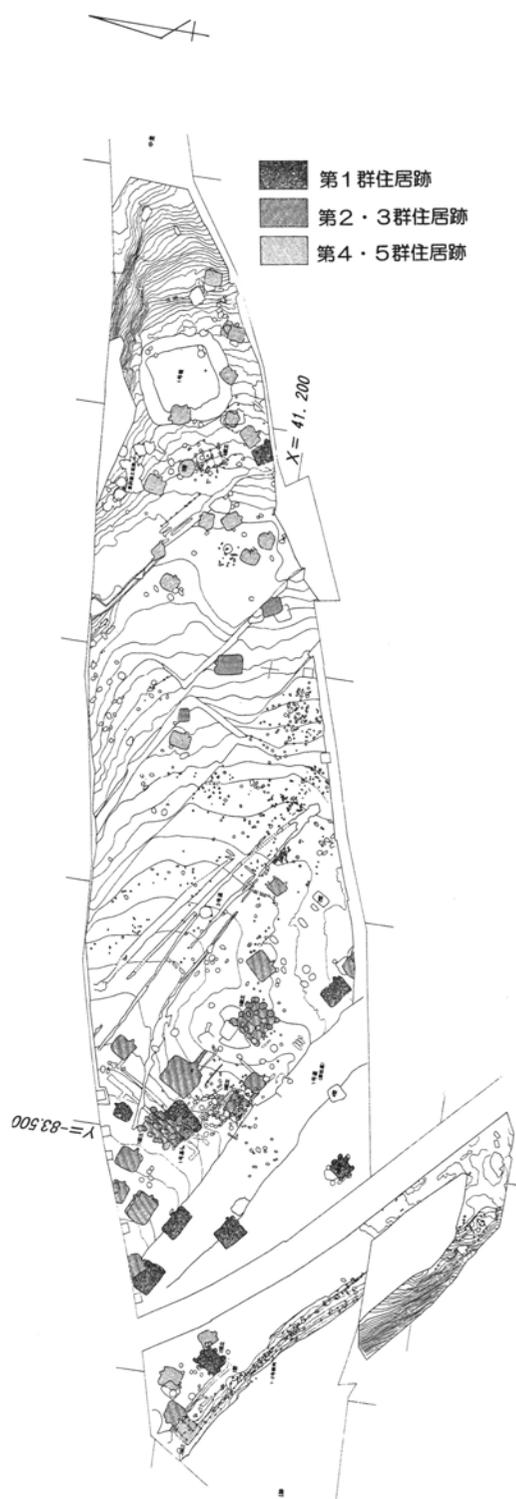


図6 住居跡群別図(1:1,500)

第6章 中里見原遺跡

師器坏の出土量は異常なまでに少ない。秋間産須恵器が豊富に使えた結果であろうが、当遺跡での、土師器の存在意義も問われよう。

土師器坏・甕はやはり吉井・藤岡産が占有するものの、やはり秋間産須恵器の供給は顕著な状態である。また一方では、秋間型甕の出現がある。供給の少ない吉井・藤岡産製品の補完的立場により出現の契機とも思われるが、旧碓氷郡内の当該期の遺跡を詳細に検討を加えないと明らかな当時の状況は明らかに出来ないと考えられる。

第3群の住居跡

第3群の住居跡は3号道の東側で、南北方向に軸方向を採る、第2群の住居跡群と同時期の住居跡(21・22・27)号住(34号住?)がある。道を隔てたことにより、住居の方向を変えるという現象は、何らかの規制の違いにより生じたと思われるが、現状では少数例であるため、それを推定することは困難である。

出土遺物は第2群の特徴同様である。

第4群の住居跡

第4群の住居跡は東斜面に分布する10世紀台(中頃まで)の住居跡で、住居構築に指向方向に統一の看取されな正方形・矩形基調と、縦長方形の住居跡(20・31~33・36・37・39・44・45・48・49・50・54・55号住+3号竪穴)である。

出土遺物の特徴としては、墨書土器が多出ていることが挙げられる。文字には「人上」が最も多く、風冠に「上」「土」も多い。

土師器坏は皆無に等しくなり、須恵器碗の増加が顕著である。また、秋間型甕の出土量の増大が顕著である。そして、新たに、羽釜の出現がある。通有県内西部では吉井型羽釜(吉井古窯跡群産)が主体であるが、当遺跡では、秋間産乃至秋間産と考えられる羽釜が主体であり、微量ながらも月夜野型羽釜の出土がある。秋間産羽釜に固有名詞の設定が可能か問題点でもある。

須恵器はほぼ秋間産と思われるが、酸化焙焼成が主体の胎土の観察所見は、確定し得ない判別困難な

ものが多かった。このため判定は避けている。器形(成・整形技法)の特徴は秋間産を裏付けている。

また、32号住からは鉄製鎌・鋤先が纏まって出土している。このことは、当該段階での遺跡周辺の耕地の拡大乃至開墾がすすんでいる状況を示唆していると考えられる。

第5群の住居跡

第5群の住居跡は、調査区西端側に分布する10世紀の住居跡(1~3・5号住)を当群に設定した。内容はだいたい4群同様である。

この第4・5群の住居跡は、台地中央部には殆ど構築が認められない実態である。これは、換言すれば低地により近い場所に占地したこと他に他ならないことと、台地内部での状況が変化していることの裏付けでもある。この要因に、第4群の32号住、同時期に含まれる3号竪穴(小鍛冶)の存在は、鉄製農耕具の普及を具体的に示しており、その背景として新田開発・再開墾が推定される。

この第4・5群の住居跡以降の住居跡は未発見であるが、中川・根岸遺跡では、10世紀後半以降の住居跡が集中して発見されている。

竪穴状遺構(第298~306図)

竪穴状遺構は4基を称号させた。しかし、整理事業段階で、詳細を検討すると、1・2号竪穴状遺構は当該名称に馴染みの無い遺構である。

1号竪穴状遺構は、落ち込みとしか認定出来ない遺構で、寧ろ、第1号柵列跡に付随する施設の可能性が考慮される。直接的に双方の切り合い関係は確認出来なかったが、1号竪穴状遺構が当該部分に造られた必然性が、唯一の双方の関係を考慮する場合の一つの根拠になろう。

第2号竪穴状遺構は、平面形状、覆土の状況、鉄釘・遺物出土状況から土壌墓としての性格付けが正当であろう。

第3号竪穴状遺構は、小鍛冶の遺構を伴うことから、住居跡とは異なる、小鍛冶専用施設として考えられる。第4群の住居跡に伴う鍛冶施設としての性格であろう。一方、住居跡を使用しての小鍛冶は11・

12号住で発見されている。

第4号竪穴状遺構は、土坑状であるが、底面は平坦面を意識して構築されているが硬化は無かった。第2群住居跡に伴うと考えられる。

掘立柱建物跡（第307～316図）

掘立柱建物跡は7棟が発見されている。この内で6号掘立以外は3号道跡の西側に散在している。特に、1・3・5・7号掘立は、総柱の建物で夫々に規模が違うが柱間7尺の建物である。

他方、2・4・6号掘立は柱間の造りに規則性は完全ではなく、桁側でも梁側でも等間の造りではなかった。

5号掘立は、3間×3間総柱の建物である。柱穴の平断面から、1本の柱の太さが30cmを越える、官衛の正倉級の柱を用いていることが確認されている。

この5号掘立は、付図-6に示した様に、台地の西半分側で凹地状の地形部分に占地している。この凹地状の地形は、調査区の南東側350m程の所に向い、台地に平行する状態で細長な状態で上里見井ノ下側の谷に向かっていている。周知の里見廃寺遺跡は、この凹地状の地形の中間部分程の北側に瓦が集中的に分布し、耕作により掘り出されてしまっているが、礎石が出土している。この5号掘立はこの凹地状の地形の最奥部に当たっている。即ち、上里見井ノ下の谷から凹地状の地形部分を使い、台地上に上がる場合、上りきった頂部に基壇建物か7号掘立が建ち、手前の凹地平坦部に5号掘立が建っている状態である。

7号掘立は、3間×2間総柱の建物である。1号基壇を切り構築している。そして、柱穴の切り合い関係から、建替えが行われていることが窺え、最終段階で礎石立ち建物が建てられている。

この双方の掘立柱建物跡が前述第2群の住居跡に伴う時期と考えられる。

1～4号掘立は、上述二者と比較すれば小規模な掘立である。取り分け、1・3・4号掘立は第1・2群の住居跡に伴うと考えられる。しかし、2号掘

立はピットの規模が小さく6号住と完全に重複する（6号住床面精査時に確認されている）ことと、周辺状況から勘案すれば、第5群住居跡に伴う可能性が考えられ、場合によれば、6号住の柱穴であることも考慮の範囲であろう。

基壇建物跡（第317～321図）

第1号基壇建物跡は凹地状の浅い谷地形の頂部に位置している。

確認時の状況は、表土層の掘削と同時並行で平面精査を行っている段階で、表土層の最下面程で硬化した土層に達し、この硬化範囲を確認した。確認されて硬化範囲は不整形状態であったため、周辺土層と異なる状態、通有の平面確認と同等に精査・確認を実施した。この結果、当該の掘込地業の範囲が確認されたが、北側半分がやや複雑な状況であった。これは、後日明らかになったが、7号掘立が重複していた事に原因していた。また、確認面の数箇所には、礎石状の礫が散見された、その中でも、S-4（7号掘立P₈部分の礎石）周辺は非常に硬化していた。

調査は、第318図に示した調査上の便宜調査区名称間にセクションベルトを設定して掘り下げを行った。この結果、掘込地業の版築土は、残存が薄く残存層厚約5～10cm程で、全体に微細粒状のAs-Cを多く含む黒色褐土（III層土ベース）の単一層であった。

礎石は、S-1～4を想定し平面上で検討したがが納得出来る状態ではなかったが、上述の便宜上の調査区の設定は、S-2・4を通過する線を基準に設定した。

しかし、結果はS-4が7号掘立の礎石である事が判明し、基壇建物の礎石の検証は出来なかった。しかし、7号掘立の礎石は、基壇建物跡の礎石を転用している可能性は残されているが、数量の問題も残されている。

他方、S-1～3の中心での距離は4.2mであり、7尺2間の計算に符合し、7号掘立の指向方向に概ね準じており、7号掘立に近い時期に別な建物の礎石として使用されていたことも想起される。

第6章 中里見原遺跡

出土遺物は第319～321図に示したが、1・2・5・6・9・10・11・13・14区画の出土遺物は7号掘立の平面確認調査に伴い出土している。新旧関係から、上記区画の出土遺物は7号掘立に伴うと考えるべき遺物である（図化掲載時までには編集が出来なかった）。

第320図中では、4・12・13・14区画から出土した10-000865～000877の遺物が基壇建物構築段階での混入乃至後世の部分的な攪乱等により混じれた遺物（10-00874・875）と考えられる。そして、主体的な遺物の時期は、8世紀末～9世紀前半と考えられる。

柵列跡（第322・323図・付図-6）

柵列跡は、西斜面際で2条以上が発見されている。この柵列跡に重複状態で第1号竪穴状遺構が位置している。この重複部分がやはり柵列跡が不明瞭な状態に陥っている。また、2号掘立・6号住より以西は柱穴が未発見で、2号掘立と6号住に取り付く状態にも見られる。

明確に捉えられる2条の内、A列（台地内側の列）は、柱穴が24本発見されている。柱間は正確な設計値が読み取れない。概ね150～180cm、5～6尺の間の数値である。

B列（斜面よりの列）は、1号竪穴を挟み途切れた状態で発見されている。この柵列跡も柱間は正確な設計値が読み取れず、上述のA列と同様な状態で概ね150～180cm、5～6尺の間の数値である。

この双方とも、明確な時期を推定で出来る遺物の出土が見られなかった。時期に就いては、解釈問題になるが、前述の1号竪穴・2号掘立・6号住との関係を想定するなら10世紀前半頃であろうし、第1・2群の住居跡群との関連性を採るなら8世紀末～9世紀前半頃に推定される。状況的には、寺院機能が明確な時期での構築であったと類推しておきたい。

また、当該柵列跡の南東延長部分の調査区（町道拡張区）では、この柵列跡の延長が未発見であった。当該部分は攪乱（土坑の項目で後述する）が著しかったことから、これにより失われ、未発見になった可能性もある。

道跡（第324～327図）

道跡は、第1～3号道跡の3条が発見されている。この3条の道跡は、目的・時期差により三者各様である。

第1号道跡（付図-7）

1号道は、調査区内西側の台地西端側に近い位置を台地に沿う状態で発見され、現町道とも平行する状態でもある。幅員6m余りの大規模な道跡である。

断面形状は浅い皿状を呈する。底面は数条の轍が平行して認められている。

現町道は昭和58年に拡幅工事が行われている（この時に県教育委員会文化財保護課により緊急調査が実施されている）。この町道は、「原往還」と呼ばれていた道を改修しての状態である。下里見中原の道標（図版7-5・元禄期の造立）は、「板鼻道」との辻部分に置かれている。

この1号道は旧原往還の姿である。

第2号道跡（付図-7）

2号道は、旧筆界に沿って発見されている。元来は断面箱堀状（第325図上段）の溝状遺構で、埋没と共に埋没面が硬化している。時期は、上限として近世・近代頃と考えられる。

第3号道跡（第325～327図）

3号道は住居跡群を東西に類別する基準にした道跡である。

この道跡は、台地の最高位上を縦走する状態で発見された。図中では線状に細く成っているが、実際の道の幅員は、第327図上段に示した様に、幅員1.5m～1.8mで、断面形状は浅い「U」字状を呈する道跡であった。これは、第1次遺構確認面をグリッド毎に掘り下げる段階で確認されたため、平面的に露呈させた部分は、道の硬化範囲のみであったことに原因している。

この道跡は、15-G-18グリッド部分では、比較的広い幅員を採る1条の道跡であったが、15-G-19グリッド辺りから分岐が始まり、更に15-J-20・15-I-20グリッド辺りでまた分岐する状態で、大きくは4条に分岐が認められる。この4条に分岐した道に、

夫々にA～D筋とし、更にこの中で分岐にa・b等の支線名称を与えた(第327図)

3道A筋a支線は分岐後徐々に方向を西側に偏在させるようになり、15-O-3グリッド辺りでほぼ東西走させ、16・19号住を通り、12・15号住・7号掘立のところで止まっている。攪乱当により逸している部分はあるが、12号住が行く手を阻む状況であることから、この5基の遺構乃至基壇建物跡が機能している段階での存在と考えられる。

他の分岐した支線は、概ね西北西～北西方向に延びている。

当該3号道の逆走側は調査が及んでいないため不明であるが、里見廃寺遺跡の瓦葺(基壇)建物跡の配置位置は、当遺跡同様に台地稜線の西側20m程に建物の中心が推定されている。この台地稜線からの配置関係からすれば、当該の道跡はこれらの堂舎を結ぶ道の可能性も想起される

土壙墓(第329～333図)

土壙墓は5基発見されている。この5基の土壙墓の内、4基の被葬者がヒトで1基がウマであった。

1～3号土壙墓は、第1号古墳の周溝部分で発見されており、40m隔てた南東部分で第4号墓が発見されている。また、ウマを埋葬した5号土壙墓は、4号土壙墓の北東方向に14m程離れて発見されている。

1号土壙墓～3号土壙墓の被葬者は、埋葬時に極度に足を曲げられた状態であったことが出土葬位から窺える。恐らくは、死後剛直の解ける段階、輪棺以前に行われて葬位と考えられる。この時、棺は縦棺であったことが推定出来る。また、棺を用いない場合は、やはり死後硬直の解ける段階で、布等により、遺骸を出土状況の如くに包み墓坑に直接納めたとも推定出来る。

5号墓はウマを埋葬している。乳歯の残る若いウマで、興味深い所見を得ている。

時期は、孰れも近世～近代頃と考えられる。

埋葬人骨・埋葬馬に就いては、第8章で詳述されているので稿譲りたい。

第1号古墳(第334～339図・付図-5)

1号墳は、主軸を北-29度-西に採る一辺24mの方墳で、As-C降下以前、3世紀後半頃に構築された古墳である。位置は調査区東端で発見され、低地側の根岸・中川遺跡を眺望するには好所である。墳丘盛土は確認面では痕跡も確認出来ず、主体部も発見されなかった。

周溝は幅3.0～3.5m、深さは確認面下1.5～1.8m程で全周している。溝底は、南面は中央部が窪む状態で、西面は墳丘寄りが溝状に低く、東面は緩やかに北面に下り、北面は一段低く中央部が窪む状態である。水平位での南北差は0.8mを測っている。

確認面では、周溝にはIV層土を主体とする覆土が確認出来、墳丘部では、V層土の下層土が確認されている。

周溝内堆積土は、溝底面直上には、墳丘側からの地山法面の崩落土が混入する状態で、周溝部位により堆積は異なるが、VII層土～IX層土の混土層が夫々の量比に違いがあるものの、墳丘と周溝法面の崩落と解釈出来る状況であった(5～8層)。

As-Cは上述した溝底直上層群の直上で、周溝内全域で発見されている。層厚概ね10～15cmであった。

As-Cより上位の覆土は、褐色質の発色が強い堆積土(風化ローム土の色調に類似)が墳丘側から流入する状態で認められた。特に顕著だったのが斜面北側で、土層断面B・C・D・Iでは明瞭に看取された。

最上層土(確認面)のIV層土の堆積は、周溝内のAs-Cの堆積からすれば、築造段階では、IV層土のAs-Cを除去した黒色土が地表面であったことが推定出来、本墳構築以後に生成された土層である。このことから、IV層土の堆積段階には、周溝は殆ど窪み状態であったことが窺える。

出土遺物はAs-Cを上下する状況で出土している。上位では、10-00935・936・941がほぼAs-C直上から出土し、2層土に混入する状態で10-00942・943・945が出土している。As-Cより下位、溝底直上層からは10-00940が出土している。

これらの出土遺物の中で、10-00935～941は器外面に赤色顔料塗彩を施している。また、底部穿孔の10-00935・936・940・941の中で、00936が焼成前に穿孔しているが、他は焼成後の穿孔である。

また、10-00935は頸部に簾状文、頸部直下に波状文を廻らす樽式の文様を施文しているが、強く外反する口縁部、球形を呈する胴部、肥厚する底部は、古式土師器の器形特徴を備えている。同様な個体は、根岸遺跡で単独で出土している(第129図 10-00201)。出土位置は本墳の直下で、低地に移行部分である。ほぼ同時期の土器と考えられ、双方の関係は何らかの状況を示唆しているものと考えられる。

東斜面石組み遺構 (第340・341図)

当該遺構は第1号墳の斜面下で発見されている。確認当初は、山寄せ古墳の墳丘に類した地形の中央部に石組みが確認された。地形とこの石組み遺構から小石礫を伴う古墳と思われたが、調査を進行する途中に至り、当該遺構が近代以降に構築されたいこうであることが判明した。

石組みは、主軸を北-68度-西に採り、軸長189cm幅90cmにとる規模で、掘方最大長295cm同幅180+ α cmを計る。壁は軸方向で、3石2段、小口側で2石2段が確認出来、目地は底面側壁共にコンクリートにより盲目地がされていた。コンクリートは粗い砂を多く含み脆い状態であった。壁に用いられた礫は鑿により截断が行われ、壁面側にはこの截断面を用い平にし、更に、コンクリートによる盲目地により、平坦にされている。

当該石組みは、盲目地の意味から、液体物、水等の貯蔵を目的とした施工と思われる。

土坑 (第342～367図)

土坑は「穴」を一括して指している。所謂「ピット」も含まれている。総数1001基が発見されている。微細図を掲載した土坑は、良好な状態で遺物出土状況が得られた土坑に限った。

土坑は、その分布状況の特徴は、前述した各住居跡群に伴う周辺から発見がある。

第1・2住居跡群の範囲には、第145・166・189・

205・318・737号土坑が含まれ、第1住居跡群の時期には205号土坑が認められる。他は、第2住居跡群に伴うと考えられる。

また、982・983号土坑は、所謂「攪乱」扱いされる土坑であるが、周囲が50cm以上も掘削され、島状に残された地山部分で発見されている。この土坑の北西側は柵列跡の南東側延長部分が調査されているが、当該部分がこのような攪乱を受けている状態から、攪乱により柵列跡のピットも多くが失われた可能性がある。

翻って東側では、747・748・795・819・824・874・875・900番代の土坑群が第4住居跡群に重複する範囲で分布している。

これらの土坑からの出土遺物は、未使用乃至未使用に近い遺物が無く、孰れも経年使用の遺物であった。埋納・埋設に際して新ためて用意された器ではないことが示唆的であるが、具体的な性格はなお不明である。

As-B 被覆土坑 (第365図)

確認面に於いて As-B が埋没する状態の土坑に就いてのみ当該の名称を与え、通有土坑と分別した。分別の意図は、希少な類例であることからその設定とした。

当初、7基を確認したが、調査により土坑として認定出来たのは、図化した5～7号の3基であった。

これらの3基の中で、第6号 As-B 被覆土坑は所謂「ドーナツ土坑」である。調査段階では、地山土層の分層境目辺りに底面と思われる面が観察出来たが、確実性を得るため断ち割り底面・壁面を確認した。As-B は底面直上では認められなかった。

北東斜面土坑群 (第366・367図)

北東斜面土坑群は、北東斜面で不整形の大規模な落ち込みとして確認されていた。調査は、土層観察のためセクションベルト6条設定して掘り下げた。この結果第366図に示した如く、多数の土坑の切り合い状態の様相であった。多数の切り合い関係と言っても、断面で切り合い関係を確認することも困難であった。出土遺物は10世紀前半代の須恵器、灰釉陶

器類がある。

竪穴状落ち込み (第368図)

竪穴状落ち込みは、16号住と5号掘立の間の凹地部分で発見されている。確認面はIV層土下層である。土層断面では、III層土から掘り込んでいることが観察出来た。底面は比較的平坦であるものの、硬化等は認められなかった。

1号では、底面直上層上に灰の散布が認められたが、竈等の施設の存在を示す状況は認められなかった。

土層断面特徴的な堆積状態が確認出来なかったが、平面では、16号住の煙道の掘方埋土と同様な塊状焼土を多く含む土が斜面に沿い、当落ち込みまで続いている状況であった。16号住が斜面占地のために起因する自然排水の流路伝いの結果とも考えられる。

2号では、やや多く遺物が出土したが、孰れも底面から遊離していた。出土遺物は土師器甕の破片のみであった。

井戸状遺構 (第369図)

井戸状遺構は、調査区西端、調査区界に跨る状態で発見されている。調査は、東半分程を発掘したに止まり完掘が出来なかった。

構造は、確認面(図中の←)下-1.5m程に径0.9m程の平坦面を設え、更に、中央部が径0.6m程の円形状に掘り下げられている。調査では、この中心の円形状の部分に30cmほどを掘り下げたに止まった。

この中心部分の径60cmの掘り込みからすれば、台地縁辺部の地山層中からの湧水を得ることは不可能である。

井戸以外の機能を考慮すれば、当該遺跡が寺院跡の一部と見なされることから、塔竿支柱も挙げられるが、土層断面には支柱を埋設した諸行の痕跡は認められなかった。他方、近年明らかにされつつある「水室遺構」の構造要件が類似している。

調査が半分にしか及ばなかったことから、未調査部分の構造が不分明であることから、当遺構が水室としての性格が考慮されるまでにとどめておく。

出土遺物は、9世紀後半の須恵器塊が2点以外認

められなかった。

第2項 出土遺物に就いて

原遺跡は、寺院跡乃至は寺院関連の遺跡である。また、眼前の秋間丘陵を越えれば、そこには東国最大級の秋間古窯跡の秋間郷である。

原遺跡は、この双方の特殊な条件が附加されている。

出土遺物の大きな傾向として、土師器の出土量が非常に少ない点にある。これに比較して、須恵器の出土量は多く、8・9世紀の土師器坏類は微量である。図中に掲載した土師器坏は口径推定可能な細片でも掲載しており、口縁部片の90%以上を掲載した。

土師器甕は当遺跡独特な胎土・技法で製作されて個体が多数観察された。国府周辺に大量に供給された吉井・藤岡産製品とは異なり、轆轤使用で秋間産乃至碓氷郡内に生産地が推定される生地土を使用している。「秋間型甕」として図中に註書きした。概要は後述する。

須恵器では、上述したように坏類の出土が多い。土師器坏の数量が少ない分の反映であり、須恵器坏が多く供給されている結果が土師器坏の供給(必要)が少なかったのが理由であろう。

また、硯・特殊脚付き塊等の特殊器種が出土している。

特殊遺物では、瓦・鉄器を上げることが出来る。

瓦類は、鏡瓦・男瓦・女瓦が出土している。隣接する里見廃寺遺跡で所用されていた瓦と考えられるが、当遺跡でも基壇建物跡が発見されており、里見廃寺遺跡と基壇建物跡との関係が問題になる。瓦類に就いては後述する。

鉄器類では、32号住で纏まって出土した鎌・鋤先があり、布断片から、柄から外され袋に入れられていた状態で出土している。更に、使いが進んでいないか未使用と考えられる鎌も含んでいた。隣接の3号竪穴が小鍛冶遺構であることから、集落(?)中での鉄器生産も可能であったことの反映と考えられる。

前述の様に、当遺跡の特殊な部分に就いて概述したが、内的な状況は未分析が多いと考えられる。

中里見原遺跡遺構諸元一覧（規模・土層説明等）

住居跡

第1号住居跡

位置：19地区16区H・I-18・19グリッド。規模：3.2m×3.2m。主軸方位：北-135度-東。竈規模：長1.33m×燃焼部幅0.73m×袖部幅0.96m。
 層序（基準線標高値202.40m）1. 黒褐 粒状C軽石少量・塊状焼土少量・粒状ローム少量。2. 黒褐 細粒状C軽石少量・塊状ローム多。3. 褐 細粒状C軽石少量・粒状ローム混・粒状焼土混。4. 赤褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土・小塊状焼土混。5. 赤褐 塊状焼土・粒状焼土主体（被熱面）。6. 暗茶褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム混・小塊状ローム含有・粒状焼土混（竈）。7. 暗褐 微粒状C軽石微量・細粒状ローム少量。8. 暗褐 微粒状C軽石微量・小塊状ローム混・粒状ローム含有。9. 暗赤褐 塊状焼土多・微粒状C軽石微量・小塊状ローム少量。10. 黒褐 粒状C軽石若干・塊状ローム含有・粒状ローム混。

所見：当住居跡は第1号掘立柱建物跡を切り構築している。竈右袖側が著しく歪んだ状態が認められる。この要因は、傍竈坑を後から構築したか、改築によるものと考えられる。このため右袖側を屋外側に拡張したことによることが推定出来る。

第2号住居跡

位置：19地区16・26区J・K-20・1グリッド。形状：矩形。規模：(4.4)m×4.0m。主軸方位：北-14度-東。

竈規模：長1.25m×燃焼部幅0.7m×袖部幅0.9m。

層序（基準線標高値202.70m）1. 暗褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土多・粒状炭化物含有・粒状ローム少量。2. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量・粒状ローム少量。3. 微粒状C軽石微量・粒状焼土含有・小塊状ローム少量。4. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土若干・粒状炭化物少量。5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。6. 黒褐 塊状ローム少量・VII層土多。E-E' 1. 暗褐 粒状C軽石若干。2. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。3. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土少量・粒状炭化物若干。4. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土若干・粒状炭化物少量。5. 黒褐 細粒状C軽石若干。6. 暗黄褐 細粒状ローム若干・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。F-F' 1. 黒褐 粒状C軽石若干・粒状焼土若干。2. 暗褐 粒状ローム少量。

G-G' 1. 細粒状C軽石若干・塊状ローム若干。2. 黄褐 塊状ローム主。3. 黒褐 塊状ローム少量。

所見：非常に遺存の悪い状態で2号住と重複する状態で確認されているが、新旧関係は平面精査では確認出来なかった。傍竈坑は痕跡程度で、皿状に掘り窪められた程度であった。

第3号住居跡

位置：19地区16・26区K-20・1グリッド。形状：横長方形。規模：3.43m×(2.45)m。主軸方位：北-116度-東。

竈規模：長1.08m×燃焼部幅0.48m×袖部幅1.02m。

層序（基準線標高値202.70m）6. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム少量（3号住）。7. 暗赤褐 細粒状多。粒状炭化物含有。8. 暗褐 微粒状C軽石微量・細粒状含有・粒状ローム少量。H-H' 1. 黒褐 赤褐色粒子C軽石少量・細粒状若干・粒状ローム若干。2. 黄褐 塊状ローム主。3. 暗褐 細粒状C軽石含有・塊状ローム少量。4. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状ローム若干。I-I' 1. 黒褐 細粒状C軽石少量。2. 暗褐 微粒状C軽石微量・細粒状ローム少量。3. 黄褐 塊状ローム主。

所見：当住居跡も遺存が悪い。一部で掘方底面も失われている。P₄から寛平大寶が下層から出土している。

第4号住居跡

位置：19地区16区L・m-19・20グリッド。形状：矩形基調。規模：4.65m×3.50+αm。主軸方位：北-59度-西。

竈規模：長1.0m×燃焼部幅0.58m×袖部幅0.75m。

層序（基準線標高値202.50m）1. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状ローム少量・細粒状ローム混。2. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状ローム含有・細粒状ローム混。3. 黒褐 細粒状C軽石微量・褐色土多・粒状焼土微量。4. 暗褐 粒状焼土若干・粒状ローム若干。5. 暗褐 粒状ローム若干・粒状焼土少量・塊状黒褐色土混。6. 被熱塊状ローム主体・粒状焼土含有・粒状炭化物含有。7. 黒褐 細粒状C軽石微量・粗粒状ローム若干・褐色土混。8. 黒褐 粗粒状C軽石微量・細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。9. 黒褐 細粒状C軽石若干。10. 暗褐 細粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有。11. 茶褐 塊状VII層土主体。12. 暗橙褐 被熱変色・粒状焼土少量・細粒状ローム少量。13. 暗褐 塊状黒褐色土混・粒状ローム若干。14. 黒褐 硬質（1次床面か）・粒状ローム若干。15. 暗黄褐 塊状ローム主体・褐色土少量。

所見：当住居跡は南西壁が斜面部に当り攪乱により逸している。また、推定される南西壁部分では、6号住が重複する位置関係に位置するが、新旧関係は確認段階では明らかに出来なかったが、掘方面に於いて6号住の竈が切る状態を確認した。

第5号住居跡

位置：19地区16区m-20グリッド。形状：不詳。規模：4.26+αm×1.98+αm。主軸方位：不詳。竈：未発見。

層序（基準線標高値202.10m）1. 表土層。2. 茶褐 As-A乃至B含有。3. 黒褐 細粒状C軽石含有・やや硬質・褐色軽石含有。4. 暗褐 細粒状C軽石少量・YP軽石若干・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。5. 暗褐 細粒状C軽石少量・YP軽石含有・粒状焼土少量・粒状炭化物少量。6. 暗褐 細粒状C軽石少量・YP軽石若干・粒状焼土含有・粒状炭化物微量。7. 暗褐 粒状焼土少量・粒状炭化物若干。8. 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干。

所見：当該遺構は住居跡としての性格付けに疑問があったが、遺存の悪い住居跡であろうことも考慮して住居跡として扱った。当住居跡で発見されていない。されている石組みであるが、周囲から少量ながら粒状焼土の出土が見られている。しかし、炉跡に伴う焼土とは著しく異なる状態であり、当該の石組みを炉跡とは判断し得ない状況であった。当該石組みに就いての性格は不詳としておきたい。

第6号住居跡

位置：19地区16区L・m-19・20グリッド。形状：正方形。規模：4.58m×4.33m。主軸方位：北-35度-東。構築基準面：北西壁か。

竈規模：長1.14m×燃焼部幅0.75m×袖部幅1.84m。

層序（基準線標高値201.70m）1. 黒褐 粒状C軽石混・粒状ローム少量・粒状焼土混。2. 黒褐 粒状C軽石多・粒状ローム混。3. 塊状ローム。4. 黒褐 粒状C軽石含有・YP軽石混。5. 暗褐 細粒状cp若干・粒状焼土多・細粒状ローム若干。6. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干。7. 暗褐 細粒状ローム若干・粒状焼土少量。8. 赤褐 粒状焼土多・粒状炭化物含有・細粒状ローム若干。9. 暗黄褐 ローム土主体の貼床。10. 暗褐 塊状ローム少量・YP軽石若干・粒状炭化物若干。11. 茶褐 ローム土と暗褐色土の混土。12. 赤褐 塊状焼土主体。13. 暗褐 YP軽石若干。

所見：当住居跡は第2号掘立柱建物跡と重複する。しかし、重複の状態が方向・範囲がほぼ重なっていることから、双方が同一遺構である可能性も考えられる。

第7号住居跡

位置：19地区16区C-18・19グリッド。形状：不詳。規模：3.62+αm×2.65+αm。主軸方位：北-118度-東。竈：未発見。

層序（基準線標高値201.60m）1. 暗褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム微量。2. 黒褐 細粒状C軽石微量・塊状ローム斑状。3. 塊状黒褐色土と塊状ロームの混土。

所見：当住居跡は第1号遺跡に大半を破壊されている。詳細については不明であるが、発見された壁下には壁溝も発見されていることと、少量ながらの出土遺物から、当住居跡は8号住に類似する形状と推定できる。

第8号住居跡

位置：19地区16区D・E-18・19グリッド。形状：横長方形。規模：4.64m×5.56m。構築基準面：南西・南東壁。主軸方位：北-41度-東。

竈規模：長0.87m×燃焼部幅0.6m×袖部幅0.9m。

層序（基準線標高値201.90m）1. 暗褐 攪乱の混入が多い。2. 暗黄褐 粒状焼土含有・粒状ローム若干。3. 暗赤褐 粒状焼土多・粒状ローム若干。4. 黒褐 細粒状C軽石若干。5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。6. 黒褐 細粒状C軽石微量・小塊状ローム斑状。7. 黒褐 細粒状C軽石微量・塊状ローム斑状・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。8. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土若干・粒状ローム若干。9. 黒褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム少量・粒状ローム混。10. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土含有。11. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土若干・粒状ローム含有。12. 暗褐 塊状ローム含有。粒状炭化物少量。13. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干。14. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干・塊状焼土多。15. 黒褐 細粒状少量・粒状焼土若干。16. 暗褐 粒状ローム混・硬質。17. 16 近質。18. 塊状ローム主体。19. 黒褐 微粒状C軽石若干・粗粒状ローム多・粒状焼土少量・粒状炭化物少量。20. 暗黄褐 塊状ローム主体・YP軽石含有・粒状焼土若干。21. 暗黄褐 塊状ローム主体・粒状焼土若干。

第2節 発見された遺構・遺物

22. 20近質。

所見：均整の取れた住居跡である。構築基準地の2編をほぼ直角に採っている。規模では、15尺×18尺に近似しており、住居規格の存在をしきしている。

第9号住居跡

位置：19地区16・26区C・D・E-20・1グリッド。形状：横長方形。規模：3.56m×6.04m。主軸方位：北-31度一東。構築基準地：北東壁。

電規模：長0.85+αm×燃焼部幅1.00m×袖部幅1.25m。

層序（基準線標高値202.00m）1. 赤褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土多・粒状炭化物若干。2. 黒褐 細粒状C軽石若干。3. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状ローム少量。4. 暗褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム若干・粒状ローム含有。5. 暗褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。6. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土多・粒状炭化物少量。7. 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量・灰少量。8. 黒褐 微粒状C軽石若干。9. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。10. 黒褐 粒状C軽石多・細粒状ローム若干。11. 褐 細粒状C軽石微量・塊状VII層土主体。12. 暗褐 粒状ローム若干。13. 黒褐 暗褐色土と黒褐色土の混土。14. 黒褐 粒状C軽石多・粒状ローム少量。15. 暗黄褐 塊状VII層土・VIII層土の混土。

所見：当住居跡は横軸方向が極度に長い横長方形型である。当住居跡も規模では12尺×20尺の近似値の得られる数値である。

第10号住居跡

位置：19地区26区F・G-2・3グリッド。形状：不詳(正方形基調か)。規模：3.0+αm×4.50m。主軸方位：北-145度一東。構築基準地：不詳。

電規模：長1.00m×燃焼部幅0.575m×袖部幅0.57m。

第13号住居跡

位置：19地区26区F・G-1・2グリッド。形状：横長方形か。規模：4.96+αm×6.54m。主軸方位：北-33度一東。構築基準地：南壁か。

10・13住居跡層序（基準線標高値202.20m）1. 濁黒褐 As-A・B混。2. 濁茶褐 細粒状As-A・B含有。3. 濁茶褐 細粒状As-A・B含有(硬質)。

(1~3:第1号道跡) 4. 黒褐 細粒状C軽石少量。5. 黒褐 細粒状C軽石混・粒状炭化物混・粒状ローム少量。6. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状焼土含有・粒状炭化物含有。7. 黒褐 微粒状C軽石若干・小塊状ローム含有。8. 黒褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム混。9. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多・粒状炭化物含有。10. 暗褐 粒状焼土混・粒状炭化物混・粒状焼土若干。11. 塊状焼土。12. 暗黄褐 微粒状C軽石若干・塊状焼土含有・粒状炭化物若干。13. 暗褐色 細粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム混。14. 12同質。15. 13同質。16. 黒褐 粗粒状C軽石・粒状C軽石混入・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。17. 細粒状C軽石若干。18. 暗赤褐 粒状C軽石混・粒状ローム混・粒状焼土含有。19. 黒褐 粒状C軽石混・粒状ローム若干・粒状焼土含有。20. 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干。21. 黒褐 細粒状C軽石混・粒状ローム含有・粒状焼土混・粒状炭化物含有。22. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土若干。23. 暗黄褐 塊状ローム少量・塊状VII層土含有。24. 黒褐 粒状C軽石混。25. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土含有。26. 黒褐 粒状C軽石混・粒状ローム若干。27. 黒褐 微粒状C軽石若干・細粒状ローム若干。28. 26近質。29. 27近質。

所見：(10号住) 当住居跡は13号住とともに第1号道跡に切られている。このため、確認段階では、第1号道跡の硬化面により、平面精査が十分にできず、切りあい関係の平面把握は不完全であった。これにより、当住居跡の南西壁部分の推定線は、土層断面と掘方面での掘り込みから復元した。

所見：(13号住) 当住居跡は、10号住と第1号道跡に切れ遺存の非常に悪い住居跡であった。残存する南西壁・北西壁から比較的近世の取れた住居跡であることが窺える。また南東壁は不明な状況が多々あるが、電の痕跡が無いことと、出土遺物の様相からは、周辺の8・9号住とほぼ同様な平面形状が推定される。

第11号住居跡

位置：19地区26区C・D-2・3グリッド。形状：縦長方形→横長方形。規模：5.15m×5.98m。主軸方位：北-27度一東。構築基準地：南壁。

電規模：長1.58m×燃焼部幅0.65m×袖部幅2.25m。

層序（基準線標高値202.00m）1. 黒褐 As-B混。2. 黒褐 粗粒状C軽石多・粒状焼土多。3. 暗褐 粒状C軽石含有・粒状焼土多・粒状ローム若干。1. 暗褐 粒状C軽石含有・粒状焼土含有・粒状ローム多(人為層)。5. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム含有。6. 塊状焼土。7. 黒褐 細粒状C軽石・粒状ローム微量。8. 暗褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・粒状ローム少量。9. 黒褐 粗粒状C軽石少量・粒状焼土含有・塊状ローム斑状。10. 黒褐 粗粒状C軽石少量・粒状焼土混・塊状VIII層土。11. 黒褐 粒状C軽石微量・塊状焼土斑状。12. 暗赤褐 被熱土・粒状焼土少量・粒状ローム少量。13. 12近質。8. 黒褐 粒状C軽石少量。15. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状ローム少量。16. 暗赤褐 細粒状焼土少量・粒状ローム多。17. 塊状ローム。18. 粗粒状ローム多・小塊状ローム混。19. 塊状焼土。20. 暗褐 細粒状焼土若干・粒状ローム多。21. 暗褐 細粒状焼土少量・粒状ローム少量。22. 暗赤褐 粒状焼土多。23. 15近質。24. 16近質。25. 9同質。26. 17同質。27. 21近質。28. 塊状ローム主体・粒状焼土少量。29. 15同質。30. 19同質。31. 茶褐 微粒ローム・細粒状ローム多・粒状焼土少量。32. 31同質。33. 塊状ローム主体・粒状焼土若干。34. 暗褐 細粒状ローム少量・粒状焼土多。35. 塊状ローム主体・粗粒状黒褐色土少量。36. 暗褐 微粒ローム多・粒状焼土若干。37. 15近質。38. 暗褐 微粒ローム多・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。39. 暗褐 微粒ローム多・粒状炭化物若干・粗粒状黒褐色土若干・粒状焼土少量。40. 暗褐 微粒ローム多・粗粒状ローム少量・粒状焼土若干。42. 36同質。43. 暗褐 微粒ローム多。44. 32近質。45. 暗褐 微粒ローム多・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。47. 39同質。48. 暗褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土少量・微粒ローム少量。49. 茶褐 暗褐色土混・塊状ローム多。50. 暗褐 粒状C軽石少量・粒状焼土少量・粒状ローム若干。

所見：北壁電は、数次に亘る据換えが行われている。断面では、二回の据換えが確認出来る。東壁電は、底面がよく硬化している。電底面直上の覆土は、住居覆土の5層同質土が堆積していた。また、壁面等は被熱の痕跡も認められなかった。これらのことから、東壁電は、未使用状態で廃棄され、同時に住居自体も廃棄されたと考えられる。床面上で確認出来た土坑状の掘り込みは、P4以外は貼床が認められ、廃棄段階はやや窪んだ状況もあるが、概ね、平にされている。また、掘方で発見された掘り込みは、掘方に伴う塊状ロームを主体に埋設する掘り込みであった。

第12号住居跡

位置：19地区26区A・B-3・4グリッド。形状：矩形。規模：4.15m×4.80m。主軸方位：北-111度一東。構築基準地：北・東。

電規模：長1.55m×燃焼部幅0.95m×袖部幅1.40m。

層序（基準線標高値201.50m）1. As-B純層。2. As-B混黒褐色土。3. 黒褐 粒状C軽石多。4. 黒褐 粒状C軽石混・粒状焼土少量・粒状ローム含有。5. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム少量。6. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム少量・粒状焼土含有。7. 黒褐 微粒状C軽石微量・微粒焼土少量。8. 黒褐 微粒状C軽石少量・微粒焼土含有。9. 黒褐 微粒状C軽石微量・微粒ローム少量。10. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。11. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。12. 黒褐 塊状黒褐色土混・粒状焼土多。13. 明赤褐 粒状焼土多・塊状焼土含有・粒状炭化物若干。14. 赤褐 塊状焼土多・粒状焼土混。15. 暗褐 細粒状ローム少量。16. 暗赤褐 粒状焼土多・粒状炭化物若干・細粒状ローム若干。17. 暗褐 微粒状C軽石微量・細粒状ローム若干。18. 暗黄褐 塊状ローム若干・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。19. 暗褐 細粒状焼土若干・粒状炭化物若干・細粒状ローム若干・塊状黒褐色土若干。20. 黒褐 微粒状C軽石微量。21. 黒褐 粒状C軽石含有・細粒状VII層土斑状多。22. 黒褐。20近質。23. 塊状V層土。24. 塊状ロームとV層土の混土。25. 黒褐細粒状C軽石若干・細粒状ローム多。26. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状ローム少量(貼床)。27. 暗黄褐 ローム主体(貼床)。28. 暗赤褐 細粒状C軽石含有黒褐色土・粒状ローム少量・粒状焼土少量。29. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム少量。30. 暗黄褐 細粒状C軽石含有黒褐粗粒少量・細粒状・粒状ローム多・粒状焼土少量。31. 暗褐 細粒状C軽石含有黒褐色土粒・粒状ローム多斑状。32. 黒褐 黒褐色土主体・細粒状ローム少量・粒状焼土若干。33. 黒褐 微粒状C軽石微量・細粒状ローム多。34. 黒褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム含有。35. 31同質。36. 塊状ローム主体・細粒状黒褐色土少量。37. 塊状ローム主体。38. 黒褐 細粒状C軽石少量・細粒状ローム少量。39. 黒褐 細粒状C軽石若干・細粒状ローム多・粗粒状ローム多。40. 黒褐 微粒状C軽石若干・細粒状ローム少量。41. 暗黄褐 塊状ローム主体。42. 暗褐 粒状C軽石微量・粒状焼土含有・塊状焼土少量。

所見：P₂ (-46)・P₃ (-47)・P₄ (-37)・P₇ (-45)・P₉ (-59)・P₁₄ (-66)・P₁₄ (-55)・P₁₇ (-62)は孰れも柱穴と考えられる。上層構造を示唆する住居跡は希少で、他に13・16号住がある。被覆土にAs-Bが認められたが、周囲には、住居の屋外施設にあたる周溝等の施設は未発見であった。

第14号住居跡

位置：19地区25区T-3・4グリッド。形状：梯形。規模：4.2m×3.48m。主軸方位：北-31度一東。構築基準地：不詳。

電規模：長1.20m×燃焼部幅0.66m×袖部幅1.50m。

層序（基準線標高値201.50m）1. III層土(上面はAs-B降下面に至近)。2. 黒褐 粒状C軽石多・粒状焼土多(第3号道跡a筋覆土)(C-C'の左側には、焼土が溜まっている状態)。3. 黒褐 黒褐粒状C軽石含有(硬質)第3号道跡a筋の路肩に当たっている。4. 黒褐 粒状C軽石混・粒状焼土少量。5. 黒褐 細粒状C軽石若干。6. 黒褐 細粒状微量・粒状焼土若干。7. 黒褐 III層土の下層部(粗粒状C軽石が少ない)。8. 暗褐色 細粒状C軽石若干。9. 黒褐 微粒状C軽石若干。10. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状ローム少量。11. 暗褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム少量。12. 電。13. 塊状焼土。14. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム含有・粒状焼土少量。15. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土含有・粒状ローム少量。

第6章 中里見原遺跡

16. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土第。17. 細粒状C軽石若干・塊状焼土少量・粒状焼土多・小塊状ローム若干・粒状ローム含有。18. 灰・粒状炭化物。19. 黒褐 細粒状C軽石少量。20. 暗褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土少量。21. 褐 粒状焼土多。22. 黒褐 細粒状少量・粒状ローム少量。23. 20同質。24. 21同質。25. 22同質。26. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多・灰多。27. 黒褐 細粒状C軽石若干。

所見：当該住居跡は、第3号道跡a筋と重複している。掲載図中の焼土範囲は覆土上層で出土している。10-00322・323は床面から若干距離離し、床面直上層中で、あたかも、置かれた状態で正位で出土している。

第15号住居跡

位置：19地区26区C・D-3・4グリッド。形状：正方形基調か。規模：3.85m×4.69m。主軸方位：北-117度一東。構築基準：北西壁か。

竈規模：長1.02m×燃焼部幅0.56m×袖部幅1.59m。

層序（基準線標高値201.80m）1. 黒褐 細粒状C軽石若干・細粒状ローム若干・粒状焼土若干。2. 黒褐 細粒状C軽石若干。3. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干。4. 2同質。5. 3同質。6. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土褐（底面に灰層）。7. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土混・粒状ローム若干。8. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。9. 暗褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土少量・塊状ローム若干。10. 9同質。11. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム少量・粒状焼土若干。12. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量・粒状炭化物少量。13. 暗褐 塊状V層土主体。14. 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干・細粒状ローム若干。15. 褐 細粒状ローム若干・粗粒状ローム多。16. 暗褐 細粒状C軽石jk・粒状焼土若干。17. 暗褐 塊状V層土主体・塊状III層土混。

所見：住居内中央部で出土している礫・土器類の周りの覆土には、少量の焼土が認められている。一部には竈構築部材の混入も考慮される。

第16号住居跡

位置：19地区25区Q～S-1・2グリッド。形状：矩形。規模：6.60m×7.70m。主軸方位：北-119度一東。構築基準：北西壁乃至北東壁。

竈規模：総長4.62m×最終使用長2.28m×燃焼部幅0.21～0.24m×焚口部幅0.50m×袖部幅：2.20m。

層序（基準線標高値201.00m）1. 黒褐 As-B含有（III層土最上層相当：上面はAs-B降下面）粗粒状C軽石多。2. 黒褐 細粒状C軽石多。3. 黒褐 細粒状C軽石灰皮・黄色軽石（C軽石か）。4. 黒褐 粗粒状C軽石含有。5. 黒褐 細粒状C軽石多・小塊状C軽石微量。6. 黒褐 粒状混入混。7. 黒褐 細粒状C軽石多・粒状焼土若干。8. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状焼土多・粒状炭化物多。9. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状焼土若干。10. 黒褐 粒状C軽石混・粒状ローム少量。11. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム含有。12. 黒褐 粗粒状C軽石混・粒状焼土含有。13. 黒褐 細粒状C軽石含有・小塊状IV層土少量。14. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土若干。15. 塊状IV層土。16. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混。17. 黒褐 微粒状C軽石若干。18. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状ローム少量。19. 黒褐 粒状混C軽石混・粒状焼土含有・塊状焼土混。20. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状粘質焼土多。21. 暗褐 粒状焼土多・塊状焼土含有。22. 暗褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土混・塊状焼土少量・粒状炭化物若干・粒状ローム若干。23. 黒褐 細粒状C軽石混・粒状焼土含有・粒状炭化物少量。24. 黒褐 細粒状C軽石・粒状焼土少量・粒状炭化物少量。25. 灰暗褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干。26. 灰暗褐 細粒状C軽石若干・粒状炭化物混・粒状焼土少量。27. 灰暗褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土含有。28. 灰暗褐 微粒状C軽石若干・粒状炭化物多・粒状焼土多。29. 暗褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・粒状褐色土若干。30. 塊状ローム。31. 暗褐 粒状褐色土若干・粒状焼土若干。32. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状焼土若干・粒状炭化物若干・粒状ローム若干。33. 粗粒状C軽石若干・粒状焼土多・粒状炭化物若干。34. 暗褐 細粒状C軽石少量・粒状炭化物若干。35. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。36. 黒褐 粗粒状C軽石多・粒状焼土若干・粒状ローム若干。37. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土含有・粒状炭化物少量。38. 暗褐 細粒状C軽石若干・塊状焼土若干・粒状炭化物若干。39. 暗褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土若干・塊状ローム含有。40. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。41. 黒褐 細粒状C軽石多・粒状焼土若干・粒状ローム若干。42. 暗褐 細粒状C軽石多粒状焼土若干・粒状炭化物若干。43. 暗褐 黒褐色土・塊状焼土の混土。44. 黒褐色土細粒状C軽石微量・黒褐色土斑状。45. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム・粒状ロームの混土。46. 黒褐 細粒状C軽石少量・小塊状焼土若干・塊状ローム若干・粒状焼土少量。47. 黒褐 細粒状C軽石若干・小塊状焼土若干・粒状焼土若干・小塊状ローム若干。48. 28同質。49. 46同質。50. 47近質。51. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土・塊状焼土斑状。52. 暗褐 細粒状C軽石若干・塊状焼土少量・粒状焼土若干。53. 52近質。54. 黒褐 細粒状C軽石少量・塊状焼土含有・粒状焼土含有・粒状炭化物少量。55. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土少量・塊状焼土若干。56. 黒褐 微粒状C軽石含有・塊状V層土主体・小塊状VI層土含有。57. 黒褐 微粒状C軽石微量・小塊状ローム。58. 褐 灰・粒状焼土・粒状炭化物混。59. 暗褐 灰含有。60. 暗褐 灰多・粒状炭化物多・小塊状褐色土若干・塊状焼土少量。61. 暗褐 細粒状C軽石含有・塊状V層土多・塊状VI層土含有・塊状VII層土少量。62. 暗褐 細粒状C軽石微量・小塊状褐色土含有。63. 暗褐 細粒状C軽石多・塊状V層土多・塊状VI層土含有。

所見：南隅部に土坑317号が当住居を切り重複している。住居の床面は、平坦であるが、斜面方向に4%ほどの傾斜が認められる。斜面での占地での感覚誤差か。主柱穴は調査段階で、柱痕を確認するため南側から埋土をスライスをしながら掘り進めたが、柱痕は確認出来なかった。断面状況を図中に現したが、観察所見としては、抜き取りされた可能性が考えられた。竈は礫を多用する。断面では4回以上の改築が確認出来る。煙道端部の斜面方向には、塊状焼土・粒状焼土の溝状に分布が認められた。この先端部第1号竈穴状落ち込みに接続する状態であった。双方には何らかの関係が示唆されるが、斜面での流入状態等の自然作用も考慮されるため、調査段階では明確な所見は得られなかった。出土遺物では、規模に比較して少なかつたが、円面碗の破片が3点焼土している。内1点（10-0031）が図上復元出来ている。また、10-00365は、硯の天井部の可能性も考慮される。双耳環の耳部が大小2点（10-362・363）出土している。

第17号住居跡

位置：19地区15区Q・R-18・19グリッド。形状：矩形。規模：3.21m×3.83m。主軸方位：北-129度一東。構築基準：北西壁。

竈規模：長1.52m×燃焼部幅0.5m×袖部幅0.78m。

層序（基準線標高値200.70m）1. III層土の二次堆積（上面はAs-B降下面）。2. 黒褐 粗粒状C軽石混・小塊状C軽石含有（吹き溜りか）・粒状C軽石多。3. 黒褐 粒状C軽石多。4. 黒褐 粒状C軽石含有・粒状焼土含有・粒状ローム含有。5. 黒褐 細粒状C軽石若干・細粒状焼土微量。6. 黒褐 細粒状C軽石含有・細粒状焼土含有。7. 黒褐 細粒状C軽石若干。8. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干。9. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土混・塊状焼土含有。10. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム少量・粒状焼土少量・塊状焼土若干・粒状炭化物少量。11. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状ローム混・塊状ローム少量・粒状焼土若干。12. 暗褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム少量・塊状焼土若干。13. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム少量。

所見：竈内を主体に土師器壺が出土している。特に注目されるのは、吉井・藤岡産「コ」の字状口縁と秋間産の轆轤整形の「秋間型壺」の共伴である。秋間型壺には口縁部形態に「く」「コ」の字状の二者が認められる。当住居跡出土では10-00395が最も良好な個体であった。この個体は、まだ頸部の立ち上がりがはっきりしていない「コ」の字状口縁10-00393の外傾に類似している。

第18号住居跡

位置：19地区15区I・J-18・19グリッド。形状：矩形。規模：2.77m×3.45m。主軸方位：北-127度一東。構築基準：北東壁。

竈規模：長1.38m×燃焼部幅0.56m×袖部幅0.83m。

層序（基準線標高値200.10m）1. III層土の二次堆積（上面はAs-B降下面近）。2. 黒褐 細粒状C軽石混。3. 黒褐 細粒状C軽石若干。4. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干・塊状ローム若干。5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。6. 黒褐 細粒状C軽石微量。7. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム若干・粒状焼土微量。8. 黒褐 5近質。9. 黒褐 細粒状C軽石少量。10. 黒褐 細粒状C軽石混。11. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土少量。12. 1近質。13. 黒褐 細粒状C軽石少量・塊状ローム若干。14. 暗褐 細粒状C軽石含有・小塊状VII層土少量。15. 暗褐 塊状VII層土混。

所見：当住居跡比較的均整が取れた平面形状をしている。竈右横には傍竈坑を備えている。出土遺物では、「コ」の字状口縁土師器壺が2個体良好な資料が得られている。秋間型壺の共伴は認められなかった。

第19号住居跡

位置：19地区25区Q・R-4・5グリッド。形状：不整形。規模：3.98m×4.51m。主軸方位：北-114度一東。構築基準：東壁か。

竈規模：長1.03m×燃焼部幅0.48m×袖部幅1.15m。

層序（基準線標高値200.70m）1. 黒褐 細粒状C軽石少量。2. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。3. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。4. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土微量。5. 黒褐 細粒状C軽石含有。6. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。7. 黒褐 粒状C軽石含有・粒状焼土少量・粒状炭化物若干。8. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状焼土混。9. 赤褐 細粒状C軽石若干・塊状焼土少量・粒状炭化物若干。10. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。11. 微粒状C軽石少量・粒状焼土多・塊状焼土多。12. 黒褐 粒状C軽石混・粒状ローム混。13. 暗褐・細粒状C軽石少量・塊状ローム若干・粒状ローム混・粒状焼土少量。14. 黒褐 細粒状C軽石少量。15. 黒褐 微粒状C軽石微量・微粒状ローム若干。16. 黒褐 細粒状C軽石微量・塊状ローム若干。17. 黒褐細粒状C軽石含有・粒状ローム若干。18. 15同質。19. 黒褐 細粒状C軽石含有。

所見：住居形状が歪んでいる。竈はやや隅部に寄り構築している。傍竈坑は認められなかった。

第2節 発見された遺構・遺物

出土遺物では、秋間型甕がやや多く出土している。孰れも口縁部形状は、「コ」の字状口縁を模倣する状態で、頸部から縦に寛削りを施している。

第20号住居跡

位置：19地区窓25区D-3・4グリッド。形状：横長方形。規模：3.00m×4.23m。主軸方位：北-97度-東。構築基準辺：西壁。

電規模：長1.11m×燃焼部幅0.72m×袖部幅0.75。

層序（基準線標高値198.90m）1. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干・粒状ローム若干。2. 黒褐 細粒状C軽石若干。3. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干・微粒ローム若干。4. 黒褐 微粒状C軽石極微量。5. 細粒状C軽石極微量・微粒ローム少量。6. 黒褐 1同質。7. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土少量。8. 黒褐 微粒状C軽石極微量・粒状焼土多・塊状ローム含有。9. 暗褐 微粒ローム若干・粒状焼土若干。10. 暗褐 粒状焼土多。11. 1同質。12. 2同質。13. 暗褐 粒状焼土多・微粒ローム若干。14. 暗褐 塊状V層土主体。15. 暗褐 塊状V層土。16. 暗褐 細粒状ローム多・粒状焼土少量・粒状炭化物若干。17. 暗褐 粒状焼土若干・粒状炭化物若干。18. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状V層土主体。19. 黒褐 細粒状C軽石少量・塊状V層土少量。20. 暗褐 塊状V層土主体。

所見：南東隅部の傍電坑は・廃棄時の床面上で確認出来た形状と、掘方調査後の形状は異なった状態であった。傍電坑が機能を失う段階での、縮小行為としても考えられる。出土遺物では、「几」+「上」を墨書する須恵器環（塊か）が北西隅部で出土している。

第21号住居跡

位置：19地区25区C-4グリッド。形状：縦長方形か。規模：3.6+αm×2.6m。主軸方位：北-12度-西。構築基準辺：西・南壁か。竈未発見。

層序（基準線標高値198.70m）1. 黒褐 細粒状C軽石多・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。2. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状炭化物極微量。3. 黒褐 塊状V層土主体。

所見：当住居跡は、宅地造成により北側及び竈を失っている。残存する西・南壁の状況は、ほぼ直角に交わる状態で形状が良く整っている。

第22号住居跡

位置：19地区24・25区T・A-2・3グリッド。形状：縦長方形。規模：5.58m×4.20m。主軸方位：北-10度-西。構築基準辺：西・南壁。

電規模：長1.15m×燃焼部幅0.54m×袖部幅1.62m。

層序（基準線標高値197.70m）1. 黒褐 細粒状C軽石多・粒状炭化物若干。2. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状炭化物少量。3. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状炭化物若干・微粒ローム少量。4. 暗褐 細粒状C軽石微量・微粒状ローム少量。5. 暗褐 微粒状ローム多・粒状炭化物若干。6. 暗褐 細粒状C軽石微量・塊状ローム若干・粒状ローム混。7. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状炭化物若干・粒状焼土若干。8. 黒褐 暗褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土少量。9. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。10. 暗褐 細粒状C軽石微量・微粒状ローム少量。11. 黒褐 細粒状C軽石若干・微粒状ローム少量・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。12. 暗褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土多・微粒状ローム少量。13. 暗黄褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム主体・粒状焼土若干。14. 黒褐 細粒状C軽石若干。15. 暗褐 細粒状C軽石若干・塊状VII層土主体。16. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。17. 黒褐色土細粒状C軽石若干・細粒状ローム若干。18. 黒褐 細粒状C軽石若干・細粒状ローム少量。19. 黒褐 細粒状C軽石若干。20. 暗褐 塊状黒褐色土少量・細粒状ローム多・塊状ローム多。

所見：竈を備える北壁は竈を境に左右の歪みが顕著である。推定構築辺を含む3辺は均整取れているがあまりにもアンバランスな状況である。北壁は、竈の改築等と同時に壁の改修も実施しているのかもしれない。竈の礎の出土状況のなかで、中央部の大きな礎は、使用時の元位置を留めていない。状況的には、破壊され封印された状態にも考えられる。

第23号住居跡

位置：19地区15区L・m-18~20グリッド。形状：横長方形。規模：4.20m×5.40m。主軸方位：北-135度-東。構築基準辺：4辺。

電規模：長1.21m×燃焼部幅0.92m×袖部幅1.38m。

層序（基準線標高値199.90m）1. 黒褐 粒状C軽石混。2. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状炭化物含有・塊状ローム含有。3. 黒褐 粒状C軽石含有・塊状ローム少量。4. 黒褐 粒状C軽石含有・粒状焼土含有。5. 黒褐 粒状C軽石少量。6. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状ローム少量。7. 黒褐 塊状VII層土多（発色明）。8. 同質。13. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状VII層土含有。10. 黒褐色土と塊状VII層土の混土。11. 10同質。12. 黒褐 粒状C軽石少量。13. 黒褐 粒状C軽石含有・塊状焼土多。14. 黒褐 微粒状C軽石少量・塊状焼土含有・粒状焼土少量。15. 赤橙~黄橙 塊状焼土層。16. 黒褐 粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状ローム混。17. 黒褐 粒状C軽石・小塊状ローム少量。18. 黒褐 粗粒状C軽石含有・粒状ローム若干。

所見：当住居跡は4辺を基準に構築が考えられる均整が整った住居跡である。規模の数値は尺換算では、14尺×18尺に換算できる。当遺跡のプロトタイプに設定可能である。出土遺物では、須恵器環底面の切り離し技法に、回転駕起こし・回転糸切の双方が認められる。また、県外から搬入された土師器環(10-00481)が出土している。

第24号住居跡

位置：19地区15区m・N-15・16グリッド。形状：横長方形。規模：4.03m×5.72m。主軸方位：北-40度-東。構築基準辺：4辺か。

電規模：長1.68m×燃焼部幅0.63m×袖部幅1.18m。

層序（基準線標高値199.40m）1. III層土の二次堆積（上面はAs-B降下面近）。2. 黒褐 細粒状C軽石含有。3. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混。4. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状炭化物含有。5. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・粒状褐色土若干・粒状炭化物若干。6. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・粒状褐色土。7. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・粒状褐色土。8. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・粒状焼土含有・灰含有。9. 黒褐微粒状C軽石含有・塊状VI層土含有。10. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・塊状褐色土含有。11. 2同質。12. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状焼土若干・灰含有。13. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・灰・粒状炭化物若干。14. 暗褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・塊状灰灰。15. 暗褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・塊状灰斑状混。16. 暗褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・塊状灰斑状混・塊状焼土含有。17. 暗褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・塊状灰斑状混・塊状焼土含有・粒状焼土含有。18. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状IV層土混・灰・粒状炭化物若干・粒状焼土含有。19. 黒褐 粒状C軽石多・硬質。20. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム少量。21. 黒褐 微粒状C軽石若干・塊状焼土斑状混。22. 暗黄褐 粒状C軽石若干・塊状VI層土含有。

所見：本住居跡も均整の取れている平面形状を呈している。出土遺物では、平面硯が2個体認められる。当遺跡での平面硯出土量の多さは注目に値する。

第25号住居跡

位置：19地区15区L・m-15・16グリッド。形状：正方形。規模：3.71m×3.11m。主軸方位：北-130度-東。構築基準辺：北西壁か。

電規模：長1.05m×燃焼部幅0.58m×袖部幅1.15m。

層序（基準線標高値199.70m）1. 黒褐 As-B混（上面はAs-B降下面）。2. 黒褐 粒状C軽石多。3. 黒褐 粒状C軽石多・粒状褐色土若干・粒状炭化物含有。4. 黒褐 細粒状C軽石含有。5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状褐色土若干・塊状褐色土若干。6. 黒褐 粒状C軽石若干・粒状褐色土若干。7. 細粒状C軽石少量・粒状褐色土含有・粒状炭化物含有・粒状焼土含有。8. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量・粒状ローム若干。9. 黒褐 微粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。10. 黒褐色土・粒状焼土・灰・塊状褐色土の混土。11. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状褐色土少量。12. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状褐色土混。13. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状褐色土混・塊状焼土間。14. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。

所見：複数基の切り合いの住居跡である。9世紀末頃の時期が推定される。吉井・藤岡産土師器甕、秋間型甕の破片が出土している。

第26号住居跡

位置：19地区L・m区-15・16グリッド。形状：縦長方形。規模：5.46m×4.02m。主軸方位：北-120度-東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序（基準線標高値199.40m）1. 黒褐 As-B含有（III層土最上層相当；上面はAs-B降下面）・粗粒状C軽石多。2. 黒褐 細粒状C軽石多。3. 黒褐 細粒状C軽石環底・黄色軽石（C軽石か）。4. 黒褐 粒状C軽石多・塊状灰混・粒状褐色土灰。5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状褐色土灰・小塊状焼土若干。6. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状褐色土若干。7. 黒褐 粒状C軽石多。8. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状褐色土灰・粒状炭化物灰。9. 黒褐 粒状C軽石若干・小塊状褐色土若干。10. 黒褐 微粒状C軽石若干・小塊状褐色土若干・粒状褐色土若干。11. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土灰。12. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状褐色土若干・粒状炭化物含有。13. 暗褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム含有。14. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・粒状炭化物若干・粒状褐色土多。

所見：当住居跡は3基の重複に状態で発見された。重複部分には竈の痕跡等が認められなかったことから、未調査部分の民地に存在すと思われる。

第27号住居跡

位置：19地区14・24区Q・R-20・1グリッド。形状：縦長方形か。規模：4.26m×3.58m。主軸方位：北-30度-西。構築基準辺：南西壁か。

竈：未発見。

層序（基準線標高値196.80m）1. 黒褐 粒状C軽石混。2. 黒褐 細粒状C軽石多・塊状褐色土斑状混。3. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状褐色土若干。4. 細粒状C軽石多／粒状炭化物含有・粒状褐色土若干。5. 黒褐 細粒状C軽石多・小塊状褐色土若干。6. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム

第6章 中里見原遺跡

ム混・小塊状褐色土少量。 7. 暗黒褐色 細粒状C軽石若干。 8. 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。 9. VI層土。 10. 鈍黄橙 微粒状C軽石微量・粒状焼土少量。 11. 黒褐色 微粒状C軽石若干・粗粒状VI層土少量。 12. 暗褐色 細粒状C軽石微量・塊状VI層土斑状混。 13. 黒褐色 微粒状C軽石若干・粗粒状VI層土含有。 14. 黒褐色 微粒状C軽石微量・粒状ローム少量・粒状焼土微量・塊状ローム若干。

第28号住居跡

位置：19地区14・24区R-20・1グリッド。 形状：正方形。 規模：3.00m×3.18m。 主軸方位：北-62度-東。 構築基準辺：南西壁・北東壁。

電：未発見

層序（基準線標高値196.80m）1. 暗褐色 細粒状C軽石混。 2. 暗褐色 細粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。 3. 暗褐色 細粒状C軽石含有。 4. 暗褐色 細粒状C軽石多。 5. 暗褐色 細粒状C軽石含有・粒状褐色土含有。 6. 暗褐色 微粒状C軽石若干・粒状黒色土含有。

第40号住居跡

位置：19地区24区-グリッド。 形状：。 規模：m×m。 主軸方位：北一度-東。 構築基準辺：。 電規模：長m×燃烧部幅m×袖部幅m。

層序（基準線標高値m）1. 黒褐色 粒状C軽石混。 2. 黒褐色 細粒状C軽石多・粒状炭化物含有塊状ローム若干。 3. 暗褐色 細粒状C軽石含有・塊状ローム斑状混。 4. 暗褐色 微粒状C軽石微量・粒状ローム混・塊状ローム少量。

第46号住居跡

位置：19地区24区R・S-1・2グリッド。 形状：正方形か。 規模：1.45+ α m×3.10m。 主軸方位：北-73度-東。 構築基準辺：不詳

電：未発見。

所見：(27号住) 東壁に電を想定してD-D'を設定したが、ピットが発見されただけで電ではなかった。このことから、電は北西壁に備えられたものと推定される。

所見：(28号住) 当該の遺構は、調査段階で住居跡として扱ったが、電が27号住との重複する部分にしか推定し得ない。この場合、隅部設置も考慮されるが床面での状況には、電の痕跡は窺知できなかった。これらのことから、当該遺構は堅穴状遺構として捉えなければならない遺構である。

所見：(40号住) 遺構名称は住居跡を冠するもの、土坑と判断できる遺構である。

所見：(46号住) 当住居跡も部分的な調査に止まった。至近の28号住と同様な規模とも思われるが詳細不詳である。

第29号住居跡

位置：19地区24区Q・R-6・7グリッド。 形状：不詳。 規模：1.52+ α m×1.86+ α m。 主軸方位：北-4度-東。 構築基準辺：不詳。

電：未発見。

層序（基準線標高値195.80m）1. 黒褐色 As-B含有（III層土最上層相当：上面はAs-B降下面）・粗粒状C軽石多。 2. 黒褐色 細粒状C軽石多。 3. 黒褐色 粗粒状C軽石多。 4. 細粒状C軽石微量。 5. 4近質。 6. 黒褐色 細粒状C軽石微量・粒状焼土混。 7. 黒褐色 細粒状C軽石微量（硬質）。 8. 黒褐色 細粒状C軽石微量・塊状ローム斑状混。 9. 粒状C軽石少量・粒状炭化物含有。 10. 黒褐色 粒状C軽石少量・塊状ローム斑状混・粒状ローム混・粒状炭化物含有。

所見：宅地造成時に大半を削り取られている。このため詳細は不分明。

第30号住居跡

位置：19地区24区P・Q-6グリッド。 形状：横長方形か。 規模：3.02m×3.46m。 主軸方位：北-60度-東。 構築基準辺：西壁か。

電規模：長0.8m×燃烧部幅0.48m×袖部幅0.87m。

層序（基準線標高値195.00m）1. 黒褐色 細粒状C軽石多。 2. 黒褐色 細粒状C軽石多・塊状ローム若干。 3. 黒褐色 細粒状C軽石若干・小塊状ローム若干。 4. 黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状ローム含有。 5. 暗褐色 細粒状C軽石微量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。 6. 黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干・粒状焼土含有・粒状炭化物若干。 7. 暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。 8. 粗粒状炭化物主体。 9. 5同質。

所見：当住居跡は宅地造成時に大半を攪乱され逸している。電は痕跡程度しか発見できなかった。詳細は不分明である。

第31号住居跡

位置：19地区24区m・N-6・7グリッド。 形状：横長方形基調乃至矩形。 規模：3.56m×4.2m。 主軸方位：北-118度-東（北壁）・北-126度-東（西壁）。 構築基準辺：北壁乃至西壁。 電規模：長1.41m×燃烧部幅0.55m×袖部幅0.65m。

層序（基準線標高値194.30m）1. 黒褐色 細粒状C軽石多。 2. 黒褐色 細粒状C軽石多・塊状IV層土含有・粒状炭化物若干。 3. 黒褐色 微粒状C軽石若干・塊状IV層土含有・粒状炭化物若干。 4. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土少量。 5. 暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。 6. 暗褐色 粒状焼土多。 7. 黄褐色 塊状ローム主体。 8. 塊状IV層土・塊状V層土・塊状ロームの混土。 9. 黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量。

所見：当住居跡は形状が梯形を呈しているが基調は横長方形乃至矩形と考えられる。また、構築基準辺が北か西壁に考えられ、双方での軸方位差は7度ほどである。東斜面側の9世紀代の住居跡には、西壁基準での軸方位数値に近い場合が多い。当該住居跡と同様時期（10世紀）の住居跡の軸方位は規則性が明確ではない。この9世紀・10世紀と東西斜面部での異なりは、遺跡自体の変容が大きな要因と考えられる。

第32号住居跡

位置：19地区24区J・K-5・6グリッド。 形状：横長方形基調。 規模：3.79m×4.32m。 主軸方位：北-92度-東。 構築基準辺：南壁。

旧電規模：長15m×燃烧部幅0.58m×袖部幅1.06m。 新電規模：長1.46m×燃烧部幅0.58m×袖部幅0.98m。

層序（基準線標高値193.20m）1. 黒褐色 粒状C軽石混。 2. 黒褐色 粒状C軽石含有。 3. 黒褐色 粒状C軽石若干・粒状焼土微量・粒状ローム若干。 4. 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干・塊状ローム若干。 5. 黒褐色 細粒状C軽石微量・粒状ローム含有・塊状ローム含有。 6. 黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状焼土含有。 7. 黒褐色 細粒状C軽石微量・粒状焼土少量・粒状炭化物若干。 8. 黒褐色 細粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状焼土含有・粒状ローム若干。 9. 微粒状C軽石微量・粒状焼土混。 10. 黒褐色 細粒状C軽石多。 11. 暗褐色 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干。 12. 暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量・塊状焼土含有・小塊状ローム若干。

所見：当住居跡で特筆出来るのは、8枚の鉄製鎌先（40-00050と52は接合する）と3丁の鋤先が床直層より出土していることである。鎌先は大身4丁小身4丁の構成で、鋤先は2丁が完存で、40-00058は先端が使用により摩滅は顕著であるのに対して、40-00059は摩滅が殆ど認められない。この使い減りの無い49に対して、袋部分の破片40-00053は破損品である。これは、59が破損した53の代替品であったことが想定される。この鉄製品は隣接する第3号堅穴状遺構で政策された可能性が濃厚である。この鉄製品の構成比率4：4：2は、専業従事者の定数を既定していることが推測される。また、当該住居跡を含め、東斜面で発見されている住居跡群は眼下の根岸・中川遺跡での農業生産活動の従事者の住居跡の可能性も類推される。更に当該遺跡が寺院乃至寺院関連遺跡であることは、10世紀以降の寺院の活動に示唆的な状況と考えられる。

第33号住居跡

位置：19地区24区H・I-4グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.08m×3.40m。 主軸方位：北-124度-東。 構築基準辺：南東壁か。

電規模：長0.95+ α m×燃烧部幅0.43+ α m×袖部幅0.95+ α m。

層序（基準線標高値192.70m）1. 黒褐色 粒状C軽石混。 2. 黒褐色 細粒状C軽石少量。 3. 細粒状C軽石含有。 4. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土含有。 5. 暗褐色 微粒状C軽石微量・塊状ローム若干・粒状焼土若干。

所見：当住居跡の電は、調査段階でもかなり計上しが崩れた状態であった。これは、住居を廃棄する段階乃至直後くらいに、電を破却したかの状況であった。また、掘方が認められない。

第34号住居跡

位置：19地区24区I-2・3グリッド。 形状：不詳。 規模：2.76+ α m×3.4+ α m。 主軸方位：北-3度-東。 構築基準辺：不詳。

電規模：長0.95m×燃烧部幅0.62m×袖部幅0.8+ α m。

層序（基準線標高値193.80m）1. 黒褐色 粗粒状C軽石少量。 2. 黒褐色 細粒状C軽石少量。 3. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状ローム多。 4. 黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。 5. 黒褐色 細粒状C軽石若干。 6. 黒褐色 細粒状C軽石少量。 7. 黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状VI層土含有。 8. 粘質V層土。 9. 黒褐色 微粒状C軽石微量・粒状焼土少量。 10. 黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。 11. 塊状VI層土主体・粒状焼土若干。 12. 塊状V層土主体・小塊状VI層土含有。

所見：電を北壁に備える。北壁に電を備える21・22・27号住とはの軸方位が異なる。出土している。遺物には図化復元できる個体が無かった。耕作等による攪乱が顕著で詳細不分明。

第35号住居跡

位置：19地区24区I・J-2・3グリッド。 形状：不詳。 規模：2.36+ α m×2.63+ α m。 主軸方位：北-30度-東。 構築基準辺：不詳。

電：未発見。

第2節 発見された遺構・遺物

層序(基準線標高値193.80m) 1. 黒褐 粒状C軽石含有。 3. 黒褐 細粒状C軽石若干。 4. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。 5. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・粒状ローム若干。

所見: 当住居跡は34号住に切られている。耕作等による攪乱が顕著で詳細不分明。

第36号住居跡

位置: 19地区24区J・K-3・4グリッド。 形状: 横長方形。 規模: 3.96m×2.76m。 主軸方位: 北-85度一東。 構築基準辺: 東壁か。

電規模: 長0.9m×燃焼部幅0.50m×袖部幅0.65m。

第42号住居跡

位置: 19地区24区J・K-3・4グリッド。 形状: 正方形。 規模: 3.00m×3.00m。 主軸方位: 北-161度一東。 構築基準辺: 不詳。

電規模: 長(0.9)m×燃焼部幅(0.48)m×袖部幅(0.84)m。

第43号住居跡

位置: 19地区24区J・K-3・4グリッド。 形状: 正方形か。 規模: 2.64m×2.40m+ α m。 主軸方位: 北-160度一東。 構築基準辺: 不詳。

電: 未発見。

層序(基準線標高値m) 1. 黒褐 細粒状C軽石少量・小塊状VI層土含有・粒状炭化物含有・小塊状灰褐色土若干。 2. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土若干。 3. 黒褐 細粒状C軽石若干・小塊状褐色土含有・粒状灰褐色土若干。 4. 黒褐 細粒状C軽石含有・小塊状褐色土含有・粒状炭化物含有。 5. 暗褐 微粒状C軽石若干・粒状ローム混・塊状ローム少量。 6. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状ローム若干。 7. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム混・塊状ローム含有。 8. 塊状ローム主体・粒状ローム若干。 9. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干・粒状ローム含有。 10. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土若干・粒状ローム若干。 11. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。 12. 黒褐 細粒状C軽石少量・塊状ローム若干・粒状焼土微量・粒状ローム若干。 13. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。 14. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム混。 細粒状C軽石微量・粒状ローム多。

所見: (36号住) 大半が42号住に切れ失われている。竈は屋外への掘り込みも少なく小規模な造りである。左袖側は42号住の竈による攪乱により失っている部分が多いと思われるが、右袖が明確に露呈出来ていないと考えられ、相対的な比較が出来ない。

所見: (42号住) 調査時平面精査が不完全であったために36号住との新旧関係を誤認し、新旧逆に調査している。調査進行中に42号住の竈の石組みを確認した段階で新旧関係誤認に気が付いている。竈は礎を比較的多く多用する構造で、あるが、燃焼空間等幅の規模がやや小規模に感じられる。確実な平面状況が把握できなかった為、詳細は不分明である。

所見: (43号住) 部分的な出土である。大半を42号住に切られている。規模も最大42号住の範囲内としても、小規模な住居跡である。詳細は不分明。

第37号住居跡

位置: 19地区24区K-2・3グリッド。 形状: 横長方形。 規模: 3.16m×3.97m。 主軸方位: 北-134度一東。 構築基準辺: 北西壁。

電規模: 長0.95m×燃焼部幅0.46m×袖部幅0.94m。

層序(基準線標高値193.60m) 1. 黒褐 細粒状C軽石多・粗粒状ローム若干。 2. 黒褐 微粒状C軽石少量・粗粒状ローム少量。 3. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム少量。 4. 黒褐 微粒状C軽石少量。 5. 暗褐 微粒状C軽石少量・粒状焼土少量。 6. 暗褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土多。 7. 細粒状C軽石少量・粒状焼土微量・粒状ローム少量。 8. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状焼土若干・粒状焼土少量・粒状ローム含有。 9. 暗褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム若干・粒状ローム混。 10. 暗褐 細粒状C軽石少量・塊状焼土若干含有・粒状焼土多・粒状ローム若干。 11. 黒褐 微粒状C軽石微量・細粒状ローム若干。 12. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム多・粒状焼土多。 13. 黒褐 微粒状C軽石若干・塊状ローム斑状多。

所見: 当住居跡の南隅部には、遺物がやや集中して出土している。この部位は傍竈坑の位置にあたるが、床面下からは掘り込みは認められなかった。出土遺物では、墨書土器が2点4文字がある。「堯上」(10-00626)(墨書-15)は当遺跡の墨書の特徴で、「上」を囲む記号的な意味があるのかも知れない。

第38号住居跡

位置: 19地区24区K・L-2・3グリッド。 形状: 横長方形。 規模: 3.53m×4.53+ α m。 主軸方位: 北-54度一東。 構築基準辺: 南西壁か。

電規模: 長1.37m×燃焼部幅0.78m×袖部幅1.15m。

層序(基準線標高値193.90m) 1. 黒褐 細粒状C軽石多。 2. 黒褐 微粒状C軽石多・塊状VI層土少量。 3. 暗褐 微粒状C軽石若干・塊状VI層土含有。 4. 粒状C軽石含有・粒状焼土少量。 5. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状焼土混・塊状焼土多。 6. 暗褐 粒状C軽石含有・粒状炭化物・灰混・粒状焼土混。 7. 暗褐 細粒状C軽石若干・塊状焼土多・粒状焼土多。 8. 塊状焼土主体・粒状焼土多。 9. 塊状焼土層。 10. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。 11. 黒褐 細粒状C軽石若干・微粒ローム多・粒状焼土含有。 12. 暗褐 細粒状C軽石若干・粗粒状ローム多・粒状焼土少量。 13. 暗褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム微量・粒状焼土若干。 14. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土混・塊状焼土含有。 15. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム若干・粒状焼土若干。 16. 黒褐 細粒状C軽石微量・塊状VI層土含有・粒状焼土若干。 17. 暗褐 微粒状C軽石微量・細粒状ローム若干。 18. 暗褐 細粒状C軽石若干・細粒状ローム若干。 19. 暗褐 微粒状C軽石微量・塊状ローム含有。 20. 細粒状C軽石若干塊状ローム主体。 21. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量・微粒ローム少量。 22. 黒褐 細粒状C軽石若干。

所見: 掘り込みが発見された北側ピット群は孰れも60cmを越す深度がある。柱穴とするには疑問が生ずる。だが、深度が深いことから構造の一部と考えられるが、7本が集中する意味は不分明である。

第39号住居跡

位置: 19地区24区R・S-9グリッド。 形状: 不詳。 規模: 1.39+ α m×2.80+ α m。 主軸方位: 北-150度一東。 構築基準辺: 不詳。

電規模: 長0.92m×燃焼部幅0.38m×袖部幅0.6m。

層序(基準線標高値199.50m) 1. 黒褐 粒状C軽石含有(表土層での攪乱が顕著に及んでいる)。 2. 黒褐 粒状C軽石混・粒状ロームS。 3. 細粒状C軽石微量・塊状VI層土多。 4. 浅黄橙 粒状焼土含有(竈崩壊土)。 5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土S・塊状焼土若干。 6. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土S・粒状ローム混・粒状炭化物若干。 7. 暗褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。 8. 細粒状C軽石微量・粒状ロームS・塊状ローム若干。

所見: 当住居跡は調査が一部にしか及ばなかった。このため詳細は不分明である。

第44号住居跡

位置: 19地区24区Q・R-5・6グリッド。 形状: 矩形。 規模: 3.25m×3.69m。 主軸方位: 北-110度一東。 構築基準辺: 南壁か。

電規模: 長1.04m×燃焼部幅0.60m×袖部幅0.70m。

層序(基準線標高値196.20m) 1. 黒褐 粒状C軽石多・粒状炭化物含有。 2. 黒褐 粒状C軽石S・塊状IV層土含有。 3. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状褐色土少量。 4. 黒褐 細粒状C軽石混・粒状焼土多。 5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。 6. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状ローム若干。 7. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状VI層土少量。 8. 黒褐色土・塊状VI層土の混土((貼床)。 9. 黒褐 細粒状C軽石微量・塊状VI層土混。 10. 黒褐色土・塊状VI層土の混土。 11. 黒褐 微粒状C軽石微量・細粒状ローム少量・細粒状VI層土含有。 12. IV層土。 13. V層土。

所見: 当住居跡の西側は3号遺跡は住居跡が発見されていない。住居跡内部では、P₅が-60cmの深度を計りP₄が-14cmを計る。P5は施設の何らかの部分に該当する柱穴と考えられるが、詳細不詳である。

第45号住居跡

位置: 19地区24区N・O-4グリッド。 形状: 横長方形。 規模: 3.30m×3.64m。 主軸方位: 北-13度一東。 構築基準辺: 北壁。

電規模: 長0.6m×燃焼部幅0.44m×袖部幅0.79m。

層序(基準線標高値195.20m) 1. 黒褐 細粒状C軽石多。 2. 黒褐 粒状C軽石混。 3. 黒褐 粒状C軽石混・粒状褐色土含有。 4. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状VI層土含有。 5. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干。 6. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干・粒状焼土多。 7. 暗褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土少量。 8. 塊状焼土層。 9. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土混・粒状炭化物含有。 10. 黒褐 微粒状C軽石少量・細粒状ローム少量(硬質)。 11. 微粒状C軽石微量・塊状VI層斑状。

所見: 当住居跡の掘りは、床面全体が掘り下がるのではなく、ピットの掘り込みが部分的に掘り込まれている状態である。

第47号住居跡

位置: 19地区24区N-3・4グリッド。 形状: ウ横長方形。 規模: 2.79m×(4.09)m。 主軸方位: 北-102度一東。 構築基準辺: 西壁。

電規模: 長0.96m×燃焼部幅0.6m×袖部幅1.14m。

層序(基準線標高値195.10m) 1. 黒褐 細粒状C軽石多。 2. 黒褐 細粒状C軽石多・塊状黄褐色土多。 3. 黒褐 細粒状C軽石多・塊状黄褐色土少量・粒状炭化物多。 4. 黒褐 細粒状C軽石混・塊状黄褐色土の混土。 5. 黒褐 細粒状C軽石多・塊状褐色土多。 6. 2近質。 7. 黒褐 細粒状C軽

第6章 中里見原遺跡

石若干・粒状褐色土少量。8. 茶褐 細粒状C軽石微量・YP軽石少量。9. 暗褐 細粒状C軽石少量・塊状褐色土多。10. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状褐色土の混土。11. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状ローム含有。12. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。13. 茶褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土多。14. 暗褐 細粒状C軽石少量・微粒ローム少量。15. 暗褐 微粒状C軽石微量・微粒ローム多。16. 暗褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土若干。17. 暗褐 細粒状C軽石若干。18. 黒褐色土と塊状ロームの混土(貼床)。

所見:住居跡の北西壁側は調査時の掘り過ぎである。竈右袖はしっかりしていないが隅部に偏在する竈なので、右袖の造りが異なることも推定される。

第48号住居跡

位置:19地区24区N・O-3グリッド。形状:縦長方形。規模:4.22m×3.12m。主軸方位:北-143度-東。構築基準辺:南東壁以外の3辺か。

竈規模:長0.75+ α m×燃焼部幅0.70m×袖部幅0.90m。

層序(基準線標高値195.20m)1. 黒褐 粒状C軽石混。2. 黒褐 粒状C軽石少量。3. 黒褐 細粒状C軽石少量。4. 黒褐 微粒状C軽石微量。5. 細粒状C軽石含有・粒状焼土若干。6. 黒褐 粒状C軽石含有・粒状焼土混・粒状ローム若干。7. 暗褐 微粒状C軽石若干・粒状焼土混・粒状炭化物含有。8. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム若干。

所見:均整の取れた住居跡、北壁以外に基準が考えられる。竈の規模がやや小規模である。断面D-D'でも屋内側への袖の造りが認められなかった。埋没換回には既に粗でも崩壊していたか、廃棄段階で破却されている可能性も考慮される。

第49号住居跡

位置:19地区24区O・P-1・2グリッド。形状:縦長方形基調。規模:3.662m×3.33m。主軸方位:北-97度-東。構築基準辺:西壁。

竈規模:長0.74m×燃焼部幅0.50m×袖部幅1.86m。

層序(基準線標高値195.60m)1. 黒褐 粗粒状C軽石多。2. 黒褐 粒状C軽石混。3. 黒褐 細粒状C軽石含有。4. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土含有。5. 黒褐 細粒状C軽石微量。6. 黒褐 細粒状C軽石若干。7. 黒褐 微粒状C軽石微量・塊状褐色土混。8. 7同質。9. 暗褐 細粒状C軽石微量。10. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干。11. 黒褐 細粒状C軽石微量。12. 3近質。13. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土混。14. 黒褐 細粒状C軽石含有・粒状焼土少量。15. 14同質。16. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土含有・粒状ローム若干。17. 黒褐 細粒状C軽石混・粒状焼土若干。18. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干。19. 被熱層。20. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土混・塊状ローム若干・粒状炭化物少量。21. 黒褐微粒状C軽石若干。22. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム多。23. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム少量。24. 細粒状C軽石若干・微粒ローム少量・粗粒状VI層土少量。

所見:平面形状のひずみ大きい。類似形状14号住居に認められるもの、所産時期が異なる。出土している土師器等は、既に吉井・藤岡産の製品は姿を消し、秋間型甕が全てを占めている。竈は瓦よ多用する構造で、奥壁側に顕著に用いている。

第50号住居跡

位置:19地区24区P-2グリッド。形状:横長方形。規模:2.87m×3.18m。主軸方位:北-102度-東。構築基準辺:西壁か。

竈規模:長0.72m×燃焼部幅0.50m×袖部幅0.51m。

層序(基準線標高値195.80m)1. 黒褐 細粒状C軽石少量。2. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状ローム少量。3. 黒褐 細粒状C軽石若干。4. 黒褐 微粒状C軽石若干・塊状VI層土若干。5. 黒褐 細粒状C軽石微量・塊状塊状褐色土含有。6. 暗褐 微粒状C軽石若干。7. 暗褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム若干・塊状ローム若干。8. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状焼土若干。9. 塊状焼土主体。10. 暗赤褐 塊状焼土斑状・粒状焼土含有。11. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム少量・粒状焼土少量。12. 暗褐 細粒状C軽石微量・粒状焼土若干。13. 暗褐 微粒状C軽石微量・粗粒状V層土少量・粒状焼土若干。14. 黒褐 微粒状C軽石微量・微粒ローム多・粗粒状ローム多。15. 黒褐 微粒状C軽石微量・微粒ローム多・塊状ローム混。16. 14近質。17. 黒褐微粒状C軽石微量・微粒ローム多・粗粒状ローム含有。18. 黒褐 粒状C軽石含有・粒状ローム混・粒状焼土混。19. 黒褐 粒状C軽石含有・粒状ローム含有。20. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム混。21. 黒褐 微粒状C軽石微量・粒状ローム多・粗粒状ローム含有。22. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状ローム混。23. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状ローム混。24. 黒褐 細粒状C軽石少量・細粒状VI層土少量。25. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム混・粒状ローム含有。

所見:当住居跡の傍壕は、底部は塊状ロームで掘り込みを埋設していた。この状況は、改築か住居跡の掘り同様に、粗掘り後の埋設と思われるが、之を明確に判断できる状況は未確認であった。掘り方面で確認した、P₁~P₁₀の中でP₂で柱穴が存在した状況が観察されている。またこのピットの上面では、扁平な礫が出土しており、根石とも思われる。他のピットではこの状況は確認出来なかった。

第51号住居跡

位置:19地区24区L-7グリッド。形状:横長方形。規模:2.15m×2.50m。主軸方位:北-111度-東。構築基準辺:4辺か。

竈規模:長1.25m×燃焼部幅0.85m×袖部幅1.02m。

層序(基準線標高値193.20m)1. 黒褐 細粒状C軽石含有・塊状ローム斑状混・粒状焼土少量。2. 褐色 塊状ロームと粒状焼土の混土。3. 暗褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム多。4. 暗褐 細粒状C軽石少量・粒状焼土多。5. 褐色 塊状V層土主体・粒状焼土少量。

所見:当遺跡では最小規模を誇る住居跡。そのためか、形状は良く均整が取れている。竈は礫を多用する造りであるが、燃焼部から奥壁に掛けての礫が焚口部分に崩落した状態で出土している。

第52号住居跡

位置:19地区15区Q・R-17・18グリッド。形状:横長方形か。規模:1.65+ α m×4.15+ α m。主軸方位:北-40度-東。構築基準辺:不詳。

竈規模:長1.10m×燃焼部幅0.51m×袖部幅0.92m。

層序(基準線標高値200.30m)1. 黒褐 粒状C軽石多。2. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状VI層土若干。3. 黒褐 細粒状C軽石若干。4. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状VI層土若干。5. 黒褐 粒状C軽石混。6. 黒褐 細粒状C少量・塊状焼土少量。7. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干。8. 1同質。9. 2近質。10. 暗褐 微粒状C軽石微量・粒状焼土多。11. 暗褐 微粒状C軽石若干・塊状焼土若干。12. 暗褐 微粒状C軽石若干・塊状焼土少量。13. 暗褐 細粒状C軽石若干。14. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状焼土多(貼床)。15. 黒褐 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・粒状ローム少量。16. 褐色 細粒状C軽石若干・塊状ローム混。17. 褐色 微粒状C軽石微量・塊状ローム混・粒状ローム多。

所見:北東壁に竈を備える住居跡、当住居跡を含め帯状に分布している。これらの周辺の住居跡から、当住居跡も横長方形の平面形状を呈すると考えられる。出土遺物は竈内に集中している。

第53号住居跡

位置:19地区24区H・I-4グリッド。形状:横長方形(確認時)。規模:3.5m×2.77+ α m。主軸方位:北-126度-東。構築基準辺:不詳。

竈規模:長1.05m×燃焼部幅0.44m×袖部幅0.90m。

層序(基準線標高値191.10m)1. 黒褐 粒状C軽石少量。2. 黒褐 粒状C軽石少量・粒状ローム少量。3. 黒褐 細粒状C軽石若干・粒状ローム少量。4. 黒褐 細粒状C軽石微量・粒状ローム若干。5. 塊状ローム。6. 暗褐 細粒状C軽石若干・YP軽石含有・粒状ローム少量・粒状炭化物若干。7. 暗褐 細粒状C軽石微量・YP軽石若干・粒状ローム若干・粒状炭化物若干。8. 褐色 塊状ローム主体・YP軽石多。9. 黒褐 細粒状C軽石若干・YP軽石少量・粒状ローム少量・粒状焼土少量。10. 黒褐 細粒状C軽石微量・YP軽石若干・粒状焼土多。11. 塊状ローム(YP軽石含有)。12. 暗褐 微粒状C軽石微量・YP軽石多・粒状VI層土少量。13. 暗褐 微粒状C軽石微量・YP軽石若干・粒状VI層土多。14. 黒褐 細粒状C軽石微量・YP軽石多・粗粒状VI層土少量。

所見:当住居跡は、攪乱を著しく受けていた。確認時は形状も確認出来たが、平面露呈が出来なかった。また、住居形状も歪んでいる。調査時の不手際と思われる。

第54号住居跡

位置:19地区24区D・E-5・6グリッド。形状:横長方形か。規模:3.42m×2.58+ α m。主軸方位:北- \approx 1度-東。構築基準辺:不詳。

竈:未発見。

第57号住居跡

位置:19地区24区E-5・6グリッド。形状:不詳。規模:2.19+ α m×1.58+ α m。主軸方位:北- \approx 18度-東。構築基準辺:不詳。

竈:未発見。

層序(基準線標高値191.10m)(54号住)1. 黒褐 粒状C軽石多。2. 黒褐 粒状C軽石少量。3. 黒褐 粒状C軽石若干粒状ローム若干・粒状炭化物若干。4. 黒褐 粒状C軽石若干・粒状ローム少量。5. 褐色 塊状ローム主体。6. 暗褐 粒状C軽石多・粒状ローム少量。7. 黒褐 細粒状C軽石少量・細粒状ローム若干。8. 暗褐 細粒状C軽石若干・粗粒状ローム多。9. 暗褐 細粒状C軽石若干・細粒状ローム少量。10. 暗褐 細粒状C軽石若干・細粒状ローム多。11. 黄褐 ローム瑠璃を液面に貼っている。12. 暗褐 粒状C軽石若干・粗粒状ローム少。13. 暗褐 粒状C軽石若干・

第2節 発見された遺構・遺物

細粒状ローム若干。14 暗褐色 暗褐色 粒状C軽石若干・粗粒状ローム多・粒状焼土若干。(57号住) 15. 暗褐色 粒状C軽石若干・粒状VI若干少量。16. 暗褐色 粒状C軽石若干・粒状VI層土若干。17. 暗褐色 粒状C軽石若干・細粒状VI層土多。所見：(54号住) 当住居跡は斜面の攪乱により大半を逸している。比較的瓦片の出土があるが、覆土に混在している細片である。詳細は不明である。所見：(57号住) 当住居は54号住に切れ、斜面部の攪乱により大半を失っている。また989号土坑との重複により更に規模の推定も困難になっている。

第55号住居跡

位置：19地区24区F・G-4グリッド。形状：矩形。規模：2.76×αm×3.24m。主軸方位：北-98度-東。構築基準辺：北壁が西壁か。竈規模：長0.81m×燃焼部幅0.59m×袖部幅0.75m。

第56号住居跡

位置：19地区24区F・G-4・5グリッド。形状：正方形基調。規模：3.42m×3.00m。主軸方位：北-115度-東。構築基準辺：不詳。

竈規模：長1.10m×燃焼部幅0.57m×袖部幅0.50m。

層序(基準線標高値191.90m)(55号住) 1. 暗褐色 粒状C軽石多・粒状ローム若干。2. 暗褐色 粒状C軽石少量・細粒・粒状VI層土少量・粒状焼土若干。3. 暗褐色 粒状C軽石若干・粗粒状VI層土多。4. 暗褐色 微粒状C軽石若干・粒状焼土少量。5. 暗褐色 暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。6. 暗褐色 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状ローム多。7. 暗褐色 微粒状C軽石微量・粒状ローム多。8. 暗褐色 微粒状C軽石若干・細粒状VI層土若干。9. 暗褐色 粒状C軽石若干・粒状ローム若干。10. 塊状VI層土。

(56号住) 15. 暗褐色 粒状C軽石多・細粒状ローム少量。16. 暗褐色 粒状C軽石少量。17. 暗褐色 微粒状C軽石微量・粒状ローム含有。18. 暗褐色 粒状C含有・粒状焼土微量。19. 暗褐色 粒状C軽石少量・粒状焼土若干。20. 暗褐色 粒状C軽石若干・粒状ローム少量・粒状焼土若干。21. 塊状焼土。22. 暗褐色 粒状C軽石多・塊状焼土少量。23. 暗褐色 粒状C軽石多・粒状焼土若干。24. 暗褐色 粒状C軽石少量・微粒VI層土少量・粒状焼土少量。

25. 暗褐色 粒状C軽石若干・細粒状VI層土若干・粒状焼土若干。26. 暗褐色 微粒状C軽石微量・細粒状VI層土多・粒状焼土若干。27. 暗褐色 微粒状C軽石微量・細粒状VI層土多・細粒状ローム若干。

(1011土坑) 11. 暗褐色 粒状C軽石多・微粒VI層土少量。12. 暗褐色 粒状C軽石少量・微粒・細粒状VI層土少量。13. 暗褐色 粒状C軽石少量・微粒・細粒状VI層土若干。14. 暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状ローム少量・粒状炭化物多。

(999土坑) 28. 暗褐色 (IV層土基調) 粒状ローム若干。

(997土坑) 29. 暗褐色 粒状C軽石多・粒状VI層土含有。

所見：(55号住) 遺存深度は比較的良好だが、著しい攪乱を受けている。比較的近世の取れた平面形状を呈し、4辺がきれいに設定されていたと考えられる。出土遺物では、比較的瓦の出土が多いが、孰れも細片で、甍唐の出土は無かった。

所見：(56号住) 当住居跡の竈は、焚口・燃焼空間を壁より外側に設けていることが特徴で、燃焼部と奥壁に瓦を転用している。

竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構

位置：19地区15区J・K-17・18グリッド。形状：不整形。規模：3.14m×4072m。主軸方位：北-35~40度-東。

層序(基準線標高値201.00m) 1. 黒褐色 細粒状C軽石含有・YP軽石多(硬質)。2. 褐色 YP軽石少量。3. 暗褐色 2近質。4. 茶褐色 YP軽石少量。5. 褐色 粒状ローム少量。6. 黒褐色 YP軽石多。7. 鈍黄褐色 YP軽石少量・粒状ローム若干・塊状黒褐色土若干。8. 鈍黄褐色 YP軽石少量・粒状ローム若干・塊状黒褐色土若干。9. 鈍黄褐色 塊状ローム多・塊状YP軽石層含有。10. 明黄褐色 褐色土帯状含有・YP軽石若干。11. 黄褐色 塊状ローム(貼床)。12. 7同質。13. 鈍黄褐色 YP軽石多・塊状ローム多。14. 黒褐色 YP軽石若干。15. 8同質。16. 明黄褐色 塊状ローム主体・粒状褐色土若干。

所見：覆土の堆積は人為堆積と判断できる。柵列に挟まれる状態から、双方には何らかの関係も想定も出来るが、断面にはビット状の掘りこみと思われる2・4~6層の堆積もあるが、規模が径1.0m近いことから柵列跡とは異なるのかも知れないが、柵列跡の一部と考えるのが蓋然性も高い。

第2号竪穴状遺構

位置：19地区15区J-7グリッド。形状：長方形。規模：3.16m×1.95m。主軸方位：北-30度-東。

層序(基準線標高値199.70m) 1. 黒褐色 粒状C軽石含有(硬質)。2. 黒褐色 細粒状C軽石少量・小塊状斑状混。3. 黒褐色 細粒状C軽石少量。4. 黒褐色 粒状C軽石含有・塊状VI層土含有。5. 黒褐色 細粒状C軽石少量・塊状VI層土混。6. 5近質。7. 黒褐色 細粒状C軽石微量・塊状VI層土斑状混。8. 黒褐色 細粒状C軽石微量・粒状ローム混・塊状ローム混。

(766号土坑) 9. 黒褐色 粒状C軽石含有。

所見：遺物出土状況と土層から、土墳墓と考えられる。底面で焼土したビットは上屋構造を示唆している。当該遺構が墓坑の場合、この上屋構造は殯の施設乃至墓前祭祀の施設の可能性が考慮される。

第3号竪穴状遺構

位置：19地区24区L・m-5・6グリッド。形状：楕円形。規模：3.79m×3.31m。主軸方位：北-67度-西。

層序(基準線標高値194.00m) 1. 黒褐色 細粒状C軽石多・塊状褐色土斑状混。2. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状炭化物含有・粒状褐色土若干。3. 塊状ローム主体・粒状炭化物含有。4. 塊状褐色土主体・粒状ローム含有。5. 灰層。6. 焼土層。7. 黒褐色土と小塊状ロームの混土。8. 黒褐色 細粒状C軽石微量・粒状焼土混・小塊状ローム若干。

第4号竪穴状遺構

位置：19地区15区R-5グリッド。形状：梯形。規模：3.37m×3.15m。主軸方位：北-42度20分-西。

層序(基準線標高値200.00m) 1. 黒褐色 細粒状C軽石極微量・粒状ローム微量。2. 黒褐色 粒状C軽石混・塊状V層土斑状混。3. 塊状ローム・塊状IV層土の混土。4. 塊状ローム主体・塊状IV層土混。5. 塊状ローム主体・塊状IV層土斑状混。6. 黒褐色 細粒状C軽石若干。7. 塊状ローム。8. 塊状ローム多と塊状IV層土の混土。9. 塊状V層土。10. V層土と粒状ロームの混土。11. 塊状IV層土主体・粒状ローム混。

所見：大形の土坑か。覆土は塊状土の混土が主体なことから、人為埋設されたかと判断できる。

掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡

位置：19地区16区I・J-18・19グリッド。形状：正方形。柱間・規模：7尺・2間(4.2m)×2間(4.2m)。主軸方位：北-57度-西又は北-33度-東。

層序(基準線標高値202.40m) 1. 黒褐色 細粒状C軽石含有(柱痕)。a. 黒褐色土主体。b. 暗褐色土主体。c. 塊状ローム・暗褐色土の混土。d. 黒褐色土・暗褐色土・塊状ロームの混土。e. 黒褐色土・塊状ロームの混土。f. 塊状ローム・粒状ローム主体。g. 黒褐色土主体

第2号掘立柱建物跡(基準線標高値201.70m)

位置：19地区16区L・m-19・20グリッド。形状：横長方形。柱間・規模：5・6尺・2間(3.3m)×1間(1.5m)。主軸方位：北-1度-東。

所見：北側のP1・P2は補助柱穴か。

第3号掘立柱建物跡(基準線標高値200.00m)

位置：19地区16区R・S-19・20グリッド。形状：正方形。柱間・規模：7尺・2間(4.2m)×2間(4.2m)。主軸方位：北-63度-西又は北-27度-東。

第4号掘立柱建物跡

位置：19地区15・16区T・A-14・15グリッド。形状：正方形。柱間・規模：6尺・1間(3.6m)×2間(3.6m)。主軸方位：北-37度-東。

層序(基準線標高値201.20m) 1. 黒褐色 細粒状C軽石含有。a. 黒褐色 細粒状C軽石・細粒状ローム若干。b. 黒褐色 細粒状C軽石若干・細粒状ローム多。c. 黒褐色 細粒状C軽石若干・細粒状ローム若干。d. 塊状ローム主体。e. 黒褐色 細粒状C軽石若干・細粒状ローム少量。f. 黒褐色 細粒状C軽石少量。g. 黒褐色 細粒状C軽石若干・細粒状ローム少量・塊状ローム若干。h. 黒褐色 細粒状C軽石多・細粒状ローム少量。i. 黒褐色 細粒状C軽石若干・細粒状ローム若干・粗粒状ローム若干。j. 黒褐色 細粒状C軽石少量・細粒状ローム多。k. 黒褐色 細粒状C軽石若干・細粒状ローム若干・粒状焼土微量。l. 黒褐色 粗粒状ローム多。m. 黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状VI層少量。

第5号掘立柱建物跡

位置：19地区15区N~P-18~20グリッド。形状：正方形。柱間・規模：7尺・3間(6.3m)×3間(6.3m)総柱。主軸方位：北-32度-西。

第6章 中里見原遺跡

層序 (基準線標高値201.20m) 1. 黒褐 粒状C軽石含有。 1 a. 黒褐 細粒状C軽石含有。 1 b. 黒褐 細粒状C軽石少量。 1 c. 部分欠損細粒状C軽石若干。 a-1. 塊状IV層土主体。 a-2. 細粒状C軽石+塊状IV層土多。 a-3. 細粒状C軽石+塊状IV層土少量。 a-4. 細粒状C軽石+粒状IV層土多。 a-4. 細粒状C軽石+粒状IV層土少量。 a-5. 細粒状C軽石+粒状IV層土若干。 b-1. 塊状V層土主体。 b-2. 細粒状C軽石+塊状V層土多。 b-3. 細粒状C軽石+塊状V層土少量。 b-4. 細粒状C軽石+粒状V層土多。 b-4. 細粒状C軽石+粒状V層土少量。 b-5. 細粒状C軽石+粒状V層土若干。 c-1. 塊状VI層土主体。 c-2. 細粒状C軽石+塊状VI層土多。 c-3. 細粒状C軽石+塊状VI層土少量。 c-4. 細粒状C軽石+粒状VI層土多。 c-4. 細粒状C軽石+粒状VI層土少量。 c-5. 細粒状C軽石+粒状VI層土若干。 d-1. 塊状VII層土主体。 d-2. 細粒状C軽石+塊状VII層土多。 d-3. 細粒状C軽石+塊状VII層土少量。 d-4. 細粒状C軽石+粒状VII層土多。 d-4. 細粒状C軽石+粒状VII層土少量。 d-5. 細粒状C軽石+粒状VII層土若干。

第6号掘立柱建物跡

位置:19地区14区L・m-4・5グリッド。 形状:長方形。柱間・規模:6尺(5尺)・3間(5.4m)×2間(3.6m)。 主軸方位:北-117度一東。

第7号掘立柱建物跡

位置:19地区25・26区T・A-1~3グリッド。 形状:長方形。柱間・規模:7尺・3間(6.3m)×2間(4.2m)。 主軸方位:北-120度一東。

層序 (基準線標高値201.20m) a. IV層土主体。 b. IV層土主体+塊状ローム少量。 c. IV層土主体+塊状ローム若干。 d. III層土+IV+V層土+塊状ローム少量。 e. III層土+IV+V層土+塊状ローム塊状ローム含有。 f. III層土+IV+V層土+塊状ローム多。 g. III層土+IV+V層土+塊状ローム若干。 h. III層土主体+塊状VII層土多+塊状ローム少量。 i. V層土主体粒状ローム若干。 j. III層土主体+塊状ローム少量。 k. III層土+IV層土。 l. IV層土主体+塊状ローム若干+塊状VII層土少量。 m. IV層土主体+塊状VII層土少量。 n. III層土+IV層土+粒状ローム若干。 o. III層土+IV層土粒状ローム多。 p. IV+V層土主体+塊状VII層土混。 q. IV+V層土+塊状ローム少量。 r. IV+V層土+粒状ローム多。 s. III層土主体+粗粒状C軽石多。 t. III層土主体+塊状ローム多。 基礎建物跡

第1基壇建物跡

位置:19地区25・26区S・T・A-20・1・2グリッド。 形状:正方形。 規模:1辺7.5m(25尺)。 主軸方位:北-46度一西。

層序 (基準線標高値201.70m) 版築土:黒色褐 細粒状C軽石混・硬質。

所見:7号掘立に切られる。礎石は二次的に移動している可能性がある。

道跡

第1号道跡

位置:19地区15・16・25・26区m~T・A~G-14~20・1・2グリッド。 発見長:72m。 幅員:6.4m。 走行方位:北-58度一西。

第2号道跡

位置:19地区15・25区m~R-17~20・1~8グリッド。 発見長:60m。 幅員:0.6~1.10m。 走行方位:北-15度一東。

層序 (A-A'基準線標高値200.20m) 2. 濁黒色褐 As-B主体硬質。 3. 黒色褐 As-B多+塊状III層土含有。 4. 黒色褐 塊状III層土多。 6. 3同質。

層序 (B-B'基準線標高値202.80m) 1. 攪乱。 2. 硬質砂質土 濁黒褐とAs-Bの混土(As-B主体)。 3. 硬質粗砂粒層(水性堆積)。 4. 硬質砂層。 5. 濁黒色褐 As-B主体。 6. 濁黒色褐 As-B混+塊状III層土多+粒状C軽石含有。 7. 4近質。 8. 2近質。 9. 5同質。

第3道跡

A筋 位置:19地区15・25区F~A-17~20・1~6グリッド。 発見長:81m。 幅員:0.84~1.25m。 断面・形状:浅い「U」字。

走行方位:北-65度・85度一西。

B筋 位置:19地区15・25区I~m-20・1・2グリッド。 発見長:20m。 幅員:0.90m。 走行方位:北-58度一西。

C筋 位置:19地区15・25区H~Q-19・20・1~5グリッド。 発見長:64m。 幅員:0.80m。 走行方位:北一度一西。

C筋b支線 位置:19地区25区K~N-2~4グリッド。 発見長:28m。 幅員:0.60m。 走行方位:北-45度一西。

D筋 位置:19地区25区I~O-1~6グリッド。 発見長:42.5m。 幅員:1.20。 走行方位:北一度一東。

層序 (基準線標高値200.60m・200.70m・201.10m・201.50m・200.90m) a. 黒色褐 細粒状C軽石若干。 b. a近質。 c. 黒色褐 粒状C軽石含有。 d. 水性堆積状(細粒状C軽石若干)。 e. 黒色褐 細粒状C軽石含有(硬質)。

土墳墓

第1号土墳墓 (基準線標高値191.50m) 位置:19地区24区H-7・8グリッド。 形状:楕円形。 規模:1.02m×0.76m。 主軸方位:北-130度一東。

第2号土墳墓 (基準線標高値191.60m) 位置:19地区24区H-8グリッド。 形状:不整形。 規模:0.94m×0.86m。 主軸方位:北-7度一西。

第3号土墳墓 (基準線標高値191.80m) 位置:19地区24区H-7グリッド。 形状:隅丸方形。 規模:0.8m×0.62m。 主軸方位:北-88度一東。

第4号土墳墓 (基準線標高値190.00m) 位置:19地区24区E-5グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.82m×0.72m。 主軸方位:北-26度一西。

第5号土墳墓 (基準線標高値188.00m) 位置:19地区24区C-7グリッド。 形状:長方形。 規模:2.12m×1.0m。 主軸方位:北-124度一西。

第1号古墳

位置:19地区24区G~K-4~8グリッド。 形状:方墳。 規模:24.0m×24.0m。周溝幅員:3.0~3.5m。 主軸方位:北-29度一西。

層序:1. 黒色 細粒状・微粒状C軽石少量・硬質。 2. 黒色 細粒状C軽石少量。 2 a. 暗褐色 細粒状・微粒状軽石少量・塊状褐色土混(墳丘崩落土)。 2 b. 暗褐色 細粒状・微粒状軽石少量・塊状褐色土含有。 3. 暗褐色 細粒状C軽石多。 3 a. 暗褐色 細粒状C軽石多+塊状黒色土含有。

3 b. 暗褐色 細粒状C軽石多+粒状VIII層土混。 4. 粒状C軽石層。 5. 褐色 微粒状・細粒状C軽石多+粒状VIII層土多。 6. 2近質。 7. 暗褐色 微粒状・細粒状C軽石含有+YP軽石少量。 8. 黒色褐 YP軽石含有。 8 a. 黒色褐 YP軽石少量+塊状VIII層土混。 8 b. 黒色褐 YP軽石微量+塊状VIII層土混。 10. 褐色 細粒状C軽石少量+塊状暗褐色土混。 11. 2 a近質。

石組み土坑 (基準線標高値187.00m) 位置:19地区24区B・C-9グリッド。 形状:長方形。 規模:1.90m×0.96m。 主軸方位:北-113度一東。

土坑

第145号土坑 (基準線標高値200.70m) 位置:19地区15区S-19グリッド。 形状:円形。 規模:0.42m×0.38m。 主軸方位:北-4度一東。

第158号土坑 位置:19地区15区S-19グリッド。 形状:円形。 規模:径0.85m。

第166号土坑 (基準線標高値200.90m) 位置:19地区15区S-20グリッド。 形状:不整形。 規模:1.0m×0.8m。 主軸方位:北-60度一西。

第198号土坑 (基準線標高値200.60m) 位置:19地区25区Q-3グリッド。 形状:不整形。 規模:1.60m×1.05m。 主軸方位:北-16度一東。

層序:1. 黒褐 粒状C軽石含有+粒状炭化物若干。 2. 黒褐 細粒状C軽石微量。

第205号土坑 (基準線標高値199.80m) 位置:19地区15区P-9グリッド。 形状:不整形。 規模:0.92m×0.82m。 主軸方位:北-113度一西。

層序:1. 黒褐 粒状C軽石含有+粒状VIII層土混。 2. 黒褐 粒状C軽石含有+粒状VIII層土若干。 3. 黒褐 粒状C軽石若干。 4. 暗褐色 細粒状C軽石若干+粒状VIII層土混。

第213号土坑 (基準線標高値199.70m) 位置:19地区15区O・P-19グリッド。 形状:楕円形。 規模:1.03m×0.85m。 主軸方位:北-72度一東。

層序:1. 黒褐 粒状C軽石含有。 2. 黒褐 粒状C軽石少量。粒状VIII層土含有。

第318号土坑 (基準線標高値200.30m) 位置:19地区25区P-2グリッド。 形状:楕円形。 規模:1.71m×1.59m。 主軸方位:北-8度一西。

第736号土坑 (基準線標高値200.80m) 位置:19地区25区R-5グリッド。 形状:楕円。 規模:0.42m×0.36m。 主軸方位:北-25度一西。

層序:1. 暗褐色 細粒状C軽石微量。

第737号土坑 (基準線標高値200.80m) 位置:19地区25区R-5グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.78m×0.45m。 主軸方位:北-51度一西。

層序:1. 黒褐 細粒状C軽石微量。

第747号土坑 (基準線標高値198.30m) 位置:19地区25区E-4グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.78m×0.48m。 主軸方位:北-30度一西。

第748号土坑 (基準線標高値198.50m) 位置:19地区25区D-4グリッド。 形状:不整形。 規模:0.85m×0.74m。 主軸方位:北-90度一西。

層序:1. 黒褐 細粒状C軽石含有+粒状焼土若干+細粒状VIII層土多。 2. 黒褐 微粒状C軽石若干+細粒状VIII層土若干+粒状焼土若干+粒状炭化物多

第765号土坑 (基準線標高値199.50m) 位置:19地区15区K-18グリッド。 形状:隅丸長方形。 規模:1.80m×1.02m。 主軸方位:北-34度一東。

層序:1. 黒褐 細粒状C軽石含有。 2. 黒褐 細粒状C軽石微量+粒状炭化物含有。

第767号土坑 (基準線標高値199.30m) 位置:19地区15区L-16グリッド。 形状:円形。 規模:0.85m×0.83m。

層序:1. 黒褐 細粒状C軽石多。 2. 黒褐 細粒状C軽石多+粒状褐色内少量。

第2節 発見された遺構・遺物

- 第955号土坑（基準線標高値200.80m） 位置：19地区25区A-19グリッド。 形状：円形。 規模：0.65m。
層序：1. 黒褐 粒状C軽石含有。 2. 黒褐 粒状C軽石含有・小塊状Ⅷ層土若干。 3. 黒褐 微粒状C軽石若干・粒状Ⅷ層土混。
- 第795号土坑（基準線標高値197.40m） 位置：19地区24区R-5グリッド。 形状：楕円形。 規模：1.12m×0.95m。 主軸方位：北-16度一西。
層序：1. 黒褐 粒状C軽石混。 2. 暗茶褐色 粒状C軽石若干・塊状Ⅷ層土少量。 3. 暗茶褐色 粒状C軽石微量・塊状Ⅷ層土多。
- 第819号土坑（基準線標高値194.60m） 位置：19地区24区m-3グリッド。 形状：隅丸長方形。 規模：1.18m×0.9m。 主軸方位：北-6度一西。
層序：1. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状ローム含有。 2. 黒褐 粒状C軽石含有・粒状炭化物多。
- 第824号土坑（基準線標高値192.40m） 位置：19地区24区R-5グリッド。 形状：円形。 規模：0.32m。
層序：1. 黒褐 細粒状C軽石若干。
- 第872号土坑（基準線標高値196.00m） 位置：19地区24区N-2グリッド。 形状：楕円形。 規模：0.35m×0.28m。 主軸方位：北-43度一西。
第874号土坑（基準線標高値195.90m） 位置：19地区24区m-3グリッド。 形状：不整長方形。 規模：0.65m×0.35m。 主軸方位：北-86度一西。
第875号土坑（基準線標高値195.90m） 位置：19地区24区m-3グリッド。 形状：円形。 規模：0.42m。
第999号土坑（基準線標高値191.30m） 位置：19地区24区G-4グリッド。 形状：楕円形。 規模：1.22m×1.01m。 主軸方位：北-60度一東。
第985号土坑（基準線標高値190.60m） 位置：19地区24区F-5グリッド。 形状：円形。 規模：0.83m。
層序：1. 黒色褐 細粒状C軽石含有。
- 第986号土坑（基準線標高値191.20m） 位置：19地区24区F-5グリッド。 形状：楕円形。 規模：1.3m×0.95m。 主軸方位：北-57度一西。
層序：1. 黒色褐 細粒状C軽石混。
- 第987号土坑（基準線標高値191.00m） 位置：19地区24区F-5グリッド。 形状：隅丸長方形。 規模：1.12m×0.76m。 主軸方位：北-37度一西。
層序：1. 黒色褐 粒状C軽石含有。
- 第988号土坑（基準線標高値190.90m） 位置：19地区24区F-5グリッド。 形状：円形。 規模：0.96m。
層序：1. 黒色褐 細粒状C軽石少量。
- 第991号土坑（基準線標高値191.40m） 位置：19地区24区F-5グリッド。 形状：不整円形。 規模：0.94m×0.8m。 主軸方位：北-23度一東。
層序：1. 黒色褐 粒状C軽石多。 2. 黒色褐 細粒状C軽石混・粒状Ⅷ層土含有。
- 第992号土坑（基準線標高値191.10m） 位置：19地区24区F-4グリッド。 形状：楕円形。 規模：0.63m×0.39m。 主軸方位：北-92度一西。
層序：1. As-B純層。 2. 黒色As-B含有。 3. 黒褐細粒状C軽石少量。 4. 暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状Ⅳ層土少量。
- 第993号土坑（基準線標高値190.40m） 位置：19地区24区E-5グリッド。 形状：楕円形。 規模：0.73m×0.48m。 主軸方位：北-19度一西。
層序：1. 黒褐 細粒状C軽石含有。 2. 暗褐 細粒状C軽石若干・粒状ロームS。 3. 暗褐 粒状C軽石若干塊状ローム少量。
- 第994号土坑（基準線標高値190.60m） 位置：19地区24区E-5グリッド。 形状：円形。 規模：0.42m。
層序：1. 黒褐 細粒状C軽石少量・粗粒状Ⅳ層土少量。
- 第995号土坑（基準線標高値190.60m） 位置：19地区24区E-5グリッド。 形状：楕円形。 規模：1.18m×0.8m。 主軸方位：北-26度一東。
層序：1. 黒褐 粒状C軽石多。 2. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状Ⅳ層土少量。 3. 黒褐 細粒状C軽石少量・粒状Ⅳ層土若干。
- 第996号土坑（基準線標高値190.60m） 位置：19地区24区E-5グリッド。 形状：円形。 規模：0.38m。
層序：1. 黒褐 細粒状C軽石少量。
- 第982号土坑（基準線標高値200.80m） 位置：19地区15区S-8グリッド。 形状：長方形。 規模：1.46m×0.76m。 主軸方位：北-42度一東。
層序：1. 濁黒灰褐色 塊状ローム多斑状。
- 第983号土坑（基準線標高値200.80m） 位置：19地区15区S-8グリッド。 形状：長方形。 規模：1.48m×0.86m。 主軸方位：北-69度一東。
層序：1. 濁黒灰褐色 塊状ローム多斑状。

As-B 被覆土坑

- 第5号As-B被覆土坑（基準線標高値199.70m） 位置：19地区15区F・G-17グリッド。 形状：不整円形。 規模：0.72m×0.58m。
主軸方位：北-98度一西。
層序：2. 黒褐 細粒状C軽石含有・細粒状炭化物少量。 3. 黒褐 細粒状C軽石含有。
- 第6号As-B被覆土坑（基準線標高値199.80m） 位置：19地区15区G-17グリッド。 形状：楕円形。 規模：1.20m×0.95m。 主軸方位：北-30度一西。
層序：1. 黒褐 細粒状C軽石混。
- 第7号As-B被覆土坑（基準線標高値199.80m） 位置：19地区15区H-17グリッド。 形状：楕円形。 規模：1.10m×1.00m。 主軸方位：北-49度一西。
層序：2. 黒褐 細粒状C軽石含有・細粒状炭化物少量。 3. 黒褐 細粒状C軽石含有。 4. 黒褐 微粒状C軽石若干。細粒状Ⅷ層土若干。

竪穴状落ち込み

- 第1号竪穴状落ち込み（基準線標高値199.80m） 位置：19地区25区O・P-20グリッド。 形状：梯形。 規模：3.50m×3.06m。
主軸方位：北-111度一東。
層序：黒褐 粒状C軽石少量・粒状焼土含有。
- 第2号竪穴状落ち込み（基準線標高値200.40m） 位置：19地区15・25区P・Q-20・1グリッド。 形状：梯形か。 規模：(4.35)m×3.0m。
主軸方位：北-45度一東。
層序：黒褐 粒状C軽石混入・粒状炭化物含有・細粒状焼土少量

井戸状遺構

- 井戸状遺構（基準線標高値203.00m） 位置：19地区16・26区L・m-20・1グリッド。 形状：円形か。 規模：径2.0かm。 深度：4.20m。
層序：1. 黒褐 粗粒状C軽石少量・粒状ローム多・塊状ローム多・YP軽石若干。 2. 黒褐 粒状C軽石含有・塊状ローム少量。 3. 黒色 粒状C軽石多。 4. 黒褐 粒状C軽石若干。 5. 黒褐 粒状C軽石少量・粗粒状ローム少量YP軽石少量。 6. 暗黄褐色 塊状ローム主体。 7. 暗褐色 細粒状ローム多・YP軽石多。 8. 暗褐色 粗粒状ローム含有・粒状黒褐土含有。 9. 黄褐色 塊状ローム主体。 10. 暗褐色 細粒状・粗粒状黒褐土多・粗粒状ローム混量・YP軽石少量。 11. 暗褐色 細粒状・粗粒状黒褐土多・粗粒状ローム多量・YP軽石多。 12. 暗褐色 細粒状・粗粒状黒褐土多・粗粒状ローム含有量・YP軽石少量。 13. 10近質。 14. 黄褐色 YP軽石多・細粒状黒褐土少量。 15. Ⅷ層土YP軽石二次体積含有。 16. YP含有ローム土。 17. As-YP層。 18. 浅黄褐色ローム土。

中里見原遺跡出土遺物観察表

第1号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00001	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.5	還元・硬・白灰・並・黒色粒子	立ち上がりは丸味を強く帯びる。轆轤右回転成整形、底部は手持ち篋削り。	秋間産
10-00002	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口(12.4)・高4.3・底 6.6	還元・軟・白灰・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	器厚は薄い。腰部が張り口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳 (秋間か)
10-00003	須恵器 坏	覆土内 3/4残	口13.2・高4.1・底6.5	酸・硬・鈍黄・並・シルト粒子・夾 雑物少	器厚は薄く見込みからスムーズに立ち上がる。口 縁部に補修痕。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳 (秋間か)
10-00004	須恵器 坏	床直層 高台欠損	口・12.7・高4.0・坏 底6.5	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒・ 透明鉾物粒・内黒胎土に類似	体部は張り口縁部は短く外反する。轆轤右回転成 整形、高台欠損(付高台)。	産不詳
10-00005	須恵器 坏	床直層 2/3残	口12.5・高4.7・坏底 約6.0	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子	底部は厚く体・口縁部は薄く直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	産不詳 (秋間か)
10-00006	須恵器 坏	P ₁ 内 1/3残	口(15.3)・高6.6・底 8.9	酸・軟・浅黄橙・並・細砂粒	体部は張り口縁部は短く外反する。轆轤右回転成 整形、付高台。00004と形状の類似。	産不詳
10-00007	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(16.0) 鏝(19.0)	還元・締・灰・並・黒色鉾物粒子	内傾する胴部上半に鏝を付し口唇は平坦。紐作り 後轆轤整形(右回転)。	秋間産か
10-00008	須恵器 羽釜	掘方内 破片	口(18.2) 鏝(21.0)	還元・締・灰・並・黒色鉾物粒子・高 温石英	内傾する胴部上半の口唇部寄りに鏝を付し口唇は 平坦。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産か
10-00009	須恵器 羽釜	掘方内 1/2残	口19.0 鏝(24.6)	酸・軟・黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子・シルト粒子	胴部上半は直立。口縁部は内湾する。口唇部は 平坦。紐作り後轆轤整形(右回転)後縦位の篋削り。	秋間産
10-00010	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(19.4) 鏝(24.6)	酸・硬・鈍黄橙・並・白色鉾物粒子	外傾する胴部から口縁部は内湾する。口唇部は直 線的で端部は平坦。紐作り後轆轤整形(右回転)。	産不詳 (秋間か)
10-00011	須恵器 羽釜	掘方内 破片	口(21.0) 鏝(23.8)	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子 粗粒砂	外傾した胴部から緩やかに内湾する。口唇部は 平坦。紐作り後轆轤整形(右回転)。	産不詳 (秋間か)
10-00012	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(21.0) 鏝(23.6)	酸・軟・黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	外傾気味に立ち上がる口縁部の口唇部は平坦。紐 作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産か
10-00013	須恵器 羽釜	床直層 破片	口(22.6) 鏝(25.8)	酸・軟・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	胴部上半から口縁部は直線的に立ち上がり、口唇 部が短く外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00014	須恵器 羽釜	掘方内 破片	底(6.9)	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子	立ち上がりは比較的緩やか。内面は撫で整形、外 面は篋削で整形。紐作り。	産不詳 (秋間か)
10-00015	施釉陶器 皿	覆土内 1/4残	口(13.4)・高2.7・底 (6.3)	還元・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00016	施釉陶器 碗	覆土内 破片	口(15.1)	還元・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00017	施釉陶器 碗	電掘方内 破片	底(6.9)	還元・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産
10-00018	施釉陶器 皿	電掘方内 破片	口(13.5)・高2.6・底 (6.8)	還元・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00019	施釉陶器 碗	P ₁ 覆土 内破片	口(17.1)	還元・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00020	施釉陶器 長頸瓶	覆土内 破片	口(12.0)	還元・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産
10-00021	瓦 女瓦	掘方内 破片	厚1.8	中・軟・黄灰・並・夾雑物微	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側面 は篋削で仕上げ。	秋間産
20-00001	礫器	掘方内 破片	残存長21.4・残存幅 26.1・厚11.2・重9400	粗粒輝石安山岩	2面を破損する。表裏面に磨滅が認められる。	

第2号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00022	土師器 甕	P ₂ 覆土 内破片	口(19.6)	酸・並・鈍赤褐・並・高温石英・黒 色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁下半に成形時の器膚を残す。 外面は横位の篋削り、内面は横撫でを施す。	吉井・藤 岡産
10-00023	土師器 甕	P ₃ 覆土 内破片	口(22.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁下半部に成形時の粘土の積 み上痕を残している。外面は逆位で横位の篋削り。	不詳(秋 間産か)
10-00024	須恵器 坏	南東隅部 部分欠損	口11.6・高3.4・底6.7	還元・並・灰黄・並・夾雑物少	器厚は薄く直線的に立ち上がる。口縁部直下に補 修痕。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00025	須恵器 坏	P ₃ 覆土 内2/3残	口(13.3)・高6.3・底 (3.8)	中・並・暗灰・黒色鉾物粒子・透明 鉾物粒子	器厚は薄く長く直線的に立ち上がる。底部はやや 厚目。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00026	須恵器 坏	床面直上 2/3残	口(13.6)・高7.5・底 4.9	中・軟・鈍灰黄・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	器厚は薄く直線的に立ち上がる。底部は厚目。轆 轤右回転成整形、付高台。器面が風化する。	秋間産
10-00027	須恵器 坏	床直層 3/4残	口(13.6)・高7.6・底 5.1	中・軟・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	器厚は薄い。腰部は丸味を帯び口縁部はやや外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。器面が風化する。	秋間産
10-00028	須恵器 小壺	P ₁ 覆土 内 破片	口(8.6)	酸・軟・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子・赤褐色粒子	丸味を帯びた胴部から、短く外傾する口縁部が立 ち上がる。器面に漆が付着。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00029	須恵器 壺	竈内 1/4残	口(13.4) 胴最(17.0)	酸・軟・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子・赤褐色粒子	胴上半に最大径を有し、下半部は斜位の篋削り。口 縁部は短く外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00030	須恵器 壺	竈内 1/4残	口(20.2)	酸・並・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子・細礫	球形の胴部から口縁部が短く外反する。頸部直下 から縦位の篋削り。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00031	須恵器 壺	床直層 破片	口(23.4)	酸・軟・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	球形の胴部から口縁部が短く外反する。胴部は縦 位の篋削りか。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00032	須恵器 羽釜	床直 破片	口(17.8) 鏝(22.2)・胴(24.4)	中・並・黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	直線的な胴下から内湾気味の口縁部が立ち上がる。 下半部は縦位の篋削り。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00033	須恵器 羽釜	床直 破片	口(18.0) 鏝(22.0)	還・軟・灰褐・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は轆轤目が顕著。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00034	須恵器 羽釜	床直 破片	口(18.2)・鏝(22.0) ・胴(22.4)	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00035	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(18.4) 鏝(22.8)	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00036 101	須恵器 羽釜	P ₁ 覆土 内破片	口(18.8) 鏝(22.6)	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00037	須恵器 羽釜	床直層 破片	口(19.0)・鏝(22.0) ・胴(19.0)	中・軟・灰褐・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00038	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(20.0) 鏝(23.0)	酸・軟・黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00039	須恵器 羽釜	掘方内 破片	底(3.4)	酸・軟・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	外面は斜位の篋削り、内面は掻き上げる状態で篋 撫でを施す。紐作り後轆轤整形か。	秋間産
10-00040 101	須恵器 甕	掘方内 破片	底(30.0)	酸・軟・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子・シルト粒子	底径は大きく大器種である。通有の逆位からの 篋撫で整形を施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00041 101	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	口13.0)	還・締・灰白・密・夾雑物少	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00042 101	施釉陶器 灰釉 碗	床直層 2/3残	口(14.2)・高5.0・底 (7.3)	還・締・灰白・密・夾雑物少	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00043 101	施釉陶器 灰釉 碗	掘方内 破片	底(5.8)	還・締・灰白・密・夾雑物少	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産

第3号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00044	土師器 甕	床直層 破片	口(19.0)	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子透明鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁下半部に成形時の器膚を残し ている。外面は横位の篋削り、内面は横撫でを施す。	吉井・藤 岡産
10-00045 101	須恵内黒 碗	床直層 破片	口(10.6)・高5.7・底 (5.7)	中・軟・灰黄褐・並・白色微粒子・ 透明鉾物粒子	体部の丸味が強く全体に丸味を帯びる。轆轤右回 転成整形、付高台。器面が風化し研磨単位不分明。	秋間産
10-00046 101	須恵器 羽釜	床直層 破片	鏝(23.0)	酸・並・鈍褐・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	全体に丸味が強い。胴下半部に縦位の篋削り。紐 作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00047 101	瓦 女瓦	床直層 破片	口(14.6)	還・軟・灰白・並・黒色粒子・シル ト粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面 側は模骨痕が認められる。	秋間産
10-00048	施釉陶器 灰釉碗	床直層 破片	厚1.7	還・締・灰白・密・夾雑物少	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海系
40-00001 160	貨幣 銅銭	P ₂ 内 部分欠損	径0.92・重1		「寛平大宝」初鑄は寛平2年(890)。皇朝十二銭の 10番目。	

第4号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00049 101	土師器内 黒鉢か	床直層 破片	底(10.0)	酸・並・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	外面は斜位の篋削りを施す。内面は縦位の研磨を 施し、燻し処理を施す。型作りか。	不詳
10-00050 101	土師器 甕	甕内 破片	口(21.0) 胴最(24.0)	酸・並・黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	器厚の薄い球形胴の「コ」の字状口縁。頸部直下は横 位以下は曲線状に下位に向かい篋削りを施す。	吉井・藤 岡産
10-00051 101	須恵器 坏	掘方内 2/3残	口(12.5)・高3.6・底 6.8	還・並・灰白・並・白色微粒子・黒 色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。底部はやや厚 目。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00052 101	須恵器 坏	甕内 破片	口(12.9)・高(3.0)・ 底(7.2)	還・硬・灰白・並・白色微粒子・黒 色粒子	腰部丸味を帯び口縁部は短く緩やかに外反する。 轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00053 101	須恵器 坏	掘方内 破片	口(13.4)・高4.8・底 (7.5)	還・並・灰白・並・夾雑物微	全体に器厚は薄く体・口縁部は直線的に長く立ち 上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00054 101	須恵器 壺	床直層 1/2残	口(12.9)・高4.3・底 7.4	還・硬・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	腰部は丸味を帯びるが、口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00055	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	還・並・灰・並・黒色粒子	見込みに有機質が付着する。轆轤右回転成整形、 底部は回転糸切り。	秋間産
10-00056 101	須恵器 壺	甕内 2/3残	口(15.0) 坏底8.7	還・軟・灰・並・夾雑物微	腰部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00057 101	須恵器 甕	掘方P ₁₅ 内破片	胴最(20.8)	還・硬・灰・並・夾雑物微	底部から直線的に立ち上がり、肩部から上位は内 湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00058	須恵器 両耳環	覆土内 破片	厚0.6	酸・硬・黄橙・並・白色微粒子	体部からの欠損。篋撫で整形。	秋間産
10-00059 ~00064	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.4~0.6	還・並・灰黄・並・白色微粒子・黒 色粒子	器厚は薄く焼成も良好、上手な製品。紐作り後轆 轤整形(右回転)。	秋間産
10-00065 102	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(22.5) 鏝(26.8)	酸・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・ 黒色鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は轆轤目が顕著。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	吉井系か
10-00066 102	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.8	還・軟・灰・並シルト粒子・夾雑物 微	半裁作り。凸面は轆轤整形痕を顕著に残す。布目 密度は並。	秋間産
10-00067 102	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.8	還・軟・灰・並シルト粒子・夾雑物 微	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部 は篋撫で仕上げ。	秋間産
10-00068	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(14.4)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

20-00002 102	礫器	床直層 完存	長30.9・幅24.0・厚 9.8・重11,800g	粗粒輝石安山岩	礫面の両面に使用痕が認められる。	
-----------------	----	-----------	-------------------------------	---------	------------------	--

第5号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00069 102	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□14.6・高7.2・底5.7	酸・軟・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	腰部から丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は緩やかに外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00070	須恵器 鉢	掘方内 破片	□(14.0)	酸・軟・黄褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	丸味を帯びて立ち上がった胴部から短く外傾する口縁部が立ち上がる。轆轤整形痕が顕著に残る。	秋間産
10-00071 102	須恵器 鉢	石組み内 1/2残	□(16.3)・高6.2・底 11.4	酸・並・暗褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	外面は斜位の篋削りを施す。口縁部は轆轤撫での整形痕を残す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00072 102	須恵器 塊	掘方内 破片	□(12.5)・高5.8・底 (7.4)	酸・並・浅黄橙・並・夾雑物微	口縁直下で丸味を帯び、口縁部は短く外反。器厚は均質で薄い。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00073	須恵器 甕	掘方内 破片	□(18.0)	酸・並・浅黄橙・並・夾雑物微	口縁部は短く外反する。口縁部には轆轤整形痕が認められる。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00074 102	須恵器 甕	石組み内 破片	胴最(25.6)	酸・並・浅黄橙・粗・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	器形は「土釜」に類する。外面は粘土紐の積上げ単位を明瞭に残すが、内面は撫で整形を施す。	不詳
10-00075 102	須恵器 羽釜	覆土内 破片	□(20.0) 鏝(23.6)	酸・軟・鈍黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00076 102	瓦 男瓦	石組み内 破片	厚1.5	還・締・暗灰・並・白色微粒子	半裁作り。凸面は轆轤整形痕を顕著に残す。布目密度は並。	秋間産
10-00077 102	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.4	還・並・灰・並・白色微粒子	半裁作り。凸面は粘土板剥ぎ取り痕を顕著に残す。側部面取りは1回。	秋間産
10-00078 102	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.6	還・硬・灰・並・シルト粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部面取りは2回。	秋間産
10-00079 102	瓦 女瓦	掘方内 破片	厚1.5	還・軟・灰・並・シルト粗粒子	一枚作り。凹面な型台の模骨痕が認められ、凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部面取りは3回。	秋間産
10-00080	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	□(15.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00081	灰釉陶器 長頸瓶	覆土内 破片	厚0.4	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産

第6号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00082 103	須恵器 内黒 鉢	掘方内 破片	□(15.0)	酸・硬・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部端部はキャリパー状に屈曲する。横位方向の研磨を器内外面に施す。内面燻し焼成。	不詳
10-00083 103	須恵器 塊	床直層 部分欠損	□13.6・高5.0・底6.3	還・軟・灰黄・並・黒色粒子・白色 微粒子	腰部は丸味を帯び立ち上がる。口縁部の器厚は薄く、有機質が付着する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00084 103	須恵器 塊	床面直上 部分欠損	□13.3・高5.2・底6.7	還・軟・灰・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子	全体に歪み、立ち上がりは丸味を帯びた状態になっている。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00085 103	須恵器 塊	床面直上 部分欠損	□14.0・高4.6・底7.2	還・並・灰黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・シルト粒子	全体に丸味を帯び、口縁部は短く外反。器内外面の轆轤痕が不一致。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00086	須恵器 甕	床直層 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄・並・白色微粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。秋間産土師器甕(秋間産)。	秋間産
10-00087 103	須恵器 甕	覆土内 破片	□(18.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	器厚は厚い。「コ」の字状口縁。粘土紐の単位が外面に残る(秋間産)。	吉井・藤岡産
10-00088 103	須恵器 甕	床直層 破片	□(17.6)・頸16.4	酸・軟・灰白・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	口縁部は短く外反する。口縁部には轆轤整形痕が認められる。紐作り後轆轤整形(右回転)か(秋間産)。	秋間産
10-00089 103	須恵器 甕	覆土内 破片	□(18.0) 頸(15.2)	酸・並・鈍黄橙・並・夾雑物微	口縁部は強く「く」の字に外傾する。器内外面には顕著な轆轤整形痕が残っている(秋間産)。	秋間産
10-00090 103	須恵器 甕	床直層 1/2残	□(20.3) 頸(19.0)	還・硬・明赤褐・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。外面は縦位の篋撫で整形。内面はコテを使った轆轤整形(秋間産)。	秋間産
10-00091 103	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(18.0) 鏝(22.6)	中・並・黒褐(外)・灰褐(内)・並透 明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は轆轤目が顕著。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00092	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(18.8) 鏝(24.0)	酸・硬・黄橙・並・透明鉱物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋撫で。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00093 103	須恵器 羽釜	覆土内 1/2残	□(20.0) 鏝(23.8)	酸・軟・鈍黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	丸味のある胴部は、鏝直下で最大径に達し、口縁は内傾して立ち上がる。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00094 103	須恵器 羽釜	甕内 破片	底(8.0)	中・並・灰白・並・透明鉱物粒子・ 黒色粒子	丸味を帯びて立ち上がる。底部周辺は斜位の篋削り。内面は轆轤整形痕。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00095 103	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(22.0) 鏝(26.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は轆轤目が顕著。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産か
10-00096 103	須恵器 羽釜	甕内 1/3残	□(22.0) 鏝(23.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 白色微粒子	内面に粘土紐の積み上げ痕が明瞭に残る。外面は幅広の縦位の篋削り。口縁部は横撫で。	月夜野型
10-00097 103	瓦 鎧瓦	甕内 破片	厚1.7	還・締・灰・並・白色微粒子	半裁作り。凸面は轆轤整形痕を顕著に残す。凹面に粘土板剥ぎ取り痕。瓦当面意匠は不詳。	秋間産
10-00098 103	瓦 男瓦	甕内 破片	厚2.1	還・締・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	半裁作り。凸面は轆轤整形痕を顕著に残す。側部面取り2回。	秋間産
10-00099 104	瓦 男瓦	甕内 破片	厚1.8	還・締・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	半裁作り。凸面は轆轤整形痕を顕著に残す。側部面取り2回。端部側部面取りは1回。	秋間産
10-00100 104	瓦 女瓦	甕内 破片	厚2.0	還・締・灰・並・黒色粒子・シルト 粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部は篋撫で仕上げ(面付けは4回)。端部面取りは2回。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00101 104	瓦 女瓦	床直層 破片	厚2.1	還・硬・灰・粗・白色微粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部面取りは3回。凹面炭化物付着。	秋間産
10-00102 104	瓦 女瓦	床直層 破片	厚2.0	還・締・灰・並・黒色粒子・シルト粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部面取りは3回、側部面付け2回。	秋間産
40-00002	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長4.9・幅0.9・重10.1g		器種不分明。利器の茎か。	
40-00003	鉄器 釘か	覆土内 破片	残存長3.0・幅0.5・重2.9g		釘か。	
40-00004	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.8・幅0.4・重3.8g		器種不分明。	
20-00003 104	礫器 不詳	掘方内 完存	長9.2・幅7.7・厚3.4・重403g	粗粒輝石安山岩	平坦面は使用痕か自然面か判然としない。	

第7号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00103	土師器 甕	覆土内 1/3残	底(3.6)	酸・並・鈍黄橙・並・微粒雲母	外面は縦位の篋削り、内面は掻き上げる状態の篋撫でを施す。	吉井・藤岡産
10-00104	土師器 環	掘方内 破片	口(13.0)	酸・並・黄橙・並・微粒雲母	底部は篋削り、口縁部下半に型膚を残し、口縁部端部・内面は横撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00105	須恵器 環か	覆土内 破片	口(12.0)	還・軟・白灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成整形。底部は欠損。	秋間産
10-00106	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(19.2)	還・硬・灰・並・白色微粒子	端部は折り返し。天井部は右回転の篋削り。	秋間産

第8号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00107 104	土師器 環	床面直上 破片	口(13.8) 底(11.8)	酸・並・黄橙・並・雲母石英片岩	器内外面ともに小単位の外ハゼが顕著。口縁部は直線的に立ち上がる。型作り成型。	吉井・藤岡産
10-00108 104	土師器 台付甕	P ₁ 覆土 内1/4残	基部4.2 脚端9.6	酸・並・灰黄褐・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母	胴下半部は横位・斜位気味の篋削りを施す。内面は掻き上げ状の篋撫でを施す。脚端部は欠損する。	吉井・藤岡産
10-00109 104	土師器 台付甕	床面直上 破片	底9.4	酸・並・黄橙・並・黒色鉾物粒子・透明鉾物粒子	外面は斜位の篋削りを施す。内面は横位に撫でつける篋撫で。型作り成型か。	吉井・藤岡産
10-00110 105	須恵器 環	床面直上 部分欠損	口10.0・高4.2・底6.5	還・締・灰・並・夾雑物微	底部・体部・口縁部は薄く直線的に立ち上がる。高台が沈線引きの擬似高台。	秋間産
10-00111 105	須恵器 環	床直層 1/3残	口(12.8)・高4.0・底6.8	還・締・灰・並・黒色粒子	全体に器厚は薄い。立ち上がりは丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転篋起こし。自然釉が付着。	秋間産
10-00112 105	須恵器 環	覆土内 1/2残	口12.8・高3.4・底(6.0)	還・並・灰白・並・夾雑物微	全体に器厚は薄い。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転篋起こし。	秋間産
10-00113 105	須恵器 環	床直層 1/4残	底7.1	還・締・灰・並・黒色粒子	体・口縁部の器厚は薄い。口縁部を欠損する。轆轤右回転成整形、底部は回転篋起こし。	秋間産
10-00114 105	須恵器 環	床面直上 破片	口(13.7)・高4.4・底(8.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00115 105	須恵器 環	床面直上 1/3残	口(15.0)・高3.8・底(9.6)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	底部・口縁部端部の器厚非常に薄く、体部はやや厚目。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00116 105	須恵器 壺	床面直上 2/3残	口15.2・高6.3・底8.6	還・締・灰・並・白色微粒子	腰部は丸味を強く帯び、体・口縁部は薄くやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00117 105	須恵器 蓋	床直層 破片	摘(4.4)・高4.8・端(18.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色鉾物粒子	摘部は環状。天井は轆轤回転篋削り、端部は折り返し。轆轤成整形。	秋間産
20-0004 105	礫器	床直層 部分欠損	残存長15.1・幅13.2・厚6.3・重2,012g	粗粒輝石安山岩	明瞭な使用痕等は認められなかった。	

第9号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00118	土師器 甕	P ₁₀ 覆土 内破片	口(22.2)	酸・並・鈍黄・並・微粒雲母	球形胴の甕。口縁端部は短く「く」の字に外傾気味に立ち上がる。外面は縦位の篋削りを施す。	藤岡産
10-00119	土師器 甕	P ₁₁ 覆土 内破片	厚0.6			
10-00120 105	須恵器 環	床面直上 2/3残	口(11.7)・高3.8・底6.0	還・締・灰白・並・黒色粒子	器厚は全体に薄く体・口縁部は直線的に立ち上がる。	秋間産
10-00121 105	須恵器 環	掘方内 破片	口(12.8)・高3.8・底(7.2)	還・硬・灰・並・白色微粒子	全体に器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00122 105	須恵器 壺	竈内焚口 部分欠損	口12.4・高7.2・底7.5	還・並・白灰・並・シルト粒子	全体に器厚は薄い。体・口縁部は長く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00123 105	須恵器 壺	P ₄ 覆土 内完形	口14.7・高6.4・底7.4	還・並・灰白・並・白色鉾物粒子	腰部は張り、口縁端部は外反する。器厚は薄目。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00124 105	須恵器 内黒壺	P ₄ 覆土 内部分欠損	口16.2・高6.2・底6.2	酸・硬・黄橙・並・黒色鉾物粒子	体・口縁部は丸く立ち上がる。内面は研磨を施し燻し焼成。轆轤右回転成整形、付高台。	不詳
10-00125 105	須恵器 皿	覆土内 破片	口(13.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	全体に器厚は薄い。器面に小単位の瘤状の粘土が認められる。轆轤成整形。	秋間産
10-00126 105	須恵器 内黒壺	覆土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・赤褐色粒子・黒色鉾物粒子	体・口縁部は丸味がある。内面は研磨を施し燻し焼成。轆轤右回転成整形、付高台。	不詳 墨書-1

第6章 中里見原遺跡

10-00127 105	須恵器 瓶	覆土内 破片	口(13.4)	還・締・白灰・並・黒色粒子	外面口唇直下に粘土紐を成形し、正面感を複合口縁状にしている。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00128 105	須恵器 瓶	南隅床直 1/2残	胴最(23.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	比較的底径がすばむ。底部周辺は轆轤回転篋削り を施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00129	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(14.6)	還・硬・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
20-00005 105	石製品 紡錘車	床直層 完形	径3.5・高1.9・孔径 0.8・重43g	蛇紋岩	殆ど欠損が認められない。通有例に比較すると、 径が小さく厚さが目立つ。研磨処理は丁寧である。	
40-00005	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚0.3・重27.3g		錆化が顕著。刀子と思われる利器と茎状の製品が 錆着いている。	
40-00006	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅0.7・厚0.3・重4.2		錆化が顕著。形状等不分明。	

第10号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00130 105	土師器 坏	竈内 破片	口(12.8)・高(3.2)・ 底(8.8)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色粒子・白 色微粒子	腰部は丸く口縁が強く外傾する。腰部は篋削り、 口縁・内面は横撫で。体部に型甘帯。型作り成型。	吉井・藤 岡産
10-00131 105	土師器 甕	覆土内 破片	口(13.2)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子	「コ」の字状口縁。外傾部に粘土の接合痕が認めら れる。口縁直下は横位の篋削り。内面は横撫で。	吉井・藤 岡産
10-00132 105	土師器 台付甕	覆土内 破片	底(8.0)	酸・並・黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子	脚部。「ハ」の字状に開く。轆轤整形痕に近い横撫 で整形痕が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00133 105	土師器 台付甕	覆土内 破片	口(20.2)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子	「コ」の字状口縁。口縁の角は棒状の筧により表出。 外面は横位の篋削り。内面は横位の横撫で。	吉井・藤 岡産
10-00134 106	土師器 甕	覆土内 部分欠損	口11.6・高2.9・底7.0	還・硬・灰・並・夾雑物微	立ち上がりは丸味を帯び、口縁部はやや外反する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00135 106	須恵器 内黒 坏	覆土内 1/3残	口(12.4)・高6.4・底 3.4	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 赤褐色粒子	体・口縁部は丸味がある。内面は研磨を施し燻し 焼成。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	不詳
10-00136 106	須恵器 坏	床面直上 完形	口13.6・高7.2・底4.0	還・締・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	腰部から体部が丸味を帯び、口縁は直線的に立ち 上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00137 106	須恵器 坏	床面直上 2/3残	口13.6・高4.1・底7.8	還・並・灰白・並・夾雑物微	体部はやや丸味を帯び、口縁部は短く外反する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00138 106	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(14.2)・高(3.4)・ 底7.6	酸・硬・黄橙・並・白色微粒子	底部は厚いが口縁部は薄く轆轤目が強い。轆轤右 回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00139 106	須恵器 塊か	竈内 破片	口(15.2)	還・締・灰・並・黒色粒子	全体が丸味を帯び、口縁部は短く外反気味。轆轤 成整形(右回転)。	秋間産
10-00140 106	須恵器 坏	掘方内 破片	底6.2	還・並・白灰・並・高温石英	器厚は全体に薄い。轆轤右回転成整形、底部は回 転糸切り。見込みに「×」の篋描きが認められる。	秋間産
10-00141 106	須恵器 皿	床直層 1/3残	底7.1	還・並・灰白・並・夾雑物微	底部は厚い。立ち上がりは薄い。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-00142	須恵器 内黒 坏	竈内 破片	口(15.4)・高3.5・底 (9.0)	酸・並・浅黄橙・並・シルト粒子・赤 褐色粒子	丸味が強い。口縁は短く外反する。内面に研磨を 施す。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	不詳
10-00143 106	須恵器 内黒塊か	掘方内 破片	口(18.2)	酸・軟・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	全体に丸味を帯びる。内面に研磨を施す。轆轤右 回転成整形。	不詳
10-00144 106	須恵器 内黒 坏	覆土内 破片	底(8.0)	酸・並・浅黄橙・並・白色微粒子・ 黒色鉾物粒子	内面に研磨を施す。轆轤右回転成整形、底部は回 転糸切り。	不詳
10-00145	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.6	還・硬・暗灰・並・白色微粒子	器内外面は撫で整形。叩き整形の痕跡は認められ ない。紐作り。	乗附か秋 間産
10-00146 106	瓦 女瓦	竈内 破片	厚1.6	還・軟・白灰・並・シルト粒子 シルト質	一枚作りか。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文側部 面取り1回。	秋間産
10-00147 106	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.2	還・締・暗灰・密・白色微粒子	断面形状が特殊。熨斗瓦か。一枚作りか。凸面は 単軸絡条体の縄叩き施文。側部面取り3回。	秋間産
10-00148	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.5	還・並・灰・並・白色微粒子	外面は粗い並行叩き、内面の宛て具は素文。平行 叩きは浅く撫で等で明瞭ではない。	秋間産
20-00006 106	石製品 紡錘車	床直層 完形	上径3.1・高1.8・下 径2.7・重46g	蛇紋岩	側面に縦位の沈線を4条施す。	
40-00007	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅6.3・高4.3・厚0.5		錆化が顕著。錆鉄の可能性が有る。形状は風鐸の 舌に似ている。	
20-00007 106	礫器 擦石	覆土内 完形	長11.0・幅4.9・厚3.6 ・重307g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00008 106	礫器 擦石	床直層 完形	長15.4・幅12.3・厚 3.9・重1,180g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められ、被熱による剝 離が認められる。	
20-00009 106	礫器	覆土内 破片	残存長12.6・幅10.9 ・厚8.0・重1,550g	粗粒輝石安山岩	片面側に被熱による剝離が認められる。	
20-00010 106	礫器	床直層 完形	長19.1・幅15.8・厚 7.0・重3,100g	粗粒輝石安山岩	使用痕は認められない。	

第13号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00149 106	土師器 坏	覆土内 2/3残	口12.6・高3.5・底8.0	酸・並・黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子	底部中央・体部に型膚を残す。	吉井・藤 岡産
10-00150 106	須恵器 坏	床面直上 1/4残	口(12.6)・高3.2・底 (6.4)	還・締・灰・並・夾雑物微	体・口縁部はやや丸味を帯びる。器厚は極薄い。 自然袖付着。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切 り。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00151 106	須恵器 坏	床直層 1/3残	口12.7・高6.0・底 (6.0)	還・締・灰・並・夾雑物微	体・口縁部はやや丸味を帯びる。器厚は極薄い。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00152 106	須恵器 内黒皿	床面直上 高台欠損	口13.3・残高1.9・皿 底7.5	酸・並・橙・並・黒色鉱物粒子	丸味を帯びる。内面に研磨を施し燻し処理を施す。 轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	不詳
10-00153 107	須恵器 甕	覆土内 破片	底5.0	酸・並・浅黄橙・並・黒色鉱物粒子	縦位の篋削りを施す。内面には篋無で痕が多い。	秋間産か
10-00154	須恵器 把手付瓶	覆土内 破片	胴最(28.0)	還・締・暗灰・並・白色微粒子	球形を呈するのか。平行叩きの痕跡が認められる。 紐作り。叩き整形後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00155 107	須恵器 広口甕	覆土内 破片	口(60.4) 胴最(63.6)	還・硬・灰・並・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具 は素文。口縁部は轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00156 10-00158	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.0	還・硬・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具 は青海波文。	秋間か乗 附系
20-00011 107	礫器 擦石		長28.9・幅25.2・厚 9.0・重11,300g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認めらる。	

第11号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00159 107	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.6) 底(8.6)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	型作り成型後底部は篋削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。	吉井・藤 岡産
10-00160 107	土師器 台付甕	床直層 破片	口(12.4) 胴最(13.0)	酸・並・浅黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	胴部は丸味を強く帯び、口縁部は「コ」の字状に 立ち上がる。全体に器厚は薄い。	吉井・藤 岡産
10-00161 107	土師器 台付甕	床直層 破片	口(10.0) 胴最(10.2)	酸・並・浅黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	胴部は丸味を帯び、直線的に立ち上がる。「コ」の字 状口縁。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00162 107	土師器 甕	掘方内 破片	口(18.0) 頸(16.8)	酸・軟・鈍橙・粗・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・微粒雲母	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がりに成形時の器膚 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00163 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.4) 胴最(20.2)	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がりに成形時の器膚 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00164 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.8) 頸(16.0)	酸・並・鈍赤褐・並・透明鉱物粒子・ 白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00165 107	土師器 甕	床直層 破片	口(19.0) 頸(17.4)	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がりに成形時の器膚 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00166	土師器 甕	竈内・他 破片	口(19.0) 頸(14.4)	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00167 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.4) 頸(18.0)	酸・並・橙・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00168 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.6) 頸(17.0)	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00169 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.0) 頸(17.6)	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00170 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.0) 頸(18.4)	酸・並・明赤褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は緩やかに外反する。外面は篋削りを施し、 内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00171 107	土師器 甕	北竈内 破片	口(20.0) 頸(18.4)	酸・並・褐・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子・緑泥片岩粒	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00172	土師器 甕	覆土下層 破片	口(20.2) 胴最(23.9)	酸・並・橙・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00173 107	土師器 甕	覆土下層 破片	口(20.2) 頸(18.0)	酸・並・鈍褐・並・透明鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00174 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(21.2) 頸(20.2)	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00175 107	土師器 甕	北竈内他 破片	口(22.4) 頸(19.8)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・微粒雲母	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋無で整形。	吉井・藤 岡産
10-00176 107	土師器 甕	床直層 破片	底2.8~4.0	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 微粒雲母	外面は縦位の篋削り、内面は掻き上げの篋無でを 施す。	吉井・藤 岡産
10-00177 108	土師器 甕	北竈内他 破片	底4.0	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・微粒雲母	外面は縦位の篋削り、内面は篋無でを施す。	吉井・藤 岡産
10-00178 108	土師器 甕	覆土下層 破片	底4.2	酸・並・鈍黄橙・並・雲母石英片岩・ 赤褐色粒子	外面は縦位の篋削り、内面は篋無でを施す。	吉井・藤 岡産
10-00179 108	土師器 台付甕	覆土内 破片	基部(4.6)	酸・並・鈍黄褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	外面は縦位の篋削り、内面は篋無でを施す。	吉井・藤 岡産
10-00180 108	須恵器 坏	床面直上 2/3残	口(12.4)・高3.2・底 7.2	還・硬・白灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。腰部がやや丸味を帯びる。口縁部は 直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00181 108	須恵器 坏	P;内底面 部分欠損	口12.0・高3.3・底6.9	還・締・白灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は短く外反する。轆轤右 回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00182 108	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.1)・高(6.4)・ 底(3.8)	中・並・鈍灰黄・並・白色鉱物粒子	口唇部直下まで直線的に立ち上がり、口唇部は短く外 反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00183 108	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0)・高3.1・底 (6.6)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体部下半が丸く口唇部まで直線的。轆轤右回転成 整形、回転糸切り。糸の撚りはきつく細い。	秋間産
10-00184 108	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	口12.4・高3.6・底7.3	還・硬・白灰・並・黒色粒子	体部下半が丸味を帯び、口唇部は短く外反。轆轤 右回転成整形、回転糸切り。糸の撚りは強く細い。	秋間産
10-00185 108	須恵器 坏	覆土内 1/4残	口(12.6)・高3.8・底 (7.2)	還・硬・暗灰・並・白色鉱物粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口唇部は短く外 反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00186 108	須恵器 坏	覆土内 3/4残	口12.7・高3.8・底7.4	還・硬・白灰・並・黒色粒子	底部は厚い。体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は 短く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00187 108	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	口12.9・高3.3・底7.4	還・硬・白灰・並・黒色粒子	器厚は厚い。体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は 短く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00188 108	須恵器 坏	覆土内 1/3残	□(12.8)・高3.3・底 (7.6)	還・硬・白灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転 成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00189 108	須恵器 坏	覆土内 1/3残	□(13.0)・高3.9・底 7.2	還・硬・灰・並・黒色鉱物粒子	腰部は丸く浮く。体・口縁部は丸味を帯び立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00190 108	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□13.1・高4.0・底7.4	還・並・白灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00191 108	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	□13.1・高3.5・底6.0	還・軟・灰黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00192 108	須恵器 坏	覆土内 破片	□(13.2)・高3.3・底 (7.2)	還・軟・外-黒灰・内-灰白・並・シ ルト粒子(器外面黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00193 108	須恵器 坏	床直層 完形	□23.2・高3.8・底7.2	還・締・灰(内-黒灰)・並・白色鉱物 粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00194 108	須恵器 坏	床直層 完形	□13.3・高3.4・底7.0	還・並・白灰・並・夾雑物微	口縁部上半が肥厚するが立ち上がりは直線的。轆 轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00195 108・158	須恵器 坏	覆土内 1/3残	□(13.4)・高3.4・底 (7.8)	還・硬・灰白・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-2
10-00196 108	須恵器 坏	床直層 2/3残	□13.5・高5.0・底7.3	還・締・黒灰・並・白色鉱物粒子・ 外-自然釉付着	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00197 108	須恵器 坏	覆土内 1/3残	□813.69・高3.3・底 (6.6)	還・締・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00198 108	須恵器 坏	P27内 部分欠損	□(13.7)・高3.7・底 6.6	還・並・外-黒灰・内-灰白・並・シ ルト粒(器外面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00199 108	須恵器 坏	床直層 部分欠損	□13.7・高4.2・底8.0	還・締・灰・並・白色鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。器厚はやや厚 い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00200 108	須恵器 坏	覆土内 1/3残	□(13.6)・高3.6・底 (6.8)	還・並・白灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00201 108	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□13.6・高3.6・底6.6	還・並・灰白・並・粗砂	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00202 108	須恵器 坏	床面直上 2/3残	□(13.8)・高3.3・底 7.2	還・並・白灰・並・白色微粒子・シ ルト粗粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-3
10-00203 108	須恵器 坏	北竈内 2/3残	□(13.8)・高3.4・底 7.0	還・硬・白灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外反 気味。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00204 108	須恵器 坏	床面直上 部分欠損	□13.8・高3.5・底7.2	還・軟・外-黒灰・内-灰白・並・黒 色粒子(器外面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00205 108	須恵器 坏	覆土内 1/3残	□(13.8)・高3.7・底 (7.2)	還・締・灰白・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外反 気味。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00206 108	須恵器 坏	覆土内 1/4残	□(14.0)・高4.0・底 7.4	還・並・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	底部・立ち上がりは器厚が厚い。体・口縁部は薄 く直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00207 109	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□(14.4)・高3.8・底 7.2	還・軟・外-黒灰・内-灰白・並・(器 外面の黒色燻し焼成)	器厚は器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00208 109	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□14.5・高4.0・底7.2	還・並・灰白・並・シルト粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、底部は回転糸切り。糸の撚りは強く細かい。	秋間産
10-00209 109	須恵器 坏	覆土内 1/4残	□(15.1)・高(4.1)・ 底(7.6)	還・硬・白灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は短く外 反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00210 109	須恵器 坏	P内上層 部分欠損	□14.7・高5.9・底7.6	還・硬・外-黒灰・内-灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上 がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00211 109	須恵器 坏	覆土内 破片	□(14.9) 坏底(8.7)	還・締・灰・並・夾雑物微・内-自然 釉付着。	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産 墨書-4
10-00212 109	須恵器 坏	床面直上 3/4残	□15.2・高5.6・底8.1	還・軟・白灰・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00213 109	須恵器 坏	床直層 部分欠損	□15.0・高4.8・坏 底8.0	還・締・灰・並・黒色粒子・自然釉 付着。	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00214 109	須恵器 坏	覆土内 1/2残	□(15.2)・高5.6・底 5.6	還・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は薄く、丸味を帯び立ち上がり、口唇部 は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00215 109	須恵器 坏	覆土内 1/3残	□(15.4)・高5.2・底 8.0	還・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。作りは丁寧。	秋間産
10-00216 109	須恵器 坏	覆土内 1/4残	底8.4	還・硬・灰白・並・黒色粒子・白色 微粒子	体部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、 付高台。	秋間産
10-00217 109	須恵器 内黒	床直層 3/4残	□(17.1)・高6.7・底 8.6	酸・並・鈍橙・並・微粒雲母(藤岡畑 土)(器内面は燻し焼成)	腰部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、付高台。内面に研磨を施す。	藤岡産
10-00218 109	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.4	還・軟・灰・並・微粒雲母	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高 台)。	藤岡産
10-00219 109	須恵器 坏	床直層 1/4残	□(20.4)・高8.6・底 10.7	還・並・黒灰(器内外面を黒灰に燻し 焼成)・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回 転成整形、付高台。	秋間産
10-00220 109	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(18.0)	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。端部は折り返し、天井部は轆轤右回 転成整形。轆轤成整形。	秋間産
10-00221 109	須恵器 蓋	床直層 2/3残	端4.4・高5.3・端25.0	還・並・灰・並・黒色粒子	端部は折り返し、天井部は轆轤回転成整形を施す。 轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00222 109	須恵器 皿	覆土内 破片	□(12.8)・高2.3・底 (7.0)	還・締・灰・並・黒色粒子・器内外 面自然釉付着。	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成整形、付高台。	秋間産
10-00223 109	須恵器 皿	覆土内 1/3残	□(13.4)・皿高2.4・ 皿底(6.9)	還・並・白灰・並・夾雑物微	器厚はやや厚い。体・口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00224 109	須恵器 皿	覆土内 1/3残	□(13.4)・高2.8・底 (7.6)	還・硬・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	器厚は厚い。体・口縁部直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、付高台。見込みが磨減する。	秋間産
10-00225 109	須恵器 皿	床面直上 破片	□(13.0)・高2.9・底 (6.8)	還・締・灰・並・黒色粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-00226 109	須恵器 皿	P ₇ 上層 1/3残	□(13.5)・高2.6・底 7.4	還・並・白灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成整形、付高台。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00227 109	須恵器 皿	覆土内 1/2残	口(13.5)・高2.4・底 (7.4)	還・締・暗灰・並・黒色粒子・器内 外面自然釉付着。	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は緩やかに外 反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00228 109	須恵器 皿	P _{上層} 2/3残	口13.5・高2.4・底6.7	還・締・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部直線的に立ち上がる。轆 轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00229 109	須恵器 皿	覆土内 1/4残	口(13.6)・高3.1・底 (7.2)	還・軟・白灰・並・夾雑物微	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-00230 109	須恵器 皿	覆土内 2/3残	口(13.6)・高2.4・底 (7.2)	還・締・灰・並・黒色粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反す る。轆轤右回転成整形、付高台。ハゼ割れが顕著。	秋間産
10-00231 109	須恵器 皿	覆土内 破片	口(13.8)・高2.7・底 (7.0)	還・並・白灰・並・黒色粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反す る。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00232 109	須恵器 皿	床直層 1/3残	口(14.0)・高2.4・底 7.0	還・硬・白灰・並・夾雑物微	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反。 轆轤右回転成整形、付高台。見込みが磨滅する。	秋間産
10-00233 110	須恵器 皿	床直層 1/3残	口(14.4)・高2.8・底 (8.4)	還・並・暗灰・並・白色粒子	器厚は厚い。体・口縁部直線的に立ち上がる。轆 轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00234 110	須恵器 皿	覆土内 破片	口(14.4)・高2.7・底 (7.5)	還・硬・外-黒灰・内-灰白・並・(器 外面の黒色燻し焼成)	器厚は薄い。体部は直線的に立ち上がり、口縁部 は僅かに外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00235 110	須恵器 皿	覆土内 部分欠損	口14.7・高30・底7.5	還・並・外-黒灰・内-灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00236 110	須恵器 皿	覆土内 1/4残	口(14.8)・高3.0・底 (7.6)	還・並・灰白・並・黒色粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00237 110	須恵器 皿	覆土内 口縁欠損	底6.7	還・並・灰白・並・黒色粒子	口縁部を欠損する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00238 110	須恵器 皿	覆土内 2/3残	口13.4	還・硬・灰白・並・黒色粒子	口縁部は外反する。底部の器厚は厚い。轆轤右回 転成整形、付高台。作りは丁寧。	秋間産
10-00239 110	須恵器 小壺	覆土内 破片	口5.6 胴最(4.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	紐作り後轆轤成整形(右回転)口縁部は内湾して立 ち上がり短い。	秋間産
10-00240 110	須恵器 瓶	覆土内 破片	口(8.6)	還・締・灰・並・白色鉍物粒子	内傾する口縁部は、胴部から短く立ち上がる。轆 轤成整形(右回転)	秋間産
10-00241	須恵器 大口瓶	覆土内 破片	口(25.0)	還・締・灰・並・黒色粒子・自然釉 付着。	口縁部は外反する。口唇部は平坦。轆轤成整形(右 回転)。	秋間産
10-00242	須恵器 大口瓶	覆土内 破片	口(25.8)	還・硬・灰・並・黒色粒子・自然釉 付着。	口縁部は外反する。口唇部は平坦。轆轤成整形(右 回転)。	秋間産
10-00243	須恵器 瓶	掘方内 破片	胴最36.0	還・締・暗灰・並・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は斜格子叩き、内面宛て 具は青海波文。	秋間か乗 附系
10-00244 110	須恵器 瓶	覆土内 破片	底(13.0)	還・締・灰・並・白色鉍物粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00245	須恵器 瓶	覆土内 破片	底(18.0)	還・締・灰・(比重が高い)・黒色粒 子	紐作り後叩き整形。外面は斜格子叩き、内面宛て 具は素文。内面に格子叩きの痕跡が認められる。	東海産か
10-00246 110	須恵器 壺	覆土内 破片	口(18.0)	酸・並・浅黄橙・並・黒色鉍物粒子・ シルト粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。断面形状は、所謂「受 け口状口縁」に似ている。	秋間産 秋間産
10-00247 110	須恵器 大口壺	覆土内 破片	口(20.0) 胴最(19.4)	還・並・灰・並・黒色粒子	肩部から「く」の字状に口縁部が立ち上がる。口 唇部は平坦。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00248	須恵器 大口壺	覆土内 破片	胴最(31.2)	還・並・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00249 110	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(19.8) 鏝(23.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00250 110	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(22.0) 鏝(27.0)	還・軟・灰白・並・白色粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は轆轤目が顕著。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00251	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚1.0	還・硬・灰・並・黒色粒子	2段+2条の波状文を施す。波状文は2本1単位。 紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00252	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚1.0	還・硬・灰・並・黒色粒子	2段以上に2条の波状文を施す。波状文は2本2 単位。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00253	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚1.5	還・硬・灰・並・夾雑物微	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00254 110	施釉陶器 灰釉段皿	覆土内 破片	口(18.4)・高3.8・底 (8.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
10-00255 110	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(16.6)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00256 110	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底7.5	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗りか。	東海産
10-00257	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	口(10.6)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産
10-00258	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	口(13.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産
10-00259	施釉陶器 緑釉 皿	覆土内 破片	口(15.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は不明。	洛北産
10-00260	施釉陶器 緑釉碗か	覆土内 破片	厚0.6	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は不明。	洛北産
10-00261	施釉陶器 緑釉 皿	覆土内 破片	底4.1	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。底部は静止糸きり。施釉は 不明。	洛北産
10-00262 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.8	還・硬・灰・並・黒色粒子・シルト 粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整 形。側部面取り3回。	秋間産
10-00263 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	還・軟・灰・並・赤褐色粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整 形。	秋間産
10-00264 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	還・並・灰白・並・黒色粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整 形。	秋間産
10-00265 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	還・硬・暗灰・並・白色微粒子・黒 色粒子・シルト粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整 形。側部面取り2回	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00266 111	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.6	酸・並・浅黄・シルト質・赤褐色粒 子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整 形。側面取り3回。	秋間産
10-00267 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	還・硬・灰・並・シルト粒子・白色 微粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側面取り2回。凹面布合わせ目。	秋間産
10-00268 111	瓦 男瓦	窠内 破片	厚2.0	還・軟・灰白・並・赤褐色粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側面取り2回。	秋間産
10-00269	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	還・並・灰・並・シルト粗粒子	半裁作り。轆轤成整形後斜位に撫でを施す。側部 面取り2回。	秋間産
10-00270 111	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.6	還・締・暗灰・並・白色微粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 凹面に粘土板剥ぎ取り痕。	秋間産
10-00271 111	瓦 女瓦	覆土内他 破片	厚1.5	還・締・灰・並・黒色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部 は篋撫で仕上げ。凸面離砂。	秋間産
10-00272 111	瓦 女瓦	覆土内他 破片	厚1.5	中・波・灰黄・波・赤褐色粒子・シル ト粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部 は篋撫で仕上げ。	秋間産
10-00273 112	瓦 女瓦	窠内 破片	厚1.5	還・並・灰白・並・赤褐色粒子・白 色微粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部 は篋撫でを施す。側面取り6回	秋間産
10-00274 112	瓦 女瓦	掘方内他 1/4残	厚1.8	還・並・灰・並・シルト粒子・赤褐 色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部 は篋撫で仕上げ。側面取り4回。	秋間産
10-00275 112	瓦 女瓦	床直層 破片	厚1.8	還・並・灰・並・シルト粒子・赤褐 色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き(T字状)施文。 側部は篋撫で仕上げ。側面取り5回。凹面模骨痕。	秋間産
10-00276 112	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.1	還・並・灰・並・白色微粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。端部 側面取りは1回。	秋間産
20-00012	礫器 擦石	床直層 完形	長4.8・幅4.8・厚2.7 ・重48g	粗粒輝石安山岩	周縁は風化による自然磨減が認められる。	
20-00013	礫器 擦石	床直層 完形	長6.2・幅5.4・厚4.5 ・重193g	粗粒輝石安山岩	片面が磨減する。	
20-00014	礫器 擦石	床直層 完形	長7.8・幅7.0・厚4.8 ・重294g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00015 112	礫器 擦石	覆土上層 破片	残存長5.4・幅7.2・ 重278g	粗粒輝石安山岩	分割されている。表裏面の平坦面に磨減が認めら れない。	
20-00016 112	礫器 擦石	覆土下層 部分欠損	長10.6・幅8.2・厚3.8 ・重1,126g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00017 112	礫器 擦石	床直層 完形	長11.7・幅12.0・厚 4.9・重1,126g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00018 112	礫器 擦石	覆土内 破片	長13.7・幅12.0・厚 5.1・重1,248g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。部分的に打 痕が認められる。	
20-00019 112	礫器 擦石	北窠内 部分欠損	長14.0・幅11.3・厚 5.1・重1,244g	粗粒輝石安山岩	表裏面と1側面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00020 112	礫器 擦石	北窠内 完形	長12.8・幅13.8・厚 8.1・重2,115g	粗粒輝石安山岩	片面の扁平面に鉄の付着が認められる。ほかは磨 減等は認められない。	
20-00021	礫器 擦石	覆土内 1/2残	残存長17.1幅10.8厚 5.6・重1,447g	粗粒輝石安山岩	下半部の剝離は熱割れによる剝離痕。磨減等は認 められない。	
20-00022 112	礫器 擦石	床面直上 完形	長21.1・幅19.2・厚 6.5・重3,900g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められ、無数の削痕が 認められる。	
40-00008	鉄器 刀子	覆土上層 両端欠損	残存長9.1・身幅1.0 ・重14.3g		錆化が顕著。関が明瞭ではなく、刃部はつぶれて いた可能性がある。	
40-00009	鉄器 刀子	覆土内 破片	残存長6.2・身幅0.9 ・重8.1g		錆化が顕著。刃部のみの残存。	
40-00010	鉄器 刀子か	覆土内 破片	残存長3.0・幅0.8		錆化により表面が剥落している。	
40-00011	鉄器 刀子	覆土内 破片	残存長2.0・幅0.8・ 重4.4g		錆化が顕著。刃部のみの残存。	
40-00012	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長9.6・幅0.5~ 0.9・重17.1g		鎌とも思われるが、判然としない。錆化が顕著。	
40-00013	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.3・幅0.5・ 重7.2g		錆化が顕著。茎状の部分が認められる。	
40-00014	鉄器 不詳	床直層 破片	残存長7.7・幅0.3~ 0.6・重15.8g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00015	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長7.2・幅0.5~ 0.8・重8.2g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00016	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長5.9・幅0.4~ 0.8・重11.8g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00017	鉄器か 不詳	床直層 完形か	長4.0・幅3.7・厚1.3 ・重22.3g		錆化が顕著。複数の製品が錆付いていると考えら れる。	
40-00018	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.5・幅0.5・ 重7.6g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00019	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.8・幅0.5~ 0.6・重8.0g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00020	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.9・幅0.7・ 重6.4g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00021	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.5・幅0.5・ 重4.2g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00022	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長2.6・幅0.6・ 重2.6g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00023	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長2.9・幅0.4~ 0.5・重5.1g		錆化が顕著。鉸具の残存品か。	
40-00024	鉄滓	覆土内 破片	残存長6.7・幅4.4・ 重121.0g		碗状滓の部分破片。	

第12号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00277 113	土師器 甕	床直層 破片	口(19.0) 頸(17.2)	酸・硬・鈍褐・並・微粒雲母・透明 鉾物粒子・黒色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00278 113	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.6) 頸(18.8)	酸・硬・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がりに成形時の器膚を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00279 113	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.0) 頸(19.0)	酸・並・橙・並・白色鉾物粒子・黒 色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁上半部は短い。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00280 113	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.4) 頸(19.2)	酸・硬・鈍褐・並・微粒雲母・黒色 鉾物粒子・透明鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00281 113	土師器 甕	甕内 破片	口(20.2) 頸(18.8)	酸・硬・明赤褐・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子・白色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がりに成形時の器膚を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00282	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.2)	還・硬・白灰・並・夾雑物微	直線的に立ち上がる口縁部片、内面に有機質が付着する。	秋間産
10-00283 113	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.0)・高3.6・底 (7.0)	還・締・暗灰・並・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00284 113	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.6)・高4.4・底 (7.0)	還・並・灰黄・並・シルト粒子・微 粒雲母	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、有機質が付着する。	秋間産
10-00285 113	須恵器 坏	床直層 1/3残	口(16.6)・高5.8・底 (5.6)	還・並・灰白・並・黒色粒子	腰部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00286 113	須恵器 坏	P1下層 1/3残	口(13.0)・高3.9・底 (5.6)	還・軟・灰白・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	立ち上がりからやや丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00287 113	須恵器 坏	覆土内 1/2残	口(13.7)・高3.7・底 (7.6)	還・並・灰白・並・シルト粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00288 113	須恵器 坏	床直層 破片	口(13.6)・高3.4・底 (8.2)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00289 113	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口(14.3)・高5.2・底 (6.6)	還・並・灰黄褐・並・黒色粒子・白 色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00290 113	須恵器 坏	床直層 2/3残	口(16.8)・高6.2・底 8.7	酸・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	体・口縁部はやや丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00291 113	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	口22.3・高10.1・底 9.9	還・並・灰白・並・黒色粒子・透明 鉾物粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00292 113	須恵器 皿	覆土内 完形	口12.9・高2.1・底7.2	酸・軟・橙・並・微粒雲母・雲母石 英片岩・黒色鉾物粒子	器厚は厚目。立ち上がり、回転篋削りを施す。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00293 113	須恵器 皿	覆土内 2/3残	口13.0皿高1.9・皿底 6.6	還・並・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00294 113	須恵器 皿	覆土内 部分欠損	口13.2・高2.5・底7.5	還・硬・灰・並・白色粒子	器厚は薄く体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00295 113	須恵器 皿	覆土内 部分欠損	口13.5・高2.6・底7.2	還・硬・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄く体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00296 113	須恵器 皿	覆土内 破片	口(14.2)・高3.2・底 (8.4)	還・軟・灰白・並・黒色粒子	器厚は厚い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00297 113	須恵器 広口甕	甕・覆土 内破片	口(25.8)	還・並・白・並・白色粒子・透明鉾 物粒子	口縁部は「く」の字状に立ち上がる。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00298	須恵器 甕	覆土内他 破片	胴最(18.8)	還・並・灰・並・黒色粒子	胴部は回転篋削りにより、平滑にしている。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00299 113	須恵器 甕	覆土内 2/3残	口(17.0)・頸11.1・ 胴最27.4	還・硬・暗灰・白色粒子	胴下半部は回転篋削りを施す。口縁部は直線的に立ち上がり、端部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00300	須恵器 大甕	床直層 破片	厚1.2	還・締・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具は青海波文。	秋間産
10-00301	須恵器 鉢	覆土内 破片	口(19.6)	酸・硬・灰黒・密・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子・白色鉾物粒子	口縁部先端側は内湾気味。器内外面に研磨を施す。	不詳
10-00302 114	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.4	還・並・灰・並・黒色粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。側面取り2回。	秋間産
10-00303 114	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.1	還・締・灰・並・白色微粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整形。側面取り1回。布目密度は密。	秋間産
10-00304 114	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.9	還・硬・灰白・シルト質・シルト粒 子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整形。側面取り3回	秋間産
10-00305 115	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.9	還・硬・灰白・並・シルト粒子・黒 色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側面取りは1回。	秋間産
10-00306	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(13.2)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。研磨を施し施釉。施釉は浸掛けか。	東海系
10-00307	施釉陶器 緑釉 碗	床直層 破片	口(18.0)	還・軟・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。研磨を施し施釉。施釉は浸掛けか。	洛北産
10-00308	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 破片	厚0.6	還・軟・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。研磨を施し施釉。施釉は浸掛けか。	洛北産
10-00309	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 完形	長3.8・幅1.0・孔径 0.35	酸・軟・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 微粒雲母	形状は歪みがあり、均一ではない。	不詳
40-00025	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 破片	残存長5.9・身幅1.2		錆化が顕著。茎と棟間部分しか残存しない。刃間が認められる。	
40-00026	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 破片	残存長4.4・幅1.7・ 重8.9g		錆化が顕著。利器とは思われない。	
40-00027	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 破片	残存長7.5・幅0.8・ 重21.3g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00028	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 破片	残存長4.5・幅0.9・ 重13.7g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	

第6章 中里見原遺跡

20-00023 114	石製品 砥石	覆土内 破片	長7.3・幅5.5・厚2.2 ・重115g	砥沢石	使用が右肩下がりになっている。左利きの砥石か。	
20-00024 114	礫器 擦石	床直層 完形	長20.6・幅9.1・厚6.9 ・重2,040g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	

第14号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00310 114	土師器 坏	覆土内 2/3残	口11.8・高4.4・底8.8	酸・軟・鈍黄橙・並微粒雲母・赤褐色粒子	型作り。底部は篋削り、内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	藤岡産
10-00311 114	土師器 坏	床直層 1/3残	口13.2・高4.1・底9.5	酸・軟・鈍黄橙・並微粒雲母・赤褐色粒子	型作り。底部は篋削り、内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	藤岡産
10-00312	土師器 甕	竈内他 破片	口(19.6) 胴(21.8)	酸・並・黄橙・並・透明鈹物粒子・白色粒子・黒色鈹物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がりに成形時の器膚を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00313 114	土師器 甕	床直層 1/2残	口(22.0) 胴(22.6)	酸・並・鈍橙・並・透明鈹物粒子・白色粒子	「く」の字状口縁。口縁部立ち上がりに成形時の器膚を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00314 114	土師器 甕	床直層 部分欠損	口(20.4)・胴(21.4) ・底4.0	酸・並・橙・並・透明鈹物粒子・白色粒子・黒色鈹物粒子	「く」の字状口縁。頸部に成形時の粘土の接合痕を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00315 114	須恵器 坏	覆土内 1/2残	口12.1・高4.5・底 (6.8)	還・締・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00316 114	須恵器 坏	床直層 2/3残	口(12.6)・高4.4・底 8.7	還・締・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00317 114	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	口12.9・高4.6・底7.8	還・並・灰白・並・白色粒子	全体にやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00318 114	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口12.7・高4.2・底6.9	還・硬・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00319 114	須恵器 坏	床直層 破片	底(6.4)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	腰部は落ち気味。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00320 114	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(14.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00321 114	須恵器 小瓶	覆土内 破片	底(5.3)	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。S轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00322 114	須恵器 鉢	床直層 完形	口18.8・高9.3・底8.2	還・並・灰・並・白色微粒子・透明鈹物粒子・黒色粒子	体部は丸味を強く帯び、口縁部は短く強く外反し、口唇部折り返し。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00323 115	須恵器 鉢	床直層 部分欠損	口19.1・高9.2・底8.7	還・並・灰・並・白色微粒子・透明鈹物粒子・黒色粒子	体部は丸味を強く帯び、口縁部は短く強く外反し、口唇部折り返し。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00324	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚0.9	還・硬・灰・並・透明鈹物粒子白色微粒子	紐作り後叩き成形。外面は叩き後刷毛撫でを施す。内面宛て具は素文。	秋間産
10-00325 115	瓦 女瓦	覆土内 1/3残	厚1.6	還・硬・白灰・並・夾雑物微	凸面は不整格子による叩き、凹面に粘土板割り取り痕と布合わせ目が認められる。側面取角1回。	秋間産
40-00029	鉄器 不詳	床面直上 破片	幅0.5~0.7・厚0.3・ 重3.1g		錆化が顕著。下端側に木質が残存する。茎であろうが、器種の特定は不分明。	
40-00030	鉄器 不詳	床面直上	幅0.3・厚0.3・重7.9 g		細長い角柱状の製品。上端は折れ曲がった状態で、頭部とは異なる。	
40-00031	鉄器 不詳	床直層 破片	幅0.5・厚0.3・重7.5 g		鎌の茎と被篋部分とも思われる。	

第15号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00326 115	須恵器 坏	床直層 1/3残	口(13.8)・高3.5・底 (7.0)	酸・軟・鈍黄褐・並・シルト粒子・赤褐色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00327 115	須恵器 坏	床面直上 1/3残	口(15.3)・高5.5・底 7.3	還・並・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00328 115	須恵器 坏	竈内 2/3残	口15.6・高4.9・底7.0	還・並・灰白・並・シルト粒子	体・口縁部は丸味を帯び開いた状態で立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00329 115	須恵器 坏	覆土内 3/4残	口19.8・高8.1・底8.5	還・並・灰白・並・黒色粒子	2種類の器形状態が当該個体に認められる。直線的に立ち上がる部分と、丸味を帯び立ち上がる部分である。	秋間産
10-00330 115	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	底(6.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産
10-00331	土製品 土錘	覆土内 部分欠損	長4.2・幅2.0・厚2.1 ・孔径0.5	酸・並・鈍橙・並・微粒雲母	ズングリしているが均整がとれている。	不詳
40-00032	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長7.8・幅0.35・ 重10.6g		錆化が顕著。製品の特定はできない。	
20-00025 115	礫器 擦石	覆土内 完形	長10.9・幅4.1・厚3.2 ・重173g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00026 115	礫器 擦石	P3上層 完形	長17.2・幅6.8・厚5.0 ・重877g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00027 115	礫器 擦石	床直層 完形	長13.2・幅9.4・厚6.6 ・重751g	粗粒輝石安山岩	表裏面と1側面の平坦面に磨減が認められる。	

第16号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00332 115	土師器 坏	掘方内 1/4残	口(12.2)・高3.0・底 9.8	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子	型作り成型後底部は篋削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。	吉井・藤 岡産
10-00333 115	土師器 坏	覆土内 破片	口10.6	酸・軟・鈍褐・並・黒色鈹物粒子・ 白色微粒子	型作り成型後底部は篋削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。有機質が付着する。	吉井・藤 岡産
10-00334 115	土師器 坏	甕内 破片	口(12.1) 高(3.1)	酸・並・黄橙・並・微粒雲母	型作り成型後底部は篋削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。有機質が付着する。	吉井・藤 岡産
10-00335	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.2) 底(8.8)	酸・並・鈍橙・並・微粒雲母	型作り成型後底部は篋削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。内面に放射状暗文。	吉井・藤 岡産
10-00336	土師器 坏	掘方内 破片	口(12.6) 底(8.5)	酸・並・鈍橙・並・微粒雲母	型作り成型後底部は篋削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。内面に放射状暗文。	吉井・藤 岡産
10-00337	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.2) 底(9.4)	酸・並・鈍黄橙・並・微粒雲母	型作り成型後底部は篋削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。内面に放射状暗文。	吉井・藤 岡産
10-00338 115	土師器 坏	床直層 破片	口(13.8) 底(10.4)	酸・並・橙・並・黒色鈹物粒子・微 粒雲母	型作り成型後底部・体部下半は篋削り、内面・口縁 部は横撫で。体部に型膚を残す。内面に放射状暗文。	吉井・藤 岡産
10-00339	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	酸・硬・橙・密・白色微粒子	底面は篋削り。見込みに螺旋暗文を2段に施す。	吉井・藤 岡産
10-00340 115	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.0) 胴(20.2)	酸・並・鈍橙・白色粒子・黒色鈹物 粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00341 115	土師器 甕	甕・覆土 内破片	口(21.0) 胴(22.2)	酸・並・鈍黄・並・白色粒子・微粒 雲母	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00342	土師器 脚付甕か	甕内 破片	厚0.7~0.9	酸・並・橙・並・微粒雲母・黒色鈹 物粒子	脚下半は欠損。底部は脚から周囲へ掻き下ろす様 に篋撫でを施す。内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00343 115	須恵器 内黒鉢	床面直上 部分欠損	口16.8・高・14.2・ 底7.7	酸(器外面の黒色燻し焼成)・軟・浅 黄橙・粗・粗角砂・軽石粒	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は縦位の篋削り、 内面に研磨(風化顕著)。底部は篋起こしか。	不詳
10-00344 116	須恵器 坏	甕内 1/4残	口(11.5)・高3.6・底 (5.8)	酸・並・鈍黄・並・高温石英・チャ ート円粒	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に 立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	不詳(秋 間産か)
10-00345 116	須恵器 坏	P ₁ 上層 1/2残	口(11.8)・高4.1・底 (6.0)	還・締・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00346 116	須恵器 坏	床直層 2/3残	口(11.8)・高3.3・底 6.0	還・締・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00347 116	須恵器 坏	P ₁ 内 3/4残	口12.1・高3.7・底5.6	還・硬・灰白・並・黒色粒子・シル ト粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00348 116	須恵器 坏	床面直上 3/4残	口12.2・高3.3・底6.6	還・硬・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。口縁部が丸味を帯びる。体部は直線 的。轆轤右回転成整形、糸の撚りは細かい。	秋間産
10-00349 116	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(12.4)・高3.2・底 (6.6)	還・締・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00350 116	須恵器 坏	甕内 1/3残	口(13.0)・高3.6・底 (6.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立 ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00351 116	須恵器 坏	甕内 完形	口13.2・高3.4・底6.5	還・硬・灰・並・白色粒子・黒色粒 子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00352 116	須恵器 坏	P ₁ 内上層 部分欠損	口13.4・高4.6・底5.9	還・並・灰白・並・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立 ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00353 116	須恵器 坏	P ₁ 内上層 部分欠損	口13.8・高3.3・底8.0	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00354 116	須恵器 坏	P ₁ 内上層 部分欠損	口(16.2)・高5.2・底 (9.0)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00355 116	須恵器 甕	甕右袖下 1/3残	口11.6・高5.4・底7.4	還・軟・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00356 116	須恵器 坏	掘方内 1/3残	口(15.6)・高6.4・底 (9.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子・シル ト粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00357 116	須恵器 坏	P ₁ 内上層 3/4残	口15.8・高6.9・底9.0	還・並・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立 ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00358 116	須恵器 甕	床直層 1/3残	口(16.2)・高6.4・底 (8.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は、直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00359 116	須恵器 甕	床面直上 2/3残	口16.6・高6.5・底8.8	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立 ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00360	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.4	還・硬・白灰・並・白色微粒子	轆轤右回転成整形。内面に有機質が付着する。	秋間産
10-00361	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.5	還・並・白灰・並・	轆轤右回転成整形。内面に有機質が付着する。	秋間産
10-00362 116	須恵器 双耳杯	覆土内 破片	最幅2.9・厚0.7	還・締・灰・並・黒色粒子	平面形状は舌状を呈する。表裏側面篋撫で整形で 仕上げてある。	秋間産か
10-00363	土師器 双耳杯	覆土内 破片	最幅2.9・厚0.6	酸・硬・明赤褐・密・夾雑物微	平面形状は短冊状を呈する。表裏側面篋撫で整形 で仕上げてある。	搬入品か
10-00364 116	須恵器 皿	床面直上 高台欠損	口13.8・皿底7.0	還・硬・灰・密・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転篋起こし。	秋間産
10-00365 116	須恵器 不詳	覆土内 破片	口(14.0)	還・硬・灰・密・夾雑物微	轆轤右回転成整形。円面硯の周縁とも考えられる。	秋間産
10-00366 116	須恵器 蓋	覆土内 破片	摘径1.8	還・並・灰・並・夾雑物微	摘は擬宝珠。天井部は轆轤右回転篋削りを施す。	秋間産
10-00367 166	須恵器 蓋	覆土内 破片	摘径1.2	還・締・灰・密・夾雑物微	全体が手持ち篋削り整形されている。	秋間産
10-00368 158	須恵器 瓶	掘方内 破片	厚0.4~0.6	酸・並・浅黄橙・並・黒色粒子	二次焼成を受けている。天井部に「上」墨書が認 められる。	秋間産 墨書-5

第6章 中里見原遺跡

10-00369	須恵器 長頸瓶	竈・覆土 他1/4残	口(9.5)	還・締・黒灰・密・白色鈹物粒子	紐作り(か)後轆轤整形(右回転)。口縁部は搾りの 皺が多い。	秋間か乗 附産
10-00370 116	須恵器 甕	床直層 破片	口(28.6)	還・並・灰・並・黒色鈹物粒子・白 色微粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。轆轤整形条痕が顕著 に残る。	秋間産
10-00371	須恵器 円面硯	覆土内 破片	脚(17.4) 面径(10.4)	還・締・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形。脚部に縦長の透かしを施す。 外面に自然袖付着。	秋間産
10-00372 ・ 10-00373	須恵器 円面硯	覆土内 破片	厚0.5~0.6	還・硬・灰・並・黒色粒子	脚部片。轆轤右回転成整形。縦位に平行条痕を施 す。透かしは十字状で複数箇所に施文。	秋間産
10-00374	土製品か	覆土内 破片	厚0.9	酸・軟・鈍橙・粗	スサを多く含む。壁材か塑像等の一部。	
10-00375 116	瓦 男瓦	竈左袖 部分欠損	狭端16.0 厚2.0	酸・軟・浅黄橙・並・綿状に生地土 が練られている。	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整 形。側部面取り1回。凹面布合わせ目。	秋間産
10-00376 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.7	還・硬・灰・並・黒色粒子・シルト 粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。	秋間産
10-00377 117	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(15.6)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
10-00378	施釉陶器 緑釉 碗	掘方内 破片	厚0.6	還・軟・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。研磨を施し施釉。施釉は浸 掛けか。	洛北産
40-00033	鉄器 刀子か	覆土内 破片	残存長8.8・幅1.0・ 重12.1g		錆化が顕著。刀子と思われるが、刃部が潰れてい る。	
40-00034	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長8.0・幅0.6・ 重12.7g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00035	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長6.1・幅0.3・ 重12.6g		錆化が顕著。細い棒状。断面は多面体か円形か。	
40-00036	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長2.7・幅0.5・ 重3.7g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00037	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長2.3・幅0.3~ 0.4・重1.5g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00038	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長1.6・幅0.4・ 重1.1g		錆化が顕著。茎状の部分か釘と考えられる。	
40-00039	鉄器 不詳	覆土内 破片	径(4.7)・厚0.3・重 9.4g		錆化が顕著。薄い円盤状を呈する。	
20-00028	礫器 擦石	覆土内 完形	長6.5・幅6.1・厚5.1 ・重224g	粗粒輝石安山岩	表裏面に磨滅が認められる。	
20-00029 117	礫器 擦石	掘方内 完形	長9.3・幅7.3・厚3.6 ・重319g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00030 117	石器 石皿	竈内 完形	残存長10.7・幅8.4・ 重352g	粗粒輝石安山岩	石皿片の転用。	
20-00031 117	礫器 擦石	P ₃ 内 完形	長12.8・幅8.9・厚3.9 ・重601g	粗粒輝石安山岩	表裏面と1側辺の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00032 117	礫器 擦石	竈右袖下 完形	長11.2・幅9.9・厚4.2 ・重751g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00033 117	礫器 擦石	覆土下層 完形	長11.4・幅11.2・厚 4.6・重1,050g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00034 117	礫器 擦石	竈内 完形	長15.3・幅10.0・厚 7.6・重1,663g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。両端の小口に 強打による打撃剥離が認められる。	
20-00035 117	礫器 擦石	P ₃ 内上 層完形	長13.5・幅11.4・厚 5.6・重1,370g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。側縁に集中 打痕が認められる。	
20-00036 117	礫器 擦石	床直層 完形	長13.2・幅12.5・厚 6.3・重1,548g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。部分的に打 痕が認められる。	
20-00037 117	礫器 擦石	P ₁ 内 完形	長13.1・幅11.2・厚 5.1・重1,095g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。部分的に打痕 が認められる。	
20-00038 117	礫器 擦石	床面直上 完形	長12.6・幅12.6・厚 5.5・重1,500g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。部分的に打 痕が認められる。	
20-00039 117	礫器 擦石	P ₃ 内 完形	長16.9・幅11.7・厚 6.1・重1,900g	粗粒輝石安山岩	側縁に打痕が認められる。磨滅は認められない。	
20-00040	礫器 擦石	竈焚口 完形	長26.7・幅15.6・厚 10.9・重3,200g	未固結凝灰岩	成形時のハツリ痕・整形痕等は風化により不分明。	
20-00041	礫器 擦石	覆土内 完形	長34.9・幅17.1・厚 9.5・重4,520g	未固結凝灰岩	成形時のハツリ痕・整形痕等は風化により不分明。	

第17号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00379 117	須恵器 坏	竈内 底部欠損	口13.0・高3.9・底6.7	中・軟・鈍赤褐・並・赤褐色粒子	器厚は薄く長く直線的に立ち上がる。轆轤右回転 成整形、底部は回転糸切り後周縁を篋削りを施す。	秋間産
10-00380 117	須恵器 坏	覆土内 1/4残	口(13.0)・高3.9・底 (6.2)	還・軟・灰・並・透明鈹物粒子・白 色微粒子・黒色鈹物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00381 117	須恵器 坏	床直層 1/4残	口(13.3)・高4.4・底 (7.0)	還・軟・灰・並・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00382 117	須恵器 坏	床直層 2/3残	口13.6・高4.2・底6.4	還・軟・灰・並・黒色鈹物粒子・黒 色粒子	器厚は薄い。腰部は丸味を帯び、体・口縁部直線的に 立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00383 117	須恵器 坏	床直層 1/3残	口(14.0)・高3.4・底 6.6	還・並・灰白・並・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00384 117	須恵器 坏	竈内 1/3残	口(14.0)・高4.0・底 (7.4)	中・並・灰黄・並・黒色粒子・白色 微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00385 117	須恵器 小型甕	甕内 破片	口(12.0)・頸(11.2) ・胴(12.5)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 外面は斜位から縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00386 118	須恵器 甕	床直層 破片	口(18.0) 頸(16.6)	酸・硬・浅黄橙・透明鉾物粒子・黒 色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00387	須恵器 甕	床直層 破片	口(18.2) 頸(16.2)	酸・硬・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削り」を施す。	秋間産
10-00388 118	須恵器 甕	床直層 破片	口(21.0) 頸(17.0)	酸・硬・浅黄橙・透明鉾物粒子・黒 色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00389 118	須恵器 甕	床面直上 破片	口(19.6)・頸(17.8) ・胴(20.2)	酸・並・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 肩部より下位に篋削りを施す。	秋間産
10-00390 118	須恵器 甕	覆土内 破片	口(20.0)・頸(17.3) ・胴(20.8)	酸・並・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 肩部より下位に篋削り(篋撫)を施す。	秋間産
10-00391 118	須恵器 甕	床直層 破片	口(20.0) 頸(17.8)	酸・並・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00392 118	須恵器 甕	床面直上 破片	口(20.0) 頸(18.2)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子	胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く外反す る。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00393	土師器 甕	甕内 部分欠損	口18.3・胴20.8・底 4.0	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。器厚は厚い。外面は篋削りを施 し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00394 118	須恵器 大甕	床直層 破片	厚1.4	還・軟・白灰・並・夾雑物微	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具は素 文。並行叩きは浅く表面が撫で(?)られている。	秋間産
10-00395 118	須恵器 甕	甕内 2/3残	口19.2・頸17.2・胴 20.6	酸・並・浅黄橙・白色粒子・透明鉾 物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 肩部より下位に篋削りを施す。	秋間産 秋間産
10-00396 118	須恵器 甕	床直層 破片	底6.8	酸・並・灰黄褐・黒色鉾物粒子	器厚は薄い。底部は丸味を帯び立ち上がる。内面は 轆轤成整形右回転の整形痕。外面は優位の篋削り。	秋間産 秋間産
10-00397 118	須恵器 甕	覆土内 破片	底(6.2)	酸・並・灰黄褐・並透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	外面は縦位の篋削りを施す。内面には轆轤成整形 が残る(右回転)。	秋間産 秋間産
10-00398	須恵器 甕	覆土内 破片	底(7.0)	還・軟・黒灰・並・透明鉾物粒子・ 白色微粒子・黒色鉾物粒子	底部は直線的に立ち上がり、胴部は丸味を帯びて 立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00399 118	須恵器 小型甕か	覆土内 破片	底6.4	酸・並・鈍橙・並・夾雑物微	外面は斜位の篋削りを施す。内面には轆轤成整形 が残る(右回転)。	秋間産
10-00400 118	須恵器 甕	掘方内 破片	口(20.4) 頸(18.5)	酸・並・浅黄橙・並・赤褐色粒子・ 黒色鉾物粒子	口唇部は肥厚する。口縁部は短く外傾する。外面 は縦位の篋削りを施す。轆轤右回転成整形。	秋間産
10-00401 118	須恵器 甕	掘方内 破片	口(22.0)	酸・並・浅黄橙・並・赤褐色粒子・ 黒色鉾物粒子	口唇部は肥厚する。口縁部は短く外傾する。外面 は縦位の篋削りを施す。轆轤右回転成整形。	秋間産
10-00402 118	須恵器 甕	掘方内 破片	口(22.0)	酸・並・浅黄橙・並・白色鉾物粒子・ 角粒粗砂。	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00403	須恵器 甕	甕内 1/3残	口(21.0)・胴(18.0) ・底3.8	酸・並・灰黄褐・粗・凝灰岩片・粗 砂粒	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削り」を施す。	秋間産
10-00404 118	須恵器 甕	甕内 1/2残	口(13.8)・高4.8・底 6.8	還・軟・灰白・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00405 118	須恵器 甕	覆土内 1/2残	口(14.1)・高5.2・底 (6.3)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00406 118	須恵器 甕	床直層 1/3残	口(15.1)・高5.0・底 5.7	還・並・灰・並・白色粒子・黒色鉾 物粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に 立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00407 118	須恵器 甕	覆土内 破片	口(17.3)・高(8.1)・ 底7.1	酸・硬・鈍黄・並・赤褐色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00408 118	須恵器 甕	覆土内 口縁欠損	底7.2	還・軟・灰・並・黒色粒子・透明鉾 物粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、 付高台。	秋間産
10-00409 118	瓦 男瓦	床直層 破片	厚2.1	還・並・灰・並・夾雑物微	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側部面取り3回。	秋間産
10-00410 118	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.3	還・締・暗灰・並・シルト粗粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側部面取り3回	秋間産
10-00411 119	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.5	還・締・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面 に凸面離砂。	秋間産
40-00040	鉄器 不詳	床直層 破片	残存長10.5・幅0.5~ 0.7・重25.1g		錆化が顕著。断面は正方形に近い。棒状を呈して いるが、莖・釘等の判別はし難い。	
40-00041	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.5・幅0.5・ 重4.7g		錆化が顕著。断面は正方形に近い。棒状を呈して いるが、莖・釘等の判別はし難い。	
20-00042 119	礫器 擦石	床直層 完形	長15.2・幅6.0・厚4.7 ・重692g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められ、小口と一角に集 中打痕が認められる。	
20-00043 119	礫器	床直層 完形	長18.0・幅8.0・厚6.6 ・重1,532g	粗粒輝石安山岩	両小口と一方側縁に集中打痕が認められる。	
20-00044 119	礫器 擦石	覆土内 完形	長11.4・幅9.9・厚4.4 ・重752g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。縁部に集中 打痕が認められる。	
20-00045 119	礫器	床面直上 完形	残存長21.6・幅12.11 厚7.2・重2,499g	粗粒輝石安山岩	縁部に剝離が多く、平坦面にも剝離が及んでいる。	
20-00046 119	礫器	甕内 完形	長18.0・幅15.6・厚 6.1・重2,748g	粗粒輝石安山岩	小口に強打による剝離認められる。その他には特 徴的な使用痕等は認められない。	
20-00047 119	礫器	床直層 完形	長20.7・幅15.4・厚 7.6・重3,248g	粗粒輝石安山岩	小口の一部に集中打痕が認められ、平坦面にも集 中打痕が認められる。	

第18居号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00412 119	須恵器 坏	甕内 完形	口13.5・高3.8・底7.2	還・締・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00413 119	須恵器 坏	掘方内 1/3残	口(14.0)・高3.5・底 7.0	還元・硬・灰白・並・黒色粒子・シル ト粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00414 119	須恵器 坏	床直層 1/3残	口(14.6)・高3.9・底 (7.0)	酸・硬・鈍黄橙・並・赤褐色粒子透 明鈹物粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00415 119	須恵器 坏	竈内 2/3残	口14.8・高4.1・底7.8	還元・硬・外・黒灰・内・灰白・並・黒 色粒子(器外面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00416 119	須恵器 塊	掘方内 部分欠損	口(15.8)・高5.2・底 (8.2)	還元・並・灰黄・並・赤褐色粒子・シル ト粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 緩く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00417	土師器 甕	竈内 破片	口(18.0)・頸(15.9) ・胴(19.8)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。外面は篋削りを施 し、内面は篋撫で整形。古い整形痕が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00418 119	土師器 甕	竈内 破片	口(18.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00419 119	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.0)	酸・並・鈍赤褐・透明鈹物粒子・黒 色鈹物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕を残す。 外面は篋削りを施す。棒状寛で「コ」の字を表出。	吉井・藤 岡産
40-00042	鉄器 刀子	床面直上 破片	残存長5.4・幅1.4・ 重11.1g		錆化が顕著。茎端側を欠損し切先を欠損する。全 体に研削りが顕著。両側造り。	
10-00420 120	土師器 甕	竈内 部分欠損	口18.5・頸13.3・胴 21.6・底3.6	酸・並・鈍黄橙・並・透明鈹物粒子・ 赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00421 120	土師器 甕	竈内 完形	口19.5・頸17.9・胴 21.6・底4.0	酸・並・並・透明鈹物粒子・白色微 粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の器膚を残す。 外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産

第19居号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00422 120	土師器 甕	竈内 1/3残	口(14.0)・頸(13.6) ・胴(14.4)	酸・並・鈍橙・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子・白色粒子	異形「コ」の字状口縁。「ナセ肩」の肩部。外面頸部 直下は横位、以下斜位から縦位の篋削りを施す。	吉井・藤 岡産か
10-00423 120	土師器 甕	竈内 1/3残	口(17.8)・頸(13.8) ・胴(19.8)	酸・並・鈍褐・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	特殊な「コ」の字状口縁。頸部が短く、「ナセ肩」 の肩部。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00424 120	土師器 甕	竈覆土内 破片	口(20.0) 頸(17.6)	酸・並・鈍赤褐・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00425 120	須恵器 甕	竈内 破片	口(18.0) 頸(16.0)	酸・軟・鈍黄橙・並・白色微粒子・ 透明鈹物粒子	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-00426 120	須恵器 甕	竈内 破片	口(18.0)・頸(16.8) ・胴(20.0)	酸・並・鈍橙・並透明鈹物粒子・黒 色鈹物粒子	擬似「コ」の字状口縁。紐作り後轆轤整形(右回転)。 肩部の下位は縦位の篋削りを施す。内面は篋撫で。	秋間産 秋間産
10-00427 120	須恵器 甕	竈内 破片	口(20.0) 頸(17.6)	酸・硬・浅黄橙・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	擬似「コ」の字状口縁。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の篋削りを施す。	秋間産 秋間産
10-00428	須恵器 甕	竈内 破片	口(21.0)・頸(19.0) ・胴(23.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鈹物粒子・ 赤褐色粒子	擬似「コ」の字状口縁。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の篋削りを施す。内面は篋撫で。	秋間産 秋間産
10-00429	須恵器 甕	竈内 破片	口(21.5)・頸(19.2) ・胴(22.2)	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・赤 褐色粒子	擬似「コ」の字状口縁。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の篋削り。内面は篋撫で。	秋間産 秋間産
10-00430 120	須恵器 坏	竈内 部分欠損	口13.9・高3.9・底6.8	還元・並・灰白・並・シルト粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口縁部はやや外反す る。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00431 120	須恵器 皿	竈左袖横 部分欠損	口13.6・高2.4・底7.0	還元・硬・黒灰・並・白色鈹物粒子・ 白色粒子(黒色燻し焼成)	体・口縁部は外反して立ち上がる。轆轤右回転成 整形、付高台。	秋間産
10-00432	須恵器 甕	竈内 1/3残	口(22.0)・高30.5・ 底(3.6)	酸・並・黄橙・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	擬似「コ」の字状口縁。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の篋削りを施す。内面は篋撫で。	秋間産
10-00433 121	須恵器 瓶	P ₁ 内中層 破片	胴最(14.6)	酸・並・浅黄橙・並・黒色鈹物粒子・ 透明鈹物粒子	器厚は薄い。直線的な外形で、篋に依る整形は行 われていない。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00434 121	施釉陶器 灰釉段皿	床面直上 ほぼ完形	口17.8・高3.4・底7.8	還元・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
10-00435 120	瓦 女瓦	竈内 1/4残	厚1.6	酸・並・橙・並・夾雑物微	一枚作り。凸面は離砂、単軸絡糸体の縄叩き施文。 凹面布合わせ目。側部は篋撫で3回仕上げ。	秋間産
40-00043	鉄器 刀子	床直層 破片	残存長5.0・身幅1.5 ・重19.0g		錆化が顕著。刀子の破片。刀身・茎の大半を欠損 する。	
40-00044	鉄器 不詳	床面直上 破片	残存長9.6・幅0.6・ 厚0.3・重12.1g		錆化が顕著。棒状の一端が茎状に先細りになる。 器種不分明。	
20-00048 121	石製品 転用石錘	覆土内 完形	長6.4・幅2.7・厚3.2 ・重60g	砥沢石	砥石の転用品。縦横に逆T字状に孔を穿つ。孔は 糸通しの穴と考えられる。	
20-00049	礫器 擦石	床直層 完形	長4.8・幅4.1・厚3.8 ・重85g	粗粒輝石安山岩	顕著な磨滅・打痕等は認められない。	
20-00050 121	礫器 擦石	床面直上 破片	残存長8.7・残存幅 9.8・重587g	粗粒輝石安山岩	表表面の平坦面に磨滅が認められる。	

第20居号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00436 121	須恵器 塊	覆土内 完形	口12.6・高4.9・底6.5	還元・軟・灰白・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	体・口縁部は丸味をやや帯び立ち上がる。轆轤右 回転成整形、付高台。	秋間産
10-00437 121	須恵器 塊	床直層 2/3残	口12.8・高5.1・底6.0	中・並・灰黄・並・黒色鈹物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転 成整形、付高台。	秋間産か
10-00438 121	須恵器 塊か	床直層 破片	口(15.4)	酸・並・黄橙・並・黒色鈹物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。	藤岡産か 墨書-6
10-00439 121	須恵器 羽釜	竈内 破片	口(16.4) 鏝(19.5)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は轆轤目が顕著。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00440 121	須恵器 羽釜	竈内 破片	口(20.0) 頸(22.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。頸は貼付け。	秋間産
10-00441 121	瓦 女瓦	床面直上 破片	厚2.3	酸・軟・黄橙・砂質・白色微粒子・	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側面 面取り4回。	秋間産

第21居号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-00442 121	土師器 甕	P ₁ 内中層 破片	口(19.5) 頸(18.0)	酸・硬・鈍褐・密・透明鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の指頭痕を残す。 外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	不詳(非 吉・藤 岡産)
10-00443 121	須恵器 坏	床直層 破片	口(13.0)・高3.5・底 (7.0)	中・軟・灰黄・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、底部は回転糸切り。内面に墨書。	墨書-7 秋間産
10-00444 121	須恵器 坏	床直層 破片	口(12.4)	還・硬・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 外面に墨書。	墨書-8 秋間産
10-00445 121	須恵器 皿	覆土内 2/3残	口16.2・高3.5・底7.4	還・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
20-00051 121	石製品 紡錘車	床面直上 部分欠損	上径4.9・下径3.1・ 厚1.7・重40g	蛇紋岩	部分的な欠損がある。孔径0.8~0.9cm。肩は緩や かで下側の稜も弱い。	

第22居号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-00446 121	土師器 台付甕	床直層 破片	口(13.4)・頸(11.6) ・基(5.0)・底(10.4)	酸・並・鈍褐・並・透明鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がり成形時の器 膚を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整 形。基部の成整形は轆轤成整形を思わす。基部接 合部は横撫で仕上げ。	吉井・藤 岡産
10-00447 121	須恵器 坏	床直層竈 内2/3残	口13.2・高3.9・底7.1	還・並・灰・並・黒色粒子・透明鉾 物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00448 121	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	口13.5・高3.6・底7.5	還・硬・灰白・並・黒色粒子・白色 微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00449 122	須恵器 坏	床直層覆 土1/2残	口15.9・高6.0・底8.6	還・硬・灰白・並・夾雑物微(薄い灰 釉状の自然釉付着)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00450 121	須恵器 境	竈内 破片	口(16.2)・高5.2・底 (7.8)	還・並・灰白・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00451 122	須恵器 境か	床直層 破片	口(16.9)	還・硬・白灰・並・黒色粒子・透明 鉾物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。	秋間産
10-00452 122	須恵器 皿	覆土内 部分欠損	口14.3・高2.3・底6.9	還・硬・灰・並・透明鉾物粒子	体・口縁部直線的に立ち上り、口縁部上端が外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00453 122	須恵 黒 色土器皿	床直層 2/3残	口14.1・高2.6・底7.2	還(黒色燻し焼成)・硬・黒灰・並・ 透明鉾物粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-00454 122	須恵器 耳皿	床直層 破片	底(6.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00455 122	須恵器 内黒 境	P ₁ 内 破片	口(15.2)	酸・硬・橙・並・透明鉾物粒子・赤 褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びて口唇部まで立ち上がる。 内面に研磨を施す。轆轤右回転成整形。	産不詳
10-00456 122	須恵器 内黒 境	竈内 破片	坏底(8.0)	酸・硬・橙・並・透明鉾物粒子・赤 褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。内面に研 磨を施す。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	
10-00457 122	須恵器 甕	竈内 破片	口(19.8) 頸(17.4)	酸・並・鈍褐・粗・赤褐色粒子	口縁部は外傾。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部 より下位は、縦位の篋削りを施す。内面に補修痕。	秋間産 秋間産
10-00458 122	須恵器 甕	覆土内 1/4残	口18.0・頸15.8・胴 (19.6)	酸・並・鈍黄・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部 より下位は、縦位の篋削りを施す。内面に補修痕。	秋間産 秋間産
10-00459 122	須恵器 甕	竈内 破片	口(18.0)・頸(17.2) ・胴(23.2)	酸・並・鈍黄・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部 より下位は、縦位の篋削りを施す。内面に補修痕。	秋間産 秋間産
10-00460	須恵器 甕	竈 覆土 内破片	口(19.2)・頸(17.6) ・胴(22.6)	酸・並・鈍褐・並・透明鉾物粒子・ 赤褐色粒子	口縁部は外傾。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部 より下位は、縦位の篋削りを施す。内面に補修痕。	秋間産 秋間産
10-00461 122	須恵器 甕	竈内 破片	口(22.6)・頸(20.1) ・胴(22.6)	酸・並・黄橙・並・夾雑物微(細粒の 土器片を含む。シャモットか)	口縁部は外傾。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部 より下位は、縦位の篋削りを施す。内面に補修痕。	秋間産 秋間産
10-00462	須恵器 甕	覆土内 破片	口(22.4) 頸(20.8)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は短く外傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。胴部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産 秋間産
10-00463	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	口(12.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00464 122	施釉陶器 灰釉 皿	床直層 破片	口(15.4)・高2.8・底 (8.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗りか。	東海産
10-00465	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(15.4)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00466 122・158	施釉陶器 灰釉 皿	掘方内 1/3残	口(19.2)・高3.3・底 (9.2)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産 墨書-9
10-00467	施釉陶器 灰釉耳皿	覆土内 破片	底(4.6)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00468	施釉陶器 灰釉 瓶	床直層 破片	胴(17.6) 底(8.2)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00469 122	須恵器 羽釜	床直層 破片	口(22.4) 頸(27.0)	酸・並・鈍黄橙・並・夾雑物微	頸より上位は(胴上半部)直立する。頸は長い。胴部は縦 横で刷毛撫でを施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00470	須恵器 広口瓶	竈内 破片	口(27.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	「く」の字状に外反する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。	秋間産
10-00471	須恵器 大甕	覆土内 破片	口(29.0)	還・締・灰白・並・黒色粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。器厚は比較的薄い。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00472	須恵器大甕	甕内破片	厚1.5	還・締・灰・並・高温石英・夾雑物微	5本1単位の波状文を2段確認できる。10-00475と同一個体か。	秋間産
10-00473	須恵器大甕	覆土内破片	厚1.2	還・並・暗灰・並・白色鉾物粒子・白色微粒子	「く」の字状に外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。10-00474と同一個体か。	秋間産
10-00474	須恵器大甕	覆土内破片	厚1.2	還・並・暗灰・並・白色鉾物粒子・白色微粒子	「く」の字状に外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。10-00473と同一個体か。	秋間産
10-00475	須恵器大甕	甕内破片	厚1.5	還・締・灰・並・高温石英・夾雑物微	5本1単位の波状文を2段確認できる。10-00472と同一個体か。	秋間産
10-00476	須恵器大甕	甕 覆土内破片	胴最(48.9)厚0.8~0.9	還・締・灰・並・黒色細粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具は素文。	秋間産
10-00477 } 10-00479	須恵器大甕	甕 床直層破片	厚1.5	還・締・灰・並・白色粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具は青海波文。	秋間産
10-00480	須恵器大甕	P ₁ 内破片	厚1.3	還・硬・灰・並・高温石英・黒色粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具は素文。その後、内面は横撫で調整を施す。	秋間産

第23居号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00481	土師器 坏	甕内破片	口(18.0)	酸・硬・橙・密・微粒雲母乃至微粒長石	底部は篋削りを施す。体・口縁部は横撫でを施す。型作り成型。	搬入品 畿内か
10-00482 122	土師器 台付甕	床直層破片	口(13.0)・頸(11.2)・胴(15.2)	酸・並・黄橙・並・透明鉾物粒子・黒色鉾物粒子・白色微粒子	口縁部は外反する。頸部直下から篋削りを施し、内面は横撫でを施す。	吉井・藤岡産
10-00483 122	土師器 甕	甕内下半欠損	口19.6・頸17.1・胴20.2	酸・並・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・透明鉾物粒子	「く」の字状口縁。口縁内面に成形時の粘土の接合痕を残す。外面は篋削りを施し、内面は横撫で整形。	吉井・藤岡産
10-00484	土師器 甕	甕内破片	口(20.0)・胴(22.0)・底(4.4)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子	口縁部は外反する。頸部直下から篋削りを施し、内面は横撫でを施す。	吉井・藤岡産
10-00485 112	土師器 甕	甕内1/2残	口(21.2)・頸(19.0)・胴(29.4)	酸・並・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母・(藤岡畑土)	口縁部は肥厚して外反する。外面は頸部直下から篋削りを施し、内面は横撫でを施す。	吉井・藤岡産
10-00486 122	須恵器 坏	覆土内1/2残	口(11.5)・高4.3・底6.6	還・締・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00487 123	須恵器 坏	覆土内部分欠損	口11.5・高4.1・底6.2	還・締・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00488 123	須恵器 坏	覆土内部分欠損	口11.6・高4.3・底7.6	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00489 123	須恵器 坏	床面直上完形	口11.7・高4.1・底6.3	還・締・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00490 123	須恵器 坏	床直層完形	口11.7・高4.8・底6.9	還・締・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00491 123	須恵器 坏	床直層3/4残	口12.0・高3.6・底7.1	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00492 123	須恵器 坏	床直層部分欠損	口12.2・高4.5・底6.6	還・締・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00493 123	須恵器 坏	床直層部分欠損	口11.0・高4.0・底7.1	還・締・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。体部の器厚はやや厚い。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00494 123	須恵器 坏	床面直上完形	口12.0・高3.7・底7.0	還・締・灰・密・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00495 123	須恵器 坏	床面直上部分欠損	口12.0・高3.5・底6.3	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00496 123	須恵器 坏	床直層1/4残	口(12.0)・高3.2・底(6.8)	還・硬・灰・密・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。体部の器厚はやや厚い。轆轤右回転成型、底部は回転突起こし。	秋間産
10-00497 123	須恵器 塊	床直層1/2残	口(10.5)・高5.7・底6.0	還・硬・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型、付高台。	秋間産
10-00498 123	須恵器 塊	床直層破片	口(15.8)・高8.2・底(9.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型、付高台。	秋間産
10-00499 123	須恵器 蓋	掘方内1/4残	端(12.6)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒子	天井部の器厚は厚いが、口縁の器厚は薄い。端部は折り返し。	秋間産
10-00500 123	須恵器 蓋	床直層部分欠損	摘4.1・高4.1・端16.8	還・硬・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	摘部は環状。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成型(右回転)。	秋間産
10-00501 123	須恵器 蓋か皿	床面直上部分欠損	摘10.3・高3.5・端18.7	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒子	摘部は環状。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成型(右回転)。乃至は皿か。	秋間産
10-00502 123	須恵器 高坏	覆土内破片	基部径5.3	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒子・赤褐色粒子	轆轤整形右回転。脚部に絞りの皺が認められる。	秋間産
10-00503	須恵器 大甕	覆土内破片	厚1.2 推定径(58.0)	還・並・外-黒灰・内-灰白・並・白色粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。5本1単位の波状文は2段に施す。	秋間産
10-00504	土製品 紡錘車	床直層完形	長4.2・幅1.8・孔0.4・重11g	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・黒色鉾物粒子	均整の取れた紡錘状を呈する。	秋間産
20-0052 123	礫器 擦石	床直層破片	残存長8.4・残存幅10.0・重342g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-0053 123	礫器 擦石	床直層完形	長13.8・幅12.1・厚4.2・重1,265g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。	
20-0054 123	礫器 擦石	床直層完形	長15.1・幅11.6・厚5.6・重1,502g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。	
20-0055 123	礫器 擦石	床直層完形	長22.7・幅7.0・厚7.0・重1,595g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-0056 124	礫器	床直層完形	長18.8・幅11.8・厚7.0・重2,399g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減は認められないが、被熱によると思われる亀裂が認められる。	

第24居号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00505 123	土師器 坏	覆土内 破片	□(11.2)・高3.7・底 (8.6)	酸・並・鈍橙・並・微粒雲母	型作り成型後底部は寛削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。	吉井・藤 岡産
10-00506 123	土師器 坏	P ₁ 内 底部欠損	□12.2・高(3.3)・底 9.8	酸・並・鈍褐・並・黒色鉱物粒子	型作り成型後底部は寛削り、内面・口縁部は横撫 で整形。体部に型膚を残す。	吉井・藤 岡産
10-00507 123	須恵器 坏	竈内 1/2残	□(11.3)・高4.4・底 (7.2)	還・締・灰白・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00508 123	須恵器 坏	P ₁ 中層 完形	□11.3・高3.5・底7.0	還・締・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00509 123	須恵器 坏	竈内 完形	□11.8・高3.6・底6.3	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	器厚は薄い。腰部は丸いが、体・口縁部は直線的。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00510 124	須恵器 黒色土器	覆土内 口縁欠損	坏底6.2・底6.8	還・軟・黒灰・並・夾雑物微(器内外 面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転 成整形、付高台。	秋間産
10-00511 124	須恵器 小瓶	床面直上 上半欠損	底6.2	還・締・灰・並・黒色粒子	緩やかな丸味を帯び立ち上がる。底部・体部は回 転寛削りを施す。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00512 124	須恵器 蓋	竈内 1/4残	摘3.6・高4.7・端 (17.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	摘部は環状。端部は折り返し、天井部は轆轤回転 寛削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00513 5 10-00515	須恵器 円面硯	覆土内 破片	脚端径(16.0) 推定高(8.8)	還・硬・灰・並・夾雑物微(精製土)	轆轤成整形右回転。四方に十字状の透かしを配置 し、透かし間に縦位の条線を施す。	秋間産
10-00516	須恵器 円面硯	覆土内 破片	厚0.3	還・硬・灰・並・黒色粒子	脚部片。轆轤右回転成整形。24住10-00372と同一 個体。	秋間産

第25号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00517 124	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	底部片。見込みに落葉樹の葉の圧痕が認められる。 底面は寛削り。	吉井・藤 岡産
10-00518 124	須恵器 鉢	P ₁ 内 破片	□(13.0)	還・並・白灰・並・夾雑物微	口縁部は短く外傾する。器厚は薄い。轆轤成整形 右回転。	秋間産
10-00519 124	須恵器 甕	竈内 破片	□(17.0)・頸(15.5) ・胴(18.8)	還・硬・灰黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	器厚は厚い。胴部は球形を呈する。口縁部は外傾 する。外面は縦位の寛削り、内面は横位の寛撫で。	秋間産
10-00520	土師器 甕	竈内 破片	□(16.8) 頸(15.8)	酸・並・鈍赤褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。器厚は厚い。外面は寛削りを施 し、内面は寛撫で整形。10-00521と同一個体か。	吉井・藤 岡産
10-00521	土師器 甕	床面直上 破片	□(18.0) 頸(17.1)	酸・並・鈍赤褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。器厚は厚い。外面は寛削りを施 し、内面は寛撫で整形。10-00520と同一個体か。	吉井・藤 岡産
10-00522	須恵器 甕	竈内 破片	□(19.0)・頸(18.0) ・胴(20.2)	中・硬・灰黄・並・透明鉱物粒子	器厚は厚い。擬似「コ」の字状口縁。外面は縦位の 寛削り、内面は横位の寛撫で。	秋間産
10-00523 124	須恵器 甕	竈内 破片	□(19.0) 頸(17.6)	中・軟・灰黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	口縁部は外傾する。胴部は球形状か。紐作り後轆 轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00524 124	須恵器 坏	床直層 1/2残	□(13.6)・高3.3・底 5.2	還・軟・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-10
10-00525	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	厚0.4	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00526	灰釉陶器 輪花皿	覆土内 破片	□(15.3)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗りか。	東海産
10-00527	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	底(8.4)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗りか。	東海産
10-00528 124	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.3	還・軟・灰・粗・白色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面 に粘土板割ぎ取り痕。側面取り4回。	秋間産

第26号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00529 124	土師器 坏	床直層 2/3残	□14.4・高4.2・底9.0	酸・並・橙・並・透明鉱物粒子	型作り成型後底部・体部は寛削り、内面・口縁部 は横撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	吉井・藤 岡産
10-00530 124	土師器 甕	覆土内 破片	□(18.2) 頸(15.8)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は「コ」の字状に似た断面を呈する。外面は 寛削り、内面は寛撫でを施す。	吉井・藤 岡産
10-00531 124	土師器 坏	覆土内 破片	□(13.3)・高2.5・底 (10.4)	酸・並・鈍褐・並透明鉱物粒子	底部の丸みが少なく、平底に近い。体・口縁部は 撫で整形。底部は寛削り。	吉井・藤 岡産
10-00532 124	須恵器 坏	覆土内 1/4残	□(12.9)・高3.7・底 (7.0)	還・軟・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00533 124	須恵器 坏	覆土内 1/2残	□(12.6)・高2.9・底 (8.4)	還・締・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	腰部は薄く丸味を帯び、体・口縁部直線的に立ち 上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00534 124	須恵器 坏	覆土内 1/2残	□(13.1)・高3.7・底 6.2	還・並・白灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00535 124	須恵器 蓋	覆土内 1/3残	摘1.6・高2.3・端 (11.2)	還・並・灰・並・夾雑物微	端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削りを施す。 轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00536 124	須恵器 蓋	覆土内 1/4残	摘3.5・高2.9・端 (13.2)	還・硬・灰白・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	環状摘。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削 りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00537 124・158	須恵器 蓋	覆土内 1/4残	摘(3.8)・高4.1・端 (15.8)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	環状摘。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削 りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産 墨書-11

第6章 中里見原遺跡

10-00538 124	須恵器 蓋	覆土内 1/3残	摘(3.4)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	環状摘。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削 りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00539 124	須恵器 盤	覆土内 破片	口(19.8)	還・硬・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00540	須恵器 鉢	床直層 破片	口(38.6)	還・締・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	口縁部は短いが強く外反して開く。紐作り後轆轤 成整形(右回転)。	秋間産
20-00057 124	礫器 叩き石	床直層 完形	長16.9・幅6.9・厚7.9 ・重1,204g	粗粒輝石安山岩	部分的に打痕が認められる。磨減等の使用痕は認 められない。	

第27号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00541 125	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.6) 頸(18.2)	酸・並・鈍褐・並・透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は寛削りを施し、内面は寛撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00542 124	須恵器 環	覆土内 1/2残	口(13.0)・高2.9・底 (8.0)	還・締・灰・並・黒色粒子・シルト 粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り	秋間産
10-00543 124	須恵器 環	床直層 1/2残	口(13.8)・高3.2・底 (6.7)	還・硬・灰・並・黒色鉱物粒子・シル ト粒子	体・口縁部は薄く丸味を帯びて立ち上がる。轆轤 右回転成整形、底部は回転糸切り。焼成の歪顯著。	秋間産
10-00544 124	須恵器 環	床直層 1/4残	口(12.8)・高3.6・底 (7.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00545 125	須恵器 環	床直層 3/4残	口13.0・高3.4・底7.6	還・硬・灰・並・黒色粒子・シルト 粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的。口唇部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り	秋間産
10-00546 125・158	須恵器 塊	覆土下層 1/3残	口(16.0)・高6.1・底 (8.2)	還・軟・白灰・並・シルト粗粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産 墨書-12
10-00547 125	須恵器 甕	覆土内 1/3残	口(14.8)・高5.3・底 (6.5)	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は緩やかに「」外反して立 ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00548 125	須恵器 塊	床直層 破片	口(15.0)頸(12.8)胴 22.2	還・硬・灰・並・夾雑物微	胴部は丸味を強く帯び、口縁部は短く外反。口唇部は平 ら。紐作り後轆轤成整形(右回転)。有機質が付着する。	秋間産
10-00549 125	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(16.4)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00550 125	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底(7.2)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
10-00551	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	口(9.8)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00552 125	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.8	酸・並・橙・並・赤褐色粒子・シル ト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面 に模骨痕。	秋間産
10-00553 125	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.6	酸・並・橙・並・赤褐色粒子・シル ト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。	秋間産
20-00058 125	礫器 擦石	覆土内 1/2残か	残存長9.9・幅10.6・ 厚6.6・重1,003g	粗粒輝石安山岩	先端側に集中打痕が認められる。	

第40号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00554 125	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.2)・頸(16.5) ・胴(21.0)	酸・並・橙・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子・赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は寛削りを施し、内面は寛撫で整形。	秋間近郊 か
20-00059 125	礫器 擦石	床直層 完形	長18.4・幅13.7・厚 6.4・重2,384g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。	

第29号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00555 125	須恵器 塊	床面直上 高台欠損	口13.0 坏底5.7	中・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00556 125	須恵器 塊	P 2 下層 2/3残	口(12.8)・高4.4・底 6.4	還・並・灰白・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。口縁上半部は やや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00557 125	須恵器 環か	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・浅黄・並・シルト粗粒子	轆轤成整形右回転。	産不詳 墨書-13
10-00558	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.4	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海系
10-00559 125	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.8	還・硬・灰・並・シルト粗粒子・赤 褐色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面 粘土板剥ぎ取り痕。	秋間産
20-00060 125	礫器 擦石	床直層 完形	長11.8・幅9.3・厚4.0 ・重695g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨減が認められる。縁辺に吸炭 が認められる。	

第30号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00560	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.6) 頸(16.8)	酸・硬・鈍褐・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。外面は寛削りを施 し、内面は寛撫で整形。	非吉井・ 藤岡産
10-00561 125	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.6)	還・並・黒灰・並・シルト粒子・白 色微粒子(黒色燻し焼成)	轆轤成整形右回転。	秋間産か

第2節 発見された遺構・遺物

10-00562 125	須恵器 黒色土器 坏	甕内 破片	□(16.2)	還・並・黒灰・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	轆轤成整形右回転。	秋間産か
20-00061 125	礫器 擦石	覆土内 完形	長11.0・幅8.2・厚5.1 ・重617g	粗粒輝石安山岩	片側の小口部分に一撃による剝離が認められる。	

第31号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00563 125	須恵器 甕	覆土内 完形	□13.6・高5.1・底5.8	還・硬・灰白・並・白色微粒子・黒色 粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00564 125	須恵器 甕	床面直上 1/2残	□(15.0)・高4.8・底 7.0	中・並・鈍黄橙・並・黒色粒子・透 明鉾物粒子	体・口縁部は薄く丸味を帯び立ち上がり、口縁上 半部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00565 125	須恵器 甕	覆土内 1/3残	□(14.0) 坏底5.8	酸・軟・鈍黄橙・並・シルト粒子・ 透明鉾物粒子	体部は薄く丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00566 126	須恵器 甕	甕内 1/4残	□(16.4)・高7.1・底 (9.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00567	須恵器 不詳	覆土内 破片	底(12.0)	還・締・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。器種不分明。	秋間産
10-00568 126	須恵器 甕	覆土内 破片	□(17.6) 頸(16.2)	中・硬・鈍黄橙・並・夾雑物微	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の寛削りを施す。	秋間産
10-00569 126	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(16.8)・鏝(19.4) ・胴(18.5)	中・硬・浅黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子・シルト粒子	胴上半・口縁部は内湾。外面は寛削り。内面は轆 轤整形。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00570 126	須恵器 羽釜	覆土内 破片	□(17.6) 鏝(20.2)	還・並・灰・並・透明鉾物粒子・黒 色鉾物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は轆轤目が顕著。 紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼付け。	秋間産
10-00571	須恵器 羽釜	覆土内 1/3残	□(20.0) 鏝(24.0)	酸・並・橙・並・透明鉾物粒子・黒 色鉾物粒子	胴部は外傾し、口縁部は内湾乃至内湾する。胴部 外面は縦位の寛削り。内面は横位の寛削り。	秋間産
10-00572 126	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(21.0) 鏝(24.6)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	胴部は直立気味に立ち上がる。口縁部は内傾する。 外面は縦位の寛削り。内面は轆轤無で。	秋間産
10-00573 126	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(22.2)・鏝(25.8) ・胴(20.6)	酸・並・橙・並・透明鉾物粒子・黒 色鉾物粒子・白色粒子	胴部から口縁部は内湾する。胴部外面は縦位の寛 削り。内面は轆轤整形痕。浅い鍋形か。	秋間産
10-00574 126	須恵器 羽釜	覆土内 破片	□(24.0)・鏝(27.2) ・胴(25.2)	酸・並・橙・並・透明鉾物粒子・黒 色鉾物粒子・白色粒子	胴部から口縁部は内湾する。胴部外面は縦位の寛 削り。内面は轆轤整形痕。浅い鍋形か。	秋間産
10-00575 126	施釉陶器 灰釉 碗	床直層 破片	□(16.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海系
10-00576 126	施釉陶器 灰釉 碗	甕内 破片	底(7.8)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海系
10-00577	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	胴(19.6) 底(11.3)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海系
10-00578 126	瓦 男瓦	掘方内 破片	厚1.8	還・硬・灰・並・シルト粗粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 凹面布合わせ目。側面取り2回。	秋間産
10-00579 126	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.8	還・締・灰・並・シルト粗粒子・黒 色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側面 取り2回。凹面に自然軸附着。	秋間産
10-00580 126	瓦 女瓦	P 4内 破片	厚2.0	還・締・灰・並・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側面 は寛削りで仕上げ。	秋間産
20-00062 126	礫器 擦石	覆土内 完形	長10.0・幅9.0・厚4.3 ・重599g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。亀裂は被熱 によるか。	

第32号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00581 126	須恵器 坏	床面直上 完形	□10.3・高3.2・底5.4	中・軟・灰黄・並・黒色鉾物粒子・ 細砂	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00582 126	須恵器 坏	床直層 一部欠損	□10.7・高3.5・底5.6	中・軟・外・灰黄・内・黒茶・並・黒 色鉾物粒子・細砂(内面燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00583 126	須恵器 坏	覆土内 完形	□13.0・高4.0・底7.0	中・並・灰黄・並・透明鉾物粒子・ 赤褐色粒子(器内外面黒く燻る)	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、底部は回転糸切り	秋間産
10-00584 126	須恵器 坏	床直層 完形	□13.3・高3.8・底7.0	還・硬・灰白・並・黒色粒子・白色 鉾物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り	秋間産
10-00585 126・158	須恵器 坏	床直層 一部欠損	□12.9・高3.7・底7.0	酸・並・黄灰・並・微粒雲母・黒色 鉾物粒子・透明鉾物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り	藤岡産か 墨書-14
10-00586 126	須恵器 坏か	覆土内 1/3残	□(15.2)	中・並・鈍黄橙・並・白色鉾物粒子・ 赤褐色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00587 126	須恵器 甕	床直層 1/2残	□(10.6)・高5.0・底 6.6	酸・並・鈍橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	体部は直線的に立ち上がる。口唇部はやや外反す る。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か
10-00588 126	須恵器 甕	床直層 1/4残	□(14.0)・高5.5・底 (7.4)	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外 反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00589 127	須恵器 鉢	古甕焚口 1/4残	□(12.4)・高11.8・ 底5.9	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	轆轤水挽きか。口縁部は短く外反する。胴部に最大径 (13.0)がある。胴部は縦位、体部は横位の寛削り。	秋間産
10-00590	須恵器 甕	甕右袖 破片	□(19.4)・頸(17.6) ・胴(19.8)	酸・並・鈍橙・並・赤褐色粒子・シル ト粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の寛削りを施す。	秋間産
10-00591	須恵器 甕	甕内 1/4残	□(21.0)・頸(20.0) ・胴(21.6)	酸・並・外・鈍赤茶・内鈍黄橙・波透 明鉾物粒子・黒色鉾物粒子	口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形(右回転)。 外面は縦位の寛削りを施す。内面胴下半は寛削り無で。	秋間産
10-00592	須恵器 甕	床直層 破片	□(23.0) 頸(14.6)	還・締・灰白・並・白色微粒子・黒 色粒子	紐作り後(叩き成整形)轆轤(右回転)再整形。有機 質が付着する。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00593	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(14.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海系
10-00594	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	胴最(8.8)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海系
10-00595 127	瓦 男瓦	床直層 1/4残	厚1.7	還・締・灰・並・シルト粗粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯か)後轆轤整形。側面取り3回。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	秋間産
10-00596 127	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.3	酸・軟・橙・並・赤褐色粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩きの「T」字状施文。	秋間産
40-00045 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長13.4・刃元幅3.3	40-00045~00050は錆化により、溶着している。	研ぎの面が不分明。新身か。布を思わせる、錆化した繊維が付着している。	
40-00046 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長(11.3)・刃元幅3.3 ・総重量515g		研ぎ減りがある。	
40-00047 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長13.9・刃元幅3.3		研ぎ減り顕著で痩せ身。	
40-00048 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長12.0・刃元幅3.0		研ぎ減りがある。	
40-00049 127	鉄器 鎌	覆土下層 完形	長22.2・刃元幅4.5		研ぎの面が不分明。新身か。40-00052と接合する可能性がある。	
40-00050 127	鉄器 鎌	覆土下層 完形	長20.3+α・刃元幅4.5		研ぎ減りが不分明。刃閉が認められる。割れ口の状態から、40-00052に接合する可能性がある。	
40-00051 127	鉄器 鎌	覆土下層 破片	残存長12.5・刃元幅4.4		重ねが均一で薄い。裏面側に研ぎ減り状の稜線が見られる。	
40-00052 127	鉄器 鎌	覆土下層 破片	残存長10.8・幅4.5		柄側の上部には、「折りによる捲れ」が生じている。割れ口の状態から、00050に接合する可能性がある。	
40-00053 127	鉄器 鋤先	覆土下層 破片	残存長16.2・幅3.3		側部の破片。布の残片が認められる。	
40-00054	鉄滓 (流動滓)	覆土下層 破片	残存長3.2・幅2.3・重8.1g		錆化は認められない。	
40-00055	鉄器 不詳	覆土下層 破片	長2.5・幅1.7・重2.7g	錆化が顕著。鉄塊か。		
40-00056 127	鉄滓	覆土下層 破片	長4.2・幅3.2・重24.6g	錆化は認められない。		
40-00057	鉄塊	覆土下層 破片	長3.8・幅2.3・重29.0g	錆化が顕著。		
40-00058 128	鉄器 鋤先	覆土下層 完形	長20.9・幅19.2	40-00058・59は錆化により溶着している。	著しい錆化はない。40-00059より、先端は丸い。使用に伴う磨滅か。片耳の角が落ちている。	
40-00059 128	鉄器 鋤先	覆土下層 完形	長22.9・幅19.1・重820.0g		著しい錆化はない。先端側は比較的尖っている。顕著な使用がなかったと考えられる。	
40-00060	鉄器 不詳	覆土内 破片	長5.7・幅1.3~3.4・重33.9g		錆化が顕著。利器の関部分か。	
20-00063 128	礫器 擦石	竈内 完形	長15.2・幅6.1・厚5.4・重821g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。	

第33号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00597 127	須恵器 坏	覆土内 4/5残	口12.2・高53.7底6.1	酸・並・灰黄・並・白色粒子・凝灰岩片	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00598 127	須恵器 坏	竈内 1/2残	口(12.3)・高3.0・底(5.9)	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00599 128	須恵器 壺	覆土内 1/3残	口(13.6) 坏底(7.2)	酸・並・鈍褐・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	器厚はやや薄い。体部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00600 128	須恵器 坏	竈内 完形	口14.3・高5.6・底5.5	中・並・灰黄・並・黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00601 128	須恵器 壺	竈内 部分欠損	口13.2・高4.6・底8.3	酸・硬・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・凝灰岩片	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00602 128	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚2.2	還・並・灰・並・シルトが縞状	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。	秋間産
10-00603 128	須恵器 羽釜	竈内 破片	口(20.2)罅(24.7)胴(24.4)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は沈線状の轆轤目が顕著。紐作り後轆轤整形(右回転)。罅は貼付け。	秋間産
20-00064 128	礫器 擦石	覆土内 完形	長12.3・幅6.2・厚4.4 ・重500g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められ、両小口には集中打痕が認められる。	

第36号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00604 128	須恵器 坏	覆土内 完形	口12.8・高4.2・底7.1	還・並・灰・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00605 128	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(13.2)・高3.8・底6.6	還・並・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は短く外反する。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00606 128	須恵器 坏	床面直上 2/3残	口(13.7)・高3.8・底3.8	中・並・灰黄・並・黒色鉱物粒子・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00607 128	須恵器 坏	床面直上 完形	口14.0・高4.5・底7.3	還・並・灰白・並・白色粒子・透明鉱物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00608 128	須恵器 壺	床面直上 2/3残	口(13.5)・高5.7・底 (6.8)	還・並・灰白・並・白色粒子・黒色 鉍物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00609 128	須恵器 壺	床直 口 縁部欠	口14.6・高5.4・底6.7	還・軟・灰白・並・シルト粒子・黒 色鉍物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00610 129	須恵器 壺	床直層 1/2残	口(14.8)・高5.1・底 6.6	還・軟・灰・並・透明鉍物粒子・黒 色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00611 129	須恵器 壺	床面直上 一部欠損	口14.9・高6.3・底7.2	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00612 129	須恵器 甕	覆土内 破片	口(20.4)・頸(19.0) ・胴(21.0)	酸・並・鈍橙・並・シルト粒子・白 色粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00613 129	須恵器 甕	覆土内 破片	口(22.2)・頸(20.6) ・胴(22.7)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉍物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00614	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(13.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00615	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(15.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗りか。	東海産
10-00616	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 破片	厚0.5	還・軟・黄灰白・やや粗・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	洛北産
10-00617	須恵器 大甕	覆土内 破片	口(51.5)	還・軟・灰・並・黒色粒子・	紐作り後(叩き成整形)轆轤(右回転)再整形。口縁 部には5本一単位の波状文を2段に施文する。	秋間産
10-00618 129	瓦 男瓦	甕内 破片	厚1.4	還・硬・灰・並・白色微粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。側面取り2回。	秋間産
10-00619	土製品 土錘	覆土内 完形	長3.6・幅1.4・孔0.4	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉍物粒子	ズングリとした紡錘形。	不詳
40-00061 129	鉄器 釘	覆土内 破片	残存長4.3・幅0.4		頭部は潰れている。身も振れた状態。	

第43号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00620	須恵器 大甕	覆土内 破片	口(23.2) 頸(16.0)	還・締・灰・並・夾雑物微	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面に有機質が 付着する。32住10-00592と同一個体。	秋間産
10-00621	施釉陶器 灰釉 瓶	床直層 破片	底(8.2)	還・締・灰白・並・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産

第37号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00622 129	須恵器 壺	甕内 1/2残	口(12.7) 坏底6.4	中・硬・灰黄・並・黒色鉍物粒子・ 白色粒子・凝灰岩片	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、高台欠損(付高台)。	秋間産か
10-00623 129	須恵器 壺	覆土内 1/2残	口(13.0)・高5.2・底 (7.5)	中・並・灰黄・並・透明鉍物粒子・ 赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を強く帯びて立ち上がり、口唇 部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か
10-00624 129	須恵器 壺	甕内 完形	口13.2・高4.9・底6.7	還・並・鈍黄褐・並・透明鉍物粒子・ 凝灰岩片	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00625 129	須恵器 壺	甕内 1/2残	口13.8・高4.8・底7.2	酸・並・後・並・透明鉍物粒子・白 色粒子	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳 (秋間か)
10-00626 129・158	須恵器 壺	床面直上 2/3残	口13.0・高3.5・底7.0	酸・軟・鈍橙・並・砂質	腰部の丸味がかなり強い、口縁部は緩やかに外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。墨書2文字。	不詳 墨書-15
10-00627 129	須恵器 壺	床直層 一部欠損	口12.5・高4.2・底7.4	中・並・灰黄・並・微粒雲母・黒色 鉍物粒子	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	藤岡産か 墨書-16
10-00628 129	須恵器 甕	甕内 破片	口(20.8)・頸(25.2) ・胴(23.0)	還・並・灰白・並・黒色鉍物粒子・ 凝灰岩片	胴上半・口縁部は内湾する。外面縦位の篋削り。 紐作り後轆轤整形(右回転)。頸は貼付け。	秋間産
40-00062	鉄器 釘	覆土内 破片	残存長3.5・幅0.5・ 重9.5g		錆化が顕著。断面が三角形状を呈する。	

第38号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00629 129	土師器 坏	覆土内 部分欠損	口12.6・高3.1・底 10.0	酸・並・鈍褐・並・透明鉍物粒子	底部は篋削り、口縁部・内面は横撫で整形。体部 に型膚を残す。	吉井・藤 岡産
10-00630 129	土師器 壺か	甕内 1/3残	口(14.0)・頸(13.0) ・胴(16.8)	酸・並・鈍褐・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	胴部は扁平気味で篋削りを施す。口縁部は直立気 味に立ち上がり外反する。内面は横撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00631	土師器 甕	覆土内 破片	胴最(30.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	外面は基面の風化により整形痕が不明。内面には、 中位に上下接合帯が幅広く認められる。	吉井・藤 岡産
10-00632 129	土師器 甕	甕内 破片	底4.4	酸・並・鈍褐・透明鉍物粒子	器厚は薄い。外面は上位からの縦位篋削りを施す。 内面は掻き上げ状の篋撫で整形を施す。	吉井・藤 岡産
10-00633 129	須恵器 坏	覆土内 完形	口11.8・高4.2・底6.6	還・締・黒灰・並・白色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00634 129	須恵器 坏	甕・甕掘 方2/3残	口12.2・高4.2・底6.3	還・締・暗灰・並・黒色粒子	腰部は丸味が強く、体・口縁部は外反する。轆轤 右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00635 129	須恵器 壺	覆土内 口縁欠損	底8.8	還・締・暗灰・並・白色微粒子	腰部は丸味が強く立ち上がる。轆轤右回転成整形、 付高台。	秋間産
10-00636 129	須恵器 把手付壺	床直層 部分欠損	口10.3・高5.5・底6.4	還・締・灰・並・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00637 129	須恵器 蓋	竈内 2/3残	摘4.0・高4.0・端 (17.0)	還・並・灰白・並・黒色粒子・白色 粒子	摘部は環状。端部は折り返し、天井部は轆轤回転 篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
20-00065 130	礫器 擦石	覆土内 完形	長14.0・幅12.2・厚 3.8・重1,005g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。小口に打撃に よる剝離が認められる。	

第39号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00638 129	土師器 坏	竈内 1/4残	口(11.4)・高3.8・底 (5.0)	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子	体・口縁部は直線的。底部は離砂、口縁部・内面 は横篋撫で。体部に型膚。型は須恵器坏か。	不詳(秋 間産か)
10-00639 129	土師器 坏	床面直上 1/3残	口(11.8)・高4.0・底 (5.4)	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子	体・口縁部は直線的。底部は離砂、口縁部・内面 は横篋撫で。体部に型膚。型は須恵器坏か。	不詳(秋 間産か)
10-00640 130	土師器 坏	掘方内 1/4残	口(12.0)・高4.0・底 (5.8)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉍物粒子	体・口縁部は直線的。底部は離砂、口縁部・内面 は横篋撫で。体部に型膚。型は須恵器坏か。	不詳(秋 間産か)
10-00641 130	土師器 坏	掘方内 1/4残	口(10.6)・高3.5・底 (5.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉍物粒子	体・口縁部は直線的。底部は離砂、口縁部・内面 は横篋撫で。体部に型膚。型は須恵器坏か。	不詳(秋 間産か)
10-00642 130	須恵器 壺	竈内 3/4残	口(13.0)・高4.7・底 6.7	酸・並・浅黄橙(黒灰)・並・透明鉍 物粒子・黒色鉍物粒子	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。内面は黒 色燻し。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か
10-00643 130	須恵器 甕	竈内 破片	口(22.2) 頸(20.6)	酸・並・浅黄橙・並・夾雑物微	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、横位の篋削りを施す。	秋間産か
10-00644 130	須恵器 甕	竈内 破片	口(22.0) 頸(20.0)	酸・硬・浅黄橙・並・白色微粒子	「コ」の字状口縁。器厚は厚い。外面は篋削りを施 し、内面は篋撫で整形。	秋間産
10-00645 130	須恵器 羽釜	竈・覆土 破片	口(20.0)・鈔(22.2) ・胴(21.4)	酸・軟・鈍褐・並・高温石英	胴上半部・口縁部は内湾気味。内面は轆轤整形。 外面は鈔より下位は縦位の篋削り。	秋間産か
10-00646 130	須恵器 羽釜	竈内 破片	口(20.0) 鈔(23.6)	酸・軟・浅黄橙・並・高温石英・黒 色鉍物粒子	胴上半部・口縁部は内湾する。内面は轆轤整形。 外面は鈔より下位は縦位の篋削り。	秋間産か
10-00647 130	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底(5.4)	酸・軟・鈍黄・並・黒色鉍物粒子・ 赤褐色粒子	外面は縦位の篋削り、内面は横位の篋撫で整形。 底部は離砂が残る。	秋間産
10-00649 130	須恵器 甕	覆土内 破片	底(15.0)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉍物粒子・ 赤褐色粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は縦位の篋削り を施す。	秋間産
10-00648 130	施釉陶器 緑釉瓶	床直層 1/4残	口(14.3)・頸(13.8) ・胴(21.4)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産

第44号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00650 130	須恵器 坏	覆土内 1/4残	口(13.6)・高3.7・底 4.8	還・並・灰白・並・透明鉍物粒子・ シルト粒子	体・口縁部は薄く直線的に立ち上がる。口唇部は 肥厚する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00651 130	須恵器黒 色土器坏	覆土内 破片	底(5.2)	還・並・黒灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。見込み篋 描きが認められるが、文字とは思われない。	不詳
10-00652 130	須恵器 壺	竈・P ₁ 内 高台欠損	口14.7・坏底5.8	還・並・灰白・並・黒色鉍物粒子・ 白色粒子・凝灰岩片	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反す る。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か
10-00653 130	須恵器 羽釜	竈・覆土 内破片	口(18.8)・鈔(21.4) ・胴(21.0)	酸・並・浅黄・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	胴上半・口縁は内湾気味。内面は轆轤整形。外面 は鈔より下位は縦位の篋削り。轆轤(右回転)成整形。	秋間産か
10-00654 130	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	口(15.2)・高5.1・底 (7.0)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00655	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(11.2)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産
10-00656	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	厚0.3	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00657	施釉陶器 灰釉碗	竈内 破片	厚0.6	還・締・灰白・密・夾雑物微	瓶の把手部分。篋描き模様が施されている。	東海産
10-00658 130	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.4	酸・軟・黄橙・並・シルトが綿状に 入る。	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側面取り2回。	秋間産
10-00659 130	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.3	還・並・灰・並・シルト粗粒子・赤 褐色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。	秋間産
10-00660	土製品 土鍾	覆土内 完形	長3.0・幅1.4・孔径 0.35	酸・並・浅黄橙・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	上端側を欠損する。	

第45号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00661 130・158	須恵器 黒色土器坏	覆土内 部分欠損	口12.5・高3.5・底6.4	還・並・灰黄・並・黒色鉍物粒子・ 微粒雲母・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、底部は回転糸切り	藤岡産 墨書-17
10-00662 130	須恵器 壺	覆土内 1/3残	口(12.8)・高4.6・底 6.6	中・並・鈍黄橙・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	体部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、 付高台。	秋間産
10-00663 130	須恵器 甕	P ₁ 内・ 覆土破片	口(20.0)・頸19.6・ 胴(21.8)	酸・並・浅黄橙・並・白色粒子・透 明鉍物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産 秋間産
10-00664 131	須恵器 羽釜	P ₁ 内 破片	底6.5	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	外面は縦位の篋削り、内面は轆轤(右回転)整形。	秋間産か
10-00665	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(17.7)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗りか。	東海産
10-00666	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	厚0.3	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00667 131	須恵器 羽釜	床直層 1/4残	口(17.6)・頸(21.2) ・胴(22.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	胴上半部・口縁部は内湾。内面は轆轤整形。外面 には粘土紐の接合痕、下位は縦位の篋削り。	秋間産
40-00063	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長1.8・幅2.0・ 重2.1g		錆化は少ないが形状等は不分明。	

第47号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00668 131	須恵 黒 色土器甕	床面直上 破片	口(17.2) 頸(15.2)	還・硬・黒褐・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	産不詳
10-00669 131	須恵 足 高高台壇	覆土内 破片	底(10.6)	酸・軟・明黄褐・並・白色微粒子・ 赤褐色粒子	轆轤成整形(右回転)。	産不詳 墨書-18
10-00670 131	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.7	還・締・灰・並・シルト粗粒子・黒 色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。	秋間産
10-00671 131	瓦 女瓦	P ₁ 内 破片	狭端幅22.8・厚2.3	還・締・灰・並・シルト粗粒子・黒 色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。縄叩 きは「T」字状。側部は面取り2回と篋撫で仕上げ。	秋間産

第48号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00672 131	須恵器 坏	甕内 3/4残	口13.2・高4.0・底5.9	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや 外反する。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00673 131	須恵 黒 色土器坏	床直層 完形	口12.6・高3.8・底6.8	還・硬・黒灰・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。底部は回転糸 切り後周囲を回転篋削り。轆轤成整形右回転。	秋間産か
10-00674 131	須恵器 塊	甕内 2/3残	口14.9・高4.9・底6.9	還・軟・灰・並・透明鉾物粒子・黒 色鉾物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00675 131	須恵器 塊	P ₁ 内 完形	口13.5・高5.1・底6.7	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒 子・透明鉾物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、付高台。器面全体が風化する。	秋間産
10-00676	須恵器 甕	甕内 破片	口(22.0) 頸(20.4)	酸・軟・鈍褐・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、横位の篋削りを施す。	秋間産
10-00677	須恵器 甕	甕内 1/3残	頸(15.2) 胴最(20.8)	酸・軟・鈍褐・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	胴中位より下位に篋削りを施す。内面は轆轤(右回 転)整形。	秋間産

第49号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00678 131	須恵器 坏	覆土内 1/2残	口(13.0)・高3.6・底 (6.8)	還・軟・白灰・並・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外 反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00679 131	須恵器 坏	覆土内 1/2残	口(13.5)	還・軟・灰白・並・透明鉾物粒子・ 白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部緩やかに外 反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00680 131	須恵器 鉢か	覆土内 破片	底6.8	酸・並・鈍褐・並・赤褐色粒子・黒 色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。	秋間産か
10-00681 131	須恵器 甕	覆土内 破片	口(13.6)・頸(12.0) ・胴(14.2)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、横位の篋削りを施す。	秋間産
10-00682 131	須恵器 甕	甕内 破片	口(17.0) 頸(15.6)	酸・軟・鈍黄・並・白色粒子・透明 鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00683 131	須恵器 小形甕	床直層・ 甕破片	口11.1・胴12.5・底 7.1・高11.3	酸・並・鈍橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 整形時に刷毛状の工具を用いる。	秋間産
10-00684 131	須恵器 甕	覆土内 破片	口(17.2)・頸(15.8) ・胴(18.2)	酸・並・鈍黄・並・白色粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は斜位の篋削りを施す。	秋間産
10-00685 131	須恵器 甕	覆土内 破片	口(17.6) 頸(15.2)	酸・並・鈍橙・赤褐色粒子・透明鉾 物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00686 131	須恵器 甕	床直層 破片	口(20.)・頸(18.8)・ 胴(22.4)	酸・並・灰黄・並・白色鉾物粒子・ 白色微粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の篋削り。内面は横撫でを施す。	秋間産
10-00687 131	須恵器 甕	床直層 破片	口(21.8) 頸(20.2)	中・硬・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・ 透明鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00688 131	須恵器 甕	甕内 破片	底(2.4)	酸・並・鈍橙・並・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子	外面は縦位の直線的な篋削り、内面は縦横の撫で 整形を施す。	不詳(秋 間産か)
10-00689 132	須恵器 甕	覆土内 破片	底(19.7)	中・並・灰黄・並・白色微粒子・透 明鉾物粒子・黒色鉾物粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。	不詳
10-00690	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(12.8)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00691 132	瓦 男瓦	甕 左奥 壁破片	厚1.8	還・並・灰・並・シルト粒子・縞状 シルト	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間産
10-00692 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.9	還・硬・灰・並・黒色粒子・縞状 シルト	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側部面取り2回、端部面取り1回。	秋間産
10-00693 132	瓦 男瓦	甕内 破片	厚2.0	酸・軟・浅黄橙・シルト粒子・縞状 シルト	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側部面取り2回、端部面取り1回。	秋間産
10-00694 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	還・軟・灰白・並・黒色粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側部面取り2回。	秋間産
10-00695 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.4	還・硬・灰・並・縞状シルト	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。側部面取り2回。	秋間産
10-00696 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.7	還・並・灰・並・シルト粒子・縞状 シルト・赤褐色粒子・	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。側部面取り3回。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00697 132	瓦 女瓦	竈 左壁 1/2残	厚1.8	還・硬・灰・並・黒色粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の「T」字状縄叩き施文。凹面粘土板剥ぎ取り痕・楔骨痕。側部面取りは3回。	秋間産
10-00698 133	瓦 女瓦	竈 右袖 1/2残	厚1.7	還・締・灰・並・黒色粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の「T」字状縄叩き施文。凹面粘土板剥ぎ取り痕・楔骨痕。側部面取りは2回。	秋間産
10-00699 133	瓦 女瓦	竈 右壁 1/4残	厚2.1	還・軟・灰黄・並・シルト質・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部面取りは2回。	秋間産
10-00700 133	瓦 女瓦	竈 左奥 壁1/4残	厚1.9	酸・軟・橙・並・赤褐色粒子・シルト粗粒子・塊状シルト	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回。端部面取り1回。	秋間産
10-00701 134	瓦 女瓦	竈 右壁 1/4残	厚2.0	還・硬・灰黄・並・塊状シルト・シルト粗粒子・赤褐色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回。端部面取り2回。	秋間産
20-00066 133	礫器 擦石	覆土内 完形	長15.1・幅13.3・厚5.8・重1,570g	粗粒輝石安山岩	表裏面の平坦面に磨滅が認められる。	

第50号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00702 134・158	須恵器 坏	P ₁ 内下層 部分欠損	□12.7・高4.8・底6.9	中・並・鈍黄褐・並・細砂粒・チャート円粒	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	不詳 墨書-19
10-00703 134	須恵器 埴	床直層 1/3残	□(13.2)・高4.5・底6.0	還・軟・灰白・並・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00704 134・158	須恵器 坏か	覆土内 破片	厚0.4	中・並・浅黄・並・黒色鉾物粒子・細砂粒	轆轤成整形右回転。	不詳 墨書-20
10-00705 133	須恵器 瓶	覆土内 破片	底10.4	酸・還・並・灰・並・黒色粒子	紐作り後轆轤成整形(右回転)。付高台。	秋間産
10-00706	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.6	還・並・灰・並・夾雑物微	紐作り後轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00707 134	須恵器 甕	P 1内 破片	□(15.7)・頸(14.0)・胴(14.4)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・黒色鉾物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤成整形(右回転)。頸部直下から縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00708 134	須恵器 甕	覆土内 破片	□(18.8)・頸(16.4)	酸・並・明黄褐・並・黒色鉾物粒子・細砂粒	口縁部は外反する。紐作り後轆轤成整形(右回転)。頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産か
10-00709 134	須恵器 甕	覆土内 破片	□(20.6)・頸(19.4)	中・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・黒色鉾物粒子	口縁部は短く外傾する。紐作り後轆轤成整形(右回転)。頸部より下位は、横位の篋削りを施す。	秋間産
10-00710 134	須恵器 甕	覆土内 破片	□(21.2)・頸(18.4)	酸・硬・鈍黄褐・透明鉾物粒子・黒色鉾物粒子	擬似「コ」の字状口縁。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00711 134	須恵器 甕	覆土内 破片	□(21.2)・頸(18.2)・胴(21.6)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾物粒子・黒色鉾物粒子・白色粒子	口縁部は強く外傾する。紐作り後轆轤成整形(右回転)。頸部より下位は、縦位の篋削り。内面は斜位の篋削り。	秋間産か
10-00712 134	須恵器 甕	覆土内 破片	□(23.0)・頸(20.8)・胴(25.0)	中・並・灰黄・並・夾雑物微	器厚は薄い。口縁部は外傾する。紐作り後轆轤成整形(右回転)。頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00713 134	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 完形	□14.3・頸5.0・胴7.4	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
10-00714	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	□(12.8)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
10-00715 134	施釉陶器 灰釉 碗	床直層 破片	底8.1	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
10-00716 134	瓦 男瓦	竈 右壁 1/2残	厚2.0	還・硬・暗灰・並・シルト粒子・縞状シルト・白色微粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。側部面取り3回。	秋間産
10-00717	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚2.7	還・締・暗灰・並・縞状シルト・黒色粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤成整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側部面取り3回。	秋間産
10-00718 134	瓦 男瓦	床直層 破片	厚2.0	還・締・暗灰・並・縞状シルト・黒色粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤成整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側部面取り4回。	秋間産
10-00719 135	瓦 男瓦	床直層 1/2残	厚2.2	酸・軟・黄灰・並・シルト粗粒子・チャート円粒	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。側部面取り2回。	秋間産
10-00720 135	瓦 男瓦	床直層 破片	厚1.6	還・並・灰褐・並・白色微粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。側部面取り3回。	秋間産
10-00721 135	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.7	中・並・灰黄・並・シルト粗粒子・塊状シルト	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤成整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側部面取り2回。	秋間産
10-00722 135	瓦 男瓦	床直層 破片	厚1.7	酸・軟・浅黄橙(二次焼成か)・並・赤褐色粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤成整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側部面取り2回。	秋間産
10-00723 135	瓦 女瓦	床面直上 破片	厚2.0	還・並・灰白・並・シルト粗粒子・塊状シルト	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側部は篋削りで仕上げ。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	秋間産
20-00067 135	礫器 叩き石	覆土内 完形	長14.2・幅6.7・厚5.5・重848g	粗粒輝石安山岩	両小口に集中打痕が認められる。	
20-00068 135	礫器 擦石	床直層 完形	長13.1・幅9.2・厚5.5・重940g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められ、両小口には集中打痕が認められる。	
20-00069 135	礫器 擦石	床直層 完形	長17.2・幅6.9・厚6.1・重1,158g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められ、両小口には集中打痕が認められる。	
20-00070 136	礫器 擦石	床直層 1/2残	残存長13.0・幅13.8・厚10.4・重2,310g	粗粒輝石安山岩	中央で切断されている。片面の平坦面に磨滅が認められる。小口に集中打痕が認められる。	

第51号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00724 135	土師器 甕	竈周辺床 直層破片	□(20.2)・頸(18.0)・胴(21.2)	酸・並・明赤褐・並・透明鉾物粒子・白色微粒子	「コ」の字状口縁。器厚は並。外面は篋削りを施し、内面は篋削りで整形。	吉井・藤岡産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00725	土師器 甕	竈周辺床 直層破片	口(20.3)・頸(18.9) ・底(4.6)	酸・並・明赤褐・並・透明鉍物粒子・ 白色微粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00726 136	土師器 甕	竈内 破片	口(20.6)・頸(18.0) ・胴(23.0)	酸・並・橙・並・透明鉍物粒子・白 色微粒子	「コ」の字状口縁。器厚は並。外面は篋削りを施し、 内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00727 136	須恵器 坏	床直層 1/4残	口(12.5)・高2.6・底 (7.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	腰部は棚落ち状で丸味が強い。口縁部は直線的に立 ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00728 136	須恵器 坏	竈内 1/3残	口(13.3)・高2.9・底 (7.2)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	腰部は棚落ち状で丸味が強い。口縁部は直線的。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00729 136	須恵器 坏	竈内 完形	口13.4・高3.7・底7.6	還・締・灰白・並・黒色粒子(焼成の 歪顕著。)	器厚は薄い。体部は丸く口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00730 136	須恵器 坏	P ₁ 直上 2/3残	口13.0・高2.9・底7.4	還・締・灰・並・夾雑物微(有機質が 付着する。)	腰部は丸味を帯び、体・口縁部は薄く直線的に立 ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-21
10-00731 136	須恵器 坏	床面直上 1/2残	口(13.4)・高3.4・底 (8.0)	還・締・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子(焼成の歪顕著。)	器厚は薄い。口縁部は直線的な作り。	秋間産
10-00732 136	須恵器 塊	床直層 一部欠損	口14.4・高4.2・底8.4	還・締・灰・並・白色粒子	体・口縁部は薄く丸味を帯び立ち上がり、口唇部 はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00733 136	須恵器 塊	覆土内 破片	底9.1	還・並・灰黄・並・赤褐色粒子	内面に有機質が付着する。轆轤右回転成整形、付 高台。	秋間産
10-00734 136	瓦 女瓦	竈内 1/3残	厚1.6	酸・軟・黄灰・並・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の「T」字状縄叩き、 離砂。凹面模骨痕。側面面取り2回。	秋間産
40-00064	鉄滓	覆土内 完形	長10.2・幅7.2厚4.0		碗状滓。	
20-00071 136	礫器	覆土内 完形	長17.6・幅6.8・厚4.4 ・重940g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕等は認められなかった。	

第52号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00735 136	土師器 甕	床面直上 破片	底5.6	酸・硬・鈍赤褐・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	器内外面は縦位の篋撫でを施す。	吉井・藤 岡産
10-00736 136	須恵器 瓶	床直層 破片	口(14.6) 頸(7.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面有機質が付 着する。	秋間産
10-00737 136	須恵器 甕	覆土内 破片	口(30.4) 鏝(30.6)	還・硬・灰・並・白色粒子・透明鉍 物粒子	口縁部は開いている。紐作り後轆轤整形(右回転)。 鏝は貼り付け。	秋間産か 乗附産

第53号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00738 137	須恵器 坏	床直層 完形	口12.6・高4.2・底6.1	還・並・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00739 137	須恵器 塊	床直層 1/2残	口(13.6)・高4.7・底 (6.8)	還・軟・灰・並・透明鉍物粒子・黒 色鉍物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00740 137	須恵器 塊	床直層 完形	口14.1・高5.7・底6.9	中・軟・灰黄・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00741 137	須恵器 塊	覆土内 完形	口14.1・高5.2・底7.2	還・並・灰白・並・黒色鉍物粒子・ 白色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、付高台。	秋間産
10-00742 137	須恵器 塊	竈内 1/2残	口(14.6)・高5.6・底 (6.54)	酸・軟・浅黄橙・並・透明鉍物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、付高台。	秋間産
10-00743 137	須恵器 塊	床直層 高台欠損	口14.1	還・並・灰・並・白色粒子・黒色粒 子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、付高台。	秋間産
10-00744 137	須恵器 塊	竈底面 2/3残	底6.5	中・並・灰黄・並・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	腰部・体部は丸味が強い。轆轤右回転成整形、付 高台。	秋間産
10-00745 137	土師器 台付甕	覆土内 1/3残	口(10.0)・高12.8・ 底(6.6)	酸・並・鈍橙・並・透明鉍物粒子・黒 色鉍物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は篋削りを施し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00746 137	土師器 甕	床直層 破片	口(19.8) 頸(9.2)	酸・並・明茶褐・波・透明鉍物粒子・ 黒色鉍物粒子	「コ」の字状口縁。器厚は厚い。外面は篋削りを施 し、内面は篋撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-00747 137	須恵器 甕	床面直上 破片	口(20.4)・頸(19.2) ・胴(21.6)	酸・軟・鈍橙・並・透明鉍物粒子・ 赤褐色粒子	口縁部は外傾。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部よ り下位は、縦位の篋削りを施す。器面の風化顕著。	秋間産
10-00748 137	須恵器 甕	竈内 破片	口(21.0)・頸(20.4) ・胴(22.8)	酸・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・ 透明鉍物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸 部より下位は、縦位の篋削り。内面は横位の篋撫で。	秋間産
10-00749 137	須恵器 短頸瓶	床面直上 完形	口5.4・高18.7・底8.0 胴16.7	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒 子・自然軸付着	紐作り後轆轤整形(右回転)。立ち上がり部は横位 の篋削り。頸部は焼成以前に欠損補修されている。	秋間産
40-00065	鉄器	覆土内 破片	残存長2.6・幅1.5・ 重3.1g		大刀子の鋒か。	
40-00066	鉄滓	覆土内 破片	残存長6.1・幅3.8・ 厚2.4		碗状滓の破片。	
10-00750 137	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.3	還・硬・暗灰・並・黒色粒子・白色 微粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側面面取り2回。	秋間産
10-00751 138	瓦 男瓦	竈内 破片	厚1.6	還・軟・灰黄・並・シルト粗粒子・ 白色微粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。側面面取り2回。	秋間産
10-00752 137	瓦 男瓦	竈左壁 1/2残	厚1.5	還・硬・灰・並・シルト粗粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。側面面取り2回。	秋間産
10-00753 138	瓦 女瓦	竈内 破片	厚1.9	酸・並・黄橙・並・赤褐色粒子・高 温石英	一枚作り。凸面は単軸絡条体の「T」字状縄叩き。 凹面模骨痕。側面面取り2回。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-00754 138	瓦 女瓦	竈右袖 3/4残	厚2.2	還・軟・灰白・並・黒色粒子・シル ト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩きの「T」字 状施文。側部は寛撫で。端部側面取りは1回。	秋間産
10-00755 138	瓦 女瓦	竈右壁 破片	厚1.6	還・並・灰白・並・シルト粗粒子・ 塊状シルト	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き。凹面模骨 痕。側面取り1回。	秋間産
10-00756 138	瓦 女瓦	竈内 破片	厚1.7	酸・軟・橙・並・赤褐色粒子・シル ト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き。凹面模骨 痕か。側面取り2回。	秋間産
20-00072 139	礫器 擦石	床直層 完形	長15.9・幅13.9・厚 7.7・重2,460g	粗粒輝石安山岩	一部に磨減が認められ、縁辺に集中打痕が認めら れる。	

第54号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00757	土師器 坏	覆土内 破片	□(11.0)	酸・並・鈍黄橙・並・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	体部は小単位の寛撫でを施す。口縁部・内面は横 撫でを施す。	産不詳
10-00758 138	須恵器 坏	床面直上 部分欠損	□9.8・高3.3・底4.6	酸・軟・鈍黄・粗・黒色鈹物粒子	体部は丸味が強い、口縁部は直線的で、口唇部は 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00759 138	須恵器 坏	覆土内 1/4残	□(10.2)・高3.6・底 5.3	中・並・灰黄・粗・黒色鈹物粒子細 砂粒	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はや や外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00760 138	須恵器 埴	床面直上 部分欠損	□13.2・高4.8・底6.4	酸・軟・鈍黄橙・粗・黒色鈹物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、高台欠損(付高台)。	秋間産か
10-00761 139	須恵器 内黒 埴	床直層 2/3残	□15.6・高5.7・底7.9	酸・並・橙・粗・透明鈹物粒子・黒 色鈹物粒子	全体に丸味が強い。内面は研磨を施し燻し焼成、外 面口縁部も吸炭する。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳
10-00762 139	施釉陶器 灰釉 碗	床面直上 1/4残	□(16.2)・高6.4・底 (8.2)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産
10-00763 139	施釉陶器 灰釉 碗	床直層 1/2残	底(8.5)	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海産
10-00764 139	須恵器 羽釜	床面直上 破片	□(25.0) 鏝(27.0)	還・並・黒灰(燻し)・並・高温石英	口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。紐作り後轆轤整 形(右回転)。鏝は貼付け。	産不詳
10-00765 139	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	中・並・灰黄・並・シルト粗粒子・ 塊状シルト	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。	秋間産
10-00766 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚1.5	還・硬・灰・並・白色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き「T」字状 施文。側面取り1回。	秋間産
10-00767 139	瓦 男瓦	覆土+55住 覆土破片	厚1.7	還・締・灰・並・黒色粒子・縞状シ ルト	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。側面取り3回。	秋間産
10-00768 139	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚2.0	還・締・灰・並・黒色粒子・縞状シ ルト	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。 縄叩きは痕跡程度に認められる。側面取り4回。	秋間産
10-00769 139	瓦 女瓦	覆土+57住 掘方破片	厚1.5	酸・軟・橙・並・赤褐色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面 模骨痕。	秋間産

第57号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00770 139	須恵器 坏	床面直上 完形	□12.0・高3.8・底6.3	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、底部は回転糸切り。	秋間産か

第55号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00771 139	須恵器 坏	竈内 破片	□(12.2)・高4.4・底 (5.6)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鈹物粒子・ 小高温石英	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00772 139	須恵器 坏	竈+覆土 内破片	□(13.2)・高3.7・底 (6.4)	酸・並・鈍黄・やや粗・赤褐色粒子・ 黒色鈹物粒子(内黒胎土)	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は肥厚 する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00773 139	須恵器 坏	竈+覆土 内破片	□(11.6)・高4.0・底 (4.6)	酸・並・鈍黄・やや粗・赤褐色粒子・ 黒色鈹物粒子(内黒胎土)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00774 139	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□11.8・高4.8・底5.6	酸・並・鈍赤褐・並・軽石・黒色鈹 物粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立 ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00775 139	須恵器 坏	竈底面 1/3残	□12.8・高3.9・底 (3.9)	還・軟・灰・粗・黒色鈹物粒子・白 色微粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反気 味。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-00776 139	須恵器 埴	竈底面 1/4残	□(13.4) 坏底(5.4)	還・軟・灰白・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00777 139	須恵器 坏	掘方内 破片	□(16.0) 坏底(6.4)	酸・並・橙・密・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か
10-00778 139	須恵器 埴	竈底面 1/3残	□(15.8)・高4.8・底 7.3	還・軟・灰・粗・小礫・白色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、付高台。	秋間産
10-00779 140	須恵器 甕	P 5内 破片	□(20.2)・頸(18.8) ・胴(23.2)	酸・硬・橙・並・夾雑物微	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、縦位の寛撫で・寛削りを施す。	秋間産 秋間産
10-00780 139	須恵器 羽釜	竈底面 破片	□(20.0)・鏝(24.0) ・胴(23.6)	還・硬・灰・並・白色粒子・黒色鈹 物粒子	胴上半部は内湾し、口縁部は内傾する、鏝は貼り 付け。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00781 139	須恵器 羽釜	竈底面 破片	底(9.0)	酸・並・明褐・粗・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子・白色粒子	内面は轆轤整形。外面は縦位の寛削りを施す。轆 轤成整形右回転。	秋間産
10-00782 140	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.4	中・軟・灰黄・並・赤褐色粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側面取り1回。	秋間産
10-00783 140	瓦 男瓦	竈左袖 破片	厚2.0	還・軟・灰・並・シルト粗粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。 側面取り3回。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00784 140	瓦 男瓦	床直層 破片	厚2.4	還・軟・灰白・並・シルト粗粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。側面取り2回。	秋間産
10-00785 140	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.6	還・硬・暗灰・並・シルト粗粒子・黒色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側面取り3回。	秋間産
10-00786 140	瓦 男瓦	竈+覆土 内破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙(二次焼成)・並・縞状シルト	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側面取り2回。	秋間産
10-00787 140	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.1	還・締・暗灰・並・シルト粗粒子・塊状シルト・黒色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の「T」字状縄叩き。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。側面取り1回。	秋間産
10-00788 140	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.0	還・並・灰茶褐・並シルト粗粒子・白色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。側面は篋撫で仕上げ。	秋間産
20-00073 140	石製品 砥石	床直層 破片	残存長5.8・幅4.7・厚3.0・重108g	砥沢石	4面に使用が認められる。研ぎ減りは中央に向かいスロープ状。置き砥か。	
40-00067	鉄滓	覆土内 破片	長6.0・幅6.2・厚2.3・重11.7g		碗状滓の破片。	

第56号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00789 140	須恵器 坏	P ₁ 内 部分欠損	□12.6・高4.2・底6.3	還・軟・灰・並・透明鉱物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00790 140	須恵器 埴	床面直上 1/3残	□(13.8)・高5.2・底(6.7)	還・軟・灰・並・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子	腰部は丸味を帯びる。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00791 140	須恵器 埴	竈内 1/3残	□(13.9)・高5.1・底(6.2)	還・硬・灰・並・シルト粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00792 141	須恵器 埴	掘方内 1/2残	□(14.0)・高5.0・底(6.2)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00793 141	須恵器 埴	竈内 1/3残	□(14.2)・高4.9・底(7.5)	還・並・灰・並・シルト粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00794 141	須恵器 短頸壺	掘方内 破片	□(10.0)	中・軟・灰黄・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。口縁部は直立する。	秋間産
10-00795 141	須恵器 甕	覆土内 破片	□(13.4) 頸(12.6)	中・軟・灰黄・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。胴上半部は内傾して立ち上がり、口縁部は短く外傾して立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00796 141	須恵器 甕	覆土内 破片	□(21.2) 頸(18.4)	酸・並・橙・並・透明鉱物粒子	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部より下位は、横位の篋削りを施す。	秋間産
10-00797 141	須恵器 甕	竈掘方 破片	□(20.0)頸(17.8)胴(22.0)	酸・硬・鈍橙・並・夾雑物微	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部は丸味が強い。頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産
10-00798	須恵器 甕	覆土内 破片	□(22.6)・頸(20.2)・胴(22.6)	酸・並・鈍橙・並・透明鉱物粒子・赤褐色粒子	擬似「コ」の字状口縁。紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面轆轤整形痕が残る。	秋間産
10-00799 141	瓦 男瓦	竈右掘方 1/2残	狭幅端14.7・厚1.7	還・並・灰・並・シルト粗粒子・粗砂粒	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側面取り3回。	秋間産
10-00800 141	瓦 男瓦	竈左袖 1/4残	厚1.5	還・締・灰・並・赤褐色粒子・シルト粗粒子	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側面取り2回。	秋間産
10-00801 141	瓦 男瓦	竈内 破片	厚1.5	還・締・暗灰・並・縞状シルト	半裁作り。凸面は縄叩き(単軸絡状帯)後轆轤整形。縄叩きは痕跡程度に認められる。側面取り2回。	秋間産
10-00802 141	瓦 男瓦	竈右掘方 破片	厚1.4	還・締・灰・並・茶褐粒子	半裁作り。凸面は轆轤成整形条痕が明瞭に残る。凹面布合わせ目。側面取り1回。	秋間産
40-00068	鉄器 不詳	床面直上 破片	厚0.35・重11.7g		外形は鎌に類するが、刃部構造に疑問がある。	
40-00069 141	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	復元長11.7・幅0.9		部分的に錆化による剥落が認められる。	

第2号竅穴状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00803 142	須恵器 坏	底面直上 完形	□11.7・高3.6・底5.0	還・並・灰・並・生土か(10-00804と同じ土)・軽石	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に伸びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00804 142	須恵器 坏	覆土内 1/2残	□(11.8)・高3.8・底(5.7)	中・並・灰黄・並・生土か(10-00803と同じ土)・軽石	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00805 142	須恵器 坏	7層内 完形	□12.5・高4.2・底5.0	還・並・灰・並・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳
10-00806 142	須恵 足 高高台埴	覆土内 1/3残	基部6.2 底8.2	中・軟・灰黄・粗・(内黒胎土)・高温石英	高台は「ハ」字状に開く。体部はやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳
10-00807 142・159	施釉陶器 灰釉 碗	7層内 完形	□16.1・高5.2・底8.7	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	東海産 墨書-22
10-00808 142	灰釉陶器 輪花 皿	7層内 完形	□14.4・高3.1・底7.8	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海産
40-00070	鉄器 釘	底面直上 完形	長5.5・幅0.3~0.7・厚0.3・重5.1g		錆化が顕著。頭部は叩き潰し。小口を止める釘の形状。	
40-00071	鉄器 釘	底面直上 破片	残存長2.6・幅0.6・厚0.5・重2.8g		錆化が顕著。断面ではやや丸味を帯びた形状を呈している。	
40-00072	鉄器 釘	底面直上 破片	残存長2.9・幅0.4~0.5・厚0.2・重1.4g		錆化が顕著。平たい作りから40-00070に類する釘と考えられる。	
40-00073	鉄器 釘	底面直上 破片	残存長2.6・幅0.7・厚0.4・重4.0g		錆化が顕著。錆が木質に錆着いている。木質は柾目か。	

第6章 中里見原遺跡

40-00074	鉄器釘	底面直上破片	残存長3.1・幅1.8・厚1.2・重4.4g		錆化が顕著。錆が木質に錆け着いている。木質は柾目か。	
40-00075	鉄器釘	底面直上破片	残存長4.4・幅1.0・厚0.8・重4.3g		錆化が顕著。錆が木質に錆け着いている。木質は柾目か。	

第3号竪穴状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00809 143	須恵器 甕	覆土内 破片	口(19.0) 頸(17.2)	酸・並・鈍黄橙・並・夾雑物微	擬似「コ」の字状口縁。器厚は薄い。外面は頸部直下から縦位の寛削りを施し、内面は寛撫で整形。	秋間産
10-00810 142	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	口13.2・高4.0・底6.3	還・並・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00811 159	須恵器 坏	覆土内 破片	底7.3	還・並・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部より上位は欠損する。	秋間産 墨書-23
10-00812 142・159	須恵器 坏	P ₁ 内 完形	口14.2・高4.4・底6.9	還・軟・灰黄・並・黒色鉾粒子	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-24
10-00813 142	須恵器 埴	覆土内 2/3残	口13.9・高5.4・底6.8	中・並・灰黄・並・赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口縁上半部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。有機質付着。	秋間産
10-00814 142	須恵器 埴	覆土内 1/3残	口(14.6)・高6.4・底7.2	還・並・灰・粗・細粒白色鉾粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。	秋間・蛇 喰支群か
10-00815 142・159	須恵器 内黒埴	覆土内 一部欠損	口15.0・高5.2・底(7.0)	酸・並・鈍黄橙・並・微粒雲母・黒色鉾粒子・赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か 墨書-25
10-00816 143	須恵器 埴	覆土内 1/3残	口(15.0)・高4.5・底(9.0)	還・並・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は直線的、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00817 142	須恵器 埴	覆土内 破片	底9.2	還・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は厚い。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00818 143	須恵器 皿	覆土内 破片	口(12.6)	還・並・灰・並・黒色粒子	轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00819	須恵器 坏か	覆土内 破片	厚0.4	還・硬・白灰・並・夾雑物微	坏か埴の破片に、鉄の珪酸化合物が溶着する。	秋間産
10-00820	土製品 土鍾	覆土内 破片	残存長4.1 幅2.0	酸・並・鈍黄橙・並・透明鉾粒子・黒色鉾粒子	器面全体が風化している。ズングリとした作り。	
10-00821 142	須恵器 皿	覆土内 1/3残	口(15.2)・高2.5・底8.6	還・並・外・黒灰・内・白灰・並・夾雑物微(器内面の黒色煙し焼成)	体・口縁部は緩やかに外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産 墨書-26
10-00822	瓦 瓦瓦	覆土内 破片	厚1.7	酸・軟・浅黄橙・並・赤褐色粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄ひき施文。側面取り3回。	秋間産
40-00076	鉄器 不詳	覆土内 破片	長3.5 幅3.6		図上、上端側が直線的に肥厚している。鋳鉄か。錆化が顕著。	
40-00077	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長2.8 幅2.1		鉄片。素材か、製品かの判断は出来ない。	
40-00078	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.8 残存幅2.6		図上、左端側以外は調査後の欠損。素材か、製品かの判断は出来ない。	
10-00823	土製品 羽口	覆土内 破片	径8.8 孔径2.2	僅かにスサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	先側に鉄分主体の溶解物が顕著に溶着する。	産不詳
10-00824 143	土製品 羽口	覆土内 完形	長11.6・径7.5・孔径2.1	僅かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は少ない。	先側は珪酸主体の溶解物が顕著に溶着する。	産不詳
10-00825	土製品 羽口	覆土内 一部欠損	長15.2・径6.6・孔径2.3	スサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	先側は下端側に鉄分主体の溶解物、先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00826 143	土製品 羽口	覆土内 部分欠損	残存長11.8・径7.7・孔径2.7	スサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	先側は下端側に鉄分主体の溶解物、先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00827 143	土製品 羽口	床面直上 完形	長12.8・径7.3・孔径2.2	僅かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は少ない。	先側は下端側に鉄分主体の溶解物、先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00828 143	土製品 羽口	覆土内 部分欠損	残存長・径・孔径	イネ科の植物のスサを多く含む。素地土の可塑性は並。夾雑物を含む。	先側は下端側に鉄分主体の溶解物、先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00829 143	土製品 羽口	床直層 破片	残存長9.9・径7.1・孔径2.1	僅かにスサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	元側部分。還元反応が少ない。熱の反応は挿入角度か。概ね30度程。	産不詳
10-00830 143	土製品 羽口	覆土内 上半欠損	残存長12.5・径7.9・孔径2.2	イネ科の植物のスサを多く含む。素地土の可塑性は並。夾雑物を含む。	先側は下端側に鉄分主体の溶解物、先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00831 143	土製品 羽口	覆土内 上半欠損	残存長14.3・径8.4・孔径2.5	僅かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は極僅か。	先側は下端側に鉄分主体の溶解物、先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00832 143	土製品 羽口	覆土内 上半欠損	残存長10.0・径7.6・孔径2.1	スサは多い。素地土は粗く可塑性も少ない。夾雑物は多い。	先側は下端側に鉄分主体の溶解物、先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00833	土製品 羽口	覆土内 両端欠損	残存長12.8・径7.2・孔径2.2	スサは多い。素地土は粗く可塑性も少ない。夾雑物は多い。	先端面は珪酸主体の溶解物が顕著に付着する。	産不詳
10-00834	土製品 羽口	覆土内 破片	残存長・径・孔径	僅かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は極僅か。	両端を欠損する。器面の熱反応から、40度位の挿入角度が推定される。	産不詳
40-00079	鉄滓	覆土内 完形	長10.2・幅7.6・厚3.7・重332g		碗状滓。底面は比較的滑らか。	
40-00080	鉄滓	覆土内 完形	長9.5・幅7.5・厚4.4		碗状滓。底面は比較的滑らか。	
40-00081	鉄滓	覆土内 完形	長10.0・幅7.8・厚5.2・重540g		碗状滓。底面は比較的滑らか。	
40-00082	鉄滓	覆土内 完形	長11.7・幅10.2・厚3.3・重421g		碗状滓。底面は凹凸が顕著。	
40-00083	鉄滓	覆土内 完形	長13.7・幅10.4・厚4.3・重820g		碗状滓。底面は比較的滑らか。	

第2節 発見された遺構・遺物

40-00084	鉄滓	覆土内 完形	長12.9・幅12.9・厚 4.0・重700g		碗状滓。底面は凹凸が顕著。	
40-00085	鉄滓	覆土内 完形	長12.8・幅11.3・厚 5.5・重670g		碗状滓。底面は凹凸が顕著。	
40-00086	鉄滓	覆土内 完形	長10.7・幅14.1・厚 4.7・重910g		碗状滓。底面は比較的滑らか。	

第4号竪穴状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00835 142	須恵器 坏	床直層 1/2残	口(13.0)・高4.6・底 (7.0)	還・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00836 143	須恵器 坏	覆土内 破片	底6.6	還・硬・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。底部は回転筧起こし。	秋間産
10-00837 143	須恵器 坏	床直層 破片	底6.8	還・硬・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。底部は回転筧起こし。	秋間産
10-00838 142	須恵器 塊	床直層 2/3残	口11.2・高5.6・底7.0	還・並・灰・やや粗・白色微粒子	腰部・体部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底面は回転筧起こし、付高台。	秋間産
10-00839 142	須恵器 塊	覆土内 一部欠損	口11.2・高5.6・底7.0	還・密・灰・並・黒色粒子	腰部・体部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底面は回転筧起こし、付高台。	秋間産
10-00840 143	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(11.0)	還・密・灰・並・黒色粒子	端部は折り返し、天井部は轆轤回転筧削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第1号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00841 144	須恵器 盤	P ₁ 底直層 破片	底(20.6)	還・並・灰白・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。高台は掻き破り後貼り付け。	秋間産

第2号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00842 144	須恵器 坏	覆土内 破片	底(7.6)	還・並・灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00843 144	須恵器 塊	覆土内 破片	底(8.2)	還・軟・灰・並・黒色鉍物粒子・	轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産

第3号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00844 142	須恵器 坏	覆土内 破片	底7.0	還・硬・灰・並・白色微粒子	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。糸の撚りは細かい。	乗附産か 秋間産

第4号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00845 144	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.6	還・締・暗灰・並・白色鉍物細粒子	轆轤成整形右回転。	東海産か 秋間産

第5号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00846 144	須恵器 坏か	覆土内 破片	厚0.5	還・並・灰・並・黒色鉍物粒子	轆轤成整形右回転。器内外面に灰釉状の自然釉付着。	秋間産か
10-00847 144	須恵器 坏	覆土内 破片	底(8.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00848 144	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(19.4)	還・硬・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。器厚は薄い。内面に隆腺状の返りが巡る。	秋間産
10-00849 144	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.0	還・並・鈍黄褐・並・白色粒子	紐作り後(叩き成整形)叩き具は平行叩き、宛て具は青海波文。把手の基部周辺の破片。	秋間産

第7号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00850 144	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.8	還・並・灰・並・夾雑物微	紐作り後(叩き成整形)轆轤(右回転)再整形。	秋間産か 東海産

第6章 中里見原遺跡

第1号基壇跡 出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 量目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	産地
40-00087	鉄器 鎌か	1区埋土 内破片	長4.9・幅1.7・重0.17 ・重4.8g		有莖平根三角形式か。刃部は明瞭ではない。工具等の製品か。	
10-00851 144	土師器 環	1区埋土 内1/4残	口(12.0) 底(9.6)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子	底部は篋削り、口縁部・内面は横撫で整形。体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-00852 144	須恵器 皿	1区埋土 内2/3残	口(13.4)・高2.0・底 7.1	酸・軟・橙・並・微粒雲母(藤岡畑土)	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	藤岡産
10-00853 142	須恵器 蓋	1区埋土 内1/2残	摘2.0・高2.4・端 (12.2)	還・並・灰・並・黒色粒子	摘部は扁平。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00854 144	須恵器 蓋	1区埋土 内破片	端(14.4)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	摘部は欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00855 144	施釉陶器 緑釉碗	2区埋土 内破片	厚0.4	還・軟・黄白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)研磨を施し施釉。施釉方法は不明。	洛北産
10-00856 146	須恵器 塊	2区埋土 内2/5残	口(15.8)・高8.0・底 (8.7)	還・並・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00857 144	須恵器 環	3区埋土 内破片	厚0.35	酸・硬・鈍赤褐・密・細粒高温石英・ 微粒雲母	丸味を帯びた口縁部。外面に斜格子様の暗文を施す。内面は横位の研磨を施す。搬入元は畿内か。	搬入品
10-00858 144	須恵器 高盤脚か	3区埋土 内破片	底(13.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	轆轤成整形右回転。作りは丁寧でシャープ。	秋間産
10-00859 144	瓦 か瓦	4区埋土 内破片	厚1.6	還・硬・灰白・並・黒色粒子	一枚作り。凸面は単軸絡条体の縄叩き施文。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回+撫で1回。	秋間産
10-00860 144	須恵器 蓋	9区埋土 内破片	端(16.0)	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。端部は折り返し、轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00861 144	須恵器 内黒塊か	5区埋土 内破片	口(13.6)	酸・並・外・鈍黄橙・内・黒灰・並・ 赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。内面に研磨す。	不詳
10-00862 146	須恵器 塊	6区埋土 内1/4残	口(16.2)・高5.3・底 (8.4)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00863 144	須恵器 塊	10区埋土 内破片	底(6.2)	還・締・灰・並・白色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00864 144	施釉陶器 灰釉碗	10区埋土 内破片	厚0.35	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
40-00088	鉄器 不詳	10区埋土 内破片	残存長5.8・幅2.6・ 重25.5g		錆化が顕著なため、器種の判別困難。利器か。	
10-00865 146	須恵器 環	12区埋土 内1/3残	口(12.2)・高3.6・底 (7.5)	還・締・灰黄・並・黒色粒子	腰・体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。器高は低い。轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし。	秋間産
10-00866 146	須恵器 環	12区埋土 内1/3残	口(13.0)・高3.9底 (6.9)	還・軟・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は外反気味。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00867 144	須恵器 皿か蓋	12区埋土 内破片	口(14.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直立気味に立ち上がる。轆轤成整形右回転。皿・蓋か不分明。	秋間産
10-00868 144	須恵器 蓋	12区埋土 内破片	端(12.8)	還・並・灰・並・白色微粒子	端部はやや開く。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00869 144	須恵器 盤	12区埋土 内破片	口(20.6)高(3.6)底 (12.8)	還・締・灰・密・夾雑物微	器厚は薄い。轆轤成整形右回転。付高台。	秋間産
10-00870	須恵器 瓶	12区埋土 内破片	口(15.8)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。小形の広口壺か。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00871 144	須恵器 小瓶	13区埋土 内破片	胴最(10.9)	還・並・灰・並・夾雑物微	器高は厚い。立ち上がりは直線的で肩は丸味を帯びる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00872 144	須恵器 蓋	13区埋土 内破片	口(23.4)	還・締・灰白・並・細粒黒色粒子	器厚は薄い。縦横の刷毛撫で整形。自然釉付着。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00873 144	須恵器 皿	14区埋土 内破片	口(13.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。立ち上がりは丸味が強く、口縁部は外反する。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00874 144	須恵器 小形鉢	13区埋土 内破片	口(14.2) 頸(13.2)	中・軟・灰黄・並・細粒円礫	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-00875 144	須恵器 環	13区埋土 内破片	口(13.4)	還・並・灰白・並・夾雑物微	器高は厚い。腰・体部は丸味が強い。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00876 144	須恵器 環	16区埋土 内破片	口(12.4)・高4.0・底 (7.8)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00877 144	須恵器 瓶か	16区埋土 内破片	厚0.4	還・並・灰・並・夾雑物微	篋描きか工具の傷は判然としなない。	秋間産
10-00878 145	土師器 環	埋土内 破片	口(11.4) 底(9.8)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・ (藤岡畑土)	底部は篋削り、口縁部・内面は横撫で整形。体部に型膚を残す。	藤岡産
10-00879 145	土師器 環	埋土内 破片	口(11.8) 底(9.8)	酸・軟・黄橙・並・黒色鉾物粒子・	底部は篋削り、口縁部・内面は横撫で整形。体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-00880 145	土師器 環	埋土内 破片	口(12.0) 底(11.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子	口縁部は長い。底部は篋削り、口縁部・内面は横撫で整形。体部に型膚を残す。器厚は薄い。	不詳
10-00881 145	須恵器 環	埋土内 破片	厚0.3	還・締・暗灰・並・夾雑物微	黒茶褐色の有機質が付着する。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00882 146	須恵器 環	埋土内 一部欠損	口11.0・高6.4・底3.5	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00883 145	須恵器 環	埋土内 破片	口(11.2)・高3.4・底 (7.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。器内外面に有機質付着。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00884 145	須恵器 環	埋土内 破片	口(12.0)・高3.3・底 (7.0)	還・並・褐・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00885 146	須恵器 環	埋土内 1/2残	口(13.0)・高3.6・底 (7.4)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-00886 146	須恵器 壺	埋土内 2/3残	口(13.2) 坏底(8.6)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00887 145	須恵器 壺	埋土内 1/3残	坏底(8.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は厚い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00888 146	須恵器 壺	埋土内 破片	坏底(8.0)	還・並・灰・やや粗・黒色粒子	器厚は厚い。大身の壺。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	秋間産
10-00889 145	須恵器 皿	埋土内 破片	口(14.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00890 145	須恵器 蓋	埋土内 1/2残	端(14.0)	還・並・外端部・黒灰・内・灰白・並・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00891 145	須恵器 蓋	埋土内 1/4残	摘(4.6)	還・並・灰白・並・夾雑物微	環状摘。端部欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00892	須恵器 蓋	埋土内 破片	摘(4.8)	還・並・灰・並・黒色粒子	環状摘。端部欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00893 145	須恵器 直口壺	埋土内 破片	肩(11.8) 頸(7.4)	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。肩が張る。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00894 145	須恵器 直口壺	埋土内 破片	肩(11.2) 頸(9.6)	還・軟・灰黄・並・夾雑物微	器厚は薄い。肩が張る。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00895 145	須恵器 直口壺か	埋土内 破片	頸(9.1)	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は非常に薄い。内面に有機質が付着する。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-00896 145	須恵器 広口壺	埋土内 破片	底(10.6)	還・硬・灰・並・夾雑物微	底部外面は回転篋削り。内面の轆轤目は粗い。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00897 145	須恵器 瓶	埋土内 破片	底(12.0)	還・締・灰・並・白色粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具は不詳。内面に自然釉付着。	秋間産
10-00898 145	須恵器 横瓶	埋土内 破片	厚0.8	還・締・灰・並・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面宛て具は扇状。	秋間産
10-00899 145	施釉陶器 緑釉 碗	埋土内 破片	厚0.35	還・軟・灰白・やや粗・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不明。	洛北産
40-00089	鉄器 不詳	埋土内 破片	幅0.4~0.7・重4.7g		錆化が顕著。断面形状が一樣ではない。	

第1号柵跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00900 146	須恵器 坏	1 堅覆土 内破片	底8(8.2)	還・並・灰白・並・夾雑物微	立ち上がりはシャープ。見込みに墨書乃至墨痕。また、見込みに有機質が付着する。	秋間産
10-00901 146	須恵器 坏	1 堅覆土 内破片	口14.5・高4.8・底6.5	酸・軟・黄灰・並・黒色鉱物粒子	腰部は丸味を帯び、体・口縁部直線的に立ち上がる。	秋間産
10-00902 146	須恵器 壺	1 堅覆土 内完形	口13.6・高5.4・底6.6	中・軟・灰黄・並・シルト粗粒子・シルト質	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-00903 146	須恵器 壺	1 堅覆土 内完形	口15.4・高6.5・底6.7	還・並・灰・並・夾雑物微	器厚は厚い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
40-00090	鉄器 不詳	1 堅覆土 内破片	残存長3.3 幅1.5		錆化が顕著なため器種等の詳細は不分明。	
40-00091	鉄器 不詳	1 堅覆土 内破片	残存長2.2 幅0.5		錆化が顕著。釘の頭部と考えられる。	
10-00904 145	須恵器 坏	91坑覆土 内破片	底(6.0)	還・並・灰・並・白色粒子	器厚は薄い。轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし。	秋間産
10-00905 145	須恵器 坏	123坑覆土 内破片	底(6.0)	還・並・灰・粗・白色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし。	秋間産
10-00906 145	土師器 甕	132坑覆土 内破片	口(20.4) 頸(18.2)	酸・並・鈍黄褐・並・黒色鉱物粒子・細砂粒	口縁部は外反する。外面は篋削り、内面は篋撫でを施す。	吉井・藤岡産

第1号道跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00907 145	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	厚0.7	還・並・灰・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	紐作り後轆轤整形(左回転)。	産不詳
10-00908 145	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	厚0.4	還・締・白灰・並・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	美濃産
10-00909 145	施釉陶器 鉄釉 碗	覆土内 破片	厚0.35	還・締・灰黄・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	産不詳
10-00910 145	施釉陶器 天目碗	覆土内 破片	厚0.5	還・硬・灰・並・夾雑物微	内面口縁部は禾目を呈する。轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	産不詳
10-00911 145	施釉陶器 鉄釉片口鉢	覆土内 破片	厚0.8	還・硬・灰・並・夾雑物微	口縁部は玉縁。轆轤成整形右回転。	産不詳
10-00912 145	施釉陶器 鉄釉 碗	覆土内 破片	厚0.4	還・硬・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。	産不詳
10-00913 145	施陶 鉄 釉筒物か	覆土内 破片	厚0.5	還・硬・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。	産不詳
10-00914 145	施釉陶器 鉄釉不詳	覆土内 破片	厚0.9	還・硬・灰・並・夾雑物微	鉄釉と透明釉の掛け分け。轆轤成整形右回転。	産不詳
10-00915 145	施釉陶器 鉄絵土瓶	覆土内 破片	厚0.35	還・硬・灰・並・夾雑物微	外面は鉄絵だが、意匠は不詳。内面は露胎。轆轤成整形右回転。	産不詳

第6章 中里見原遺跡

10-00916 145	磁器 白磁皿	覆土内 破片	厚0.35	還・硬・灰・密	器厚は薄い。轆轤の回転方向も不詳。	産不詳
-----------------	-----------	-----------	-------	---------	-------------------	-----

第1号墓跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
40-00092 146	喫煙具 雁首	埋土内 完形	長6.4・火皿径1.6・ 重7.0g		反りはややある。火皿は大き目。羅字の挿入部分 だけが残存する。	
40-00093 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00094 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00095 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00096 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00097 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.2・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00098 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.3・重2.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00099 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.3・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00100 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.3・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00101 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通寶。背面は無紋。	
40-00102 ~00106	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重18g		寛永通寶。5枚が錆により錆着している。	写真図版 160

第3号墓跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
40-00107 146	喫煙具 雁首	埋土内 完形	長4.5・火皿径1.5・ 重4.0g		反りは殆どない。火皿も萎縮した様に小さく、付け根は 太い。羅字の切り込み部は錆により欠損する。	
40-00108 146	喫煙具 吸口	埋土内 完形	残存長5.9・径0.4~ 0.9・重2.0g		吸口部分が錆化により逸している。40-00108と対 をなすと判断される。	
40-00109 146	鉄器 不詳	埋土内 破片	残存長3.6・幅3.5・ 厚0.25・重12.0g		部分的な錆化が認められるが、器種等は判断でき ない。	

第4号墓跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00917 146	施釉陶器 灰釉湯呑	埋土内 完形	口6.9・高4.2・底3.0	還・並・灰白・並・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛け。	美濃産か
40-00110 146	鉄器 不詳	埋土内 破片	残存長5.1・幅0.3~ 0.5・重2g		図の上半には木質が錆化により錆着している。釘 の可能性が高い。	
40-00111 146	喫煙具 雁首	埋土内 完形	長4.8・火皿径1.7・ 重10g		反りは殆どない。火皿も萎縮した様に小さく、付 け根は太い。羅字が切り込み状態で残存している。	
40-00112 146	喫煙具 吸口	埋土内 完形	残存長6.6・径0.45~ 1.2・重8g		吸口は狭い。羅字が切り込み状態で残存している。	

第5号墓跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00918 145	染付磁器 飯碗	覆土内 破片	口(12.0)	還・締・乳白・密	精製具須の絵付け。図柄は瑞雲と唐草か。破片の ため詳細不明。	産不詳

調査区東斜面墓地跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00919	施陶 灰 釉捏ね鉢	表土層 破片	底(11.8)	還・並・灰オリーブ・並	内面の轆轤目の単位は細かい。見込みに目跡が残 る。	産不詳
10-00920	施陶 灰 釉仏飯器	表土層 完形	口6.8・高5.6・底3.8	還・並・灰白・並・夾雑物微	脚部下半部分は露体。基部は回転篋削りを施す。 器厚は極薄い。	産不詳
10-00921	磁器 急須	表土層 完形	幅11.9 高6.6	還・締・乳白・密	底部は上げ底。注ぎ口の先端の一部を欠損する。	産不詳
10-00922	磁器 猪口	表土層 完形	口5.4・高3.4・底2.2	還・締・乳白・密	絵付けは無い素文。	産不詳
10-00923	磁器 湯呑	表土層 1/2残	口7.1・高4.7・底3.0	還・締・乳白・密	口縁部中位の表裏面に具須による絵付け。図柄は 不詳。	産不詳
10-00924	磁器 猪口	表土層 完形	口7.1・高3.1・底2.6	還・締・乳白・密	赤絵付け。口唇部から2単位で菊花文を赤絵付け、 間に銅釉で宝珠(?)を描く。	産不詳

第2節 発見された遺構・遺物

10-00925	磁器 煙草ボン	表土層 破片	□(12.2)	還・締・乳白・密	口唇部は平坦で、絵付けを施す。具須に依る絵付け。図柄は松と雲か。詳細不詳。	産不詳
10-00926	絵付磁器 飯碗	表土層 完形	□11.5・高5.9・底3.9	還・締・乳白・密	左右に銅軸で瓢箪を型吹きし、中央に鉄軸で瓢箪を描く。10-00927「夫婦茶碗」か。	産不詳
10-00927	絵付磁器 飯碗	表土層 完形	□11.5・高6.0・底3.9	還・締・乳白・密		産不詳
10-00928	絵付磁器 飯碗	表土層 完形	□11.6・高5.8・底4.2	還・締・乳白・密	銅軸で花を圖案化した意匠と、黒軸の木の葉を交互に型押により施文する。	産不詳
10-00929	絵付磁器 飯碗	表土層 1/3残	□(12.0)	還・締・乳白・密	銅版染付け。菊をベロ藍に、葉を銅軸で施文する。	産不詳
10-00930	絵付磁器 飯碗	表土層 完形	□12.2・高4.9・底4.2	還・締・乳白・密	印版染付け。外面に微塵唐草。内面口唇部から環珞文を垂下させる。	産不詳
10-00931	染付磁器 飯碗	表土層 完形	□11.5・高4.2・底3.6	還・締・乳白・密	印版染付け。外面に微塵唐草。内面口唇部から環珞文を垂下させ、見込みに菊と微塵唐草を施す。	産不詳
10-00932	染付磁器 飯碗	表土層 完形	□11.5・高4.2・底3.6	還・締・乳白・密	外面に笹の葉を絵付け、見込みに「寿」を描く。	産不詳
10-00933	染付磁器 広東碗	表土層 完形	□10.7・高5.7・底4.1	還・締・乳白・密	外面に絵付けを施すが、模様部分の残りが少ないため、意匠は不詳。	産不詳
10-00934	染付磁器 飯碗	表土層 完形	□11.2・高6.6・底6.0	還・締・乳白・密	外面に竹を描く。	産不詳

第1号古墳出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00935 147	土師器 壺	As-C直上 完形	□21.4・頸13.2・胴最32.4・高47.5・底14.7	酸・並・橙・やや粗・粗砂粒・透明 鉍物粒子・黒色鉍物粒子・軽石	底部は厚く焼成後の穿孔。胴中に最大径を有し、口縁部は「く」の字に立ち上がる。胴下半は横位の篋撫でを施す。肩部は縦位に刷毛撫でを施した後、11本一単位の波状文・簾状文を施文する。口縁部内外面は横位の研磨を施す。外面は赤色顔料塗彩を施す。	安中市近郊の粘土か
10-00936 148	土師器 直口壺	覆土内 破片	□6.3・高7.6・底4.4	酸・硬・鈍橙・密・白色粒子	穿孔は焼成後。やや扁平気味の胴部に、短く口縁部は立ち上がる。胴部は横位の刷毛撫でを施す。	産不詳
10-00937 148	土師器 壺	As-C直上 完形	胴最(14.4)	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉍物粒子	扁平気味の胴の肩部に多条LR原体を2段に施文する。外面は赤色顔料塗彩を施す。	産不詳
10-00938 148	土師器 壺	覆土内 1/4残	□(10.0)・頸(6.6)・胴(17.2)	酸・並・鈍褐・粗・白色鉍物粒子	内面は横位の篋撫で。外器面全体に刷毛撫でを施す。外面・口縁部内面に赤色顔料塗彩を施す。	産不詳
10-00939 148	土師器 壺	覆土内 破片	□(11.4)・頸(9.4)・胴(19.0)	酸・並・鈍橙・並赤褐色粒子・透明 鉍物粒子・黒色鉍物粒子・細礫	丸みの強い胴部に2段口縁が立ち上がる。外面・口縁部内面に研磨・赤色顔料塗彩を施す。	産不詳
10-00940 148	土師器 壺	溝底直上 層部分欠	□19.2・頸12.0・胴27.4・高26.6・底9.1	酸・並・鈍橙・並・白色粒子・黒色 鉍物粒子	扁平気味の胴部は、横位の刷毛撫で。頸部周辺縦位刷毛撫でを消すように横位の撫で。口縁部は「く」の字状に立ち上がる。内面は横位の篋撫で。外面に赤色顔料塗彩を施す。底部は焼成後穿孔。	産不詳
10-00941 147	土師器 壺	As-C直上 完形	□21.6頸12.2胴35.3 高41.6底12.2	酸・並・鈍黄橙・やや粗・粗砂粒・ 透明鉍物粒子・黒色鉍物粒子・軽石	やや下膨れ気味の胴部から、「く」の字状に複合口縁が外反して立ち上がる。胴・口縁部外面は、横位の刷毛撫で後縦位に研磨を施す。内面は横位の篋撫で後、口縁部は横位に研磨を施す。外面は赤色顔料塗彩を施す。	安中市近郊の粘土か
10-00942 148	土師器 壺	覆土内 破片	胴最(32.2)	酸・並・鈍褐・並・細粒砂・黒色鉍 物粒子	やや胴部の最大径の位置が高い。外面は小単位の篋撫でを施す。内面は横位を基本にする篋撫で。	産不詳
10-00943 148	土師器 壺	覆土内 破片	底7.4	酸・並・鈍明褐・並・細粒礫・白色 鉍物粒子	外面は斜位の研磨を施す。内面は横位の研磨を施す。	産不詳
10-00944 148	土師器 壺	覆土内 破片	底3.8	酸・並・暗茶褐・並・黒色鉍物粒子	底面はやや上げ底。外面は縦位の研磨を施す。内面は螺旋状に篋小口での撫でを施す。	産不詳
10-00945 148	土師器 壺	覆土内 破片	底8.4	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・透 明鉍物粒子	球形胴か。立ち上がりの丸みは強い。外面は縦位の刷毛撫でを施す。内面は風化が顕著。	産不詳

東斜面石組み遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00946	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	口厚1.3 底厚0.5	還・軟・黒褐・並・黒色鉍物粒子透 明鉍物粒子	型作り。口縁部は肥厚する。強い燻し焼成。底面にコンクリートが付着する。	産不詳
10-00947	焼締陶器 土管	覆土内 破片	底(18.5)	酸・硬・鈍橙・粗・軽石	轆轤成整形右回転。被熱している可能性がある。	産不詳
10-00948	石製品 硯	覆土内 部分欠損	長12.3・幅5.4・厚2.0	頁岩	陸部の中央が使用に伴い窪んでいる。裏面は擦痕と「川久」を刻書する。	

第145号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00949 149	須恵器 埴	底面直上 2/3残	□17.3・高7.4・底10.5	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。腰部は回転篋削り。体・口縁部直線的。底部は回転篋起こし。轆轤右回転成整形。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

第166号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-00950 149	土師器 甕	底面直上 層 破片	口(24.0) 頸(21.6)	酸・並・鈍赤褐・並・細粒砂	形状・技法等の特徴	器厚は薄い。球形胴を呈する。頸部より下位は横位の篋削り。口縁部に粘土の接合痕。 藤岡産

第198号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-00951 149	須恵器 蓋	覆土内 1/2残	摘3.8・高3.3・端12.2	還・硬・灰・並・白色粒子・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成形(右回転)。	秋間産
10-00952 149	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口11.6・高3.8・底6.6	還・硬・灰白・並・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00953 149	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.2)・高3.89・底(6.4)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00954 149	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口12.8・高4.3・底7.0	還・硬・外-黒灰・内-灰白・並・夾雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00955 149	須恵器 壺	覆土内 1/2残	口14.8・高8.4・底9.0	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形、付高台。	秋間産
10-00956 149	須恵器 広口瓶か	覆土内 破片	厚0.8 底(15.6)	還・硬・灰・並・白色鉾物粒子	紐作り叩き整形か。器内面に宛具痕が認められる。後轆轤成形(右回転)。	秋間産
10-00957	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.0	還・締・暗灰・並・高温石英	紐作り後叩き整形。器外面は平行。器内面は扇状の圧痕が残る。	秋間産

第205号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-00958 149	土師器 坏	覆土内 完形	口11.4・高3.2・底8.6	酸・並・橙・並・黒色鉾物粒子	型作り。底部は篋削り、器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-00959 149	土師器 台付甕	覆土内 完形	口11.6・高14.9・底8.6	酸・並・鈍黄・並・細粒砂・白色粒子・黒色鉾物粒子	脚は開く。肩が張り、「く」の字状に口縁部が外反して立ち上がる。	吉井・藤岡産
10-00960 149	須恵器 蓋	覆土内 部分欠損	摘4.2・高4.1・端16.8	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	環状摘。端部欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成形(右回転)。	秋間産
10-00961 149	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口12.6・高2.9・底7.4	還・締・灰・並・黒色粒子・白色粒子 シルト粗粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00962 149	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口13.2・高2.9・底8.6	還・締・灰・並・黒色粒子	焼成に因る変形が顕著。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00963 149	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	口13.5・高3.3・底7.8	還・締・灰・並・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00964	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.8)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00965	須恵器 瓶	覆土内 破片	頸(7.6)	還・締・灰・並・黒色粒子・白色粒子	外傾しながら立ち上がる。紐作り後轆轤成形(右回転)。	秋間産
20-00074	礫器	覆土内 完形	長20.6・幅8.6・厚5.9 ・重1,296g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕等は認められない。	

第213号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-00966 149	土師器 坏	覆土内 2/3残	口11.6 底10.0	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子	器形は丸い。型作り。底部は篋削り、器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-00967 149	土師器 坏	覆土内 1/2残	口(12.0)・高3.2・底(9.6)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子	立ち上がりが張る。型作り。底部は篋削り、器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	藤岡産

第318号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-00968	須恵器 大甕	底面直上 層 破片	厚1.3	還・締・灰・並・白色微粒子・白色鉾物粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は素文。器内面横撫での再整形。	秋間産
10-00969 149	土師器 坏	底面直上 層2/3残	口12.7・高3.3・底9.2	酸・並・明褐・並・黒色鉾物粒子・微粒長石	型作り。底部は篋削り、器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-00970	須恵器 蓋	底面直上 層 破片	端(16.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成形(右回転)。	秋間産
10-00971	須恵器 皿	底面直上 層 破片	口(16.2)	還・並・灰・並・黒色粒子	轆轤成形右回転。口唇部は平坦。脚部を欠損する。	秋間産
10-00972	須恵器 横瓶	底面直上 層 破片	厚1.0	還・並・外-黒灰・内-灰白・並・黒色粒子(器外面の黒色燻し焼成)	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は青海波文か。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

第737号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00973	須恵器 坏	覆土内 破片	□(11.4)・高3.6・底 (8.2)	還・締・灰・並・白色粒子・	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、底部は手持ち篋削り。	秋間産
10-00974	須恵器 坏か	覆土内 破片	□(16.6)	還・締・外・黒灰・内・白灰・並・白 色粒子・(器外面の黒色燻し焼成)	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は 外反する。轆轤右回転成整形、高台欠損。	秋間産
10-00975 150	須恵器 蓋	覆土内 1/2残	摘3.2・高3.4・端 (18.6)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	摘部は環状。端部は折り返し、天井部は轆轤回転 篋削りを施す。重ね焼きの痕跡がある。	秋間産
10-00976	須恵器 蓋	覆土内 1/3残	摘4.2	還・硬・灰・並・黒色粒子	環状摘。端部欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施 す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第747号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00977 150	須恵器 坏	底面直上 層3/4残	□12.5・高4.4・底6.7	酸・並・鈍橙・並・軽石・黒色鉱物 粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成整形、付高台。見込み撫で整形。	産不詳
10-00978 150	須恵器 坏	底面直上 層一部欠	□14.0・高5.1・底7.4	酸・並・浅黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色鉱物粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成整形、付高台。	産不詳

第748号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00979 150	須恵器 坏	底面直上 層完形	□10.9・高3.8・底4.4	酸・並・鈍赤褐・並・黒色鉱物粒子・ 赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反。轆 轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡産
10-00980	須恵器 坏	底面直上 層破片	□(12.8)	酸・並・黒褐・並・シルト質	体・口縁部は直線的。口唇部は短く外反。轆轤右回 転成整形、底部は回転糸切り。	藤岡産
10-00981	須恵器 坏	底面直上 層1/4残	□13.2・高3.4・底5.9	酸・並・灰黄・並・黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00982 150	須恵器 坏	底面直上 層1/2残	□12.6・高4.5・底7.1	還・並・灰・並・高温石英・岩片多 い	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳
10-00983 150	須恵器 坏	底面直上 層完形	□13.9・高6.8・底8.5	酸・硬・橙・並・夾雑物微・比重重 い	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轆轤右回転成整形、長めの付高台。	産不詳
10-00984 150	須恵器 坏	底面直上 層2/3残	□15.1・高6.3・底6.8	酸・硬・鈍橙・並・白色鉱物粒子・ チャート片	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	吉井産か
10-00985 150・159	須恵器 坏	底面直上 層一部欠	□12.8・高4.6・底7.1	酸・並・鈍黄橙・並・微粒砂・鉄滓 片を含む	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや 外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	吉井産か 墨書-28
10-00986 150	須恵器 坏	底面直上 層2/3残	□14.8・坏高5.2・坏 底6.6	還・並・灰・並・シルト質	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轆轤右回転成整形、高台欠損。	産不詳
10-00987 150	須恵器 羽釜	底面直上 層破片	底5.8	中・軟・黄灰・並・シルト粗粒子	器外面は斜位・横位の篋削り。器内面は轆轤目が 顕著。紐作り後轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-00988 150	須恵器 坏	底面直上 層破片	底7.7	中・並・灰黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。	秋間産か

第767号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00989 150	須恵器 坏	覆土内 3/4残	□12.3・高4.3・底7.5	還・並・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的、口唇部は外反する。轆轤右回 転成整形、底部は回転篋削りこし。	秋間産
10-00990 150	須恵器 坏	覆土内 完形	□14.4・高7.5・底8.9	還・硬・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。腰部は回転 篋削り。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産

第955号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00991 150	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□(13.0)・高3.5・底 7.6	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00992	須恵器 坏か	覆土内 破片	□(12.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は外反する。 轆轤右回転成整形。	秋間産
10-00993	須恵器 坏か	覆土内 破片	□(14.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤 右回転成整形。	秋間産

第795号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00994	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	□12.4・高4.4・底7.0	還・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は厚い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00995	須恵器 広口瓶	覆土内 破片	頸(12.4) 厚0.6~1.1	還・硬・灰・並・黒色粒子	紐作り後轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

第819号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00996 150・159	須恵器 内黒 堿	覆土内 2/3残	口15.5・高6.2・底8.8	酸・並・橙・並・黒色鉍物粒子	形状・技法等の特徴	産不詳 墨書-29

第824号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00997 150	須恵器 坏	覆土内 3/4残	口10.1・高2.9・底5.4	酸・並・鈍黄・並・細粒砂	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-00998 150	須恵器 堿	覆土内 3/4残	口13.6・高5.1・底6.7	酸・並・鈍橙・並・細粒砂	体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳

第872号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00999 150	須恵器 坏	底面直上 完形	口12.2・高4.0・底7.4	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第874号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00075 151	石製品 紡錘車	底面直上 完形	上径4.2・下径3.2・ 厚1.7・孔径0.85・重 60g	蛇紋岩	上面を著しく欠損する。上面には、「女・母・母」の線刻文字が認められる。	

第999号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01000 151	弥生式時 壺	底面直上 破片	口(12.0) 胴最(15.0)	酸・並・粗・底面直上層・黒色鉍物粒子・白色粒子	口縁部は内傾する。菱形の沈線区画内に充填縄文LRを施す。	産不詳
10-01001 151	弥生式時 鉢	底面直上 破片	頸8.8 胴最(24.8)	酸・粗・鈍黄橙・並・白色粒子・透明鉍物粒子	貴兄はやや扁平。肩上位に6・4条の横線を施し、下段に列点刺突文を施す。間隙にLR原体を横転。	産不詳
10-01002 151	弥生式時 壺	底面直上 破片	胴最(24.6) 底7.8	酸・並・浅黄橙・並・細礫・黒色鉍物粒子	肩部に4条、頸部に3条の沈線。沈線間に縄文LR原体を施し、山形の沈線を施す。下半は竹管条痕。	産不詳
10-01003 151	弥生式時 壺	底面直上 破片	胴最(24.6) 底7.8	酸・並・鈍褐・並・白色粒子・黒色鉍物粒子・透明鉍物粒子	胴下半部の丸味を帯びる。器外面は縦横の刷毛撫でを施す。	産不詳

第991号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01004	弥生式時 壺	覆土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄褐・並・シルト粗粒子	4条本一単位の状痕文を施す。	産不詳
10-01005	須恵器 堿	覆土内 破片	坏底(4.6)	中・並・灰黄・並・黒色鉍物粒子	轆轤右回転成整形、高台欠損。	産不詳

第993号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01006	須恵器黒色土器坏	覆土内 破片	底(5.2)	還・並・黒灰・並・透明鉍物粒子	器厚は薄い。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳
10-01007	須恵器 堿	覆土内 破片	底(6.0)	酸・軟・鈍褐・粗・黒色鉍物粒子・透明鉍物粒子	轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳

第994号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01008	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.0)	還・軟・灰・並・細粒砂	やや丸味帯びている。轆轤右回転成整形。	秋間産

第995号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01009	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.6)	酸・軟・鈍黄橙・並・細粒砂・黒色鉍物粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、高台欠損。	産不詳
10-01010	須恵器 堿	覆土内 破片	底(6.6)	還・軟・灰・並・黒色鉍物粒子	轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か

第2節 発見された遺構・遺物

第996号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01011	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(13.2)	還・並・灰・並・シルト粗粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成整形。	秋間産
10-01012	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。腰部は棚落ち状態で丸味が強い。轆 轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第1号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01013	須恵器 塊	覆土内 破片	底(6.6)	酸・軟・浅黄・粗・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01014	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(23.6)・鈔(25.0) ・胴(26.0)	還・硬・灰・粗・軽石・チャート片	胴上半部・口縁部は内湾する。鈔は貼り付け。轆 轤成整形右回転。	秋間産か

第4・5・6号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01015	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。糸の撚り は細かい。	秋間産

第6・7号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01016	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(9.3)・高2.7・底 (6.0)	還・並・灰白・細・黒色粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は 回転糸切り。糸の撚りは細かい。	秋間産
10-01017	須恵器 塊か	覆土内 1/3残	口(17.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上が る。轆轤右回転成整形。	秋間産
10-01018	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底(6.0)	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海系

第8・9号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01019	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(12.0)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。、口唇部は短く外反す る。轆轤右回転成整形。	秋間産
10-01020	須恵器 塊	覆土内 破片	底(7.2)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び、立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-01021	須恵器 塊	覆土内 1/3残	底7.9	還・並・灰・粗・白色鉱物粒子	轆轤右回転成整形、付高台。見込みが摩滅する。	秋間産

第11号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01022	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(12.1)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形。	秋間産
10-01023	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.4)	還・締・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転篋起 こし。	秋間産

第12号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01024	須恵器 塊か	1/4残	口(16.2)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上が る。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	

第84号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01025	土師器 甕	覆土内 破片	頸(18.0)	酸・並・灰黄褐・並・黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。頸部に粘土の接合痕を残す。頸 部直下は横位の篋削り。	非吉井・ 藤岡産
10-01026	須恵器 坏	覆土内 破片	底(8.2)	還・軟・灰・並・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切 り。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

第98号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01027	須恵器 坏	覆土内 1/2残	口(12.4)・高4.2・底 (7.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的。口唇部は外反する。轆轤右 回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第131号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01028	土師器 甕	覆土内 破片	頸(12.0)	酸・並・暗褐・粗・黒色鉾物粒子	口縁部は外反する。頸部直下は横位の篋削り。器 内面は、横位の篋撫で。	吉井・藤 岡産

第141号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01029	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(8.2)	酸・並・鈍赤褐・並・黒色鉾物粒子・ (藤岡畑土)	型作り。底部は篋削り、器内面・口縁部は横撫で、 体部に型膚を残す。	藤岡産
10-01030	須恵器 坏	覆土内 破片	底(7.0)	還・硬・外-黒灰・内-灰白・細・黒 色粒子(器外面の黒色燻し焼成)	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切 り。	秋間産
10-01031	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.4)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切 り。	秋間産
10-01032	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.1	還・締・灰・並・白色粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛 て具は青海波文。	秋間産

第142号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01033	須恵器 坏	覆土内 破片	底(7.0)	還・並・外-黒灰・内-灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切 り。	秋間産

第143号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01034	土師器 坏	覆土内 破片	口(11.2)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子・	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を 残す。	吉井・藤 岡産
10-01035	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.1) 底(10.2)	酸・並・鈍褐・並・黒色鉾物粒子(藤 岡畑土)	型作り。底部は篋削り、器内面・口縁部は横撫で、 体部に型膚を残す。	藤岡産
10-01036	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	中・並・灰黄褐・並・	器厚は薄い。轆轤成整形右回転。	秋間産

第146号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01037 151	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口(11.6)・高3.6・底 6.5	還・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01038	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(13.0)・高4.2・底 (8.0)	還・硬・外-黒灰・内-灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、 底部は回転糸切り。	秋間産

第149号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01039	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.2)	還・締・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反す る。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01040	須恵器 壺	覆土内 破片	口(15.2)	還・締・灰・粗・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01041	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(21.2)	還・硬・灰・並・白色粒子	器厚は薄い。端部は折り返し、轆轤成整形(右回 転)。	秋間産

第152号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01042 151	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(13.8)・高3.1・底 (6.6)	還・並・外-黒灰・内-灰白・細・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	棚落ちか。腰部が弛む状態。口縁部は外反。轆轤 右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

第156号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01043	土師器 坏	覆土内 破片	口(11.8)	酸・軟・鈍褐・並・黒色鉱物粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01044	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(15.2)	還・軟・外・黒灰・内・灰白・やや粗(器外面の黒色燻し焼成)	上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01045	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.6)・高3.3・底(6.8)	還・締・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第159号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01046	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	酸・軟・鈍赤褐・並・黒色鉱物粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産

第160号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01047	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	器厚はやや厚い。口唇部は短く外反する。	秋間産

第172号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01048	須恵器 蓋	覆土内 破片	摘2.0	還・硬・灰・並・黒色粒子	端部欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第181号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01049	須恵器 蓋	覆土内 破片	摘3.4	還・硬・灰白・並・白色粒子	環状摘。天井部・端部欠損。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01050	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(16.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	上半部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01051	須恵器 内黒塊	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・黒褐・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。	秋間産

第192号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01052	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	酸・硬・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子(吉井山土)	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体口縁部直下に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01053	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.0)	還・締・灰・並・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01054	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.6)	還・並・灰・並・シルト粗粒子	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01055	須恵器 坏	覆土内 破片	底(8.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第185号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01056	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	還・硬・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形、底部は回転篋起こし。	秋間産

第187号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01057	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(16.8)	還・並・灰・並・夾雑物微	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第189号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01058	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.5	還・並・灰・並・白色粒子	轆轤成整形右回転。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

第192号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01059	須恵器 坏	覆土内 破片	□(12.8)	還・並・灰・並・白色粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋間産 蛇喰か
10-01060	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.5	還・並・白灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第206号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01061 159	土師器 坏	覆土内 破片	□(11.0)	酸・硬・鈍橙・並・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。口縁部に墨書を施す。	吉・藤岡 墨書-30
10-01062	須恵器 皿	覆土内 破片	□(13.6)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的。轆轤成整形右回転。体部以下を欠損する。	秋間産

第209号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01063	須恵器 大甕か	覆土内 破片	□(44.0)	中・並・灰黄・並・赤褐色粒子	口縁下半は直立し上半部は外反する。	秋間産

第210号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01064	須恵器 坏	覆土内 破片	□(11.3)・高3.9・底 (7.0)	還・締・灰・並・シルト粗粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第211号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01065	須恵器 坏	覆土内 破片	□(13.2)・高3.8・底 (8.1)	還・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第218号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01066	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.4	還・並・灰・並・白色鉾物粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋間産

第221号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01067	土師器 甕	覆土内 破片	□(20.2) 頸(18.4)	酸・並・鈍褐・並・黒色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。頸部に粘土の接合痕を残す。頸部直下は横位の篋削り。	吉井・藤岡 産
10-01068	土師器 甕	覆土内 破片	底(4.0)	酸・並・橙・並・黒色鉾物粒子・赤褐色粒子	底面欠損。器外面は不定方向の]篋削り。器内面は横位の篋撫で。	吉井・藤岡 産
10-01069	須恵器 内黒 塊	覆土内 破片	底(6.4)	酸・軟・浅黄橙・赤褐色粒子	轆轤成整形後、器内面に研磨を施す。焼成時器内面を燻す。	産不詳
10-01070	須恵器 坏	覆土内 破片	□(13.4)・高4.6・底 (8.0)	還・並・黒色鉾物粒子・並・黒色鉾物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01071	須恵器 皿	覆土内 破片	□(13.4)	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産

第227号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01072	須恵器 塊か	覆土内 破片	厚0.4	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形。	秋間産

第230号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01073	須恵器 塊	覆土内 破片	底(7.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

第235号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01074	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.4	還・硬・灰・並・黒色粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は青海波文。	秋間産

第253号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01075	須恵器 蓋	覆土内 破片	摘3.6	還・硬・灰・並・夾雑物微	環状摘。天井部以下を欠損する。轆轤成整形右回転。	秋間産

第309号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01076	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.4	還・硬・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。直線的に立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01077	須恵器 甕か	覆土内 破片	厚1.0	還・並・灰・並・シルト粗粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は素文。	秋間産

第667号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01078	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底(4.6)	酸・並・浅黄橙・並・夾雑物微	立ち上がりは丸味を帯びる。器外面は縦位の篋削り。器内面は掻きあげ撫でを施す。	秋間産
10-01079	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	厚0.3	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海系
10-01080	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.7)	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01081	須恵器 壺か	覆土内 破片	厚0.8	還・並・灰・並・白色粒子	丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋間産

第668号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01082	須恵器 甕か	覆土内 破片	厚1.0	還・並・灰黄・並・夾雑物微	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は素文。	秋間産

第759号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01083	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚0.9	還・硬・灰・並・黒色粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。3本一単位の波状文を巡らす。	秋間産

第761号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01084	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.6)	還・並・灰白・並・夾雑物微	轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第763号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01085	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.2)	酸・並・鈍赤褐・並・白色粒子	口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。外稜は強い。型作り成形。	産不詳
10-01086	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(17.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01087	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.4)	還・硬・灰・並・黒色粒子	腰部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転篋起し。	秋間産
10-01088	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.1	還・硬・灰・並・白色粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は素文。器内外面撫で調整。	秋間産

第776号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状 ・ 技 法 等 の 特 徴	摘 要
10-01089	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-01090	須恵器 瓶か	覆土内 破片	厚0.9	還・締・灰・並・シルト粗粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は素文か。	秋間産
----------	-----------	-----------	------	----------------	-------------------------------	-----

第793号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01091	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回転成形。	秋間産
10-01092	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.6	還・締。灰白・密夾雑物微	轆轤成形(右回転)。施釉方法は不明。	東海系

第796号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01093	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.4)・高3.2・底 (7.0)	還・並・外-黒灰・内-灰白・並・白 色微粒子(外面黒色燻し焼成)	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01094	須恵器 甕	覆土内 1/3残	厚0.6	中・並・灰黄・並・夾雑物微	頸部は横撫で、頸部直下は縦位の篋撫で。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産

第797号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01095	須恵器 瓶	覆土内 1/4残	厚0.7	還・並・灰白・並・白色微粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は青海波文か。	秋間産

第825号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01096	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.2)	還・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び、口縁部直線的。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01097	須恵器 坏	覆土内 1/3残	底7.8	還・並・灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産

第827号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01098 151	須恵器 瓶	覆土内 1/4残	底7.6 胴最14.6	中・並・灰黄・極粗・粗砂粒	紐作り後轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産

第836号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01099	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚1.5	酸・並・鈍黄橙・並・黒色粒子	粘土板からの立ち上げか。底面は篋撫で。見込みは、立ち上がりの整形痕が廻る。	秋間産
10-01100	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底(9.0)	中・並・灰黄・並・白色微粒子	立ち上がり部分が肥厚する。器外面は縦位の篋削り。器内面は轆轤整形。	産不詳

第837号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
40-00113	鉄滓	覆土内 完形	長10.1・幅6.9・厚3.1		碗状滓。隅丸状の形に認められる。	

第840号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01101	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	厚0.35	還・締・灰白・密・夾雑物微	器厚は薄い。轆轤成形(右回転)。施釉方法は不明。	東海系

第847号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形 状・技法等の特徴	摘 要
10-01102	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.8)	還・締・灰・並・黒色粒子	腰部・体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01103	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.2)	中・並・灰黄・並・黒色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。轆轤成形右回転。	産不詳

第2節 発見された遺構・遺物

10-01104	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.6	還・並・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は青海波文。	秋間産
----------	----------	-----------	------	--------------	--------------------------------------	-----

第849号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01105	須恵器 坏	覆土内 破片	底(5.6)	還・並・灰白・並・夾雑物微	腰部・体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第861号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01106	須恵器 広口瓶	覆土内 破片	口(30.0) 頸(19.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	強く外反する口縁部。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産

第875号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01107	須恵器 塊か	覆土内 破片	口(14.8)	還・並・褐灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産

第877号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01108	須恵器 盤	覆土内 破片	厚1.0	還・並・灰・並・白色粒子	高台・体・口縁部を欠損する。轆轤成整形右回転。	秋間産

第878号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01109	須恵器 坏	覆土内 破片	底(5.0)	還・並・灰・並・白色粒子	腰部・体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第891号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01110	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(12.0)	還・並・灰白・並・白色粒子	腰部・体部は丸味は強い。口唇部はやや外反する。器内外面吸炭。轆轤成整形右回転。	産不詳
10-01111	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
40-00114	鉄滓	覆土内 完形	長12.8・幅10.7・厚3.4		碗状滓	
40-00115	鉄滓	覆土内 完形	長9.5・幅9.4・厚3.5		碗状滓	

第900号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01112	須恵器 蓋	覆土内 破片	天(9.4)	中・軟・黄灰・並・夾雑物微	摘部・端部を欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01113	須恵器 塊	覆土内 破片	底(9.8)	還・並・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01114	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底(7.7)	酸・軟・鈍橙・並・白色粒子	器面が摩滅する。器外面は縦位の篋削り。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産か
10-01115	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚0.8	還・硬・灰・並・白色粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は不詳。	秋間か乗 附系

第954号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01116	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(15.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01117	須恵器 蓋	覆土内 破片	厚0.6	還・並・灰白・並・夾雑物微	摘部・端部を欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

第959号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01118	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.5)・高4.1・底 (6.8)	還元・並・外-黒灰・内-灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01119	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.6)	還元・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第961号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01120	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.8)	還元・締・灰・並・黒色粒子	立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産

第962号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01121	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底(4.8)	酸・並・黒褐・並・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	器外面は縦位の寛削り。器内面は横位の寛撫で。	吉井・藤岡産
10-01122	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(12.0)	還元・硬・灰・並・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01123	須恵器 坏	覆土内 破片	口(10.0)	還元・硬・褐灰・並・白色微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋間産
10-01124	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	還元・硬・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋間産

第964号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01125	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(14.8)	還元・並・外-灰白・内-重ね以外黒灰・ 並・夾雑物微	摘端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削りを施す。轆轤成整形(右回転)。有機質が付着する。	秋間産

第965号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01126	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(14.2)	還元・並・灰白・並・夾雑物微	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01127	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(15.2)	還元・硬・外-黒灰・内-灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第967号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01128	須恵器 坏	覆土内 1/4残	口(12.2)・高4.0・底 (7.2)	還元・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

第968号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01129	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(15.0)	還元・硬・灰・並・白色微粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第970号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01130	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(13.2)	還元・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転寛削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第972号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01131	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.2)	還元・並・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

第981号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01132	土師器 環	覆土内 破片	口(11.2)	酸・並・黄橙・微粒砂	丸みは強い。型作り。器内面・口縁部は横撫で、 体部に型膚を残す。	産不詳
10-01133	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	還・並・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形、底部は回転突起こし。	秋間産
10-01134	須恵器 蓋	覆土内 破片	厚0.5	還・並・灰白・並・白色微粒子	上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形 (右回転)。	秋間産

第990号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01135	須恵器 甕	覆土内 破片	頸(17.6)	酸・並・鈍褐・並シルト質	器厚は薄い。二次整形痕は認められない。紐作り 後轆轤成整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-01136	須恵器 甕	覆土内 破片	底(6.2)	還・並・灰白・軟・長石少	体部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産 秋間産

第997号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01137	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	腰部は張る。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切 り。	秋間産

第998号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01138	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.25	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。轆轤成整形右回転。	秋間産

北東斜面号土坑出土遺物群

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01139	須恵器 甕	覆土内 完形	口12.4・高4.3・底5.8	酸・並・黄灰・並・微粒雲母・白色 鉍物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は外反 する。轆轤右回転成整形、付高台。	吉井・藤 岡産
10-01140	須恵器 甕	覆土内 2/3残	口13.4・坏高4.5・坏 底7.0	中・軟・黄灰・並白色粒子・高温石 英・	体部は丸味を帯び、口縁部は緩やかに外反する。 轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産か
10-01141	須恵器 甕	覆土内 破片	底(6.6)	還・並・灰・並・白色鉍物粒子	体部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、 付高台。	秋間産か
10-01142	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	還・硬・灰・並・白色微粒子	器内外面に有機質が付着する。轆轤右回転成整形、 底部は回転糸切り。	秋間産
10-01143	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.35	中・並・灰黄・並・高温石英・黒色 鉍物粒子	丸味を帯びた体部片。器外面墨痕か。轆轤成整形 右回転。	産不詳
10-01144	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	還・軟・灰・並・黒色粒子	直線的に立ち上がる口縁部。器内外面に有機質が 付着する。	秋間産
10-01145	須恵器 瓶	覆土内 破片	底(12.0)	還・硬・灰白・並・白色微粒子	紐作り後轆轤成整形(右回転)。付高台。器内面はコ テによる轆轤整形。	秋間産
10-01146	須恵器 把手付瓶	覆土内 破片	厚0.7	還・硬・灰白・並・白色微粒子	丸味の強い瓶。肩部に環状把手の接合痕が認めら れる。紐作り後轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01147	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(13.0)	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海系
10-01148	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	口(12.6)	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不分明。	東海系
10-01149	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口13.0	還・締・灰白・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不分明。	東海系
10-01150	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	口(14.6)・高2.9・底 (8.0)	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海系
10-01151	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(17.4)	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は刷毛塗り。	東海系
10-01152	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	厚0.6	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉方法は不分明。	東海系
10-01153	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	口(4.0)	還・締・白灰・密・夾雑物微	轆轤成整形(右回転)。施釉は浸掛けか。	東海系
40-00116	鉄器 釘	覆土内 1/2残か	残存長6.8・幅0.5・ 重・20.0g		頭部の潰しは強くほぼ直角に曲げている。	
40-00117	鉄滓	覆土内 1/2残か	残存長8.3・幅6.3・ 厚3.3		碗状滓。表面は凹凸がやや激しい。	

第6章 中里見原遺跡

第1号井戸状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01154	須恵器 塊	覆土内上 層 完形	口15.9・高5.5・底8.5	還元・並・灰・細・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01155	須恵器 塊	覆土内上 層1/3残	口(16.2)・高5.5・底8.1	還元・並・灰・細・粗黒色粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産

遺構外出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-01156	土製品 不詳	15-G-20 表土部欠	幅3.8・高1.6	酸・並・橙・並・微粒雲母	型作り。6面に交互に肋骨・編物状の模様。メンコと思われるが、詳細不分明。	藤岡産
10-01157	土製品 泥人形	表採 完形	幅1.75・高2.45・奥1.6	酸・並・橙・並・微粒雲母	兎が羽織を着込んだ正座姿。中央に乾燥時の先細りの棒の穴が認められる。	藤岡産
10-01158	土製品 泥面子	表採 完形	幅1.9 高1.8	酸・並・橙・並・微粒雲母	「咩」の形相か憤怒の形相か。	自性寺焼か
10-01159	施釉陶器 小鉢か	15-K-15 表土破片	厚0.6	還元・締・灰・並・夾雑物微	器外面側は透明釉、器内面は天目釉を施す。下半に露胎。	自性寺焼か
10-01160	施釉陶器 透明釉鉢	15-K-15 表土破片	厚0.7	還元・締・白灰・並・夾雑物微	器内外面に透明釉を施す。轆轤成整形右回転。	自性寺焼か
10-01161	施釉陶器 透明釉鉢	道東 表土破片	口(20.0) 胴(19.4)	還元・締・白灰・並・夾雑物微	器内外面に鉄釉を施す。一部に釉ハゼが認められる。轆轤成整形右回転。	自性寺焼か
10-01162	焼締陶器 搦鉢	15-P-18 表土破片	底(17.6)	還元・締・白灰・並・夾雑物微	器内外面に鉄釉を施す。詳細不分明。	自性寺焼か
10-01163	焼締陶器 搦鉢	調査区内 表土破片	底(19.0)	還元・締・白灰・並・夾雑物微	器内面は摩滅が顕著。底面は轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り後周縁は回転篋削り。	自性寺焼か
10-01164	施釉陶器 灰釉豆皿	道東 表土破片	口(9.0)・高2.2・底(4.2)	還元・締・灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。口縁部上半まで回転篋削りが及ぶ。	産不詳
10-01165	施釉陶器 灰釉豆皿	15-K-7 表土破片	口(10.0) 高3.3か	還元・締・白灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。体部は回転篋削り。	美濃系
10-01166	施釉陶器 天目茶碗	道東 表土破片	底4.4	還元・締・白灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。高台は削り出し。体部は篋削り。	産不詳
10-01167	施釉陶器 灰釉菊皿	道東 表土破片	口((14.6))	還元・締・白灰・並・夾雑物微	型作りにより菊花を表す。	美濃産か
10-01168	施釉陶器 志野鉄絵	道東 表土破片	底(7.0)	還元・締・灰・並・夾雑物微	見込みに鉄絵を施す。破片のため図柄は不分明。白志野。	美濃産か
10-01169	焼締陶器 搦鉢	14-S-18 表土破片	厚1.0+α	還元・締・灰・並・夾雑物微	搦鉢の見込み部分。	産不詳
90-00001	玩具 オハジキ	道西 表土完形	長径2.0・短径1.7・厚0.3	ガラス	表面は亀甲紋の型作り。	
40-00118	喫煙具 雁首	15-L-16 表土破片	残存長5.2・径1.1・重7.3g		日皿部分を欠損する。反りは殆どない。	
40-00119 160	貨幣 銅銭	道東 表土完形	径3.0・重3.0g		「五十銭」銅貨。裏面に「大日本・明治十年・NES・」を刻する。	
40-00120 160	貨幣 銅銭	24区西 表土完形	径2.2・重3.0g		裏面に「大日本・大正八年・」を刻する。	
40-00121 160	貨幣 アルミ貨	25区西 表土完形	径2.1・重14.0g		十銭アルミニウム硬貨。裏面に「大日本・昭和十八年・」を刻する。	
40-00122 160	貨幣 銅銭	26区西 表土完形	径2.3・重1.0g		「寛永通寶」背面は無文。	
40-00123 160	貨幣 銅銭	14-S-7 表土完形	径2.2・重3.0g		「寛永通寶」背面は無文。	
40-00124	貨幣 鉄銭か	26区西 表土完形	径2.3・重2.9g		錆化が顕著。	
40-00125	貨幣 鉄銭か	27区西 表土部欠	径(2.3)・重1.4g		錆化が顕著。	
40-00126	貨幣 鉄銭か	28区西 表土部欠	径(2.3)・重1.3g		錆化が顕著。	

遺構外出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01170	軟質陶器 内耳鍋形	道東 表土破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤整形(左回転)。	安中市近郊
10-01171	施釉陶器 灰釉瓶子	調査区内 表土破片	厚0.6	還元・締・灰・並・黒色粒子	印花文を施すが文様意匠は不詳。	瀬戸産
10-01172	軟質陶器 内耳鍋形	調査区内 表土破片	厚0.8	酸・並・鈍褐・並・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤整形(左回転)。	安中市近郊

遺構外出土遺物(3)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01173	土師器 坏	15区内 表土破片	□(14.6)	酸・並・橙・並・微粒雲母・黒色鉾物粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。体部・口縁部は直線的に屈曲する。	吉井・藤岡産
10-01174	土師器 坏	25-D-E-1 表土破片	□(12.2)	酸・並・鈍黄橙・並白色微粒子・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、底部・体部は篋削り。	吉井・藤岡産
10-01175	土師器 坏	25-Q-2 表土破片	□(11.8)	酸・並・明赤褐・並・微粒雲母・(吉井山土)	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井産
10-01176 152	土師器 坏	25区内 III層部欠	□(12.0)・高3.0・底10.1	酸・並・明赤褐・並・黒色鉾物粒子(吉井山土)	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井産
10-01177	土師器 坏	25-Q-3 表土1/4残	□(12.4) 底(10.2)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01178 152・159	土師器 坏	15-J-18 表土破片	□(12.0) 底(10.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産 墨書-31
10-01179	土師器 坏	25-D-E-1 表土破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01180	土師器 坏	25-R-3 表土破片	□(12.2) 底(10.0)	酸・並・浅黄橙・並・微粒雲母(吉井山土)	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井産
10-01181	土師器 坏	15-S-19 表土破片	□(14.0) 底(12.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01182	土師器 坏	道東 表土破片	□(13.0) 底(7.8)	酸・並・鈍黄褐・並・白色粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01183	土師器 坏	26-D-E-1 表土破片	□(17.2) 底(10.6)	酸・並・橙・並・黒色鉾物粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01184	土師器 坏	15-Q-20 表土破片	□(17.0) 底(13.2)	酸・並・浅黄橙・並・微粒雲母(藤岡畑土)	型作り。器厚は厚い。器内面・口縁部は横撫で、体部は篋削りのシワが顕著。	藤岡産
10-01185	土師器 皿	25-L-3 表土破片	□(16.0) 底(12.4)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、底部・体部は篋削り。	吉井・藤岡産
10-01186 152・159	土師器 坏	1号道跡 表土破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母	底面は篋削り。墨書「□上」。文字は太い。	吉井・藤岡産 墨書-32
10-01187	土師器 坏	25-R-4 表土破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・微粒雲母	底面は篋削り。見込みに螺旋暗文を施す。	吉井・藤岡産

遺構外出土遺物(4)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01188	土師器 坏	14-Q-19 表土破片	□(10.0)	酸・軟・鈍橙・並・黒色鉾物粒子・細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。体部・口縁部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01189	土師器 坏	25-L-3 表土1/4	□(11.0)	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。底部は篋削り。体部・口縁部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01190 152	土師器 坏	24区内 表土破片	厚0.5	酸・軟・鈍黄橙・並・黒色鉾物粒子・細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。体部・口縁部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01191	土師器 坏	15-F-17 表土破片	厚0.6	酸・軟・浅黄橙・並・黒色鉾物粒子・細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。体部・口縁部に型膚を残す。	吉井・藤岡産
10-01192	土師器 内黒坏	25-P-3 表土破片	□(13.6)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子	丸味を帯び立ち上がる。体部・口縁部の器外面は篋削り、器内面は横位の研磨を施す。	産不詳
10-01193	土師器 甕	15-K-16 表土破片	□(21.0) 頸(19.4)	酸・並・明赤褐・並・白色粒子・黒色鉾物粒子	胴部の器厚は薄く、球形を帯びる。口縁部は「コ」の字状口縁に類する」か。	吉井・藤岡産
10-01194	土師器 甕	25区内 表土破片	□(13.6) 頸(10.8)	酸・並・鈍褐・並・微粒雲母・長石	「く」の字状に口縁部が外反。器外面口縁部・頸部は篋削り。器内面は横位の篋撫で。	吉井・藤岡産
10-01195	土師器 甕	道西斜面 表土破片	□(22.2) 頸(21.0)	酸・並・灰黄褐・並・微粒雲母(藤岡畑土)	口縁部は直立気味。胴部は球形。器外面は横位の篋削り。器内面は横位の篋撫で。	藤岡産
10-01196	土師器 内黒甕	26-C-3 表土破片	□(16.2) 頸(14.3)	酸・並・灰オリーブ・並・黒色鉾物粒子・白色粒子(内黒胎土)	口唇部は鋭い。器外面頸部直下は横位の篋削り。器内面は横位の研磨。甕ではなく鉢か。	産不詳
10-01197	土師器 甕	26-A-4 III層破片	□(22.0) 頸(21.2)	酸・並・鈍橙・並・黒色鉾物粒子・白色粒子	口縁部は直立気味。胴部は球形。器外面は横位の篋削り。器内面は塹の篋撫で。	吉井・藤岡産
10-01198	須恵器 甕	第1号道跡 覆土破片	□(19.0)	還(?)・並・灰・並・白色微粒子	器面全面は灰色を呈する。二次焼成とは思われない。	秋間産
10-01199 152	土師器 甕	25-N-1 表土破片	厚0.4~0.25	酸・並・明赤褐・並・白色粒・黒色鉾物粒・微粒雲母(吉井山土)	「く」の字状口縁部。器内外面横位の撫で整形。	吉井・藤岡産か
10-01200	土師器 甕	15-O-18 表土破片	厚0.5	酸・並・鈍褐・並・長石	器外面は手持ちによる篋撫で。詳細不分明。	搬入品か
10-01201	土師器 甕	第1号道跡 覆土破片	□(21.0)	酸・並・鈍赤褐・並・白色微粒子・黒色鉾物粒子(藤岡畑土)	器内面整形は「コ」の字状口縁。口縁部外面は2段の篋撫でを施す。	藤岡産
10-01202	土師器 甕	道東 表土破片	□(17.2) 頸(16.0)	中・軟・黄灰・並・シルト質	口縁部は短く外反する。最大径は胴部中央か。器外面は横位の篋削り。器内面は横位の撫で。	秋間産か
10-01203	須恵器 甕	14-Q-19 表土破片	□(18.6) 頸(17.2)	酸・硬・鈍黄橙・並・赤褐色粒子	擬似「コ」の字状口縁。器外面は篋撫でにより「コ」の字を表出している。轆轤成整形右回転。	秋間産

遺構外出土遺物(5)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01204 152	土師器 甕	24-H-5 表土破片	底≒8.0	酸・並・鈍黄橙・並・細礫	胴部は球形を呈する。器外面は篋削り。器内面は横位の篋撫で。	吉井・藤岡産

第6章 中里見原遺跡

10-01205 152	土師器 甕	道東 表土破片	底≒10.5	酸・並・鈍褐・並・赤褐色粒子・白 色鉱物粒子	胴部は球形を呈する。器外面は斜位の寛削り。	吉井・藤 岡産
10-01206	土師器 甕	25-Q-1 表土破片	口(30.2)・高(27.9) ・底(9.0)	酸・並・鈍橙・並・シルト質	底部から口縁部まで直線的に立ち上がる。口縁部 は強く外傾する。縦位の寛削り。	吉井・藤 岡産
10-01207	土師器 甕	25-Q-1 表土破片	底(12.6)	酸・並・鈍橙・並・シルト質	器外面は縦位の寛削り。器内面は横位の撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-01208	土師器 甕	25-P-2 表土破片	底(14.6)	酸・並・鈍褐・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	器外面は縦位の寛削り。器内面は横位の撫で整形。	吉井・藤 岡産
10-01209	土師器 鉢	15-Q-20 表土破片	口(16.6)	酸・並・鈍褐・並・微粒雲母・黒色 鉱物粒子(藤岡畑土)	口縁部は強い横撫でにより、轆轤条痕状の整形痕 が残る。体部は型膚。	藤岡産
10-01210	土師器 鉢	15-Q-20 表土破片	口(16.0)	酸・並・鈍橙・並・細粒砂	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや内湾気 味。器外面は斜位の寛削り。	吉井・藤 岡産
10-01211	土師質 不詳	15-M-18 表土破片	厚0.4	酸・並・黄橙・並・夾雑物微	仏像等の破片か、細片のため詳細不分明。	吉井・藤 岡産

遺構外出土遺物(6)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01212 152	須恵器 坏	25-R-1 表土破片	口(8.5)・高4.4・底 (5.8)	還・並・灰・並・白色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。自然袖 付着。轆轤右回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01213 152	須恵器 坏	15-K-16 III層破片	口(11.0)・高・底	還・締・灰・並・黒色粒子	器厚は薄いやや張る器形。器外面に自然袖付着。 轆轤右回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01214	須恵器 坏	15区内 表土破片	口(11.0)・高(4.5)・ 底(7.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	体部・口縁部は直線的。体部は丸味を帯びる。轆 轤右回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01215 152	須恵器 坏	25-Q-1 表土1/4残	口(11.4)・高4.5・底 (7.4)	還・並・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部はやや丸味を帯びる。轆轤右 回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01216 153	須恵器 坏	25-T-4 表土破片	口(14.7)	還・並・灰・並・黒色粒子	腰部の外稜が張る。口縁部は内湾気味。轆轤右 回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01217 152	須恵器 坏	25-Q-3 表土1/3残	口(11.7)・高4.3・底 (6.9)	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直 線的。轆轤右回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01218 152	須恵器 坏	道西トレ 表土1/3残	口(12.0)・高4.0・底 (6.2)	還・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直 線的。轆轤右回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01219 152	須恵器 坏	道東 表土2/3残	口(12.4)・高3.3・底 6.6	還・硬・外-黒灰・内-白灰・並・夾 雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直 線的。轆轤右回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01220	須恵器 坏	15区内 表土破片	口(12.8)・高(3.6)・ 底(8.2)	還・硬・灰白・並・夾雑物微	体部・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回 転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01221	須恵器 坏	25-Q-1 表土1/4残	口(13.0)・高3.2・底 (7.3)	還・硬・灰白・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反 する。轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01222	須恵器 坏	15区内 表土破片	底(8.0)	還・硬・灰白・並・黒色粒子	体部は丸味を帯びる。器内面に有機質が付着する。	秋間産
10-01223	須恵器 坏	15-N-18 表土破片	底(8.4)	還・並・灰・並・夾雑物微	底部は回転寛削りを施す。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01224	須恵器 坏	25-P-2 表土1/4残	口(14.3)・高2.7・底 (10.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体部・口縁部とも直線的に立ち上がる。轆轤右 回転成整形、底部は回転寛起こし。	秋間産
10-01225	須恵器 坏	道西 表土破片	底(8.0)	還・並・灰白・並・白色微粒子	腰部は棚落ち状か。轆轤右回転成整形、底部は 回転寛起こし。	秋間産

遺構外出土遺物(7)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01226 152	須恵器 坏	道東 表土3/4残	口(13.0)・高3.0・底 (8.0)	還・並・灰白・やや粗・黒色粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びる。底部は厚い。 轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01227	須恵器 坏	調査区内 III層1/4残	口(14.2)・高3.0・底 (8.8)	還・締・灰白・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反 する。轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01228 152	須恵器 坏	25-Q-1 表土1/2残	口(12.4)・高3.1・底 (7.0)	還・軟・灰黄・並・シルト粗粒子	体・口縁部は直線的。口唇部は外反する。轆轤 右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01229 152	須恵器 坏	調査区内 表土破片	口(12.4)・高3.2・底 (8.0)	還・軟・灰白・並・シルト粒子	器厚は薄い。体部・口縁部は著的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01230	須恵器 坏	25-M-4 表土1/4残	口(13.0)・高3.7・底 (8.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部・口縁部は著的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01231	須恵器 坏	道東 表土1/2残	口(13.0)・高3.4・底 (8.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01232	須恵器 坏	道東 表土部欠	口(12.0)・高3.6・底 7.0	還・硬・灰・並・白色粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びる。内面に有機質 付着。轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01233	須恵器 坏	15-M-16 表土破片	口(12.0)・高3.4・底 (6.7)	還・硬・灰・並・夾雑物微・器外面 自然袖付着。	薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短 く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01234	須恵器 坏	道東 表土1/4残	口(13.3)・高3.7・底 (7.6)	還・軟・灰・並・赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反 する。轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01235	須恵器 坏	道東 III層1/4残	口(13.2)・高3.2・底 (7.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反 する。轆轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01236	須恵器 坏	15-R-20 表土破片	口(14.0)・高3.7・底 (7.4)	還・並・灰・並・赤褐色粒子	体部はやや丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆 轤右回転成整形、底部は回転系切り。	秋間産
10-01237 152	須恵器 坏	1号墳周溝 表土1/2残	口(14.2)・高3.8・底 (7.8)	還・硬・灰・細・シルト粗粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部 は回転系切り。轆轤目は細かい。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-01238 152	須恵器 坏	14-S-6 Ⅲ層部欠	□14.0・高3.5・底7.1	還・並・灰・並・夾雑物微	薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。、口唇部は短く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01239	須恵器 坏	1号墳周溝 表土2/3残	□(12.8)・高3.5・底6.4	中・並・黄灰・やや粗・夾雑物微	薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。、口唇部は短く外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01240 152	須恵器 坏	15-L-18 表土1/2残	□(13.6)・高4.8・底(6.6)	中・並・黄灰・並・赤褐色粒子・白色微粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。轆轤目は細かい。	秋間産

遺構外出土遺物(8)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01241 152	須恵器 坏	14-S-20 Ⅲ層1/2残	□(14.0)・高3.8・底(6.8)	還・並・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01242 152	須恵器 坏	道東 Ⅲ層1/3残	□(14.0)・高4.7・底6.7	還・硬・灰白・並・白色粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01243 152	須恵器 坏	26-A-4 表土1/4残	□(8.8)・高3.6・底(6.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01244 152	須恵器 坏	25-Q-3 Ⅲ層1/2残	□(11.8)・高4.2・底(7.2)	還・縮・灰・並・夾雑物微	体部・口縁部はやや丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01245 152	須恵器 坏	25-K-3 Ⅲ層完形	□12.5・高4.2・底10.0	還・並・灰・並・白色微粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01246 152	須恵器 坏	道西 表土1/2残	□(12.8)・高4.5・底(6.6)	還・並・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01247 152	須恵器 坏	25-Q-1 Ⅲ層1/2残	□(12.0)・高4.0・底(7.6)	還・縮・暗茶褐・並・夾雑物微	棚落ちか。全体に薄く丸味を帯び、口唇部は外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01248 152	須恵器 坏	15-Q-19 Ⅲ層2/3残	□11.6・高3.6・底6.5	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01249 152	須恵器 坏	道東 Ⅲ層破片	□(12.0)・高3.8・底(7.0)	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01250 152	須恵器 坏	調査区内 表土破片	□(12.0)・高3.8・底(7.0)	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01251 152	須恵器 坏	道東 Ⅲ層2/3残	□12.6・高4.1・底7.0	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01252 152	須恵器 坏	14-S-20 Ⅲ層2/3残	□(12.2)・高3.0・底6.5	還・硬・灰・並・夾雑物微	棚落ちか。全体に薄く丸味を帯び、口唇部は外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01253	須恵器 坏	25-P-4 Ⅲ層1/2残	□(11.2)・高3.4・底(5.8)	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01254	須恵器 坏	25-M-4 表土破片	□(12.0)・高3.7・底6.2	還・並・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01255	須恵器 坏	25-R-3 Ⅲ層1/2残	□(12.4)・高4.1・底(6.4)	還・並・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産

遺構外出土遺物(9)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01256	須恵器 坏	25-K-2 Ⅲ層1/3残	□(11.8)・高3.8・底(6.2)	還・硬・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01257	須恵器 坏	25-Q-2 Ⅲ層1/4残	□(12.6)・高3.9・底(6.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は強く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01258	須恵器 坏	24-R-5 Ⅲ層1/4残	□(11.2)・高4.7・底(4.0)	酸・並・明赤褐・並・白色微粒子	底部は小さく、体部は薄く丸味は強い。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-01259	須恵器 坏	道西 表土1/4残	□(12.4)・高3.6・底(4.0)	中・軟・鈍黄褐・並・夾雑物微	底部は小さく、体部は薄く丸味は強い。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-01260	須恵器 坏	調査区内 表土1/3残	底5.9	還・縮・灰・並・黒色粒子・自然釉付着。	底部は小さく、体部は薄く丸味は強い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産か
10-01261	須恵器 坏	24-S-7 Ⅲ層破片	底(8.2)	還・並・灰白・並・夾雑物微	体部の丸味は強い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-33
10-01262	須恵 黒 色土器 坏	道西斜面 表土破片	底(8.3)	還・並・黒褐・並・夾雑物微	底径は広く、腰部の丸味は強い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01263 159	須恵器 坏	25-R-1 Ⅲ層破片	底(7.2)	還・硬・灰白・並・夾雑物微	立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-34
10-01264 159	須恵器 坏	道東 Ⅲ層破片	底(6.8)	還・並・暗灰・並・白色微粒子	底面は厚い。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産 墨書-35
10-01265	須恵器 坏	道西 表土破片	底(5.8)	中・軟・黄灰・細・細粒砂	立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01266	須恵器 坏	道東 表土破片	底(6.4)	酸・軟・鈍橙褐・並・赤褐色粒子	腰部はやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01267	須恵器 坏	道東 表土1/3残	底5.6	還・並・灰・並・白色粒子	器厚は薄い。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01268	須恵器 坏	25-T-4 Ⅲ層破片	底(6.6)	還・並・灰・並・夾雑物微	棚落ちか。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01269	須恵器 坏	15-R-20 Ⅲ層1/2残	底5.6	還・硬・灰・並・黒色粒子	棚落ちか。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-01270 159	須恵器 坏	15-K-17 Ⅲ層破片	□(11.0)	中・硬・黄灰・並・黒色鉍物粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	産不詳 墨書-36

第6章 中里見原遺跡

10-01271	須恵器 坏	25区内 表土破片	口(13.6)・高3.4・底 (7.4)	還・硬・灰黄・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、底部は回転糸切り。内面赤色顔料塗彩。	秋間産
10-01272	須恵器 坏	15-S-19 Ⅲ層破片	厚0.6	還・硬・灰・並・夾雑物微	回転糸切りの糸の撚りが細かい。	秋間産
10-01273	須恵器 坏	15-N-17 Ⅲ層破片	厚0.5	酸・並・鈍橙・並・黒色鉱物粒子(内 黒胎土)	轆轤成整形右回転。底面に墨書する。	秋間産 墨書-37
10-01274	須恵器 坏	第1号道跡 覆土破片	厚0.4	還・並・白灰・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。底面に墨書する。	秋間産 墨書-38
10-01275	須恵器 坏	25-R-2 Ⅲ層破片	厚0.8	酸・並・橙・並微粒雲母(藤岡畑土)	藤岡畑土の須恵器坏。轆轤成整形右回転。	藤岡産

遺構外出土遺物(Ⅰ)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01276	須恵器 塊	15-R-18 Ⅲ層1/3残	底(6.4)	還・締・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形、付高台。底部は回転筥こし。	秋間産
10-01277	須恵器 塊	15-J-16 Ⅲ層破片	底(5.6)	還・硬・灰・並・白色微粒子	高台は削り出し。底面は轆轤右回転糸切り。	秋間産
10-01278	須恵器 塊	15-K-15 Ⅲ層破片	口(9.2)・高5.3・底 (6.2)	還・並・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。轆轤右回転 成整形、付高台。	秋間産
10-01279	須恵器 塊	調査区内 表土破片	底(6.6)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01280	須恵器 塊	15-R-18 Ⅲ層破片	底(5.6)	還・締・灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01281	須恵器 塊	15-R-18 Ⅲ層破片	口(13.6)・高6.1・底 (7.6)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。腰部は回転筥 削り。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01282	須恵器 塊	道東 Ⅲ層破片	底(8.2)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体部丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01283	須恵器 塊	道西 表土破片	口(14.2)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体部丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成整形、底部欠損。	秋間産
10-01284	須恵器 塊	道東 Ⅲ層破片	口(15.2)	還・並・灰白・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、底部欠損。	秋間産
10-01285	須恵器 塊	道東 Ⅲ層破片	底(9.6)	還・硬・灰・並・夾雑物微	体部丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01286 153	須恵器 塊	道東 Ⅲ層完形	口15.2・高7.8・底8.0	還・硬・灰・並・白色微粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。轆轤右回転 成整形、付高台。	秋間産
10-01287 153	須恵器 塊	道東 Ⅲ層破片	底(8.0)	還・並・灰・並・黒色粒子	体部丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01288 153	須恵器 塊	1号墳周溝 覆土1/2残	口(12.7)・高4.7・底 7.2	中・軟・黄灰・並・黒色鉱物粒子・ 黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成整形、付高台。	秋間産
10-01289	須恵器 塊	25-K-4 Ⅲ層部欠	口15.0・坏高5.2・坏 底6.6	酸・並・鈍褐・並・赤褐色粒子(比重 は重い)	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形、高台欠損後坏に転用。	秋間産
10-01290	須恵器 塊	道東 Ⅲ層1/3残	底7.2	還・並・灰・粗・白色微粒子(蛇喰噴 群か)	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-01291	須恵器 塊	24-O-2 Ⅲ層1/3残	口(12.6)・高4.9・底 (6.0)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-01292 153	須恵器 塊	14-S-20 Ⅲ層部欠	口14.2・坏高4.7坏底 5.8	還・並・灰・並・シルト粗粒子・細 粒砂	体・口縁部はやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整 形、付高台。	秋間産
10-01293	須恵器 塊	道西斜面 表土2/3残	口13.9・高5.5・底6.6	還・軟・灰・並・白色鉱物粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成整形、付高台。	秋間産

遺構外出土遺物(Ⅱ)

10-01294 153	須恵器 塊	25-N-4 Ⅲ層1/2残	口(12.4)・高4.0・底 (6.2)	中・軟・黄灰・並・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は外反す る。轆轤右回転成整形、付高台。	産不詳 秋間産か
10-01295	須恵器 塊	15-J-18 Ⅲ層破片	厚0.4	酸・硬・鈍褐・黒色鉱物粒子・高温 石英	器外面体部に墨書「上□」。	産不詳 墨書-39
10-01296 153	須恵器 塊	道東 Ⅲ層1/2残	口(18.2)・高6.5・底 (8.4)	還・並・灰白・並・黒色粒子	大身の塊。体部丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、 付高台。	秋間産
10-01297 153	須恵器 塊	道東 Ⅲ層1/3残	口(19.4)・高8.8・底 (9.4)	還・並・灰白・並・夾雑物微	大身の塊。体部丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、 付高台。	秋間産
10-01298	須恵 足 高高台塊	遺跡周辺 表土破片	底(8.8)	酸・並・鈍黄褐・並・シルト質	「ハ」字状に開く。付け高台。器内面は磨研を施す。	産不詳
10-01299	須恵 足 高高台塊	道東 表土破片	底(11.8)	酸・軟・鈍黄橙・並・赤褐色粒子	「ハ」字状に開く。付け高台。	産不詳
10-01300	須恵器 把手付塊	道東 Ⅲ層破片	厚0.7	還・並・灰・並・黒色粒子	体部中位に梯形状の粘土板を貼り付けている。	秋間産
10-01301	須恵器 塊	24区東側 Ⅲ層破片	厚0.5	還・並・灰白・並・黒色粒子	見込みには焼成前のケガキ状で多数の傷が認めら れる。	秋間産
10-01302	須恵 黒 土器塊	14-R-20 Ⅲ層1/3残	口(13.8)・高3.4・底 (7.2)	還・並・灰・並・夾雑物微(器内・外 面の黒色燻し焼成)	轆轤成整形右回転。燻しは芯まで達する。体・口 縁部は丸味を帯びる。、口唇部は短く外反する。	搬入品
10-01303	須恵 内 黒塊	15-G-18 Ⅲ層破片	口(13.2)	酸・並・灰黄褐・並・黒色鉱物粒子 (器内面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反す る。轆轤右回転。器内面に研磨す。	産不詳

第2節 発見された遺構・遺物

10-01304	須惠器内黒境	25-L-3 III層破片	口(16.6)	酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子(器内面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反する。轆轤右回転。器内面に研磨す。	産不詳
10-01305	須惠器内黒境	15-G-18 III層破片	口(15.8)・高5.3・底(6.8)	酸・並・浅黄橙・並・黒色鉱物粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。器内面研磨を施す。	産不詳
10-01306	須惠器内黒境	25-K-7 III層1/3残	底7.8	酸・並・鈍橙・並・夾雑物微(器内面の黒色燻し焼成)	体部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形、付高台。器内面研磨を施す。	産不詳
10-01307	須惠器高台付き環	15区内攪乱破片	底(10.2)	還・締・灰・並・夾雑物微	高台は削り出し。体部の器厚は薄い。	搬入品東海か
10-01308	須惠器環	25-R-4 III層破片	口(13.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	口縁部は直立後緩やかに外反。底部は手持ち篋削り。	秋間産
10-01309	須惠器双耳環	25-N-1 III層破片	口(12.4)長3.3幅2.2	還・締・灰・並・黒色粒子	口縁部は直立後緩やかに外反。底部は手持ち篋削り。体部に粘土板で把手をつけている。	秋間産

遺構外出土遺物(12)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01310	須惠器環	15-P-20 III層破片	口(14.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01311	須惠器環	25-S-3 III層破片	口(14.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01312	須惠器環	道東 III層破片	口(15.8)	還・硬・灰・並・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01313	須惠器環	15-L-16 III層破片	口(17.0)	還・硬・灰・並・夾雑物微	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01314	須惠器盤	25-S-4 III層破片	口(18.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01315	須惠器盤	26-D-3 III層破片	基部(13.0)	還・硬・白灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。見込みは平坦。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01316	須惠器盤	第1号道跡覆土破片	底(22.4)	還・締・灰・並・黒色粒子	脚は「ハ」の字状に開く。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01317	須惠器盤	15-K-16 III層破片	口(16.4)	還・締・灰・並・黒色粒子	見込みは緩やかに立ち上がり、口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01318	須惠器盤	25-G-5 III層破片	底(10.4)	還・並・灰・並・黒色粒子	脚は「ハ」の字状に開き、見込みは緩やかに立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01319	須惠器盤	25-S-4 III層破片	底(9.2)	還・締・灰白・並・黒色粒子	脚は「ハ」の字状に開き、見込みは平坦。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01320	須惠器盤	25-S-4 III層破片	底(9.8)	還・並・灰・並・白色微粒子	「ハ」の字状に開く脚。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01321	須惠器内黒皿	15-T-20 III層破片	口(13.0)	酸・並・橙・並・微粒雲母	器内面は研磨を施す。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01322	須惠器皿	道東 III層破片	口(13.0)・高2.7・底(8.2)	還・並・灰・並・白色微粒子	緩やかに外反して立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01323 153	須惠器皿	14区内 III層部欠	口13.0・高2.7・底7.4	還・締・灰・並・黒色粒子	緩やかな丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01324	須惠器皿	道西表土破片	口(13.0)・高2.7・底(4.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微粒子	器厚は薄い。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01325 153	須惠器皿	遺跡周辺表採1/4残	口(13.0)・高2.7・底(7.0)	還・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は直線的に立ち上がり、口唇部がやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01326	須惠器皿	26-J-16 III層1/4残	口(13.0)・高2.7・底(7.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01327 153	須惠器皿	14-S-20 III層2/3残	口13.2・高2.6・底6.4	還・硬・灰・並・黒色粒子・白色微粒子	器厚は薄い。緩やかな丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産

遺構外出土遺物(13)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01328	須惠器皿	25-R-2 III層破片	口(13.6)・高2.4・底(7.0)	還・並・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。緩やかに外反して立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01329	須惠器皿	26-A-1 III層破片	口(14.6)	還・締・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。緩やかに外反して立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01330	須惠器皿	道東 III層破片	皿底(6.0)	還・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。	秋間産
10-01331	須惠器蓋	15-K-15 III層破片	端(14.2)	還・締・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01332	須惠器蓋	15-H-19 III層破片	端(19.8)	還・締・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01333	須惠器蓋	24-R-1 III層破片	端(9.8)	還・並・灰・並・白色微粒子	摘部周辺を欠損する。肩は丸味が強い。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01334 153	須惠器蓋	25-P-5 III層破片	摘2.0	還・締・灰・並・黒色粒子・白色微粒子	宝珠摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01335	須惠器蓋	道東 III層破片	端(10.0)	還・硬・灰・並・夾雑物微	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01336	須惠器蓋	24区西側 III層破片	端(10.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

第6章 中里見原遺跡

10-01337	須恵器蓋	26-E-F-1 III層破片	端(9.0)	還・締・灰・並・白色微粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01338	須恵器蓋	25-T-4 III層破片	端(9.2)	還・締・暗灰・並・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01339 153	須恵器蓋	道東 III層破片	摘2.6・高2.6・端 (9.6)	還・締・灰・並・黒色粒子	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01340 153	須恵器蓋	15-T-20 III層破片	摘(2.6)高2.6・端 (10.0)	還・締・灰・並・黒色粒子	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01341	須恵器蓋	25-P-3 III層破片	端(10.2)	還・締・灰・並・夾雑物微	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01342	須恵器蓋	15-R-20 III層破片	端(11.3)	還・締・灰・並・黒色粒子	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01343	須恵器蓋	16-A-7 III層破片	端(11.6)	還・締・灰・並・夾雑物微	摘部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01344 153	須恵器蓋	道東 III層破片	摘(3.2)	還・軟・灰白・並・白色鉍物粒子	環状摘。端部欠損。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産

遺構外出土遺物(14)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01345 153	須恵器蓋	道西斜面 表土2/3	摘3.2・高3.2・端 (12.4)	還・締・灰白・並・黒色粒子	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01346 153	須恵器蓋	道東 表土1/2残	摘2.4・高2.7・端 (12.4)	還・締・灰・並・黒色粒子	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01347 153	須恵器蓋	15-L-16 III層3/4残	摘3.1・高3.1・端12.8	還・並・灰・並・黒色粒子	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01348 153	須恵器蓋	道東 III層1/2残	摘3.2・高3.2・端 (16.4)	還・締・灰・並・白色粒子	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01349 153	須恵器蓋	15-L-16 III層一欠	摘4.0・高3.8・端16.9	還・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産
10-01350 153・159	須恵器蓋	25-L-4 III層破片	摘(4.4) 端(17.0)	還・並・灰黄・並・夾雑物微	環状摘。天井部は轆轤回転篋削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋間産 墨書-40
10-01351	須恵器蓋	15-Q-17 III層破片	厚0.9	還・並・灰・並・白色微粒子	天井部は広く平ら。摘は環状と考えられる。端部側を欠損する。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01352	須恵器蓋	24-R-5 III層破片	底(13.8)	還・硬・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。「ハ」の字状に開く。皿の逆位か。轆轤成整形右回転。	秋間産

遺構外出土遺物(15)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01353	須恵器 菜壺蓋	15-L-17 III層破片	鐙(13.0)	還・並・灰白・並・白色粒子	肩の部分に鐙を施す。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01354	須恵器 菜壺蓋	25-Q-5 III層破片	鐙(16.0)	還・硬・灰白・並・白色微粒子	天井部に界線、肩部に鐙を施す。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01355 153	須恵器 菜壺蓋	15-S-20 III層1/3残	端(16.2) 鐙(16.2)	還・硬・灰・並・白色微粒子・黒色粒子	端部は尖るが口唇部は平ら、天井部は丸味を帯び、肩部に鐙を施す。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01356	須恵器蓋	15-I-10 III層破片	端(17.6) 鐙(16.3)	還・締・灰白・並・黒色粒子	口縁部中位に凸帯を廻らす。天井部には、界線状の痕跡が認められ、視の可能性もある。	秋間産
10-01357 153	須恵器 高坏	道東 III層1/3残	鐙(8.2) 底(6.2)	還・締・灰白・並・黒色粒子・白色微粒子	小ぶりの塊にさらに脚部を取り付けた器形。蓋の可能性も考慮される。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01358 153	須恵器 高坏	15-R-19 III層破片	鐙(8.0)	還・締・灰白・並・黒色粒子・白色微粒子	小ぶりの塊に更に脚部を取り付けた器形。蓋の可能性も考慮される。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01359 153	須恵器 高坏	道東 III層破片	基部(5.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	坏部は比較的平坦。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01360	須恵器 高坏	15-R-19 III層破片	端(14.0)	還・硬・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01361	土師器 坏	15-L-17 III層破片	厚0.4	酸・並・鈍橙・並・微粒雲母か長石	10-00481と同一固体か。	搬入品
10-01362	土師器 塊か	24-N-2 III層破片	厚0.7	酸・硬・鈍赤褐・黒色鉍物粒子・微粒雲母か長石	細片のため器種の特定は不確実。高台部分の破片と考えられる。	搬入品
10-01363	須恵器 硯	15-N-17 III層破片	上端(8.5)	還・締・灰・並・黒色粒子	界線以外の鐙等の付加物が認められない。陸の部分は摩滅が判断できる程の残存ではない。	秋間産
10-01364	須恵器 硯	15-P-20 III層破片	鐙(14.0)	還・締・灰・並・夾雑物微	鐙の直下の脚部に窓を有する。界線端部は欠損。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01365	須恵器 坏	15-M-18 III層1/4残	口(13.0)・高5.2・底 (7.0)	酸・硬・鈍橙・細・微粒雲母か長石	体部・口縁部は丸味を帯びる。腰部は篋削り、器内面は研磨を施す。底部は篋撫を施す。	搬入品
10-01366	須恵器 硯	道東 表土破片	上端(10.0) 鐙(14.0)	還・締・灰・並・黒色粒子・白色微粒子	器厚は厚い。界線は細く、鐙は二重表現になっている。摩滅は軽微。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01367	須恵器 硯	15-P-20 III層破片	厚0.35	還・締・灰・並・夾雑物微	脚部片。縦位の沈線引きを施す。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01368	須恵器 硯	15-Q-19 III層破片	厚0.4	還・締・灰・並・白色微粒子	脚部片。縦位の沈線引きを施す。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01369	須恵器 坏	15-K-15 III層破片	厚0.6	酸・硬・鈍橙・細・微粒雲母か長石	体部・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤目は比較的細かい。轆轤成整形右回転。	秋間産

第2節 発見された遺構・遺物

10-01370	須恵器 硯	15-R-19 III層破片	底(11.2)	還・締・灰・並・黒色粒子・器内外 面自然袖付着。	小形の硯の脚部と考えられる。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01371	須恵器 硯	15-S-19 III層破片	底(14.0)	還・締・灰・並・夾雑物微・器内面 自然袖付着。	内反り状に立ち上がる。透かしを施すが、残存部分には上端は残っていない。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01372	須恵器 蓋	15-T-20 III層破片	端(18.0)	酸・硬・橙・細・微粒雲母か長石	器厚は薄い。端部の折り返しは丸い。轆轤成整形右回転か。	搬入品

遺構外出土遺物(16)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01373	須恵器 甕	道西 表土破片	口(18.0)・頸(16.4) ・胴(18.2)	中・軟・鈍黄橙・並・細粒砂	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-01374	須恵器 甕	道東 III層破片	口(18.4) 頸(16.2)	酸・硬・鈍橙・並・夾雑物微	器厚は非常に薄い。口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-01375 153	須恵器 甕	北東斜面 III層破片	口(20.2) 頸(18.0)	中・並・鈍橙・並・夾雑物微	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産 秋間産
10-01376	須恵器 甕	道東 III層破片	口(22.2)・頸(20.0) ・胴(22.6)	酸・並・鈍橙・並・細粒砂・白色粒 子	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部より下位は、縦位の篋削りを施す。	秋間産 秋間産
10-01377	須恵器 小形甕	24区西側 III層破片	口(10.8) 頸(10.0)	酸・並・鈍黄橙・並・白色微粒子	口縁部は短く外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-01378	須恵器 小形甕	25区西側 III層破片	口(11.2) 頸(10.0)	還・硬・灰・並・夾雑物微	口縁部は短く外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-01379	須恵器 小形甕	道東 III層破片	口(11.2)・頸(10.4) ・胴(13.0)	酸・並・明赤褐・並・長石	口縁部は短く外傾する。器外面は刷毛の轆轤撫でを施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-01380	須恵器 小形甕	24-P-2 III層破片	口(10.6)・頸(10.4) ・胴(12.2)	還・硬・灰・並・夾雑物微	口縁部は短く外傾する。胴部に最大径を有する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産 秋間産
10-01381	須恵器 短頸壺	道東 III層破片	胴最(13.2)	酸・並・浅黄橙・並・白色粒子	器外面は刷毛の轆轤撫でを施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。10-01379と同一固体か。	秋間産 秋間産
10-01382	須恵器 瓶	15-P-18 III層破片	口(8.0) ・頸(7.8)・肩(10.2)	還・硬・灰・並・黒色粒子・器外面 自然袖付着。	肩部は鋭く張る。口縁部は直立気味。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01383	須恵器 平瓶	15-K-15 III層破片	口(5.4)	還・締・灰・並・夾雑物微	器外面主体に自然袖付着。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01384	須恵器 瓶	道東 III層破片	口(15.2)	還・硬・灰・並・夾雑物微	器形の大きさの割合に比較して器厚は薄い。器種は短頸壺か。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01385	須恵器 瓶	26-D-E-1 III層破片	厚0.5	還・締・灰・並・白色微粒子	器外面に環の口唇部が密着している。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-01386 153	須恵器 瓶	24-R-1 III層破片	厚0.6	還・締・暗灰・並・白色微粒子	肩部に櫛形の列点刺突を施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間か乗 附産
10-01387	須恵器 瓶	16-C-20 III層破片	頸(13.6) 肩(21.0)	還・締・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に自然袖付着。	秋間産

遺構外出土遺物(17)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01388	須恵器 瓶か	道東 III層破片	口(9.0)	還・硬・灰・並・夾雑物微	直立気味の口縁部。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01389	須恵器 瓶か	第1号道跡 覆土破片	口(12.0)	還・硬・灰・密・夾雑物微	やや開きながら立ち上がる。口唇部は尖る。器外面は縦位の篋削り。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-01390	須恵器 長頸瓶	25-P-5 III層破片	口(13.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	口縁部は折り返し。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-01391	須恵器 長頸瓶	25-L-4 III層破片	頸6.0	還・並・灰・やや粗・黒色粒子	頸部の基部部分はぎりぎりまで紐で上げている。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-01392	須恵器 小瓶	道東 表土破片	肩(7.6)	還・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。器外面は回転篋削りで整形。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01393	須恵器 瓶	道東 III層破片	胴(15.0)	還・並・灰・並・夾雑物微	頸部の基部部分はぎりぎりまで紐で上げていると思われる。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-01394	須恵器 瓶	道東 III層破片	肩(22.0)	還・締・灰・並・白色粒子・黒色粒 子	紐作り後轆轤回転の篋削りで整形。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01395 153	須恵器 瓶	15-Q-17 III層破片	底(5.8)	還・硬・灰・並・黒色粒子	見込み周辺の整形は丁寧。口径の広めの器形と思われる。コップ形か。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01396 153	須恵器 瓶	14-Q-20 III層破片	底((6.2)	酸・並・鈍黄橙・並・夾雑物微	底面切り離し糸の撚りは粗い(緩い)。轆轤成整形右回転。	秋間産
10-01397 153	須恵器 瓶	14-S-19 III層破片	底(9.4)	還・締・灰・並・夾雑物微	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間産
10-01398	須恵器 瓶	25-K-3 III層破片	底(10.0)	還・締・灰・並・夾雑物微	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面自然袖付着。	秋間産
10-01399	須恵器 瓶	道西 表土破片	底(14.0)	還・並・灰・並・黒色粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。見込み部分は撫で整形。	秋間産

遺構外出土遺物(18)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01400	須恵器 瓶	26-D-2 III層破片	底(9.0)	還・締・灰・並・夾雑物微	紐作り後轆轤回転の篋削りで整形。付高台。	秋間産